平成２０年　第４回

南会津町議会定例会
会議録

南会津町議会

平成２０年第４回南会津町議会定例会　第１日

議　事　日　程　（第１号）

平成２０年１２月１２日（金曜日）午前１０時開会

日程第　１　会議録署名議員の氏名

日程第　２　会期の決定

日程第　３　諸報告

日程第　４　議会活性化対策特別委員会に係る答申

日程第　５　議案第７９号から議案第９０号まで一括上程

（提案理由の説明）

日程第　６　請願・陳情委員会付託

①平成２０年陳情第１号　田島橋改修工事に関する陳情書

②平成２０年陳情第２号　針生小学校統合計画に関する陳情

本日の会議に付した事件

議事日程のとおり

出席議員（２２名）

１番	湯田　哲　議員	２番	渡部俊夫　議員
３番	高野精一　議員	４番	馬場信作　議員
５番	山内　政　議員	６番	渡部　優　議員
７番	星　光久　議員	８番	楠　正次　議員
９番	大宅宗吉　議員	１０番	渡部忠雄　議員
１１番	湯田秀春　議員	１２番	星　登志一　議員
１３番	星　和男　議員	１４番	平野昌盛　議員
１５番	阿久津梅夫　議員	１６番	渡部　東　議員
１７番	芳賀沼順一　議員	１８番	菅家幸弘　議員
１９番	大竹幸一　議員	２０番	児山寿明　議員
２１番	五十嵐　司　議員	２２番	渡部康吉　議員

欠席議員（なし）

説明のための出席者

湯田芳博	町長	渡辺仁	副町長
横山恒廣	教育長	五十嵐竹則	会計室長
宍戸英樹	直轄政策室長	室井裕	総務課長
星光幸	企画観光課長	馬場増男	税務課長
長沼芳樹	住民生活課長	近藤甚悦	健康福祉課長
星安晴	環境水道課長	角田厚	農林課長
渡部文政	農業委員会事務局長	斎藤友一	学校教育課長
酒井直伸	生涯学習課長	星廣政	舘岩総合支所長
横山孝夫	伊南総合支所長	児山忠男	南郷総合支所長

事務局職員出席者

渡部俊夫	事務局長	馬場秀成	事務局長補佐

開会　午前１０時００分

◎開会の宣告

○渡部康吉議長　おはようございます。本日はご苦労さまです。

ただいまの出席議員は22名であります。

ただいまから平成20年第４回南会津町議会定例会を開会いたします。

――――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――――

◎開議の宣告

○渡部康吉議長　これより本日の会議を開きます。

――――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――――

◎議事日程の報告

○渡部康吉議長　本日の議事日程は、お手元にご配付のとおりであります。

――――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――――

◎会議録署名議員の指名

○渡部康吉議長　日程第１、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第119条の規定により、６番、渡部優君、15番、阿久津梅夫君を指名いたします。

――――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――――

◎会期の決定

○渡部康吉議長　次に、日程第２、会期決定の件を議題といたします。

本定例会の会期は、本日より12月18日までの７日間とし、明13日から15日までを休会とし、お手元にご配付の審議予定表のとおりといたしたいと思いますが、これにご異議ございません

か。

〔「異議なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　異議なしと認めます。

よって、本定例会の会期は本日より12月18日までの７日間とし、明13日から15日までを休会とすることに決しました。

――――――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――――――

◎議案の訂正

○渡部康吉議長　ここで、総務課長より発言したい旨の申し出がされておりますので、これを許可します。

総務課長。

○室井　裕総務課長　今定例議会に提案しております議案第81号　南会津町町営住宅管理条例の一部を改正する条例につきまして、一部誤りが昨日発見されましたので、議案の訂正と附属する条例の説明書及び新旧対照表について訂正をさせていただきます。

なお、訂正の方法でございますが、この後、議長さんの許可をいただいた後、休議をしていただきまして、その後、職員によりまして本議場で訂正をさせていただきたいと思います。

訂正の内容でございますが、配偶者等による暴力によります被害者の方々を第６条の中で、優先的に入居の選考をする上で６条の規定に盛り込むべきところを、第４条の入居者の資格等の中にそれらの条項を盛り込んだことによりまして、条例の解釈上、不整合が発生いたしましたので、それらに伴いまして今回訂正をさせていただくと、こういう内容でございます。

大変申しわけなく思っております。議長さんのお取り計らいをお願いをいたしまして、私の発言といたします。

○渡部康吉議長　暫時休憩します。

議案の訂正を行います。ご了承願います。

休憩　午前１０時０３分

再開　午前１０時１１分

○渡部康吉議長　休憩前に引き続き会議を開きます。

――――――――――――――――――――――――――――― ◇ ―――――――――――――――――――――――――――――

◎諸報告

○渡部康吉議長　次に、日程第３、諸報告を行います。

初めに、議長報告を行います。

平成20年第３回南会津町議会定例会以後の議会活動状況及び議員派遣の結果報告並びに各常任委員会の所管事務調査報告書は、お手元にご配付のとおりであります。報告の詳細は、配付してあります文書によってご了承願います。

次に、去る11月28日に開催されました平成20年第２回田島下郷町衛生組合議会臨時会、翌11月29日に開催されました平成20年第３回西部環境衛生組合臨時会及び平成20年第２回南会津地方広域市町村圏組合議会臨時会に関係議員が出席し、慎重審議の結果、全議案について原案のとおり可決されました。その概要はお手元にご配付のとおりであります。報告の詳細は、配付してあります文書によってご了承願います。

次に、平成20年10月までの月例出納検査の結果が監査委員より提出されております。事務局に保管されておりますので、ご了承願います。

議長からの報告は以上であります。

次に、町長報告を行います。

平成20年第３回南会津町議会定例会以後の一般行政報告書は、既にご配付のとおりであります。報告の詳細については、配付してあります文書によってご了承願います。

以上で諸報告を終わります。

――――――――――――――――――――――――――――― ◇ ―――――――――――――――――――――――――――――

◎議会活性化対策特別委員会に係る答申

○渡部康吉議長　次に、日程第４、議会活性化対策特別委員会に係る答申についてを議題とします。

12月３日付で、議会活性化対策特別委員会から、お手元にご配付のとおり、議会活性化に係る答申がありましたので、答申内容の報告を委員長よりいただきたいと存じます。

議会活性化対策特別委員長、芳賀沼順一君。

○１７番　芳賀沼順一議員　おはようございます。

昨年12月につくっていただきました議会活性化特別委員会も予定どおり、本年の今議会12月において満１年を迎えました。９月には中間報告をいたしましたが、最終の特別委員会のまとめが仕上がりましたので、去る12月３日に議長に答申を申し上げました。

以下、皆さんのお手元に文書としてお配りしてございますが、記の部分は読みませんが、答申の部分について皆さんに御報告申し上げます。

議会活性化対策特別委員会にかかわる答申について。

地方分権の推進に伴い、地方公共団体が担う役割はますます増大し、住民の代表機関として自治体の最終意思決定にあずかる議会の役割と責任は格段に重くなることにかんがみ、平成19年第４回議会定例会において「議会活性化対策特別委員会設置に関する決議」を行い、１年間にわたり議会活性化にかかわる調査及び対策について協議を重ねてまいりました。

このたび、次のとおり取りまとめましたので、答申いたします。

記。議会活性化特別委員会の協議・活動状況については、別紙に１年間の活動を記してございます。

２番の協議事項と答申内容、(1)町民に開かれた議会について、①、②とございます。③、④、(2)議会活性化についてでは①から⑦までございます。

最後に、私たちの活性化委員会で協議しても結論の出なかったものもございますので、以上、本委員会において結論の出た事項、既に実施している事項及び今後の協議にゆだねていく事項を答申いたしますが、今後の協議が必要な事項については、各委員会において継続して審議し結論を見出していただきたく、あわせて答申いたします。

私たちの協議の中で、４つの常任委員会にかかわるものもございます。活性化委員会が今議会で解散となりますので、その事柄については皆様の各委員会にゆだねまして、私の報告といたします。

ありがとうございました。

○渡部康吉議長　以上で、答申内容の報告は終わりました。

特別委員会の皆さん、長期間にわたり協議、検討まことにありがとうございました。

―――――――――――――――――――――――― ◇ ――――――――――――――――――――――――

◎議案第７９号から議案第９０号まで一括上程、説明

○渡部康吉議長　次に、日程第５、議案第79号から議案第90号までを一括上程いたします。

提出者の町長より提案理由の説明を求めます。

町長。

○湯田芳博町長　平成20年第４回南会津町議会定例会を招集いたしましたところ、議員の皆様には師走を迎え何かとご多忙のところご参集を賜り、まことにありがとうございます。

今定例会に提出いたしました各議案の提案理由の説明を申し上げますので、よろしくご審議を賜り、ご議決くださいますようお願いを申し上げます。

初めに、議案第79号　南会津町あらかい健康キャンプ村条例についてご説明を申し上げます。

本案は、現在、地域住宅交付金により改修を進めております滝原地内の旧八総鉱山小学校を化学物質等による健康被害を受けた方の療養の場に供するとともに、健康意識の高揚と定住・二地域居住人口の増加による地域活性化を図るため、行政財産として条例を整備するものであります。

なお、本年度以降の施設管理に当たっては施設の設置目的を効果的に達成するため、別表に掲げる利用料金制により、町が指定した指定管理者による管理とするものであります。

次に、議案第80号　南会津町国民健康保険条例の一部を改正する条例についてご説明申し上げます。

本案は、平成21年１月１日より発足する産科医療補償制度による保険料が分娩費用に上乗せされることから、現在の出産育児一時金35万円にその費用として3万円を上限として加算するため、所要の改正を行うものであります。

次に、議案第81号　南会津町町営住宅管理条例の一部を改正する条例についてご説明申し上げます。

本案は、国土交通省からの基本方針を受けて、公営住宅の良好な居住環境を確保するため、入居者の資格要件の中で暴力団を排除するとともに、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律による被害者の自立した生活を支援するため、優先的に選考して入居させることができる規定を設けるほか、指定管理者による町営住宅の管理を可能とするため、所要の改正を行うものであります。

次に、議案第82号　字の区域の変更についてご説明申し上げます。

本案は、平成18年度に実施した田島地域針生第二地区の地籍調査に係る字の区域の変更でありまして、国道289号や町道の拡幅等により字が入り組んでいることや混在していることなど

から、字界を明確にするため字の区域を変更するものであります。

次に、議案第83号　平成20年度南会津町一般会計補正予算（第４号）についてご説明申し上げます。

本補正予算は、歳入歳出それぞれ8,752万1,000円を追加し、予算の総額を歳入歳出それぞれ127億557万3,000円とするものであります。

主な補正の要因といたしましては、歳入では国・県支出金、使用料、町債等の決定または決定見込みによる補正のほか、ふれあい福祉基金等の補正であります。

歳出では、人事異動並びに県人事委員会勧告に基づく給与改定等による人件費補正のほか、本年度各種事務事業費の変更や決定見込みによる、年度後半、新たに必要となる見込みの経費補正などが主な要因であります。

それでは、歳入からご説明を申し上げます。

第９款地方特例交付金は、本年４月の揮発油税等の暫定税率執行に伴う減収分を地方税等減収補てん臨時交付金として補てんされたことに伴う299万6,000円の追加補正であります。

第10款地方交付税は、普通交付税の算定に当たっての調整率の変更等に伴い、増額決定された694万1,000円の追加補正であります。

第12款分担金及び負担金は、小立岩地区の土地改良事業受益者分担金を減額する一方、私立保育所の保育料と下郷町からの清掃費に係る地方交付税の再配分負担金を、収入見込み及び確定により731万9,000円を追加補正するものであります。

第13款使用料及び手数料は、公立保育料関連で896万9,000円の追加補正であります。

第14款国庫支出金は、国の補正予算に伴い措置された地域活性化緊急安心実現総合対策交付金3,000万円を新たに計上するほか、市町村合併推進体制整備費補助金、舘岩統合小学校体育館建設事業の国庫負担金の追加、さらには事務事業の確定見込みによる民生費関連の国庫支出金等を補正した結果、合計5,235万9,000円の追加補正となりました。

第15款県支出金は、今年度の事務事業の確定見込み等による補正で、133万7,000円の追加補正であります。

主な内容は、民生費関連の事業費確定見込みによる追加補正、福祉灯油緊急支援事業補助金の計上のほか、事業費の確定見込みにより農業費県補助金を減額し、農林水産施設災害復旧費県補助金を追加するものであります。

第16款財産収入は土地区画整理事業保留地売払収入233万1,000円の減額補正であります。

第17款寄附金は、ふるさと納税寄附金と社会福祉費寄附金で121万1,000円の計上でありま

す。

第18款繰入金は、歳出に計上いたしました福祉灯油等の生活支援交付金に充当するため、ふれあい福祉基金より2,013万円を繰り入れするものであります。

第20款諸収入は、分収造林受託事業収入の追加、地域新エネルギービジョン策定等事業費助成金の減額等で411万円の減額補正であります。

第21款町債は、事業の確定見込みによるもので、基盤整備促進事業、町道整備事業、土地区画整理事業に充当する町債を減額する一方、災害復旧事業債を計上するもので730万円の減額補正であります。

続いて、歳出について主なものをご説明申し上げます。

まず、各款に計上されています人件費の補正について、総体的にご説明をさせていただきますと、給料は人事委員会勧告に伴う給与改定に伴う増加分が140万2,000円、職員の人事異動等による減額分が1,519万円となっており、合計をいたしますと1,378万8,000円の減額補正であります。職員手当は期末手当の支給月数の引き下げと制度改正に伴う減額分が134万4,000円ありましたが、人事異動等補正により最終的には95万4,000円の増額補正であります。また、共済費は、324万3,000円の減額でありまして、給料、職員手当、共済費を合わせた職員人件費全体では1,607万7,000円の減額補正であります。

それでは、各款別に説明をさせていただきますと、第１款議会費は、職員人件費の補正で10万1,000円の減額であります。

第２款総務費は、6,808万6,000円の追加でありまして、財政調整基金積立金を4,000万円計上するほか、事務事業の確定見込み等による補正と人件費の補正であります。

第３款民生費は、5,035万6,000円の追加で、人件費の補正を初め、福祉灯油等の生活支援交付金、老人福祉施設管理運営費、田島保育園運営委託料、各特別会計への繰出金等を補正するほか、各種事務事業の確定見込みによる補正であります。

第４款衛生費は、人件費の補正、予防接種事業、簡易水道事業特別会計繰出金等の補正で、1,526万8,000円の減額であります。

第６款農林水産業費は、4,303万8,000円の減額で、人件費補正のほか、国・県の予算配分の関係で農業振興補助金と国土調査費が減額となる一方、分収造林事業は追加内示を受けて増額補正するもので、その他の経費は事業費の確定見込みによる補正であります。

第７款商工費は、人件費の補正で800万5,000円の追加計上であります。

第８款土木費は、人件費の補正を初め除雪関係経費の追加、本年度事業の確定見込みなどに

よる事業費の補正や公共下水道事業特別会計繰出金の追加の補正等で276万5,000円の減額であります。

第９款消防費は、人件費の補正で６万3,000円の追加計上であります。

第10款教育費は、4,320万8,000円の追加で、国の補正予算で交付される地域活性化緊急安心実現総合対策交付金を財源として小・中学校の耐震診断及び実施設計等を前倒しで実施するほか、人件費、経常経費等を補正するものであります。

第12款公債費は、町債の繰上償還等により3,199万1,000円の減額補正であります。

第14款予備費は、歳入との関連で1,097万6,000円を追加するものであります。

なお、地方債の追加及び変更は第２表地方債補正のとおりであります。

以上、一般会計補正予算の説明を申し上げました。

次に、議案第84号　平成20年度南会津町国民健康保険特別会計補正予算（第３号）についてご説明を申し上げます。

本補正予算は、歳入歳出それぞれ237万1,000円を追加し、予算の総額を歳入歳出それぞれ23億9,885万4,000円とするものであります。

その内容は、歳出は人事異動等による人件費の補正及び出産育児一時金の改正等による保険給付費、保険事業費の実績見込みによる補正でありまして、歳入はこれらに要する一般会計からの繰入金と財政調整交付金の補正であります。

次に、議案第85号　平成20年度南会津町後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）についてご説明を申し上げます。

本補正予算は、歳入歳出それぞれ3,935万6,000円を減額し、予算の総額を歳入歳出それぞれ２億934万4,000円とするものであります。

その内容は、今年度の後期高齢者医療保険料の確定見込みと人件費の補正によるものであります。

次に、議案第86号　平成20年度南会津町介護保険特別会計補正予算（第２号）についてご説明を申し上げます。

本補正予算は、歳入歳出それぞれ1,611万7,000円を追加し、予算の総額を歳入歳出それぞれ14億7,108万円とするものであります。

その主な内容は、歳入では、介護給付費に対する国・県支払基金交付金、町の各負担金の補正のほか、ルールに基づき一般会計及び基金から繰り入れするものでありまして、歳出では各種介護サービス給付費等の実績見込みによる補正のほか、人件費及び事務経費の補正であります。

次に、議案第87号　平成20年度南会津町農林業集落排水事業特別会計補正予算（第１号）についてご説明申し上げます。

本補正予算は、歳入歳出それぞれ374万５円を減額し、予算の総額を歳入歳出それぞれ２億1,055万5,000円とするものであります。

その内容は、歳入では、下水道使用料の減額見込みと繰越金の確定に伴う補正並びに建物共済保険金収入を追加するほか、歳出に応じた一般会計繰入金を補正するものであります。

歳出では、経常経費の確定見込みと公債費の補正であります。

次に、議案第88号　平成20年度南会津町公共下水道事業特別会計補正予算（第１号）についてご説明申し上げます。

本補正予算は、歳入歳出それぞれ115万5,000円を減額し、予算の総額を歳入歳出それぞれ４億2,514万5,000円とするものであります。

その主な内容は、歳入で下水道使用料の減額見込みと繰越金の確定に伴う補正、歳出に応じた一般会計繰入金を補正するものであります。

歳出では、人件費の補正のほか、事業費の確定見込み及び公債費の決算見込みにより補正するものであります。

次に、議案第89号　平成20年度南会津町簡易水道事業特別会計補正予算（第１号）についてご説明を申し上げます。

本補正予算は、歳入歳出それぞれ80万円を減額し、予算の総額を歳入歳出それぞれ６億8,700万円とするものであります。

その主な内容は、歳入で水道使用料の減額見込みと繰越金の確定に伴い補正するほか、高金利の起債を借りかえる予算と一般会計繰入金も補正するものであります。

一方、歳出は人件費のほか、交際費を含めた経常経費の補正であります。

なお、地方債の変更は第２表地方債補正のとおりであります。

次に、議案第90号　平成20年度南会津町水道事業会計補正予算（第１号）についてご説明申し上げます。

本補正予算は、収益的収入を631万4,000円減額し、収益的収入の予定額を１億7,392万1,000円とし、収益的支出を52万5,000円追加し、収益的支出の予定額を１億7,828万6,000円とするものであります。

その内容は、収入では、水道使用料の減額見込み等を補正し、支出では消費税納入額を追加するほか、人件費の減額等を補正するものであります。

一部訂正をさせていただきます。

議案第79号　南会津町あらかい健康キャンプ村条例の説明の中で、来年度以降の施設管理と言うべきところ、今年度以降と発言をいたしました。大変失礼をいたしました。訂正をさせていただきます。

次に、一般会計の補正予算の歳出の説明の中で、第１款議会の補正額を11万1,000円と言うべきところ、10万1,000円と説明をいたしました。この件についてもおわびをして訂正をさせていただきます。

次に、農林業集落排水事業補正予算の補正額を374万5,000円と言うべきところ、374万５円と説明をいたしました。大変申しわけありません。訂正をさせていただきます。

以上、本定例会に提案をいたしました議案12件につきましてご説明を申し上げましたので、よろしくご審議を賜りましてご議決くださいますようお願いを申し上げしまて、提案理由の説明を終わります。

○渡部康吉議長　以上で提案理由の説明は終わりました。

――――――――――――――――――――――――――― ◇ ―――――――――――――――――――――――――――

◎請願・陳情の委員会付託

○渡部康吉議長　次に、日程第６、請願・陳情の委員会付託を行います。

去る12月９日までに陳情２件を受理しております。お手元に配付の文書表のとおり会議規則第92条の規定により、所管の常任委員会に付託いたしますので、審査方よろしくお願いします。

――――――――――――――――――――――――――― ◇ ―――――――――――――――――――――――――――

◎散会の宣告

○渡部康吉議長　以上で本日の議事日程は終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。

次の本会議は12月16日午前10時より開議し、一般質問を行います。

なお、休会中における各常任委員会の開催はお手元に配付の日程のとおりであります。ご了承願います。よろしくお願いいたします。

散会　午前１０時４３分

平成２０年第４回南会津町議会定例会　第２日

議　事　日　程　（第２号）

平成２０年１２月１６日（火曜日）午前１０時開議

日程第　１　一般質問

１番　湯　田　　哲　議員
２番　渡　部　俊　夫　議員
１５番　阿久津　梅　夫　議員
１９番　大　竹　幸　一　議員
５番　山　内　　政　議員
７番　星　　光　久　議員

本日の会議に付した事件

議事日程のとおり

出席議員（２２名）

１番	湯　田　　哲　議員	２番	渡　部　俊　夫　議員
３番	高　野　精　一　議員	４番	馬　場　信　作　議員
５番	山　内　　政　議員	６番	渡　部　　優　議員
７番	星　　光　久　議員	８番	楠　　正　次　議員
９番	大　宅　宗　吉　議員	１０番	渡　部　忠　雄　議員
１１番	湯　田　秀　春　議員	１２番	星　　登志一　議員
１３番	星　　和　男　議員	１４番	平　野　昌　盛　議員
１５番	阿久津　梅　夫　議員	１６番	渡　部　　東　議員
１７番	芳賀沼　順　一　議員	１８番	菅　家　幸　弘　議員
１９番	大　竹　幸　一　議員	２０番	児　山　寿　明　議員
２１番	五十嵐　　司　議員	２２番	渡　部　康　吉　議員

欠席議員（なし）

説明のための出席者

湯田芳博	町長	渡辺仁	副町長
横山恒廣	教育長	五十嵐竹則	会計室長
宍戸英樹	直轄政策室長	室井裕	総務課長
星光幸	企画観光課長	馬場増男	税務課長
長沼芳樹	住民生活課長	近藤甚悦	健康福祉課長
星安晴	環境水道課長	角田厚	農林課長
渡部文政	農業委員会事務局長	斎藤友一	学校教育課長
酒井直伸	生涯学習課長	星廣政	舘岩総合支所長
横山孝夫	伊南総合支所長	児山忠男	南郷総合支所長
室井良一	監査委員		

事務局職員出席者

渡部俊夫	事務局長	馬場秀成	事務局長補佐

開議　午前１０時００分

◎開議の宣告

○渡部康吉議長　おはようございます。

ただいまの出席議員は22名であります。

これより本日の会議を開きます。

――――――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――――――

◎議事日程の報告

○渡部康吉議長　本日の議事日程は、お手元にご配付のとおりであります。

――――――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――――――

◎一般質問

○渡部康吉議長　日程第１、一般質問を行います。

順序に従いまして、順次発言を許します。

なお、質問に当たりましては、南会津町議会会議規則第55条ただし書きの規定により、質問の回数が３回を超えることを許可し、同規則第56条の規定により、その発言時間を60分に制限することにいたしますので、その趣旨は簡潔、明確に質問されるよう、ご協力方よろしくお願いいたします。

――――――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――――――

◇　湯　田　　哲　議員

○渡部康吉議長　それでは、１番、湯田哲君の登壇を許します。

１番、湯田哲君。

○１番　湯田　哲議員　おはようございます。

この質問に先立ちまして、今回の１番目の問題、陳情でも上がっていますが、私も40年前にその学校を出た一人として、これまでの議会の中でも何度か質問になっていましたけれども、

少し緊張して質問させていただきます。決してそれは反対を支持するとか、それを賛成する人たちのその立場ではなく、住民の代表でありますので、中間として私はそれを質問させていただきます。

質問にいきます。１番、針生小学校、檜沢小学校統合問題について。

この統合問題については、針生地区で２月に第１回目の説明会を教育委員会からの通知によって、針生小学校に来春入学する親たち、現在のＰＴＡ役員、地区代議員、区長及び役員が参加した説明会が針生管理棟で実施されました。

そして、10月、さらに期間を置いて第２回目の説明会が実施されました。２月の第１回目の説明会では、平成23年４月に統合する予定であるという結論ありきの第一声であった。その言葉が参加した住民に不快感を与えたのは確かであった。

本来、この問題については、地区の親たちはもちろん、地区住民の多くの意見を聞くとともに、学校の理想の姿、先生の役割、地域の役割、親の役割などさまざまなテーマで議論し、時間をかけて進めるのが自然であったと考える。その２回の説明会の内容を含め、どのような意見が出されたのか、そしてどのような話し合いがなされたのか、伺いたい。

その２回の説明会での経験を通し、この問題について今教育長が感じていること、今後どのような方法で進めていくのか、具体的な予定も含めて教育長の考えを伺いたい。

２番といたしまして、伊南地区の古町温泉の入湯料についてです。11月初めの議会報告会があり、私のＣ班は伊南地区の古町地区でありました。さまざまな意見、話を聞くことができました。「合併して一番ばか見たのが」で始まった、つまり古町温泉の通称赤岩温泉の入湯料の値上げである。

つまり、100円の入湯料のときには毎日入っていた人が、350円に値上がりして全く行かなくなったという。地元の利用者は以前の３分の１にも減ったといいます。その値上げの議会決定は、地元の人、地区住民の楽しみを奪ったことには間違いありません。行かなくなった人は結局自宅のふろに入ることで灯油や電気を消費することになる。

温泉を利用すればある意味CO_2、二酸化炭素の削減に協力してきた人間であったはずだ。地区住民が地元の温泉に入りながら、おしゃべりをし、コミュニケーションの場として疲れを取り去ってくれる健康維持の温泉として、重要な役割を果たしてきた温泉が、今機能していないとすれば、行政の責任としては重いものがある。値上げの段階で十分論議されたのか。値上げによって住民の入場者数は減少するのは予想されたと思うが、その決定に至る経緯と、その時点での町長の考えを伺う。

地区住民の毎日の生活のリズムの中の楽しみの場としての温泉、地元住民に限り入湯料を本来の100円に戻すべきであると考えるが、町長の考えを伺いたい。

３、防災行政無線の機能と追加予算についてです。

６億円近い予算で進められている防災行政無線の完成が目前です。計画当初防災行政無線の役割を達成するために、さまざまな機能は具体的に明記されていたはずです。しかし、ここに来て、10月の臨時議会での内容などを見ると、幾つかの問題があると思います。次の４点について伺います。

１、既に防災行政無線が設置機能している南郷、伊南、舘岩と同じ環境にするために、現在田島地区で工事が進められています。この工事の完了と同時に、南会津町全域に対し、一斉に防災情報など生活に密着したさまざまな情報を提供することが可能になるのが最大のポイントでした。もちろんその機能は当初予算に入っていたはずです。10月の臨時議会では、各地区のメーカーの違いによる、連動するための中間システムが追加されていたのです。

メーカーの違いやそのシステムの必要性などは、入札段階で最初から計画に明記されていたはずです。なぜ今になって追加予算なのか、伺いたい。

２、６月議会で、私が防災行政無線の質問に対して、町の答弁では地区ごとの伝達情報も可能であるとのことであった。１地区全体に伝達するには、複数のスピーカーが必要にもかかわらず、現状は１地区に１本だけのパンザマストのスピーカーからしか放送できず、結局残りのスピーカーからは音は出ていない。結局地区ごとの放送は機能していない。これでは当初の計画の機能は不完全であり、それは事業の未完成であり契約違反ではないのか、伺いたい。

３、各拡声器のマストの設置抵抗の軽減の改良と称して139万円の追加予算が計上されていた。このようなことは、この種の工事を多く手がけている業者としては考えられることで、当初想定されていなかったのか伺いたい。

４番、行政として次のようなことはないと思うが、ある事業を進める上で、それについての情報収集、研究調査などをしないまま、その価格の妥当性も調査せず丸投げし、予算が業者から示されるまま、その金額で予算が決定されているとすれば、町に幾らお金があっても足りないだろう。

今後、このような事業を進める上でも機械、備品の購入などにおいても言えることであるが、一体その事業のゴールは何なのか、どこまでの機能と役割をその事業に求めているのかを明確にし、契約段階で明記するべきであると考えるが、町長の考えを伺いたい。

以上です。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　１番、湯田哲議員のご質問にお答えをいたします。

初めに、伊南地区の古町温泉の入湯料に関してのおただしがございました。町内の同様施設との整合性を図るとともに、利用者のサービス向上に資するため、平成19年４月１日から現在の料金体系に改定したところでございます。

従前は入湯料100円と広間の使用料100円、冬期間には冬期加算料として100円をいただいていたものを、改正後は広間使用料、冬期加算料を廃止し、利用料金として200円といたしました。これに入湯税150円を加え350円をご負担いただくことになりましたが、利用者の視点に立ち、ボディソープやシャンプーの提供、さらには健康器具やマッサージ機の設置、夜間営業時間の延長など新たなサービスの充実に取り組んできたところでございます。

なお、利用者数につきましては、合併前の平成17年度の利用者は２万7,993人で、料金改定後の平成19年度は２万6,690人とほぼ横ばいで推移をしております。

今後とも現在の料金体系のもとでサービス向上に努めてまいりたい、このように考えておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

次に、防災行政無線の機能と追加予算についての１点目、各地区のメーカーの違いによる中間システムはなぜ今になって追加するのか、こういうおただしがございました。当初計画においては本庁の無線局から受信すると自動的に立ち上がるよう、支所の既存の操作卓を部分的に改造する仕様としておりましたが、請負会社と既設メーカーとの信号が異なることから改造前に整合がとれるよう調査を行うこととしておりました。

調査の結果、既存の操作卓が全体的に老朽化しておることがわかりました。改造する部分以外への影響が大きいことが判明をいたしたため、改造ではなくて信号を変換する制御装置を中間システムとして新たに設置する仕様に変更したものでございます。

次に、２点目、地区における屋外拡声子局の機能のおただしがございましたが、１地区内に複数本の屋外拡声子局が設置されている地区は、針生地区を初め13地区ございます。それらの屋外拡声子局からの放送は、それぞれの屋外拡声子局に設置されている屋外拡声送受信装置により放送すること、または本庁の親機から放送することができる機能となっております。

また、各地区の集会所内に設置された外部接続箱からは、集会所に隣接した屋外拡声子局からのみ放送することができます。

ご指摘の各地区集会所からの操作により、同一地区内の屋外拡声子局すべてに無線により放送を可能とすることは、地区ごとに親局が設置されることとなることから、防災行政無線施設

整備事業においては不適切であるとの国の指導がございました。この指導を踏まえて当初の契約時に示した設計内容に基づくものでございます。

次に、３点目の拡声器の接地抵抗の軽減の改良は当初想定されていなかったか、こういうおただしがございました。一般的に拡声子局等の設計の際は建築工事のような地質調査を行わず、今回の工事においても標準的な設置工事費を計上しておりました。

しかしながら、事業を進める中で、施工箇所の地質条件により、接地抵抗の数値が異なり、標準的設置工事を上回る改良工事が必要となったことから、やむを得ず変更することとなりましたので、ご理解をいただきたいと思います。

次に４点目の予算及び契約時において情報収集を図りながら事業の機能と役割を明確にし、契約段階で明記すべきである、このようなおただしがございましたが、当然発注側として工事の仕様書において事業の目的や必要とする機能などについて明記をしております。今回の防災行政無線工事のような、より専門性の高い特殊工事につきましては、施工過程で変更を余儀なくされるケースが多いこともまた事実でございますが、いずれにいたしましても当初の事業目的を達成するために、必要な機能を可能な限り調査、把握するとともに、限りある予算を意識しながら今後とも事業展開を図ってまいりたいと考えております。

以上、町長に求められました答弁とさせていただきましたが、具体的事項につきましては担当課長に答弁をさせますので、よろしくお願いをいたします。

○渡部康吉議長　教育長。

○横山恒廣教育長　私からは針生小学校、檜沢小学校統合問題に関してお答えいたします。

初めに、針生小学校、檜沢小学校統合問題について、２回の説明会の内容を含め、どのような意見が出されどのような話し合いがなされたのかとのおただしでありますが、２月に針生地区の区長及び区の役員、ＰＴＡの役員の方などの出席をいただき開催しました。

懇談会では、平成19年度第７回教育委員会定例会で決定しました南会津町立小中学校統合実施基本計画に基づきまして、学校統合に関する基本的な考えをご説明し、針生小学校と檜沢小学校の統合計画について懇談いたしました。

その中で、統合時期について平成23年４月１日としますとしたことから、決定済みとの印象を与え、地域の方に不快感を与えることになり、配慮が足りなかったと反省しているところであります。

ご意見につきましては、保護者の意見が大事であるとの意見が多くあり、10月に保護者を対象とした懇談会を開催したところであります。

この懇談会では、教育委員会としてさきに示した統合時期についての考え方や、統合を進めるに当たっての考え方についてご説明し、その後保護者の方からご意見、ご質問をいただきながら懇談をいたしました。

子供の教育環境を考えると統合に賛成というご意見や、できれば存続させてほしいというご意見など、さまざまなご意見をいただきました。学校統合の問題は、その地域にとって重大な問題であると常々認識しておりますが、この懇談の中で、地域の方々の学校に対する思い、そして愛着の強さを改めて感じることができました。

今後、統合を進めるに当たっては、保護者の皆さんを初め、地域の皆さんのご理解を得ることが重要でありますので、懇談を重ねながら一つ一つの課題に丁寧に向き合い、ご理解を得ていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

以上、私の答弁は終わりますけれども、詳しくは課長のほうから答弁させます。

○渡部康吉議長　１番、湯田哲君。

○１番　湯田　哲議員　質問のほうを前後して答弁もありましたので、１番の針生小学校の統合問題について再問させていただきます。

今教育長が言われた２月の、その第１回目の分は私も地元として参加させていただきました。印刷物が渡されて、具体的に多分説明会もありましたので、議員の方は皆さん知っていると思いますが、その中でやはり結論ありき、その日の僕も感想を言わせてもらいましたけれども、宣戦布告したんじゃないかということを、一言ちょっと言ったこともありました。そこで、やっぱり私も同じように不快感を持った者です。

ですから、今回の問題は陳情書や意見書も上がっているように、地元の人たちがちょうど10月、この２回目のときのブランクのこの長さが、彼らを立ち上がらせるということはおかしいかもしれませんけれども、行政主導の中で進むだろうという不安が、彼らをそういう署名運動とかをさせたんだと僕は思いますが、その中で、やはりその中で望んでいる白紙になって、これからもう一度、みんな地区住民が主人公のはずですから、そういう大切な問題に対してはそちらのほうに、スタートラインに戻るとかありますよね。その中で進めるべきだと私は考えますが、教育長はそのところをどのように、もう一度確認したいんですが、お願いいたします。

○渡部康吉議長　教育長。

○横山恒廣教育長　お答えいたします。

確認とはどういうことのあれでしょうか。もう一度すみません、お願いします。

○渡部康吉議長　１番、湯田哲君。

○１番　湯田　哲議員　確認というのは進め方の、反省はしていますという話でしたが、これからどのように進めるか計画のところをもう一度確認をしたいということです。具体的にですね。

○渡部康吉議長　教育長。

○横山恒廣教育長　お答えいたします。

先ほど来、申し上げましたとおり、いわゆる最初に日にちを決めて教育委員会で決めたものをそれですべてだというような考え方を持たれましたということは、私どもの非常に不徳のいたすところでありまして、今後先ほど申し上げたとおり丁寧に話し合いをしながら、そしてその中で進めていきたいという考えでございますので、ご理解ください。

以上です。

○渡部康吉議長　１番、湯田哲君。

○１番　湯田　哲議員　具体的な部分はないですが、その分の具体的な日程的なもの、多分こととし１年間やっているわけですよね。ですから３回目というのが多分もう次にありますけれども、何年、何月、流れは多分想定できると思いますけれども、お願いします。

○渡部康吉議長　教育長。

○横山恒廣教育長　３回目は間もなくやる予定でございます。12月中にやる予定でございます。それから後、来年からは、できれば今のところは月１度ぐらいの回数でそれぞれ話し合いを持てればなというふうに考えているところですが、きちっと一月１回というようなことは、まだ決めてはいませんけれども、それぐらいのペースでお話し合いをして、そしてご理解を得ていきたいというふうに考えておるところでございます。ご理解ください。

○渡部康吉議長　１番、湯田哲君。

○１番　湯田　哲議員　計画はそのようなことだということで。

私がいつも感じるのは、昨年11月に文教厚生委員で三重県に行って、統合問題がすぐに目の前にありましたので、保育所の関係もありましたけれども、御浜町という町で、尾呂志学園というやはり同じ規模の700人ぐらいの小さな地区の学校を見てきました。その中ですごく感じたのは、10年ぐらいの中で毎晩のように、お寺さんの住職さんがＰＴＡの役員の一人だったみたいで、いつも12時ごろまでその統合問題を話した。それは住民主導の中で進んだという統合のプロセスをすごく感動的なことを聞いてきました。

その中で、やはり今、この話の先を考えるとやはりあくまでも教育委員会が主導を握っているような形のケース、多分大方そういう形で統合というのは進むと思うんですが、その尾呂志

学園のことを見ると、そこは結局小中が一緒になったというケースで特殊なケースです。参考までなんですけれども、その中で彼らがやったのは、やはり住民が主導の中でも行政は動かないだろうと、これは行政の悪口ではないですが、実際彼らはそうやった特殊な成功例だったと思います。

でも、これから進める上でも本当に議長になったり、その会を進める中で、だれがその中心になってその会の中で議長をやったり司会者をやったりして進めるかといえば、どちらかといえば今の流れだと行政が多分、きょう集まって何とかありますけれどもというふうにいくと思います。

でも、その例なんかは多分ＰＴＡの役員なり、役員でなくてもある親が多分司会者になって、どんなふうに、つまりどっちに比率があるかというその思いですね。その分はやはり今回は行政でいくというような傾向で進んでいる、スタートの始まりがそうでしたし、10月も何かいきなり反対の中身も持って来なかったんだようなケースみたいでしたけれども、そういう意味ではぜひ進める上で、デリカシーということかわかりませんけれども、本当にその住民の気持ちというか、それで、話が飛ぶかもしれませんけれども、先週の金曜日に朝日新聞に載りましたね。つまり学校が１つなくなることは、その地区にとってはとてつもなく重要なことなんだと。それは住民であるからひしひしと感じるものであって、教育長もそうだし町長もそうですが、ほかの人たちとやっぱり感じ方はまた違うと思うんですよ。よくわかるその気持ちと言うかもしれないけれども、もしかして言葉だけかもしれません。

ですから、そういう住民感情を含めて今回陳情書やいろいろ出ています。だから文教にも上がってきていますけれども。そういう考えも酌んでいるんだというその姿勢というか、そういう部分を、言葉ではもちろん言葉で終わってしまいますけれども、それが今の答弁でも見受けられないような気がします。

だから、そういう意味ではそういう思い、あるいは今まで10月に第２回目をする前に、署名運動に入ってしまいましたね。その思いは一体何がそうさせたのかということだってあるわけですよね。そういうことを含めてもっと反応が違うんじゃないかと僕は教育長、思うんですけれどもね、その辺は教育長、どうなんでしょうか。

○渡部康吉議長　教育長。

○横山恒廣教育長　お答えいたします。

先ほど来申し上げておりますように、まず私たちの最初の手法ですね、皆さん方にこの問題に対して提案するやり方についてやっぱりまずかったと。私たちはやっぱりその人たちの、地

域の人たちの思いをきちんと受けとめていなかったという面もあると思います。しかし、私の場合にはいろいろなところでいろいろな学校の統合とかそういうことを見たりしたりしてきました。そういった考え方からすると、やっぱり大変だということは、私はもう重々承知しております。その地域の学校というのは、いろいろな、学校だけじゃなくていろいろな拠点になっている。地域の住民の心のよりどころになっているということは、もう重々承知しておるつもりでございます。

しかし、それにしてもやはりやり方について大変申しわけなかったというふうに今考えているところで、今後はそういうことのないように、よく住民の方と話し合いを重ねながら、理解をしていただく、そういう努力をしたいというふうに思っているところでございますので、ご理解をお願いしたいと、このように思います。

○渡部康吉議長　１番、湯田哲君。

○１番　湯田　哲議員　ぜひ、その進め方そのもの自体も、会自体のつくり方も、多分19年度の７月だったか、その流れにはつくるという組織をつくってからするような、19年のプランだったみたいですけれども、それすらなく一足飛びだったような気がしますから、ぜひ住民のあるいは主導、その会の持っていき方、そのこと自体も検討してから、ぜひ進めていってほしいと思います。

続けていいですか。

それでは、２番目の伊南地区の古町温泉の入湯料について、質問させていただきます。

これは、私たちのＣ班が伊南地区に行って聞いたときに、つくづくばかを見たで始まったんですが、これに関しては町長の答弁の中では現行のままだというような、そのままでした。

僕は３月、平成19年の議事録を読ませていただきました。その中で町長はその弊害があれば、弊害があるって、弊害は見られなかったと思うんですが、私がここの中で言っているように、減ってしまった、横ばいは変わっていない、ほぼ変わらない、入場者は変わらないという答弁でしたけれども、その中でやはりその人たちが入らなくなった、楽しみをとったということについては、町長はどう感じているんでしょうか。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

ばかを見たか見ないかというのは、その人の価値観ではないですか。つまり、合併というものは、ただ一つの料金体系だけで決められない。総合的な状況の中でそれぞれの旧町村の議会が合併をすることを判断をし、合併をする前提条件としてさまざまな協議を進めてきた。その

合併の協議の中で、やはり統一的に入湯税をどうしてそこだけ取らないのという疑問の中で入湯税を取りましょうと整合性を保ってきた。そういうことが合併の前提条件にあったわけです。ということは、ばかを見たという人が何人おられるかわかりませんが、その人にきちっと教えてあげていただきたいと思います。合併、あるいは利用料金、水道料金もそうです。これらについての統合や整合性については、しっかりと地域の実情を見ながら議論を重ねてきた結果だと、こういうことでございますので、私については今のところ支障はない、このように判断をしておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　１番、湯田哲君。

○１番　湯田　哲議員　その入らなくなったという、ばかを見たという言葉はとても口語体というか、感情論だから、すごく表現が変に感じるかもしれません。でも僕はそのばかを見たじゃなくて、そのことになって楽しみがなくなった、行く人が３分の１になった、そしてうちぶろを使って、これはつなげてしまったらおかしいのかもしれません、昨年12月に僕が、うちぶろを使わずに温泉を利用すれば燃料の節約、二酸化炭素削減となるので、地球温暖化防止として町ぐるみで取り組んではという問いに対して、町長は、健康づくり、温泉療法など医療費の削減という政策論を考えています、暮らしの中の温泉活用をして、二酸化炭素の削減効果も一つの新たな素材として、切り口として考えていきたいと思います、これが昨年の12月議会でのやりとりのまとめの議会だよりの中の１行です。

この中で削減とありますけれども、僕はその上がってうちぶろを使う数って多分調べればとんでもない量ですね。何万キロ、すごいキロリットルだと思います。灯油がね。うちぶろを使うことというのは。その意味でこの12月のときに質問させていただきました。

それも含めれば、この値上がりの250円がどうだ、こっちの視点から考えれば、楽しみを奪ったという感情論の部分もあるかもしれないけれども、その何百人ですね、多分行かなくなった。その人たちがうちぶろに入らざるを得ない。250円ぐらい我慢しろよとかではないですよね。気軽に朝も入って、夕方も入って、痛みもとれる、楽しみがあったとすれば、この部分については僕はそんなに簡単に周りが一律だから、水道料が一律だから横並びしようとか、そういう問題ではないと僕は思いますが、その辺町長どうでしょうか。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

３分の１に減ったと言いますけれども、先ほど私が言ったように、平成17年度の利用者は２万7,993人、平成19年度は２万6,690人ですから、３分の１にはならないでしょう。

以上です。

○渡部康吉議長　１番、湯田哲君。

○１番　湯田　哲議員　それは違うと思いますね。これは入場者数は横ばい。この辺の観光客もふえたり何かしている、あるは温泉ブームがあるから、それは問題になっていない。僕が言っているのは、地元の人が問題なんです。僕は地元の人たちの楽しみの部分を言っているんですね。観光客がふえようが、甲子峠がふえて5,000人ふえようが、それは別な話なんです。僕が言っているのは、その地区で行かなくなった人がいる。その地区の議会報告会で出た声の中の声というのは、住民の人たちが問題なんです。田島の僕が行かなくなったということの問題じゃないんです。僕が言っているのは、その伊南地区のいつも行っている人たちのことを今テーマにしてしゃべっていますので、その辺誤解ないように。ですから、そのことについてなんです。町長、どうでしょうか。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

議員が幾ら言っても、これはその施設だけ安くするわけにいかない。入湯税という税法があるわけです。それを今まで伊南は伊南なりの健康センターというか、そういうものの中でやってきた。ほかの地区との整合性も出てこなければならない。これはその住民が行かなくなったとか行ったとか、自分の家のふろをたいているとか、温泉がないところの地域もあるんですよ。それは選択じゃないですか、生活の。

以上です。

○渡部康吉議長　１番、湯田哲君。

○１番　湯田　哲議員　ずれていると僕は思うんです。結局それはCO_2とか、今言いましたね、入湯税というのは目的税ですよね。結局何かをしてそれによって何かの効果を、僕は効果の部分を言っているんですね。12月のときに健康維持やそれによって、赤湯温泉、痛みとか腰痛とかそういうのにはすごく効き目があります。本当に医者に行って注射を打ってもらうより多分効くでしょう。

そういう部分で考えれば、単純な、シンプルな話、温泉に入れば痛みがとれる、そんな安いことはないだろう、だから350円ではなくて、これがこの安いから住民感情でそこの地区の話なんですね。ガソリンをかけて遠くから来ていればこれは優しくないですよ。僕はここの話をしているんですね、伊南の話をしているんです。伊南地区でその部分で入らなくなったその健康、例えば腰痛になって病院に行ったかもしれない、温泉に入らなくなりましたからね。それ

よりは温泉入って、そっちのほうがよかんべと言われればそれきりですけれども、その部分の効果の部分を言っているんですね。それについてどう思っているんだということです。

安いとか高いとか、だれかがそれを見てみんなが安いんだからどうじゃないんですよ。針生民として、僕は伊南地区は遠いですけれども、あそこの住民が100円だからと僕は不満は言いませんね。それは昔からそこを愛していた人たち、そこをつくった人たちがそこにいるわけですから。そこに対して私たちよそ者が、ある意味では別なよそ者がそこに行って、あんた100円で安いっぺ。同じ町民でずるいんじゃないって、どこの町民に聞いてみましょうか。多分滝原だろうがどこの人たちだって、みんなそんなことを僕は言わないと思います。

ちょっとほかの水道料とは意味が違うんですね。僕が言っているのは。その分についてなんです。そのだれかから、痛みも、やはりとか統合がどうとか、そこじゃないんです。そこの地区の話をしているんです。町長、どうでしょう。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

効果があるかないかというのは、仮に問われれば多分温泉に入ったら効果があるでしょうと、こう思いますよ、一般的にね。ただ温泉に入って血圧とかさまざまな症状の中では逆効果になるものもないとは限らない。それは認めます。

ただ、議員が質問しているのは、もとに戻せということを言っているわけでしょう。それですよね。だから、それは私はその気はないということを言っているんです。

以上です。

○渡部康吉議長　１番、湯田哲君。

○１番　湯田　哲議員　後半になっていますので、時間のほう、３番に移るんですが、確かにその考え、町長の考え自体はわかりましたので、わかりました。その気がないということだけ。

残り10分ぐらいなので、では、防災行政無線、３番目に行きたいと思います。

〔「20分」と言う者あり〕

○１番　湯田　哲議員　ああそうか。はい、わかりました、ではもう一つ今の、議長。

○渡部康吉議長　１番、湯田哲君。

○１番　湯田　哲議員　僕はこの問題を、では伊南を離れて12月議会で町長が言われたことについて、もうちょっと踏み込んでいきたいと思います。

いろいろな省エネとか何かありますけれども、この温泉がそれが健康にどうだと、機能性だとかいい人、合う人、悪い人、それは別の切り口ですよね。そんなのは言ったら切りがない。

そこまで言ったら切りがない。事実それで腰痛を治している人がいる。事実いるわけだから、それは問題ない。

その分で、健康とかこの町の中でそれを利用した広報を考えてみたい、それを利用したものを考えるという、これに関してはすごく矛盾する部分だと思いますが、その辺は町長、矛盾していませんか。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

全く矛盾しておりません。私は施設全体の公平性を図りながら、健康に役立てていきたいというんです。１カ所だけが従来がそうだったからそうあるべきだというものの考え方はおかしいでしょうということを言っているわけなんです。

以上です。

○渡部康吉議長　１番、湯田哲君。

○１番　湯田　哲議員　そうですね。町長の考えそのものなんですね。

その報告会で一つありました。こんなことです。その同じ人が言ったんですが、東京では60歳以上、70歳以上の人はタクシーも無料だとか何とかね、そういうものを持ち出しました。でもそういう意味で、そういう姿勢というのは、結局行政というか町長の考え方一つなんですよね。それはこうで、私はこれでいきたい。ほかにないけれどもその地区は特別だ、そうしてみんなにおしゃべりをしていい１日を過ごしてほしいという願いがあるんだったら、それで完了するんですね。それがあるかないかの話で、その人たちが、ああおれ入りたいけどまあいいや、家のおふろ使っていいやって思ってあきらめている人の話の、その気持ちを酌んでいないだけなんですね。だから、それはそれでいいんですよ。その部分が私はこのスタイルでいきたい、350円でいきたいということだから。

もう一回繰り返すけれども、その人たちはそこは特別町長の私の権限でそうしたいという決まれば多分なる話をやっているとそれは思いました。だけれども、私はないという結論が出たので、町長の態度というか、それはわかりましたので、それに関してはいいです。

では、町長、その考えはどうですか。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えいたします。

これは町長の権限とか、そういう問題ではないんですよ。先ほどから言っているように、合併するときに、それぞれの合併協定をしたわけですよ。いろいろな事情を踏まえながら。それ

は安いところもあれば高いところもある。それを一回きちっとやって、整合性を図っていこうと。その中でそのばかを見たという人がどういう思いで言ったか、それはわかりませんけれども、もし財政的にふんだんにそういう一人一人の思いにこたえていけるだけの余力があるんであれば、これはやってあげたいじゃないですか。でも、扶助費ってあるでしょう、調べてください。子供や青年やそういう未来を背負って立つ人たちに対する扶助費は、高齢者が多いからやむを得ないんですが、比べたらかなり少ない。

私は、この後も出るのかもしれませんが、敬老祝い金のときに、いろいろなところに行って、おしかりを受けながら説明をしましたよ。そうしたらですね、そのことが子供のほうに使われるのであれば、あるいはうちの孫に行き着くんですねということであれば、私たちだってある一定の線で我慢しなければならないでしょう。ぜひ町長さん、財政も健全化しながら、未来の子供たちも育ててくださいね、こういう意見もあるんです。

ですから、財政的な全体のバランスを見ながら４つの地域の整合性、公平性を図りながら現在の体制でいきたい、こういうことでございますので、ご理解いただきたいと思います。

○渡部康吉議長　１番、湯田哲君。

○１番　湯田　哲議員　公平性のもとにということで、わかりました。

３番目に移ります。

防災行政無線、４点ありましたけれども、まず１番目の部分、これに関してはつまりこういうことなんですね。話を聞いて、僕は一応無線工学、アマチュア無線家の一人なので、その辺はまあまあ一般の人よりは詳しいと思うんですが、その信号制御装置という今回の830万円、これは業者で言わせてもらうと、この３つを統合するのに2,348万円というのは既にプランで上がっていますよね。2,300万円。それは統合してこっちらから飛ばして流すためのシステムはもう既に組んでいた。

ところが、老朽化しているから800万円そのものをオーバー、多分取りかえてしまうんでしょうね。800万円ですから、あのユニットを全部取りかえてしまうんでしょう。簡単なことに言いますけれども800万円、とてつもなく大きいと思います。でもこれはメーカーが調べて、専門家が調べて、そのプロが調べてそうだから、これ古いから取りかえなさいということで多分オーケーしたと思いますので、そういう答弁だったので、それで、それをなぜ老朽化って、彼らは現場を見ていないはずがないですよ。あちこちのメーカーの人はナショナルとか三菱とかみんなメーカーを見ています、現場に行って物を見ていますね。それを何で800万円って、それをどっとユニットを取りかえるということが起きるんでしょう。それに関してどうなんで

すか、その辺。現場を見なかったんでしょうか。この入札段階の前の段階の計画段階では。

○渡部康吉議長　住民生活課長。

○長沼芳樹住民生活課長　お答えいたします。

入札の前提として、そのときには請負業者が確定をしておりませんので、入札書の仕様書の段階では入札の決定後にそれぞれの支所の今までの業者との打ち合わせをしてくださいというような中身になっておりましたので、ご理解していただきたいと思います。

○渡部康吉議長　１番、湯田哲君。

○１番　湯田　哲議員　この１番については、その答弁どおりに進むから、800万円この計画に追加されているということでしかないもので、その先はないんですが、でも本当にそれにしても今回のこの大きな事業の中で、３番の部分と全く似ているんですね。これはお金的なことなんです。

３番については、これは町長答弁の中で地質まで調べていなかったからと言います。139万円、細かいことかもしれませんけれども、139万円というのは44カ所です。139万円を44カ所で割ると数万円ですね。数万円をマストをつくる抵抗の改良にくださいというのは、どんな工事にしたって予想外、予想内の話ではなくて、話が違う話ですね。そう感じませんか。

いいですか、44カ所です。44カ所掛ける何ぼの話。数万円というのは、マストはあれは400万円ぐらいかかるらしいですけれども、そういう中で二、三万円、４万円上がりましたから、はい、44カ所くださいという部分なんですね。

この論法の３番に、今話していますけれども、これについてだって変だと思いませんか、どうでしょう。

○渡部康吉議長　住民生活課長。

○長沼芳樹住民生活課長　お答えいたします。

屋外拡声子局の地質調査の関係だと思いますが、数が多いのと、それで全町的にわたっているということから、設計の段階では総体的な基本的な予算のみ組んでおりましたので、いざ実施するとなりますと、それぞれの地形が全く違いますので、そういうような事情で標準的設置工事を上回る改良工事が必要になったということでございます。

○渡部康吉議長　１番、湯田哲君。

○１番　湯田　哲議員　少し早口になってしまうので申しわけないですが、まずこの部分の１番と３番については、そういう意味で我々が行政も含めてこの計画に携わる人たちはその部分を本当に調査しているのかという、この４番のほうにいっているんですが、確かに我々は素人

ですよね。何をするにも素人なんです。でもここで一番問題になるのは、予算をするときにこのお金、自分のお金だったらどうなんだという問いですよね。税収で行うその部分がすごく気になります。

本当に自分のお金だったらもっともっと慎重になったり、いろいろなことを調べたり、その139万円、これは６億円近い予算からすれば本当にわずかです。そんなのって思うかもしれないけれども、これの延長でずっと来ているような感じがするわけですよ。９月の臨時会を迎えるたびにね。

ですから、そういう意味で今後こういうものに対してもっと慎重に、進め方ですが、もちろんやっているとは思う。その部分で姿勢をもう一度伺いたいですね、その辺。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えいたします。

議員がおただしのように、９月の議会で議員以外の議員からもこの問題に関してのある意味では非常に厳しいご指摘がありました。そのご指摘を受けてさまざまな分野で精査をし、あるいはまたその体制づくりに取り組んでおります。

しかしながら、議員が確かにそういう技術的な専門性を備えておられるということで、私どもの対応が生ぬるいところは見受けられるのかもしれません。しかしながら、その素人が素人としてやる限界を感じながらも、既往の予算の中で、あるいは限られた財源の中でどういう体制をとっていったらいいか。

これは今真剣に本気で頑張っています。そうしないと議会に対するいわゆる信託にこたえられない。これは我々の課題なんですよ。ですから今言いましたようにしっかりとその経費の使い道については１円たりとも無駄な使い方をしない、こういう形で進んでいます。

あわせまして、これらに関係しない職員は、いかに経常経費を減らせるかということで、さまざまな分野から経費節減に取り組んでいます。ここのところもしっかりとちょっと見詰め直していただいて、私たちにもう少し時間をいただければありがたい、こう思いますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　１番、湯田哲君。

○１番　湯田　哲議員　今町長の答弁の、１円たりともという言葉がとても重要だと思います。本当に自分のお金であれば本気で交渉もするでしょう、調べもするでしょう。ですから、そういう意味でこのほぼ６億円、この予算を無駄にはしない。大きいからそれが見えないから、何か自由に操られているという言葉はとてもまずい言葉ですが、そういう意味ではすごく慎重に

なってほしい、それは思います。

２番の部分、これは住民生活課長の話の中では、１地区で１カ所それで防災無線としての機能が国から指摘を受けているということがありました。そこのところをもう一度ちょっと確認で答弁をお願いしたいんですが。

○渡部康吉議長　住民生活課長。

○長沼芳樹住民生活課長　お答えいたします。

いわゆる親局という設備がありまして、親局からそれぞれの中継局としていくことが基本でありまして、それぞれの地区の集会所から放送することが、それぞれの屋外アンテナ、いわゆる３局あるところ、例えば針生ですと３局ございますが、それぞれのすべてから放送できるということになると、その針生の集会施設からする放送自体が親局と同じような意味を持つということから不適切というような指摘を受けましたので、当初の設計の段階から集会施設から放送するものにつきましては、近接するいわゆる屋外拡声子局からのみ放送できるというような設計となっております。

○渡部康吉議長　１番、湯田哲君。

○１番　湯田　哲議員　いいですか、これもそうなんです。僕はこの中で、この事業の機能するものの目的は何か。地区ごとだったら針生なら針生で放送したほうがいいでしょう。例えばことしのお盆でした。16日は大雨でした。世話人のほうに言われて、どうやったら連絡つくのか、あしたにしたい、17日にしたい。じゃ防災無線があるからと役場職員が住民課に電話したら、役場職員の彼が来て、操作を教えてくれました。それで管理棟の前の事務所のふたを上げてやりました。結局１本からだったんです。

この趣旨の一番の趣旨は全体が一斉だった、まず一つ。地区ごと、滝原なら滝原、栗生沢なら栗生沢、長野なら長野エリア、そこだけでもできなかったら、情報の伝達としては、もちろん私ども求めますよね。まさか１本のマストから出て残りの２本から音が出ませんから、その人たちはごめんなさいで済むんでしょうか。これほど６億円も使って金を使っているシステムが、それが今課長の答弁の中で、おもしろいと言ったらおかしいけれども、それは親機としての役目でこちらと何かするから、何かおかしい、それはそぐわないからという答弁をしていましたけれども、それは違うんですね。そこでできるならそれは望むことですね。多分何かそれは勘違いしている部分を僕は読んでいると思いますけれども。

繰り返しますけれども、この６月議会で僕がこの防災無線にしたときに、効果、期待、役割はといったところに対して、集落内の各連絡などに利用することもできますと、こううたって

います。その部分で言うならば、やはり各集落内への連絡は１本のマストから音が出ますというふうに答弁すべきだったんですよね。それが各集落、そのエリアごと、その小さな町政の中で言っているわけだから、それはどうなんですか、それは違っているんじゃないんですか。

○渡部康吉議長　住民生活課長。

○長沼芳樹住民生活課長　お答えいたします。

確かに、各集会施設からの放送については隣接する屋外拡声子局１局のみでございますが、役場、親局からの放送につきましては、それぞれの地区を指定しまして、地区に存在する屋外拡声子局のすべて、それからそれぞれの集落の各戸の個別受信機にもピンポイントで放送ができることになっておりますので、そういう際にはぜひ役場の施設のほうに申し込みをして、ご利用していただきたいということでございます。

○渡部康吉議長　１番、湯田哲君。

○１番　湯田　哲議員　その機能はあるのはわかりました。ところが、日曜日とか夏休みとかある。だけれどもそういう状態においてもその施設のシステム、本庁かな、そこから出せるシステムをぜひ、人員的に張りつけるか、宿直の人がその役割をするかもしれませんけれども、ぜひそういう緊急時においてもあるエリアでできるようにぜひしてほしい。

本当は、その地区で今起きたことを今伝えるのが理想だし、そのためのうたい文句だったわけです。区長がそこに行って箱を上げてやるというのが、理想だったし、僕も思っていたし、みんな思っていたと思うんですよ、地区民は。いや便利になるよね、それでみんなにできるなら。ただ、個別受信機がありますので、さらにいいんだったら、そこのエリアだけで、そうなると本庁になるのはこれはもちろんわかるんですけれども、ですからぜひその体制づくりを本庁に人がいなくて休日でだめですから連絡ができないじゃなくて、その体制を必ず、その地区で古町まで、ここから本庁からできるわけだから、その体制だけはつくってほしいです。

つまり、今先ほど言った初めの目的、その地区ごとのエリアの小エリアで子機に入るような体制づくりはぜひしてほしいですが、その辺どうでしょうか。

○渡部康吉議長　住民生活課長。

○長沼芳樹住民生活課長　お答えいたします。

基本的にはいわゆる平日までに連絡していただければ、休みの日でも職員が出勤をして、当然放送はさせていただきます。最後までお聞きいただければと思います。

それで、緊急の際ですが、これについては当然我々職員も緊急の場合には出動することが、職員のマニュアル上も想定されておりますので、その際には当然休みといえども職員は緊急時

出動してその体制をとりたいと思います。

その打ち合わせについても、企画観光課主体になりますが、そちらとの打ち合わせも済んでおります。

○渡部康吉議長　１番、湯田哲君。

○１番　湯田　哲議員　本当に難しいことだと思います。できるかどうかというのは、人を張りつけるか、宿直の方がやるかというのは難しいと思いますが、ぜひきめの細かい行政サービス、情報伝達をするというふうに６月議会ではうたっているわけですから、もっと今、きのうも放送がありましたね。そういう意味では本当に住民の人から、いやどこが火事だかわかってすごくいいよ、何か安心していられるとかね、どこが火事だっていつも言われるんだけれども、そういう意味ではすぐどこどこが火災だからといって、針生地区の人で町が火災なら、変な話ですけれども、じゃこの地区は安心なんだなって、安心っておかしいけれども、そこまで、近い人だったら親戚に電話したりしている。そういう意味ではすごい役に立っている防災無線なので、もっとさらに充実した利用をぜひお願いしたいと思います。

今の意味では、本当に各地区の分がすごく残念ですけれども、それは想定していなかったというのが、ちょっと僕はわかりません、わからないというか、多分予算的にまた上がっていくんだと思うので、それはできないと思います。

では、この全体の部分のこの部分について、町長の部分を最後に一つ聞きたいです。先ほど予算とこの部分で、１円たりともという言葉を聞きましたけれども、この中でぜひいろいろ進める上で、行政の中でいろいろ計画を立てて進めます。そのときにぜひ町民のブレーンというか、いっぱいその専門家とか、そういう人がいると思います。

町長、よく言っていると思うんですよ、そういう人たちがいればそういう人たちの力をかりていろいろ進めていくというのは町長の姿勢ですから、ぜひそういう意味では、ぜひその中で単独で計画を立てないで、一回町に振って、こんな計画があるけれども一回集まってそれについて話そうか、そういう機会をぜひ設けてほしいんですが、その辺について町長の考えを伺いたい。最後に伺います。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

議員おただしのように、私の町政の重要な姿勢としては、できるだけ現場の声を聞く、そしてまた町内に内在するさまざまな資源を活用をしていく、その資源の中には当然人材というものもございます。

この方法としては、一般的には町長が勝手に選んだと、こうならないために公募をしていく、これがまず最初の第１段階。それでもなかなか声がかからない、あるいは手が挙がらないということになれば、今度は今まで私たちといろいろな意味で協議検討してきた中から、ご指名をしていただくという形になるんだろうと思います。

いずれにいたしましても、情報については議会のほうからもしっかりと公表しなさいと、こう言われておりますので、これらについては早目に情報公開をして、そして広く人材の登用をしていきたい。その中で先ほど申し上げたように、財源上かなり厳しい状況にありますから、これについてはみずからのお金であるという認識の中で節約、節減に努めていきたい、こう思っておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　１番、湯田哲君。

○１番　湯田　哲議員　ぜひその姿勢でこの先進めていってほしいと思います。よろしくお願いします。終わります。

○渡部康吉議長　以上で、１番、湯田哲君の一般質問を終わります。

――――――――――――――――――――――――――― ◇ ―――――――――――――――――――――――――――

◇　渡　部　俊　夫　議員

○渡部康吉議長　次に、２番、渡部俊夫君の登壇を許します。

２番、渡部俊夫君。

○２番　渡部俊夫議員　２番、渡部俊夫であります。通告に従い一般質問をいたします。

まず、第１のテーマですが、公の、つまり公教育の新たなあり方のモデル事業として、学習塾など学校以外での学習の場が少ない過疎、中山間地域において、生徒の学習意欲と教員の指導力の向上を図るため、全国で初めて民間教育事業者との提携により、インターネットを使ったｅラーニングを中心とする学力向上施策に我が町は取り組んできました。

福島県内で唯一、南会津郡内６つの中学校だけが指定校となったこの学習サポート事業なわけですが、ホームページその他の公開された文書を目にする限り、この事業を実践した結果大変よかった、よかったというふうに記載をされております。そこで、我が町の教育行政の一部、とりわけ学習サポート事業を中心にお伺いいたします。

①学習サポート事業とはどのような内容であったのか。

②およそ３年間で6,000万円近くをかけた学習サポート事業が間もなく期間が終わるわけで

すが、とりわけ生徒、先生方の受けとめ方はどうであったのか。かつ成果と反省は何か。

③それらの総括の上に立って、今後の教育行政をどのように進めるのか、ご所見を賜りたいと思います。

④今ほど一番議員の質問と答弁で今までの経緯については多少理解したわけですが、切り口を変えて、針生小学校と檜沢小学校が仮に統合に踏み切るとした場合、針生小の跡地利用の課題や、統合するに当たって檜沢小と針生小のそれぞれの保護者の受けとめ方、統合した後の児童に及ぼす通学やその他の影響について、どのように考えているか、お伺いいたします。

第２のテーマ、ファミリーサポート事業の件であります。

町は平成21年度の重点施策の一つとして、子育て支援に関する施策、安心して子どもを産み育てることができるまちづくりを掲げました。「子育てをするなら南会津町」の環境の整え、年少人口の増加を目指します。特に多様化する保育ニーズに対応するため、地域子育て支援センターを核とした子育て相談や、情報交換など充実した保育サービスの展開を図りますとうたっております。

今日の少子化の状況を見たとき、まさに子育て支援は今後継続的に我が町の重点施策として取り組まなければならないことに異存はありません。子育て支援といってもいろいろな取り組みや事業がありますが、今まで町とはかかわりなく自主的な組織で行ってきたファミリーサポートの取り組みを今後は町直接の事業にするという予定をお聞きいたしました。

そこで数点お伺いいたします。

①舘岩地域の総合支援センターの中に事務局を置いて、町の事業として取り組んでいく。そのときにコーディネートできる体制をどうつくっていくのか。臨時職員を雇用して体制を維持するのか、あるいはまた健康福祉課と総合支援センターとの関係、企画立案、会計処理等はどこで行うのか、健康福祉課なのか総合支援センターなのか。役割を一体的に担う所管はどこなのか、明確にお示しを願いたい。

②ファミリーサポート事業におけるスタッフ及びサポート会員の確保をどう図るのか。さらには若いお母さん方でこの事業を知らないでお困りの方が相当数いるのではないか。今後どのようにＰＲをしていくのか、お聞きしたいと思います。

③今まで自主サークルの中で一緒に取り組んできた只見町の会員さんの利用に関して、今までとどのように違いが生じてくるのか。南会津町だけに限られたエリア内のみでの利用になるのか。少なくても只見町で自立できるまでは只見町の利用者であっても、今まで同様同一料金で南会津町のサポート会員を利用できるように継続すべきと私は思いますが、いかがでしょう

か。

④会員の研修については、県内の中でもトップクラスの充実した研修を行ってきました。研修についても積極的な募集と参加体制のバックアップが求められていると思いますが、いかがなものか。

以上で、登壇しての質問を終わります。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　２番、渡部俊夫議員のご質問にお答えをいたします。

初めに、ファミリーサポート事業に関する１点目、これからのファミリーサポート事業の展開についてのおただしがございましたが、ファミリーサポート事業は保育施設等では対応できない場合の預かり保育や送迎、さらには学校行事や講習会時における任意の保育サービスを南会津ファミリーサポートクラブが行っております。

利用者は平成19年度実績で延べ496人となっており、子育て支援の重要な役割を担っておりますが、事業にかかわる役員の負担が大きいなど、任意団体では限界があり、継続が困難になっているのも現状でございます。このため、新年度からは総合支援センター舘岩に、子育て支援を担当する職員を配置し、事業の展開をしてまいりたい、このように考えているところであります。

また、健康福祉課は子育て支援の総合窓口として、総合支援センター子育て部門との連携を密にし、当該事業のサポートを行ってまいります。

次に、２点目、ファミリーサポート事業におけるスタッフ及び提供会員の確保と地域の中にどのように事業のＰＲを展開するのかというおただしがございました。現在、舘岩で活動している子育て応援隊にファミリーサポートクラブ会員が移行し、連携を密にして新たな会員の確保を図っていく予定でございます。

また、事業のＰＲにつきましては、町の広報紙のほか、子育てプラザで立ち上げましたブログや集いの広場通信を活用してＰＲに努めてまいりたい、このように考えております。

次に、３点目、只見町の会員の利用に関してのおただしもございました。この事業は、南会津町の直営事業となりますので、町民の方々の利用を予定しているところでありますが、なお現在南会津ファミリーサポートクラブに只見町の会員20名が登録しております。同事業の只見町での実施について、只見町担当課と協議中と、このように聞いておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

次に４点目、会員研修の積極的な募集と参加体制のバックアップが求められていると思うが

どうかと、このようなおただしもございました。事業継続のためには人材の発掘と育成が重要であります。これまでも講習会開催の支援を行っておりますので、引き続き積極的に支援をしてまいりたい、このように考えておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

以上、町長に求められました答弁とさせていただきましたが、具体的事項につきましては担当課長等に答弁させますのでご了承をお願いしたいと思います。

○渡部康吉議長　教育長。

○横山恒廣教育長　私からは教育行政全般についてに関するお答えをいたします。

初めに、１点目、学習サポート事業の内容についてのおただしでありますが、この事業は平成18年度から20年度までの３年間、県教育委員会が事業主体となり、過疎、中山間地域における生徒の学力向上を図るため、南会津町内の５中学校と桧枝岐中学校の合計６校をモデル校として実施しているものであります。

事業は、民間の通信教育事業者であるベネッセコーポレーションに委託をし、インターネットを利用して複数の学校をつないで行うライブ授業や、学習教材を利用した通信教育、学校対抗の計算力コンテスト、さらには６校の生徒が集まっての全体勉強会などを行っております。

また、実施する内容によっては、構成する６校だけではなく、田島中学校や郡内の学校に広く参加を呼びかけて実施をしております。

次に、２点目、学習サポート事業の関係者の受けとめ方及び成果と反省についてのおただしでありますが、県教育委員会のこれまでのまとめによりますと、学習意欲が高まった、家庭学習時間が増加した、成績が向上した、教員も指導効果を実感している、保護者の期待も高まる、６校が１つにつながったなどの成果が上げられております。

次に、３点目、次年度以降の事業の内容と今後の教育行政の進め方についてのおただしでありますが、これまで事業を実施した中で築かれた学校の連携と経験を生かしながら、どのような内容で継続が可能であるかを学校と協議をしながら、検討を進めておるところでございます。

なお、本町は小規模校が多い現状でありますので、今後も学校間で連携を図りながら、お互いによい刺激を与えられるような施策を進めていく考えでおりますので、ご理解をお願いします。

次に、４点目の檜沢小学校と針生小学校の統合にかかわる問題点や保護者の受けとめ方、児童に及ぼす影響をどのように考えているかとのおただしでありますが、統合にかかわる問題点としましては、これまで学校を中心とした地域内の交流や、一体感、さらには遠距離通学の問題等がありますが、統合に当たってはまず子供の教育環境をどう整備していくべきかを最優先

に考えるべきであると考えています。

次に、統合に係る保護者の受けとめ方についてでありますが、針生地区の懇談会におきましては、１番議員にお答えしたとおりでありますので、ご理解をお願いいたします。

また、桧沢地区の保護者懇談会では好意的に受けとめていただいたものと認識しております。

次に、統合に係る児童に及ぼす影響につきましては、統合後におけるスクールバスによる通学や、新たな人間関係づくり、学習環境の変化に対応することが求められますので、児童が戸惑うことのないようにきめ細かな指導が必要であると考えておりますので、ご理解をお願いいたします。

以上、具体的事項につきましては、担当課長より答弁させますので、よろしくお願いいたします。

○渡部康吉議長　２番、渡部俊夫君。

○２番　渡部俊夫議員　今ほど教育長から、学習サポート事業とはどういう内容だったのかということで説明があったわけでありますが、平たく言ってしまえば、南会津地域というのは、もうそもそもほかの地域に比較して少人数集団であって、場合によっては保育所から幼稚園まで、幼稚園からずっと同じ構成で来る中で、非常に地域柄から言っても穏やかな性格の生徒が多くて、よい意味で競争意識が身についておらず、そのために学習意欲も乏しい、あるいは、文化的な施設も少なくて、学習塾もない。学習環境が都市部に比較して整っていない、そんないわば背景を持って南会津がこの事業を取り入れたといいますか、指定されたというふうにざっくばらんに理解してよろしいですかね、これは。

○渡部康吉議長　教育長。

○横山恒廣教育長　おおむねそのような感じでございますが、ただ、若干つけ加えたいのは、過疎地域だから学力が低いという、そういった直接的なことではございません。過疎地域であってもやはり学力の高い子もいるし、低い子もそれぞれいるわけでございまして、過疎地域のために低いというようなことではなくて、その中にありました学習塾やそういったものが少ない、全然ないわけではございませんので少ない。それで刺激があっていく、あるいは先ほどからあった同じメンバー構成でずっと来ておりますので、多くがですね。それで競争心といいますか、切磋琢磨が少ないというようなことでやっているわけで、それぞれが全然ないというようなことではないので、誤解していただかないように。おおむねそういうことでございます。

以上でございます。ご理解をお願いします。

○渡部康吉議長　２番、渡部俊夫君。

○２番　渡部俊夫議員　多分、私は学力が低いとは多分言わなかったと思うんですが、学習意欲が低いというか乏しいというか、そういった環境の中にいるということで多分言ったと思いますので、もしも私が学力が低いということでもしも言ったのであれば、そこはちょっと訂正方お願いをしたいと思います。それは言わなかったつもりでありますが。

それで、おおよそ6,000万円近くをかけた学習サポート事業が間もなく終わるんですが、先ほど生徒、先生方の受けとめ方ですね。これは県のまとめによるとということでいろいろ述べられましたけれども、実際に教育委員会にはどうなんですか、その生徒の感想だとか、あるいは実際に携わった先生方の感想とか、そういう声は届いていないんですか。届いていたらば教えてください。

○渡部康吉議長　教育長。

○横山恒廣教育長　お答えいたします。

私たちのところにも届いております。というのは、県のまとめと同じように先生方も非常に意欲的と言いますか、効果があったと。それからあと生徒たちもやはり家庭学習の時間がふえた、さらには保護者の方の、やはりやってよかったというような声は届いております。

以上です。

○渡部康吉議長　２番、渡部俊夫君。

○２番　渡部俊夫議員　確かにこれだけの金額をかけてやはり事業をするとなると、やっぱり県のまとめにしても、あるいは教育委員会に届く声についても、もうあらかた予想がつくのかなというふうに思います。それはそれでいいと思いますけれども、やっぱり生徒のアンケートからすれば、確かに今教育長さんが言われるように、家庭学習の時間はふえたか、学習意欲は高まったですか、ライブ事業して楽しかったですか、ドリルのチャレンジは役に立ったですか、いろいろアンケートをしたと思うんですね。大方そう思う、あるいは大体そう思うということがもう50％以上超えているわけですね。

だから、そういう意味では家庭学習時間も30分ないし１時間ふえているということでは、いい結果には出ているかなというふうに思うんですが、そこだけで見てしまうと、やはり木を見て森を見ないと言うんでしたっけ、そういうことでやっぱり余りいい結果をアンケートに答えていない生徒は文章記述で求めているんですね。その結果、やっぱりつまらなかったとかついていけないとか、やる気がしないとか、ノートに書く学習のほうがいいとか、説明が早過ぎるとか、パソコンではどうもわかりづらいというような、あるいは時間の無駄も多かったというような記述も生徒のアンケートの中に出ているんですね。

あるいは、コンピュータの授業はやっぱりつまらないので、直接先生から教えてもらったほうがわかりやすいと、どうも自分の弱さに負けてしまって課題がたまっていくと、難しくてついていけないという回答もあったんですね。

やはりこの辺も、きちんとやっぱりある面では受けとめるということも必要かなと。一方的に見るんじゃなくて、やはり複眼的にきちんと評価をするということがないと、問題だなというふうに私は思っているんです。

私も実際に先生方の生の声を集めました。参考までに言いますね。

ある中学の男性教師は、ドリルはいい教材であったと思う。生徒の家庭学習の習慣が身についた。毎朝生徒に与えたページをきちんとやってきたかのチェックは行った。生徒もいい意味での競争心が出てきて学習意欲がわいてきた。ライブ授業というのはふだんできない授業なので参考になったと。問題はこれが終わった後、家庭学習の習慣を継続できるかどうかが課題なんだなというようなことを言っていました。

また、ある先生は、最初の１年間ベネッセとのライブ中継は戸惑いもあったけれども、２年目からはなれてきたのでスムーズにいくようになった。ただライブ学習は一人一人の表情がわかりにくいのでどこまで理解が進んでいるのか推しはかれないという難点はあった。これで特別家庭学習がふえたということではないけれども、おおむねサポート事業はよかったんではないかという声も直接私は聞いております。

そういう意味では総じてよかった点も、これは確かにあるなというふうには感じていますが、ある女性教師にお聞きしたらば、実は表立っては言えないんだけれども、先生方のほとんどが本音のところでは学習サポート事業はさほど意味のあるものだったとは言えないよと、そんなお金があったらもっと別な生かし方があったんじゃないですか。でもよかった点もあるでしょう、私しゃべったんですよ。よかったと言える点は、あの御蔵入交流館でやった全体学習会はほかの学校の様子もわかっていい刺激になったようだと、これぐらいかなと。何か業者のもうけのためにやったような感じもするんです。こういうふうに同じ時間をかけるのならば、生の先生が行う授業のほうがはるかにいいと、役に立つと。

この間も、ある教科のライブ授業で体験したことなんですが、只見中学校だったかな、実はやったんですね。音声が途切れ途切れになってしまって、いろいろこれを操作して回復するのに１時間ぐらいかかってしまったんですよ。結局次の体育の時間をつぶしてまで続行してやったと。それでこのモニターに部活の友達なんかが出てくると、イエイイエイなんて声をかけてやって、最初はおもしろいかもしれないけれども、実際にここに費やす先生の膨大なエネルギ

ーを考えると、大きな声では言えないけれども、こんなところに時間を費やしていいのかな、もっとやるべきことがあるんじゃないかな、こんな感想も出されているんです。

教育長、こういう声なき声、陰の声もあるということを聞いてどう思いますか。余りいいことばっかり言わないで。

○渡部康吉議長　教育長。

○横山恒廣教育長　お答えいたします。

それぞれ生徒も保護者もそれから学校の先生方も受けとめ方はいろいろあると思います。あるのが普通だと思います。ですから、それをすべて、それぞれの言葉をやはりよく私たちが受けとめながらやっていかなければならない、あるいは反省するところは反省していかなければならないというふうに思います。

それで、声なき声ということ、実際いろいろなこれだけのお金をかけてもらっているわけですから、やはり効果が全然ないということはないと思いますが、その裏のほうでは今言われたような部分もないとは言えないと思います、はっきり言って。でもそれは、その人の受けとめ方ということ。今女の先生のことを言われたけれども、それはその先生の受けとめ方であって、必ずしもそれが全体ではないだろうと、私は信じております。

そんなことで、ご理解をお願いしたいというふうに思います。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　私から、実はコンピューターを町の財源を使って購入した経緯もありますので、関連してご答弁をさせていただきたいと思いますが、何でもそうなんでしょうけれども、いわゆるコンピューターに非常に詳しい人、それからコンピューターがなかなかなじめないといいますか違和感がある人、先生方にもこういう方がおりますし、子供たちもそうです。家の中で自由にこなしている人、そうでない人。

ですから、ここは議員がおただしのように、必ずしもこういう方法がいいかどうかというのは、やはりもう一度検証してみる必要がある。ただ、検証の仕方として、悪く今いろいろとご批判がありましたが、それも一つは木を見て森を見ずということになりますので、そこのなぜそういう答えになったのか、つまり新しいことを一切受け入れないということであるのか、それとも新しいことを自分たちが提言をしながら、選択肢を用意しながらいろいろと改善要求をしてくるのか、ここのところはとてもやっぱり大事だと思うんですね、先生方の。

それからもう一つは、子供たちがどういうふうに成長してほしいかだと思います。ベネッセだろうが学習サポートだろうが、これまでのいわゆる文科省の指導要綱に基づく指導だろうが、

要は子供たちが今、中学校、高校、あるいは専門学校、大学、あるいは就職をする、いろいろな選択肢があります。その中で自分が夢を描いて、あるいは自分が目標を持って進めるそのステージがなくなってきているんです。これが一つ大きな問題。

そのときに、そこにぶつかったときにすぐに逃げ出してしまうような子供たちではいけない。ですから、私は難しいかもしれない、あるいは困難なところがあるかもしれない、いろいろと。その困難に立ち向かっていくそういう姿勢を中学校のときにつくり上げたい。それが先ほど、これからファミリーサポートの話があるんでしょうけれども、それは中学生になってからだけではできない。

したがいまして、その以前からそういう子供の資質を伸ばしてあげるための一連の教育の一環として、この学習サポートが実験的に行う、しかも6,000万円というのは、３年間で１年間2,000万円、これは県の全額補助、こういうことでやってきました。しかし、これはあくまでも３年間ということですから、学校側あるいは生徒側、あるいは保護者側のそれぞれの問題点、課題点を抽出してこの後どうするか、こういうステージだろうというふうに理解しております。その上で今後教育委員会を中心に検証、検討をしていきたいと、こう思っておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　２番、渡部俊夫君。

○２番　渡部俊夫議員　今町長からお話のあったように、いろいろな見方、考え方があります。ですから、私自身もすべて悪かったなというふうにはもちろん言っていないわけで、やっぱり陰の声もきちんと受けとめながら、今後の事業なりに生かしていくというのが肝要だろうというふうに思うんですね。

今、町長からコンピューターのお話がちょっと出ましたから、私も体験上お話しさせていただきますと、実は南会津高校、当時はマルチメディア教育といって、南会津高校と須賀川のある学校をライブで結んだんですね。それのサーバーを組み立てたり、あそこに二十何台、私も全部セットアップしてやった経過があるんですね。

そして最初は珍しくてね、喜んでやっていたんですが、だんだんやっぱり飽きがきたり、マンネリ化して、そのうち余り使われなくなってしまったんですね。私どもの会社は毎年定期点検を請け負っていますから、行くたびに、ああこれはほこりになっていて、実際税金が無駄だな、でも我が社はお金が定期的に入ってくるから、それはそれで構いはしないけれどもなと思いながらやった経緯があって、パソコン教室も実際に拝見、研修もやってきました。やっぱり当時の50インチの大きなモニターはまるっきりほこりになっていました、倉庫のほうに。そ

ういうふうに、やっぱり一つ一つ考えると難しいものだなというようなことを感じてきたわけですが、あわせて、せっかく行ったついでで先生方ともお話ししてきたんですが、実は南会津高校は今年度大学の教授を３回ほどお呼びして、いろいろ講話を受けたそうです。その中で、やっぱり結論は、やはり田舎だから地域だから競争がないというんじゃなくて、競争なんかよりもやっぱりどう生徒が自分みずから学習をするんだという意欲を身につけさせるか、そこがポイントなんでないかと。

ノーベル学者もやっぱり競争ではだめだと。やはり自分の関心を持つテーマ、あるいは仲間同士で友達同士でやっぱり助け合って気づきあって、そして学習に目覚めていくという過程が、プロセスが大事なんじゃないかというようなことを大学教授からも言われましたという話をされてきたわけです。

そこで、教育長さんにもう一度質問したいんですが、情操教育ですね、南会津は学校規模が小さいので美術、音楽、家庭科などの技能教科、とりわけ情操教育が非常に少ないのかなと思っています。田島中学校なんかでも多分専門の教師が、美術を例にとれば田島中学校には教師がいるんですかね。下郷中には多分常勤講師、あとそれ以外の学校はほとんど非常勤が２つの学校をかけもちでやっているという状況ですね。それも非常に時間給ですから低賃金で勤務していると。

子供たちと情操教育を通じていい関係がつくられて初めて、例えば図画でも工作でもいい作品ができてくるんじゃないかと思うんですね。そういう意味では豊かな情操教育と言っている割には、やはり国、数、英だけに力を注がれた今の教育方針、こういうことで、本当に子供たちが大人になった場合に、長い目で見た場合に、どうなるのかなという一抹の不安を感じるんですけれども、そこはどうでしょうかね、情操教育という観点から言った場合に今の現状等、教育長のお考えをお聞かせ願えればと思うんです。

○渡部康吉議長　教育長。

○横山恒廣教育長　お答えいたします。

ただいま、情操教育についてどのように考えるかということでございますが、情操教育はまず学校のあるところ、自然から学校を取り巻く環境、人的環境、あるいは物的環境、すべてのものが情操教育の大きな一つのためになるものであります。そしてなお、学校における情操教育といいますれば、今言われたように美術とか芸能科と言われる音楽とかそういったものが上がるわけでございますが、この教科における指導者の問題だろうと思うんですが、これは国の定数法というのがございまして、それで１学年何学級の学校には、これだけの人しか先生は配

置できないということで、どうしても国、算、数、英とかそういったものに対しては、なかなかかけ持ちというわけにはいかないんです。つまり時数の関係がございます。

美術とか技術とか音楽とかというのは、１週間に１時間とか３時間とかそれしかないわけで、例えばそういう人を１人雇うと数学の先生を１人雇えない、中学校の場合ですと。そういったようなことが出てくるわけです。そういったことで、県でもいろいろ考えているんですが、重々大切だということは考えていますし、私たち町の教育を担当する者としてもそれは大事なことを十分承知しております。そこで、そんなことでかけ持ちの先生が出てくるということであります。

今後、ではどういうように考えるかということでございますが、今後はいろいろ地域にいらっしゃる美術、芸術家の方とかそういった人たちにできれば手伝っていただいて、全校の写生会とかそういったときに、そういった人たちにご指導を仰ぐとか、そういったような方向を今後進めていければなというようなことは考えております。ご理解ください。

以上です。

○渡部康吉議長　２番、渡部俊夫君。

○２番　渡部俊夫議員　何となく納得いかない部分もあるわけですが、やはり10年前、20年前と比較すると、文化祭で図画張られますね。やっぱり何となく絵のレベルがどうなのかなというところをやっぱり私感じています、毎年文化祭に行って。やはりこれからそういった情操教育のほうにも、具体的に時間がとれなくても目配りをしていくという視点もあわせて持つ必要があるのかなと思います。

それで、この間おはようモーニングで、ニュースでやっていました。国際学力調査で38万人を抽出して、日本からは小学４年生と中学２年生の合計8,800人参加したそうです。それで中学２年の統計で、学んだことを生活に結びつける指導ができているかという検証で、日本は何番目ぐらいだったと思いますか。これは48カ国中最下位ですよ。ニュースでやっていましたけれどもね。

例えば数学の問題。例えば縦３センチ、横７センチ、これの周りの面積は何センチですかという問題が出たんですね。正解です、日本の子供、中学生、わずか33％。何てやったかというと21センチとやってしまったわけ。３掛ける７、面積だなこれは。ということは単に、それで国際平均は54％。日本は33％。単なる思い違いとかうっかりミスとか勘違いで済ますことができますか、問題はここですね。絶えず似たようなドリルばかりこなしていると、習慣づけなれもあって、もうインスピレーションでぱんと21センチだということになってしまうんですね。

ドリルなり詰め込んだ知識ははがれやすい。まさに日本の今の教育の勉強の仕方の研究ではないかというふうに私気がつきまして、朝のモーニングでもそのことは言っていましたけれどもね。

そういう意味では、これからこのサポート事業が終わる。それこそ保護者にすれば年間６万円の援助金もなくなるというところで、今後の方針を語ると時間もありませんから、そうですね、これから南会津のような地域、僻地の教育に情熱を燃やす先生をやはり一人でも多く呼び込んでほしいというふうに思うんです。

僻地派遣制度があって、３年間だけ南会津の地で我慢すれば、何らかの形で戻れるという、そういう中でも一生懸命やっている先生もいますよ。でもきちんとやっぱり南会津のこの僻地教育に力を注ぐという情熱を持った先生をお呼びする、これはやっぱり金はなくてもできる方針だと思うんですね。そういう意味ではどうなんでしょうね、その辺は可能なんですかね。それとも教育事務所の管轄になってしまうんですかね。教育委員会でできるんですかね、それは。ちょっと。

○渡部康吉議長　教育長。

○横山恒廣教育長　お答えいたします。

ただいま３年間、派遣の先生は３年間でいれば何らかで帰っていくというようなことをおっしゃいましたが、それは非常に間違った考えでありますので、訂正してほしいなというふうに思います。現在は３年間おっても何らかの形では帰れません。ことしなどは３年間いてもらって一生懸命学校の中心になってやってもらったけれども、自分で勉強できなくて、いわゆる教頭なら教頭になれないでいる人が何人もおります。

ですから、今までとは違いまして、そういう状況でありますので、何らかの形というのはございませんので、そこをご訂正をお願いしたいというふうに思います。

そして、南会津郡の場合には、ご存じのように自分たちの地域でいらっしゃる先生方、地元の先生方が非常に少のうございます。そのためにほかから来ていただく先生方がいらっしゃらないと、南会津の教育は今のところなり立たない。そこで今、教育委員会なんか私たちは南会津の人が南会津へ戻ってきて、南会津の教育をできるような方向を探りながらやっているところであります。

ですから、今現在来ていただいている先生方に対して大変失礼でございますので、そういった今みたいな表現はやめていただきたいというふうに思うものであります。ご理解ください。

以上です。

○渡部康吉議長　２番、渡部俊夫君。

○２番　渡部俊夫議員　派遣制度の理解、認識が私間違っていたとすれば、これは訂正をさせていただきます。決してそういうことで来ている先生がすべてというふうには先ほども申しませんでしたので、ご理解をいただきたいと思います。

それでは、第２のテーマに移りたいと思うんですが、舘岩総合支援センターの中に、このプラザの事務局を置くということなんですが、実際にこれは総合支援センターの本来持っている役割と、あとは事務所を置くということについて誤解を招くおそれはないかということで、私危惧しているんですが、その辺どうですかね。言っていることわかりますか。ではお願いします。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

誤解を招くか招かないかということは、総合支援センターの総合的な役割、地域の貢献度を認知するかどうかで決まります。ですから、先ほど木を見て森を見ずという話がありましたけれども、議員ももう少し森を見ての視点から総合支援センターをひとつご観察いただきたいと思います。

○渡部康吉議長　２番、渡部俊夫君。

○２番　渡部俊夫議員　要は、総合支援センター本来の業務、いわゆる文化もあるだろう、スポーツもあるだろう、その他町民の困り事いろいろ含めてサポートしていく、あるいは登録された個々の団体をつないで、勉強をしていくとかいろいろな形があるかと思うんですが、そういう意味では総合支援センター本来の業務というものがある中で、今度は子育て支援を町直営で総合支援センターの中でやった場合に、これが総合支援センターの本来業務の一部なのかという誤解が生じはしないかなというふうに思ったわけなんですよ。

だから、端的に言えば、どこかの大きな町のように役場庁舎の中に子育て支援課あるいは係があって、そこで課長、係長がいてスタッフがいて、その場所で業務を行うということであれば、非常にああこれは町単独で、直営でやっているんだなということがわかりやすいんですけれども、今回の場合は舘岩総合支援センターということで、これは本当に舘岩総合支援センターの本来業務の一部なの、あれ総合支援センターって別に大きな役割があるんじゃなかったけかというように思う、勘違いというか、誤解を招くおそれがあるものですから、そこはそれであそこのスペースを使ってやるということについて、私ども別に反対しているわけではございませんが、要はどこから見てもわかりやすいシンプルな、やっぱり事業の取り組みにしてほし

いというのが私の願いなんですね。そこはどのようにお思いですかね。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

町民が例えば自分たちが抱える課題を相談しに行くときに、役場であろうが総合支援センターであろうが、あるいは別な団体であろうが、しっかりとその課題にこたえてあげられるかどうかが問題なんですよ。それで、今総合支援センターというのはある意味では町直営の形でしょう。ですから、そこに例えば町がそのポストを置いて、子供の支援をしても何ら問題はないし違和感はない。余り考え過ぎるとなかなか道が狭くなってしまうんですね。

ですから、総合支援センターは一定の大きなビジョンはあります。しかしその地域が抱えるその地域に発生する問題をきちっときめ細やかに対応していきましょうというのが本来のねらいですから。たまたまここはファミリーサポートクラブが舘岩が非常に中心になって、舘岩の人たちが事務局になってやってきたので、それでは舘岩の総合支援センターでその業務を担っていただきましょうと、こういうことですので、私は普通一般的な考え方だと、そんなに難しい問題ではないと、こう思っております。

○渡部康吉議長　２番、渡部俊夫君。

○２番　渡部俊夫議員　町長はそうお思いになって、そしてなおかつ問題ないということであるならば、それにこしたことはないわけでありますが。ＰＲについても先ほど答弁があった内容でよろしいかと思うんですが、私も坂下町のファミサポを実情調査に行ってきまして、ここでも町の事業としてやっているんですけれども、４カ月健診、これは毎月やるもんですから、４カ月健診だとかあるいは保育所の入所式あるいは卒園式、機会あるごとに連携し合って宣伝しているというようなことも聞いてきましたので、ぜひその辺も参考になされてはどうなのかなというふうに思います。

それから、先週只見町との担当者とも打ち合わせしたんですが、只見町ではことし10月から朝日地区で放課後子ども教室が試験的に始まったばかりで、現状只見町で独自でこのファミリーサポートを立ち上げるだけのスタッフの体制があるいはないと、そういうことで先週11日ですか、会員さんが15名集まって只見のファミサポを存続する会というような会をこれから立ち上げるんだったかと思うんですが、そして今晩夜、只見町の保健福祉課長と話し合いを持ってきているんですが、やっぱり我が町としては只見町から要請があれば、何らかの要請があれば前向きに検討するということも必要じゃないかなというふうに思っています。

1つの案ですけれども、現在は会員登録料2,000円、会員登録するだけで2,000円、年会費

1,200円徴収しています。この制度はやはり堅持して、町外の方には多少なりとも、例えば登録料を200円ぐらい上積みして、2,200円にして、あとは南会津町の会員と同じようにファミサポなり広場を利用できるようにするとかという検討の余地は十分にあると思いますが、どうでしょうかね。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

まず、健康診断時あるいは保育所の件でありますが、これは全く議員がおっしゃるとおりなんですね。子育てイコールやっぱり教育に連結しています。したがいまして、私の考え方としては、これは予算的な措置もありますので、当然これから議会の議員の皆さん方に説明をし、同意をいただくというプロセスが必要だと思いますけれども、いわゆる保育所に預ける間、ここの間の重要な部分が欠落しているんですよ。これは一軒一軒の家庭に任せています。ここの部分をどうサポートしていくかということが子育てに最も重要だと思うんですね。

それをではやればいいかというとそうではなくて、ではそれが終わった後、保育所とどうつなげるか場合によったら図書館事業とつなげながら、そしてまた先ほどちょっと話に出ていましたけれども、学校とも十分な連携を図っていくということが必要な一つだと思います。全く同感でございます。

それから、只見町の件ですが、これらについてもむげにはい終わりですよと、こういうことにはなかなかできないだろうと思う。ただしかし、これも議会の皆さんの同意を得ないことにはどうにもなりません。その経費負担の問題も、これは広域でやっている問題もあるわけですから、そういう事例を見ながらやはり当分の間お互いに経費負担も多少協議検討しながら、その只見のほうと一緒に歩調を合わせてやるという選択肢は、私はあるんだろうと思います。

以上です。

○渡部康吉議長　２番、渡部俊夫君。

○２番　渡部俊夫議員　この事業については、町としてはこれから条例制定とかそういうものについてはどのようにお考えですか。実は話が別になりますけれども、学童保育についてはちゃんと例規集があるんですね見たら。放課後子ども広場、それについては内容の状況もあったものですから、やっぱりこの辺のきちんとした整理というのは必要かなと思うんですが、どうなんでしょうか。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

学童保育についてはご存じだと思いますけれども、厚生労働省の所管、今回については文科省の所管ということになりますので、これらについては一応縦割りと言いながらもルールを守りながら連動させていかなければならないと思います。

したがいまして、先ほど申し上げたように、子育て支援の部分だけでの条例にするのか、それとも先ほど私が言ったように全体的なもののとらえ方をしながら条例化を皆さんにご提示するのか、それは今後の検討になるかと思いますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　２番、渡部俊夫君。

○２番　渡部俊夫議員　いずれにしましても、福島県内的にもやっぱり舘岩地域は早かったんですね。平成15年、坂下が16年、会津若松が17年、そして本当に生のボランティアに近い状態でここまで積み上げてきた、やはりこの遺産をきちんと町は継承して、そして本当に町民が使いやすい、そしてああこういう事業だったらば、私もボランティアで参加しようかなというように思えるような、ひとつシンプルでわかりやすい、そして参加しやすい事業を展開していただくことを求めて終わりにしたいと思います。

以上です。

○渡部康吉議長　以上で、２番、渡部俊夫君の一般質問を終わります。

暫時休憩いたします。昼食休憩といたします。

休憩　午前１１時５３分

再開　午後　１時００分

○渡部康吉議長　休憩前に引き続き会議を開きます。

――――――――――――――――――――――――――― ◇ ―――――――――――――――――――――――――――

◇　阿久津　梅　夫　議員

○渡部康吉議長　次に、15番、阿久津梅夫君の登壇を許します。

15番、阿久津梅夫君。

○１５番　阿久津梅夫議員　一般質問、一般通告どおり４点ほど質問いたします。

１、前沢地区の一帯の整備の計画について。

前回質問いたしました前沢集落全景を望める展望台等一体的な整備計画はどのほど進んでいるかお伺いいたします。

２点目、森林、温泉など資源を活用した誘客観光について。

来年度、実施されますやまなみ泊覧会に向けてのプレイベントとして、森林や温泉、それに医療をあわせたツアーを計画されたようですが、その成果と今後の取り組み案などをお伺いいたします。

また、田代、帝釈山など町のあらゆる観光資源、施設、イベント案内人の養成や地域等への協力要請活動も実施されているようにお聞きしていますが、今後ますます重要なことと考えますので、具体的な例や、今後の計画案などをお伺いいたします。

３点目、地域特産物の確保について。

町の特産物である舘岩地区の赤カブの根こぶ病の状況と対策についてお伺いいたします。

４点目、国道352号線の道路改良について。

国道352号線中山峠の道路改良はどの程度まで計画が進んでいるのか、国・県の情報のわかる範囲でいいからお伺いいたします。

以上です。自席に戻りあと再質問します。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　15番、阿久津梅夫議員のご質問にお答えをいたします。

初めに、前沢地区の一帯的な整備計画についてのおただしがございました。今年度から文化庁補助事業として、前沢集落の伝統的建造物群保存地区保存対策調査事業を２カ年継続事業で実施しております。現在本調査事業の中で、保存計画策定委員会を設置し、大学教授など専門家や関係機関、前沢集落住民の代表の方々と建物の保存計画、防災計画、環境整備計画などについて協議しているところであります。

今後、伝統的建造物群保存地区整備計画及び周辺地域を含めた保存活用計画を策定することとなっており、その中で展望台等の施設についても検討する予定でございます。詳細は地域住民、地権者の方々のご意見も踏まえながら検討してまいりたい、このように考えておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

次に、森林、温泉などの資源を活用した誘客観光に対する１点目、ツアーの成果と今後の取り組み案に関しておただしがございました。

本年、10月23日、24日、この両日にわたり、湯ノ花温泉渡沢渓谷が贈る癒しの体験、フォレストセラピー体験ツアーを湯ノ花温泉交流センター及びしらかば公園渡沢渓谷を主な会場と

して実行委員会の形式で開催をいたしました。今回は初めての試みとして平日開催で、募集人員を20名で企画いたしましたところ、県内外から20名参加がございました。うち宿泊者は７名おりました。

ツアーの内容につきましては、森の案内人による森林散策やそば打ち体験、愛輝診療所山田仁先生による健康講座等を実施したところであります。

また、森林散策の開始前と終了後に健康チェック、ストレスチェックを行い、効果を検証いたしました。フォレストセラピー事業はいやしを目的とした体験型の森林浴による健康増進を図るもので、ストレスが多い生活の中で注目が高まっております。来年度のやまなみ泊覧会に向け、こうした事業を初め地域の人的資源、森林などの地域資源を活用し、都会では味わえないさまざまな事業を計画していきたいと考えております。

次に、森林温泉などの資源を活用した誘客観光に関する２点目、町のあらゆる観光資源、施設、イベントの案内人の養成や、地域等への協力要請活動に関するおただしがございました。

各種案内人の養成につきましては、雇用の創出といった観点からも、やまなみ泊覧会を契機として既存の町内外の各種団体とも連携しながら、人材の掘り起こしや担い手の底辺拡大を図ってまいりたい、このように考えております。

なお、具体的な例といたしましては、１つとして郷土歴史研究家と一緒に町内の名所旧跡等をめぐり、それらについての歴史や経緯等を学ぶ講習会、２つといたしまして、自然観察指導員と一緒に、登山や湿原散策等をしながら、環境保全に関する心得やマナー等を学ぶ講習会、さらには３つ目といたしまして来訪者の年代等に合わせてわかりやすくそして退屈させないような話し方を身につける講習会などを順次開催していきたい、このように考えております。

そして、将来的には町の認定ガイドとして、教育旅行や一般旅行等でご活躍をいただき、町民の所得向上につながるようなシステムを構築してまいりたい、このように考えております。

また、地域等への協力要請活動につきましては、本庁企画観光課と各総合支所振興課が中心となり、やまなみ泊覧会に関する説明会を各地域で開催するなど、行政区や各種団体等に対して事業への積極的な参加を呼びかけているところでございます。

なお、行政区や各種団体、職員等からも現在さまざまな提案や相談をいただいておりますので、引き続き地域での盛り上がりの醸成と当事者意識の高揚に努めるとともに、行政区や各種団体等の活動に広がりを持たせることのできるような、新たな助成制度の創設についても積極的に検討してまいりたい、このように考えているところであります。

次に、赤カブの根こぶ病の現状と対策についておただしがございました。赤カブは舘岩地域

の特産物として町でも優良種子の採取事業により、振興を支援しているところであります。現在地域内では４ヘクタールの栽培面積があり、昨年は約30トンが出荷されましたが、本年は８月以降の高温と長雨の影響で成育不全となり、全般に収穫が減少をいたしました。

根こぶ病につきましては、昨年各地の栽培圃場で発生したことから、南会津農林事務所、県農業総合センターの協力を得て圃場の診断や対策の検討を行いました。

気象条件、土壌条件、栽培方法などさまざまな原因がありますが、今年度は土壌改善策として、有機雑肥料を施肥し、ミネラルなどの要素を補い、根こぶ菌や連作障害の改善を図ったところでございます。食の安全・安心が求められている中、化学肥料、農薬での対策は残留農薬の危険性もあることから、今後もこうした有機的な方法をもって改善を図ってまいりたい。このように考えているところでございます。

次に、国道352号線、中山峠の道路改良についておただしがございましたが、県においては昨年度から基礎調査に着手し、今年度は工事の実施に向け、道路、トンネル、橋梁の調査設計等を実施しており、現在までにトンネルについてはルートの検討と地質調査、道路については消融雪施設等の検討を進めており、年度内に住民の皆様への説明会を予定していると聞いております。

町といたしましては、引き続き国や県に対し合併支援道路の早期整備が図られるよう強く要望してまいりたい、このように考えておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

以上、お答えを申し上げましたが、具体的事項につきましては、担当課長等に答弁させますので、よろしくお願いをいたします。

○渡部康吉議長　15番、阿久津梅夫君。

○１５番　阿久津梅夫議員　前沢地区の一帯の整備計画について、前々々回私が一般質問したところ、町長は早々にやりますと、この早々とはどのぐらいの期間があればいいのか、早々。避雷針です。雷のあれです。また、早々にやってもらえますか、その点。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

言葉というのは非常に巧みでありまして、それぞれとらえ方によってかなり違うと思いますが、議事録を見てもらわないとわかりませんけれども、そこはできるだけという、いわゆるある意味では条件が私は言ったんだろうと思うんですね。早々にやるなどということはなかなかできないんですよ。これは予算の問題もありますし、準備の問題もありますし手続の問題もある、地権者の問題もあるわけです。

ですから、私は、今の議員の発言のようなことを言った覚えは余りない。ただ、あそこの場合は非常に写真家も多いしそういう状況なので、検討をし、そしてさらに地域の方々のただただ人を集めればいいのではないですと、こういう意見も踏まえながら検討し、対応をしていきたい、こう申し上げたと思いますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　舘岩総合支所長。

○星　廣政舘岩総合支所長　お答えをいたします。

ただいまのその早急にということですが、ここに答弁のあれを持っておりますが、町長は、最終的にはこういう回答をしております。

現在、国の重要伝統的建造物群保存地区選定に向けての取り組み中でありますので、その中で地域住民や地権者の方々の意見等を踏まえながら検討してまいりたいと思いますということで結んでおります。

○渡部康吉議長　15番、阿久津梅夫君。

○１５番　阿久津梅夫議員　私の勘違いか知らないけれども、早急と言われたような、早々はまあ取り下げさせてもらいます。お願いします。早急と言われたんですと私は記憶しています。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

要するに、この前沢を拠点としてどういう地域おこしをしていくかということが議論の対象でしょう。そういう中で、言葉じりをとらえたり、そういうことできょう傍聴にもいっぱい来ていますけれども、誤解を招くようなことを言っていただいたら、非常に私は残念だと思います。要は、前沢を中心としてあそこにある資源をどれだけ活用して、地域住民のために役立てていくか、ここではないんですか、一緒にやりましょうよ。

以上です。

○渡部康吉議長　15番、阿久津梅夫君。

○１５番　阿久津梅夫議員　町長を怒らせたのは、我々の考えとまた違うかもしれないけれども、地域で我々はその前沢に落ちたときに、何年かに１回落ちている。もし何かあったらば心配だからなるべくなら早くやってください。何年かに１回は前沢集落に落ちているんですよ。前回は資料館の屋根が落ちて、中にいた人が物すごくあれなんですよ、怖がっていたんですよ。だからすぐやれと言ったってそれは金がなければ、全然それはわかりますよ、だけれども、結果でどういう結果なのかというの。本当にやってもらえるのかどうか。地元の人はみんな心配しているんですよ。中にいて雷様落ちたら、ただそれだけですよ、私は心配するのは。

あと２点目、これは説明でまだ何もやってくれないから、私はもう海とも山ともつかないから判断できないが、今までの結果を聞くとすばらしいものだと思います。

その中でまた田代山のあの中でイベントもこれだけの大きなやまなみ泊覧会と町長が盛大にやるんだから、イベントも少し各地域全部でなく、舘岩なら何に重点を置いてやるというように、やっぱり補助金も少し多く出してもらってやってもらいたいと思います。どこでも同じイベントばっかりやっていたってこれは意味がないから、どこの集落、田島なら何が一番だ、祇園なのか。伊南ならアユなのか、そういうのに重点を置いてやってもらいたいと思います。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

避雷針の話をいただきました。避雷針については、これは人命にもかかわる問題ですから、予算があるとかないとかではなくて、その落雷の危険性をできるだけ早く調査をして、落雷に対する不安を取り除くと、これについては大至急検討をさせたいと思っています。これまでも検討した結果、いろいろと避雷針について難しい問題があるというようには聞いておりますけれども、そこのところはできない理由だけを掲げるのではなくて、一歩前に進めたいと、こう思っております。

それから、ただいまのイベントに関連した問題でありますが、その森林あるいは温泉等を利用していやしを求めてくる、これは自分たちの地域に人が来て、そしてお金が落ちて、地域の所得が向上していくという、こういう流れの中ではとても大事なんですね。しかし、その前に考えなければならないことは、実は都会に暮らす人たちがどれほど精神的にストレスをため、ふだんの生活の中で健康を害しているかということも実態として見きわめなければならない。

その中の一つに、化学物質過敏症を抱えている人たちが今滝原に来ています。こういう方々を受け入れるには、受け入れの態勢を整えなければならない。そのために温泉があるから温泉療養するんだ、そういうことではないんですね。

したがいまして、議員がおただしのように、これらの受け入れ態勢をきちっと整備しながら安心して過ごせる時間、安心して過ごせる空間、さらには安心して語り合える仲間、この３つを整備していかなければならない、そのためのツアーとして今回実施をさせていただきました。この中では愛輝診療所の山田先生に大変大きな力をかしていただきました。ですから、私たちは一つ一つ分断して物事を見がちですが、物事をつなげてみて、受け入れるべきなのかどうなのか、あるいは受け入れたときに相手が本当に喜んでお帰りになるのか、ここのところを考えなければいけない。

それから、もう一点お話をさせていただきますと、実はふるさと納税というのがありました。我が町にもたくさんのふるさと納税をしている方がいます。この方の願いが何だかわかりますか。実はふるさとに残してきた親が心配だという、そのためにも私たちはふるさとを離れて頑張っている人たちにも安心感を与えなければなりません。当然地元の住人の方々にもそういう健康の問題でさまざまな不安を抱えている方々に向き合った事業の展開をしていかなければなりません。それを議員がおただしのようにいろいろなイベントがありますが、それぞれの地域のこれまでの願いや思いを引き出しながらも、特殊なものを特殊なものとしてメーンとして出しながら、いろいろつなげて新しいイベント、事業を考えていきたい、こう考えておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　15番、阿久津梅夫君。

○１５番　阿久津梅夫議員　答弁どうもありがとうございました。

３点目の地域特産の物産の確保についての赤カブですが、これは十分地域において重点に置いてやられたらいいと思います。舘岩、前沢が発祥地だったかな、だったら前沢地区だけ１年目はみっちりとやって、２年目は木賊へいくとか、何か地域地域ばらばらにやったって一つも目が届かないから、地域的にやってもらいたい。その点お伺いします。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えいたします。

この赤カブについては、先ほど答弁をいたしましたように、気象の原因というのも十分わかりますが、非常にその年の要件によって収穫が左右されるというのは、栽培者にとっては非常に不安であります。したがいまして安定した農業経営、安定した特産物づくりに関しては、私は議員おっしゃるように、今後最大限の力を注ぎたいと思っています。

というのは、本町にもさまざまないわゆる工場がございますが、これが外的な要因で非常に雇用不安を起こしている、とすればやはり地元にある、地元に先人がつくり出してきた農業や林業にもう一回視点をそこに強く当てながら、思い切ったやはり政策展開をしていかなければなりません。ただ、財政的な限界もございますから、ここのところは知恵を絞りながら、あるいは地元の人たちのたくさんの力をかりながらその政策を実行していきたい。

その一つとして、南郷トマトも連作障害があります。あるいは花弁類なんかもあるかもしれません。そこで、今一つの提案として私のところに届いているのが、土壌保温です。この保温によって殺菌効果がある、いわゆる連作障害を限りなく削減できるのではないだろうか、こういう問いかけもありますので、この辺も含めてしっかり取り組んでいきたいと、こう思ってお

りますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　15番、阿久津梅夫君。

○１５番　阿久津梅夫議員　国道352号線の道路のこと、町長大分怒られているが、国道352号線の銀龍橋のあの件に対しては町長どうもありがとうございました。早速眺めがよくなりました、その点は。それにまだああいうところがいっぱいあるんですよね、日陰。12日の舘岩の事故、あれは朝方ちょっと凍っただけで、ほかは全然なっていないんです。道路の日の当たるところはやっぱり地元の人たち皆さんに協力してもらって木を切って、そうすれば未然に防げる事故だったんですあれは。地元の人から聞いていますが。その点をよろしくお願いし、その点だけです。以上で再質問しませんから、その質問のあれだけ答えて、私の質問は終わります。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

352号は先ほど申し上げましたように、合併支援道路という位置づけの中で、南会津町が合併したその地理的な条件の解消という意味では大変大きな事業であります。現在先ほど申し上げましたように、トンネルをもう１本掘ると、こういう想定の中でルートの決定を今しているところであります。

それから、もう一点は、無散水の融雪道路にしようと。どこからどこまでという部分はまだ出ておりませんが、そういうことによっていわゆる路面凍結による事故を限りなく防いでいく、こういう調査も今しているというふうに聞いております。

いずれにいたしましても、県の事業でありますが、県が考える合併市町村の支援の中でも、このルートに関しての事業はかなりウエートの高い事業というふうに位置づけておりますので、私からも先ほど申し上げましたように、議員の、地域の願いを受けとめまして、さらに希望にかなう道路づくりになるよう要望をしてまいりたい、このように考えておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　以上で、15番、阿久津梅夫君の一般質問を終わります。

――――――――――――――――――――――――――― ◇ ―――――――――――――――――――――――――――

◇　大　竹　幸　一　議員

○渡部康吉議長　次に、19番、大竹幸一君の登壇を許します。

19番、大竹幸一君。

○１９番　大竹幸一議員　一般質問に入りますが、非常に眠い時間でありますので、眠くないように頑張りますので、よろしくお願いします。

最初は、防災行政無線についてであります。９月議会におきまして、事前着工のために取り下げとなりました宮本の工事につきまして、その後情報公開条例で起工伺という文書をとったところ、起案日、決裁日ともに８月29日であることがわかりましたので、質問するものであります。

１つ目は10月23日に行われました臨時議会に伴う全員協議会の説明では、この工事は８月26日着工で、９月８日完成という説明であったわけであります。そうすると、９月議会の議決前だけでなくて、町長の決裁した８月29日の３日前の８月26日から着工したことになりまして、これは二重の意味での違反行為ではないのかなというふうに思いますが、その辺どうとらえているか、伺うものであります。

２つ目は、ほかにもこのような、町長の決裁前に行われているような例はないのかどうか、日誌やあるいはそういう起案書などの関係書類の総点検が必要と思うが、いかがでありましょうか。これにつきましては、内容的に突っ込んだことでありますので、代表監査委員さんにこの問題のとらえ方と対策を伺いたいと思っております。

３つ目は、10月14日の日に職員に対しまして口頭による処分がありましたけれども、この処分は事前着工が８項目もあったこと、さらには町長の決裁前の着工であったことなどが関連しているのかどうか伺いたいと思います。

さらに４点目は町長の監督不行き届きの責任はさらに大きくなりまして、職員だけでなくみずからをも処分すべきと思うが、いかがでしょうか。私は10月のその臨時議会の際にも町長には求めましたが、町長は成果をつくることに徹したいと、こういう答弁でみずからへの処分はしないということでありましたが、その後、この質問通告を８日の日にした後に、12月９日の日に新聞に会津美里町の例が載りましたので、ちょうど比較するのに大変いい例でありますので比較してみますと、この会津美里町では、ことし４月から８月までに91世帯から保育料を317万円間違って高く取ったそうであります。

その理由は、４月に国の徴収基準が変わりまして、その国の基準で保育料を徴収したところ、町の基準はそのままであったというために、そこに差額が発生したわけであります。そして、これについてはこの91世帯にお金を返したということであります。

それからもう一つは、町道をつくった際に、その登記が、町に登記していなかったために、地権者から固定資産税などを６万円ほど誤って徴収してしまったと、こういう問題が新聞に載

りました。

そして、これに関連して12月定例議会に来年１月分の町長の給与を20％カットする、副町長は10％カットするんだと、こういう条例案を提案して、これは既に議決になったそうであります。そして、私の知っている議員を通してこの職員への処分を聞いてみますと、職員の処分はなかったと、こういうことでありますから、それと比べると我が町の場合には職員だけに処分があって、町長や副町長に処分がないというのはちょっとおかしいんではないかと、私は思うのであります。

さらに、今後の改善案についても提案いたしますが、この起工伺という書類を見てみますと、議会の議決の要、不要、あるいは議決日などを書く欄というものがありません。そこで、今後そういうものを設けて、その町長の決裁をするときにやはりこれは議会の議決が要るよということを一言言えるような、そういう書式に変更してはどうかという提案もしたいと思います。

さらに、この防災行政無線につきまして、町民から何点か要望がありますので質問いたしますが、今例えば転勤などで家を留守にしている人がいるわけであります。そういう人たちが例えば来年３月で転勤が終わってこっちに帰ってくるということもあるわけでありますが、そうした場合にこの個別受信機を設置したいという場合には、今回と同じく無料でやれるのかどうか、いつまで無料でやるのかを伺いたいと思います。

それから、個別受信機のアンテナをつけた場合に、屋外につける場合があります。荒海地区とかそれから長野地区、あるいは針生地区では屋内では聞こえない家があって、屋外につけたようでありますが、それを雪などで壊れた場合には、だれがその修理代を持つのかという問題があります。

私も現場を見てきましたけれども、10センチくらいは離れておりますけれども、風の向きとかそういうところで壊れるのではないかという心配もありますので、質問するわけであります。

次は、救急車などが出動する場合など、個別受信機で放送されます。しかし深夜、あるいは町外ですね、そういう場合については放送しないように改善できないのかと、こういう声がありますので、これについても検討を願います。

さらには、先ほど１番議員のほうからも質問がありましたので若干ダブりますが、地区の公民館などに機械が設置してありまして、その機械からその地区の外部スピーカーで放送することができますが、しかしそれは公民館のそばにあるその外部スピーカーからしか放送されません。その地区にほかにもっとあった場合、同時にその地区のほかの外部スピーカーからも放送できないかと、こういう要望がありますが、先ほどの答弁の中で地区ごとに親局を置くのはま

ずいという指摘があったというような答弁があったと思いますが、どのようにそれがうまくないのか、伺いたいと思います。

さらには、緊急時には役場に申し込んでもらえれば、地区内の外部スピーカーで同時に放送しますという話がありましたが、それは大変ありがたいんですけれども、しかしそれでは職員の方にすごく負担がかかると思います。そこでやはりそういうような職員が休みの日に家にいなければならないというようなことではなくて、やはり１つのスピーカー、機械から話せばその地区が同時にできるような改善が必要ではないかとこう思いますので、伺うものであります。

次は、舘岩のゴルフ場の問題について伺うものであります。これは、11月13日の日に新聞に載りまして、来年度の自力経営断念というような新聞報道がありましたので見られたかと思いますけれども、それに基づきまして11月28日に全員協議会がありまして、そこで説明を受けたわけであります。

そこでの説明では、いろいろありますが、要点としましては個人株主分の176人分、541株ですね、これを20％で買った場合には、541万円ほどのお金がかかると、こういうような説明があったわけであります。

これに対して、私はゴルフ場の経過と今後のことを考えた場合には無理ではないかと、こう思っておりますけれども、それについて12月11日にゴルフ場の臨時株主総会があったと聞きますが、そこで町長はどのような発言をしたのか伺いたいと思いますし、またその臨時総会の内容についても伺いたいと思います。

２つ目は、今ゴルフ場を初めとしまして、町における町出資の会社が６つほどありますけれども、いずれも厳しい状況でトータルでは6,000万円ほどの累積赤字になっております。こうした中で総務省では平成20年度中に経営検討会をつくるように指導しておりますけれども、これもこの前の全員協議会で、21年度にはつくるという話はあったかと思いますが、国では20年度中につくれと、こう言っているようでありますので、そのおくれている理由は何なのか、それを伺いたいと思います。

次は、教育問題であります。

折橋と南下原地区ですね、横町の南下原地区の親から、せめて冬だけでもスクールバスを利用させてほしいという要望がありまして、私も一般質問で求めておりますけれども、これについてどのような計画になっているか、伺いたいと思います。

２つ目は、除細動器について、すべての学校に設置するように求めてきましたけれども、これもどのような計画になっているか、伺いたいと思います。

この除細動器につきましては、学校で子供に体の異変があった場合に、救急車が来るまでの間にこの除細動器を用いますと、非常に子供の蘇生に効果があるということでありますので、今各地で置くようになっておりますが、その予定を伺いたいと思っております。

３つ目は、昨年、ことしと全国一斉の学力テストが行われまして、都道府県別では結果が公表されましたが、市町村別や学校別には公表しないと実施要領で決まっております。しかしながら、各地でその実施要領に反して公表する動きがありまして、公表すれば点数競争の激化、学校の序列化などの弊害があると考えられますが、本町ではどのような対応になっているか、伺いたいと思います。

なお、この質問を通告した後でも、これは13日の新聞ですか、そこで県は文部科学省から調査があったと。その際に公開すべきものという回答をしたという返事が新聞に載っておりましたけれども、そういうふうにいろいろ方針が揺れているという状況の中で本町の考え方を伺いたいと思っております。

さらに、４点目でありますが、９月末に中山国交相が就任わずか５日目で辞任したことは記憶に新しいと思います。その辞任の理由の中で、日教組が強い県は学力が低い、学力テストの目的はそれを確認するためだと。そして確認をしたから学力テストの役割は終わったと、こういう発言をして大いに話題になったわけであります。

全国一斉でなくても抽出的な学力テストは行われておりまして、この全国一斉の学力テストについて私は反対してきましたけれども、やはりその反対に値するテストであったなというふうに思っておりますし、それが証明されたなと思っております。

そうした中で、来年から全国一斉の学力テストに対しては不参加としてはどうかと、こういう提案をしたいと思いますが、いかがでしょうか。

最後に、雇用問題について伺いたいと思います。アメリカのリーマン・ブラザーズに端を発しまして、金融危機が起こっておりまして、毎日のように新聞、テレビで首切りや内定取り消しなどの報道がされておりますが、そして労働者への犠牲が大きな社会問題になっているために、実態を調査して相談窓口をつくってはどうかと、こういう提案をしたいと思いますが、いかがでしょうか。

以上、４点の質問をいたしましたが、答弁によりましては自席から再質問いたしますので、よろしくお願いいたします。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　19番、大竹幸一議員のご質問にお答えをいたします。

初めに、防災行政無線についての１点目、事前着工が議会前だけではなく、町長決裁前に着工したことになる、このおただしがございましたが、現実の工事着工が町長決裁前であったことについては、不適切な事務処理であったと考えており、今後このようなことがないよう、適切な事務処理に万全を期してまいりたい、このように考えております。

次に、３点目でありますが、職員の処分に至った事実関係の確認に関するおただしがございましたが、懲戒審査委員会が開催された本年10月８日時点では、工事施工上の特性により、正式な変更契約前に相当数の工事が進められていた事実を確認しておりますが、起工伺等の書類までは確認しておりません。

次に、４点目、私の管理監督責任についてでありますが、処分については直接的な指揮監督権の及ぶ範囲及び事案内容により、個々に判断すべき問題であると、このように考えており、今回の事案は原則的な事務処理の欠落であり、今後十分指導を行うべきものと考えておりますので、さらなる誠意ある努力を職員ともども一致してまい進したいと考えておりますので、ご理解いただきたいと思います。

次に、５点目、起工伺の様式について改善が必要ではないかというおただしがございました。様式改善以前の問題として、適正な事務処理に向けた職員の資質向上と幹部職員の管理監督意識の徹底が大変重要でありますので、議会の議決に付すべき重要な契約案件については、特に細心の注意を払って事務に当たるよう指導してまいりたいと考えておりますので、現在のところ様式改善の考えは持っておりませんので、ご理解いただきたいと思います。

次に、６点目、個別受信機の設置費用のおただしがございました。個別受信機については、南会津町防災行政無線個別受信機の貸与等に関する要綱に基づき、申請者と町とにおいて締結をする防災行政無線個別受信機貸与協定により、無償にて貸与することとしております。

また、この貸与協定により、設置費用及び補修管理費用については町が全額負担をし、通常的に要する管理費の電気料、電池代及び移転費用等のものについては使用者の負担とさせていただいております。

なお、これら個別受信機の貸与申請期間については限定しているものではなく、現時点において申請されていない方や、今後転入等により町民となられる方には申請されるよう広報等をしていきたい、このように考えております。

次に、７点目……

○渡部康吉議長　ちょっと待ってください。傍聴者に申し上げます。携帯電話は電源を切っておいていただきたいと思います。

○湯田芳博町長　よろしいでしょうか。それでは、次に、７点目、個別受信機の修理に係る費用のおただしがございましたが、さきに申し上げました要綱及び協定書に基づき、故意または過失により破損及び故障が生じた場合には使用者の負担とさせていただき、それ以外の破損及び故障については町が負担することとしております。

次に、８点目、広域消防本部における緊急自動車等の出動に係る放送のおただしがございました。防災行政無線施設の運用に当たり、広域消防本部と町において、遠隔制御装置の運用に関する協定を結んでおります。その協定に基づき、広域消防本部において放送する内容は、第１に火災が発生したとき、第２に消防本部においてサイレン吹鳴による出動が発生したとき、第３に緊急重要な事態が発生し、または発生することが予想される場合としたところでございます。

おただしにあります深夜町外の場合とは、第２の消防本部においてサイレン吹鳴による出動が発生したときの事例と思われます。この件につきましては、去る10月22日に今後のよりよい防災行政無線の運用のために実施をいたしました田島地域の行政区長さんとの防災行政無線運用に関する意見交換会の席においても同様のご意見がございました。現在町の関係課における検討を経て、広域消防本部との協議を進めているところであり、その結果につきましては決まり次第住民の皆さんへもお知らせしてまいりたい、このように考えております。

次に、９点目、地区内の屋外拡声子局の運用に関するおただしがございましたが、屋外拡声子局の機能につきましては、先ほど１番議員へお答えをしましたが、地区において使用する場合は、屋外拡声子局をもとに放送していただければ可能であります。

また、地区において、地区内すべての屋外拡声子局または個別受信機から一斉に放送する場合には、事前に町へ放送依頼をしていただくことにより、親局である役場から放送することが可能であります。

これらの現システムの有効活用を図っていただきますよう、ご理解を願います。

次に、舘岩ゴルフ場についてのおただし、１点目、去る12月11日に開催された臨時株主総会での発言要旨でありますが、阿久津社長のあいさつを受けて、来賓としてあいさつを求められましたので、その中で次のような内容を申し上げさせていただきました。

まず初めに、東武鉄道撤退を受けて、経営をお引き受けいたし、現在まで施設の維持管理をされてこられた株主及び取締役等役員関係者に感謝の意と敬意を表させていただきました。その上で、株券の町買い上げの意向を確認できましたので、今後のゴルフ場のあり方と地域振興、雇用の関連性を話をさせていただき、11月28日に開催をいたしました南会津町議会議員全員

協議会で出された意見をもお伝えしながら、現在町が抱える政策課題の対策方法との連携も考えた上で、継続運営できるよう検討協議進める、このように発言をさせていただいたところであります。

次に、２点目、検討委員会の設置がおくれている理由は何か、こういうおただしがございました。総務省が地方公社及び公営企業の処理方策等について検討を行うため設置をいたしました債務調整等に関する調査研究会から、第三セクター、地方公社及び公営企業の抜本的改革の推進に関する報告書がこのたび取りまとめられ、今月５日に公表されたところであります。

今後、この報告書を参考として、南会津町におきましても早急に委員会を立ち上げ取り組んでまいりたいと、このように考えております。

次に、雇用問題に関する質問で、労働者への犠牲が大きな社会問題となっているため、実態を調査し、相談窓口を設置してはどうかというおただしがございましたが、実態調査につきましては、原油価格高騰に伴う中小企業等への影響を調査するため、８月に幅広い業種を選定し、聞き取り調査を行い、利子補給金の助成率のアップを図ったところであります。また、福島県南会津地方振興局と町では、９月と11月に企業訪問を行い、情報の収集を行ってまいりました。

しかし、最近の急激な経営環境の変化もあり、臨時社員の削減などの情報も入ってきております。改めて情報収集に努めているところでありますので、ご理解をいただきたいと思います。

なお、今月19日に関係機関からなるハローワーク南会津雇用対策推進協議会を立ち上げ、雇用の確保に努めるとともに、町内の関係課が連携し、相談体制に当たっておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

以上、町長に求められました答弁とさせていただきましたが、具体的事項等については担当課長等に答弁させますので、よろしくお願いをいたします。

○渡部康吉議長　教育長。

○横山恒廣教育長　私からは教育問題についてに関してお答えいたします。

初めに、教育問題に関する１点目、折橋、南下原地区のスクールバスの計画についてのおただしでありますが、同地区の小学生につきましては、冬期間は歩道の除雪が間に合わないため、交通量の多い国道121号の車道の端を徒歩で通学しており、大変危険であることから、長野方面のスクールバス運行にあわせて調整を進め、１月からバス通学できるように計画中であり、今議会に補正予算を計上しておりますので、ご理解をお願いいたします。

次に、２点目、学校への除細動器の設置計画についてのおただしでありますが、現在自動体外式除細動器、いわゆるＡＥＤの町立小中学校への設置状況は、小学校が９校中３校、中学校

が６校中２校となっております。

激しい運動中に起きる突然死は、ほとんどが心臓の異常であるという統計もあり、その原因の１つである心室細動という不整脈については、ＡＥＤを使用して早い対応をすることにより救命率も向上することから、身近な場所へのＡＥＤ設置は必要であると考えております。

今後、学校への計画的な設置を検討していきたいと考えますので、ご理解をお願いいたします。

次に、３点目、全国学力学習状況調査、いわゆる全国学力テストの調査結果の公表についてのおただしでありますが、実施要領では調査結果の取り扱いに関する考え方として、調査により測定できるのは学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面にすぎないことを踏まえ、序列化や過度な競争につながらないように十分配慮して適切に取り扱うものと定められております。

また、調査結果の公表に当たって具体的に配慮する点として、市町村教育委員会は個々の学校名を明らかにした公表を行わないこと、市町村の学校全体の結果を公表することについては、それぞれの判断にゆだねることが定められています。

本町においては、このことを踏まえて公表はしておりませんので、ご理解をお願いいたします。

次に、４点目、来年度からの全国学力テストへの参加についてのおただしでありますが、本調査は児童生徒の国語、算数または数学の２教科についての学力のみでなく、日常生活や学習に対する意欲などの学習状況等を把握することなどを目的として実施されているものであります。

各学校がその結果を利用し、課題を明らかにして自校の学力向上対策等を考える資料と資するため、来年度も引き続き全国学力テストへの参加をする考えでありますので、ご理解をお願いいたします。

以上、終わりますけれども、具体的事項については担当課長のほうから答えさせます。

○渡部康吉議長　代表監査委員。

○室井良一監査委員　私からは、防災無線に関しての２点目についてお答え申し上げます。

ほかにもこのような例がないかどうか、日誌等、起案文書等の総点検が必要と思うがどうかとのおただしですが、権限に属する意思決定の前に着工したのであれば、これはコンプライアンス違反であります。特に決裁規定に違反することは、組織の上では非常に重いものがあると思います。今後このようなことがあってはならないことであり、改善に向けて対策を打ち出す

ために、執行部みずからが自浄作用を発揮して、事前着工が常態化していないか、なぜ事前に着工されたのか、またなぜ事前に着工しなければならなかったのか等をよく調査して、その原因を把握し、改善に向けて対策を打ち出し、公表すべきものと考えます。

以上でございます。

○渡部康吉議長　19番、大竹幸一君。

○１９番　大竹幸一議員　何点か再質問いたしますが、まず最初、防災行政無線についてでありますが、町長の決裁前に着工されていたという問題について、非常に不適切な対応だと、あるいは今監査委員さんからも決裁規定に違反していると、こういうような指摘があって、そういう見方で私も思っておりますので、まず認識については一致したかなと思っております。

やはりそこで、いまひとつ問題提起しておきたいことは、一つは９月についてはそのようなことがはっきりとわかりましたが、３月議会でも３つの工事がありました。袋口と上野と丹藤の工事がありましたが、私は担当の人に、３月についてはそういう町長の決裁前の着工ですね、それから議会前の着工というものはなかったのかということを聞いておきましたが、それについてはちょっと返事ができないという話がありました。

そこで、私は情報公開条例でその３月についても調べてみたわけですが、公文書というものがないんだというようなことで、回答はもらえませんでした。そこで、何か公文書とはいかないまでも手帳のメモのような、そういうものもあると思いますので、それについては今後、また特に監査委員さんのほうに調べていただきたいなということを要望して、１点おきたいと思います。

それから、２つ目は町長の責任について、私は処分を求めているわけでありますが、町長はそれについてはそういう考えはないということでありましたが、先ほども事例の中で申し上げましたが、美里町の事例ですよね、そういう事例が美里町では町長と副町長の給料カットということですね。

それから、もう一つ４月に後期高齢者医療制度が始まったときに新聞に載りましたが、下郷町でミスがあって、436人分の保険料が４月からではなくて、10月からされる分かな、それが間違って４月から天引きがあった分があったんですね。新聞に載りました。これは県内では下郷町だけだったそうでありますが、そういうミスがあったようでありますが、このときについて処分はどうだったのかということを、私聞いてみました。

そうすると、これは聞くと言っても知り合いの議員に聞いたんですが、このときは職員も町長も何も処分がなかったということなんですね。ですから、そういう下郷町の事例、それから

先ほど話した美里町の事例、そういった事例を比較してみますと、この本町の場合だけが、職員だけが処分があるというのは、私はこれは同じ公務員として極めて不公平ではないかなと思うんですが、いかがでしょうか。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えいたします。

再三議会で答えていると思いますが、議員と私の人生観はまるっきり違うと思います。過ちは過ちとして真摯に受けとめます。先ほど申し上げたようにしっかりと改善していきます。私たちは子供のころからさまざまな約束を破ったり、あるいは人に迷惑をかけたりしてきています。でもそれは、ある意味で許されてきたから現在がある、職員の人たちは非常に反省しています。処分といっても、処分というと一口に言うとどういうことだかわかりませんが、注意してくださいねと、口頭訓告を行いました。私は、大変議会を軽視したという結果を真摯に受けとめて、職員と一丸となって二度とこのようなことを起こさないように、そして形式をつくるのではなく、みずから志を持って町民の信託にこたえていく、これが公務員としての公僕としてふさわしい行動であるという認識のもとで真剣に改善を求め、議会の皆さんに、町民の方々に信頼回復をするための行動をとっていると、こういうことでございますので、美里の例や下郷の例はそれぞれあっていいんじゃないでしょうか。

私は職員を成長させたい。そしてその成長をもって町民の方々にあらゆる政策が浸透していくことを精いっぱい努めていきたい、こういうことでございますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　19番、大竹幸一君。

○１９番　大竹幸一議員　今いろいろ町長からも話がありましたが、しかしほとんど私の質問には答えていないし、そして私は今回この事前着工問題で一番思ったのは、事前着工と同じぐらいの比率で考えたのがこの処分という問題なんですが、その場合に思ったのは、この起工伺という書類を見ますと、しっかりと町長も判こを押してありますけれども、私はこういうものをいわゆるめくら判と言うんじゃないかと私は思うんですよ。これがその典型だと思うんですよね。

そのめくら判を押した責任があるんじゃないんですか。いかがでしょうか。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えいたします。

ですから、さっきから言っているように考え方が違うんですね。めくら判とだれが決めるん

ですか。めくら判て何ですか。私は十分その書類の内容を見て判こを押しております。

以上です。

○渡部康吉議長　19番、大竹幸一君。

○１９番　大竹幸一議員　では、この問題については平行線になりますので、次に行きますが、次は個別受信機については無料でできるということについて安心しました。

しかし、無料ではいいんですけれども、やはり工事がいつまでも余り長くならないために、今留守の世帯について調査したほうがいいと思うんですよね。というのは、うちらのほうの区長さんに聞いてみたら、各戸から希望があって、それを町のほうに出したと。それをもって電気屋さんが受信機を設置したということなんですが、どこの家で設置したか、あるいは当初は設置すると言ったけれども途中から設置しない家もあったかもしれませんので、結果的に自分の地区でどこの家が入っているのかというのは、区長さんはわからないと言うんですね。

ですから、そういう実態がありますので、やはりその中で、つけない家で、つけないという家はいいと思うんですが、そういう転勤か何かでいないという家については、今後確認して、なるべく早い機会に例えば来年の４月には帰ってくるんだというような家があった場合には、早目にやったらどうかと思いますが、その辺の調査はいかがでしょうか。

○渡部康吉議長　住民生活課長。

○長沼芳樹住民生活課長　お答えいたします。

いわゆる留守の世帯、それから連絡のとれない世帯というのがいわゆる100弱近くございます。これらについては、業者のほうで毎日連絡をとってその解消を図っておるところでございます。

それから、もう一点、既に設置しました個別受信機の設置世帯につきましても、すべて再調査をする予定としております。と申しますのは、いわゆる冬期間を迎えまして、積雪期ということで電波の状態が不安定になってきたせいもありますので、すべての個別受信機の設置世帯について業者のほうで再度検証に入るというふうな報告を受けております。

○渡部康吉議長　19番、大竹幸一君。

○１９番　大竹幸一議員　それから、先ほど質問の中で外部スピーカーについて、１つの地区から同時に聞こえないという質問の中で、緊急時には役場のほうに言ってもらいたいというか、そういう答弁しか繰り返ししかなかったんですが、その地区ごとに親局を設置するのはなぜ問題があるのかということですね。そういう改善は不可能なのか、そこを伺いたいと思います。

○渡部康吉議長　住民生活課長。

○長沼芳樹住民生活課長　お答えいたします。

基本的に親局については１つの設置ということが基本となっております。それからまず合併前にそれぞれの支所において電波が統一をされていなかったわけですが、合併後においては電波の統一ということで、１波ということになっておりまして、これは１年以内にということで、この申請はしております。

これにつきましては、総務省の東北総合通信局というところでいわゆる指導を受けている分でございます。その際に親局の関係についても相談をしております。いわゆる地区の集会の施設に役場と同じような親局の設備をつけますと、いわゆる集中的な統御ができなくなります。一斉に統送した場合に、どこが優先するかというような形も不明確になります。万が一の災害の際にもそういう統制がとれないということから、そういう設置については不適切というような指導を受けたものでございます。

○渡部康吉議長　19番、大竹幸一君。

○１９番　大竹幸一議員　次は、その外部スピーカーから朝、昼、晩と放送が流れますけれども、あれについてちょっと町民の方からご質問が通告後に要望があったんですけれども、せめてお昼ぐらいで、あと朝と夜は要らないんじゃないかと、こういうような要望もありますけれども、そういうことについてはいかがでしょうか。

○渡部康吉議長　住民生活課長。

○長沼芳樹住民生活課長　お答えいたします。

基本的に救急車の出動に対しては放送は一切しておりません。いわゆる他町村の火事、それから交通事故の場合の工作車種の出動に際しては放送をしております。これにつきましてはサイレンを吹鳴して出動するものですから、この地区の住民の方からいわゆる広域消防署、それから町役場のほうにかなりの数の問い合わせがあるということで、その対応ができないということで、今のところ放送をお願いしているところでございます。

ただ、ご指摘のように、いわゆる夜間の放送につきましては確かに他地域のことということもありますので、今現在広域消防署のほうとその方法について再度協議をしておるところでございますので、それが決まりましたら、先ほど町長が答弁申し上げましたように、町民の皆様にも再度周知をしてまいりたいと思います。

○渡部康吉議長　住民生活課長。

○長沼芳樹住民生活課長　朝、昼、晩のチャイムの話という点だと思います。ちょっと勘違いして申しわけありませんでした。

朝、昼、晩のチャイムにつきましては、朝、夕につきましても、いわゆるその要望が高い部分もありますので、今まで同様に実施をしたいというふうには考えております。

○渡部康吉議長　19番、大竹幸一君。

○１９番　大竹幸一議員　その朝、昼、晩についても、私もたまたま例えば電話中なんかにお昼とか例えば夕方ごろですね、電話中なんかにあれが鳴るとなかなか長く感じるんですね、かなりね。ということがあるものですから、今後十分検討していただきたいと思っております。

それから、次は舘岩のゴルフ場の問題に移りますが、ゴルフ場の問題で町長、来賓として出席した際に、今後継続していったらどうかというような話をしたというふうに伺ったんですけれども、しかし、今までやっていた方について、私どもこの前９月議会が終わった後の議会報告会で、高杖に当たりましたので、そこで支配人の方からいろいろと話を聞いてきました。

そうすると、やはり今まで相当経費節減をして頑張ってきたんだよというような話がありましたけれども、それでもやっぱりなかなかうまくいかなかったということでありますので、やはり今後現在の景気の状況、あるいはこれから人口も減っていくというような状況、それからかつては東武が東京方面からいろいろな客を引っ張ってきたわけですが、現在はそれもかなり弱いと、こういうような状況を考えますと、私は無理だろうと思っておりますけれども、その辺いまちょっと継続というような話を聞いてちょっとびっくりしたんですが、どういうような見通しで言っているのか、伺いたいと思います。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

これまで経営をしてきた状態がよくないから、これからもよくないであろう、これは簡単な答えの出し方ですよね。しかしそこに置かれた町の施設、財産として、投入したこれまでの経費もあります。私は、どんな場合でも、追い込まれても追い込まれても、最後の最後まで死力を尽くしてあきらめない、これが本当の勇気ある行動だとこう思っております。

そんな中で、ゴルフ場の経営を単体として考えるか、それとも第三セクターも含めた地域全体の地域振興の一翼としてそのステージを考えるか、ここが大きなこれからの課題になる。これらの課題に真摯に立ち向かっていきながら、いずれ議員の皆さんには方針として改善点を含めましてお示しし、議会でご審議をいただくと、こういうことになるかと思いますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　19番、大竹幸一君。

○１９番　大竹幸一議員　このゴルフ場について、ある株主の町民から私に電話で強い話があ

りましたので、ちょっと紹介したいと思うんですね。

それは、町はゴルフ場の経営などすべきでない。冬の出稼ぎ対策のスキー場とは違う。やるならば住民投票をしてからにすべきだと。私を含めて田島地区のゴルファーは羽鳥湖、白河に行き、たかつえには余り行かないと。たかつえは料金が高いからだと。仕方がないから臨時株主総会の委任状を出したが、無理だからやめたほうがいいと。当面失業者が出るかもしれないが、やったとしても５年以内には同じことになるだろうと。町が100％出資の株主になれば、赤字になった場合にはすべて税金の投入ということだが、そんなことをしてはならない。やるならば住民投票を町からすべきだ、それでなければ反対だ、こういうような電話で言ってほしいということがありましたので、町民の声をお届けしたいと思います。

次は、教育問題について伺います。

スクールバスにつきましては１月から実施できるということで、大変よかったと思っておりますが、この除細動器についても、これは計画的に配置したいという話はありましたが、あと随分、小学校があと６つあるのかな、随分あるね。あと中学校も４つですか、随分ありますが、当面来年はそのうちどのくらいを予定しておりますか。

○渡部康吉議長　学校教育課長。

○斎藤友一学校教育課長　お答えいたします。

来年度の設置の計画ということでございますが、一応検討というところで今進めておりまして、リースでの検討を進めているところでございます。

以上でございます。

○渡部康吉議長　19番、大竹幸一君。

○１９番　大竹幸一議員　ではわかりました。

次は、学力テストにつきましては、先ほど答弁の中で公表しておりませんのでご理解願いますと、こういう話がありましたが、もちろん公表しないのは現在のところは知っております。ただ、今後、今現在いろいろな動きがあるので、今後どういう考えですかということを聞いているんですが、今後も公表しないというふうにこう受けとめていいですね。

○渡部康吉議長　教育長。

○横山恒廣教育長　お答えいたします。

ただいまの19番議員の考え方のとおりで、今後も今のところは公表する考えはございません。ご理解ください。

○渡部康吉議長　19番、大竹幸一君。

○１９番　大竹幸一議員　ではそのように、今のところはというつけ加えがありましたけれども、そういうつけ加えなしでお願いしたいと思うんですね。

といいますのは、先ほど私は質問の中で、県では国から調査があったときに、公表したいというような返事をしたそうなんですね。それが新聞に載っておりました。そうしたらきのうのニュースで、今度国のほうでは専門家会議というのを行って、そこでは今度公表はしないというふうに決めたというんですね。ですからすごく揺れているわけですよ。

ですから、今後いろいろ特に大阪の知事あたりがいろいろ公表、公表とやっていますから、そういう中でまた変わるかもしれないと。そういう中でやはりきちっとした考え方を持ってほしいと思うんですね。やはりこれは先ほど２番議員の方も申しましたが、ノーベル賞をもらった方もやはりこの学力テストについてはやめたほうがいいと言っていますね。やはりもっと基礎的な力を身につけて、そしてなぜだろうかと考えるそういう力を持っていくといいんだと。そして30年後になってそれが評価されるわけですからね。そういうことが本当にすばらしいなと思っておりますけれども、テスト、テストというふうにならないようにお願いしたいと思っております。

それから、雇用問題についてなんですが、雇用問題についても今までの経過がありましたが、改めて情報収集をしているという話がありました。そこでぜひお願いしたいのは、今現在例えば会津若松でもスパンションというところで200人とか、喜多方の本田金属で100人とかそういう今首切りといいますか、人員整理の動きになっているということで、この南会津町でもそういうことが今後心配されますけれども、その情報収集の際に、一つお願いしたいことがあるんですけれども、やはりそういう人員整理などが起こる前に、起こってからの手当てを考えるということじゃなくて、労働契約法において派遣とか期間労働者の契約の途中の解雇ですね、これはもう法律で禁止されていますよということで、やはりその発生をまず防止する、そこをお願いしながら、調査をもう一回やる場合には、やってほしいと思うんですね、情報収集をやる場合にはですね。

やっぱり、もう首切りが起きた後では何とも、これは非常に厳しい状況になっていますので、発生しないように一言訴えてほしいと思いますが、いかがでしょうか。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えいたします。

それぞれの会社の経営方針あるいは経営改善等がありますので、行政がいわゆる介在するというのは限界があります。ありますが、今申し上げたように結果が出てから対応するだけでは

十分でないので、ここについては南会津地方については南工会というのがありますので、ここを通してただいまご意見をいただいたことについて、十分な連絡調整を図っていきたいと、こう思っておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　19番、大竹幸一君。

○１９番　大竹幸一議員　時間もあとありませんので、最後に１点だけもう一回求めますけれども、要望で終わりますが、先ほど町長に対して処分をみずからすべきでないかというような提案、質問をしましたが認識の違いというような話もありましたが、しかしそうではなくて、やっぱり多くの町民が求めているのは、やはり町長みずからも美里町のような給料カットでないにしても、やっぱり客観的にわかることをやっぱりやるべきだと。自分に対して口頭による処分というのがあるのかどうかちょっとわかりませんけれども、やっぱり客観的なことでやるべきだと、そういうふうに多くの町民は、私の知っている範囲では求めているということを述べて、質問を終わりたいと思います。

○渡部康吉議長　以上で、19番、大竹幸一君の一般質問を終わります。

暫時休憩いたします。２時45分まで休憩いたします。

休憩　午後　２時２５分

再開　午後　２時４５分

○渡部康吉議長　休憩前に引き続き会議を開きます。

――――――――――――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――――――――――――

◎発言の申し出

○渡部康吉議長　ここで、15番、阿久津梅夫君より発言したい旨の申し出がされておりますので、これを許可します。

15番、阿久津梅夫君。

○１５番　阿久津梅夫議員　２点目の再質問の中で「　　」と発言しましたので、「集落」と訂正します。

○渡部康吉議長　ただいま説明のとおり、訂正についてご了承願います。

◇

◇　山　内　　政　議員

○渡部康吉議長　次に、５番、山内政君の登壇を許します。

５番、山内政君。

○５番　山内　政議員　議席番号５番、山内政、質問通告によりただいまから質問を行います。

質問は大きく分けて２つであります。

第１点が平成21年度の公共事業について、第２点目が林業振興に係る平成21年度の方策についてであります。

平成21年度の公共事業について。１つ目、公共事業費が年々減少していく中で、雇用の受け皿としても果たす役割はまだまだ大きいものがあると考えられます。継続事業を含めて各課及び教育委員会では、事業費規模1,000万円以上でどのぐらい事業を計画されているのか伺いたい。

２点目、公共事業を担う事業者は、災害時に先頭に立って復旧に努められているわけでありますが、公共事業の減少により事業者が少なくなって緊急時の災害に瞬時に対応できるのか非常に不安を感じます。対応策について伺いたい。

３点目でございますが、地域提案型の公共事業は今まで提案されてきているのか伺いたい。

大きな２点目ですが、林業振興に係る平成21年度の方策についてであります。

１つ目、今年度新しい試みとして間伐材のストックヤード事業を実施されたわけでありますが、実施後の検証を踏まえて平成21年度はどのように取り組まれていかれるのか伺いたい。

２点目、時代の要請とはいえ、地球の温暖化対策は国家の喫緊の課題であります。その意味で当町は広大な森林を擁しており、温室効果ガス排出量取引の引き受け手として今後有望な地域と思われます。

林業振興策の１つとして取引相手方を求めるなど、このことに取り組んでいかれる考えがあるか伺いたい。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　５番、山内政議員のご質問にお答えをいたします。

初めに、平成21年度の公共事業に関する１点目、1,000万円以上の事業をどのくらい計画されているかとのおただしがございました。

平成21年度予算については現在予算編成の作業中であり、事業内容等予算規模については未定でありますが、公共事業は地域経済の活性化や雇用の受け皿として果たす役割は大変大きなものがあると考えております。

したがいまして、財源状況等投資効果を十分検討した上で予算化を図ってまいりたい、このように考えておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

次に、２点目、緊急時の災害対応についてのおただしがございましたが、本町における災害発生時の対応の中で応急対応から復旧及び復興対応を含め災害対策活動が円滑に実施できるためには、地元事業者のご協力が必要不可欠であると認識しております。

このことから、福島県建設業協会山口支部、それから南会津町建設協議会、この２団体と平成19年９月１日付にて災害時等における応急活動の協力に関する協定を結び、地震、大雨等を含めた災害時における応急対策等活動協力をお願いしているところであります。

本年度においても９月26日に協定団体の組織構成事業者と一同に会しての打ち合わせを実施し、災害時における対応等の確認並びに災害を未然に防止するため、各行政区と連携した危険箇所の調査等について打ち合わせを行ったところであります。

引き続き災害の未然防止並びに災害対策活動について各事業者へご協力をお願いするとともに、相互の組織間の的確かつ迅速な連携が図られるよう対応していきたい、このように考えております。

次に、３点目、提案型公共事業はこれまで提案されてきているか、こういうおただしがございました。提案型公共事業は従来の行政主導による事業の推進だけではなく、地域住民による斬新なアイデアと創意工夫によるみずからの事業提案に対し予算を配分するものであり、いわば地域のやる気を応援する政策でございます。

本年度は地場産材をふんだんに使用した、健康で安全な良質の木造住宅の普及を図るため、ＮＰＯ法人南山匠の会による田島型モデル住宅建設に対する助成を実施したほか、昨年度においても同じく有限責任事業組合ＦＲＳによる、山村力誘発モデル事業への補助を行いました。

また、このほかこれまで地域活性化発展支援事業を60件採択したほか、集落維持発展支援事業では、26集落に対して助成を行うなど、地域提案型の事業を積極的に推進してきております。

次に、林業振興に係る平成21年度の方策に関する１点目、平成21年度においてストックヤード事業にどのように取り組むか、このようなおただしがございましたが、議員ご承知のとおり、ストックヤード事業はこれまでの林業振興支援策に加え、木材搬出支援事業とともに、本町独自の木材流通システムを構築するための新たな取り組みとして実施しております。今年度

は事業初年度であることから、主に町有林からの間伐材を試行的に搬出し、現在その費用対効果や次年度以降の事業展開に向けたストックヤードの管理体制等についての検証を進めているところでございます。

また、平成21年度においてはかねてより提案をしておりました、道路等の沿線型森林整備等林産事業を森林環境税事業に要望し、約90ヘクタールの民有林を整備する計画としており、こうした事業とあわせてさらなる事業の活用と推進を図ってまいりますので、ご理解をいただきたいと思います。

次に、２点目、林業振興対策として温室効果ガス排出取引に取り組む考えがあるかとのおただしもございました。広大な森林面積を有する本町におきましては、議員ご指摘のとおり林業振興を図る上で非常に有効な施策の一つであると認識をしております。

しかしながら、いわゆる京都議定書に基づく温室効果ガスの削減目標を達成するため、福田内閣時代に排出権取引を試験的に行う方針が打ち出され、試行に伴い企業を主とした参加団体の募集が始まった段階でありますが、制度の詳細は確立されていないのが現状でございます。

近年の国内における排出量取引については、企業等が社会貢献的立場での自主的取り組みとして地方自治体と協定を結び、人的または経費を負担することにより、森林整備が進められていることから、当町においてもさきの１点目とあわせまして、南会津町独自の制度を模索し、貴重な地域資源の保全の見地からも、積極的にこの問題に取り組んでまいりますので、ご理解をいただきたいと思います。

以上、町長に求められました答弁とさせていただきましたが、具体的事項につきましては担当課長等に答弁させますので、よろしくお願いをいたします。

○渡部康吉議長　教育長。

○横山恒廣教育長　平成21年度の公共事業について、教育長にも答弁が求められておりますが、この点に関しましては先ほど町長が答弁申し上げたとおりでございますので、ご了承いただきたいと思います。

○渡部康吉議長　５番、山内政君。

○５番　山内　政議員　まだ議会を通過もしていませんし、まだ最後の詰めがあるということで、金額的にはお示しをいただきませんでしたが、公共事業という観点で質問をさせていただきたいと思います。

その前に、同じような質問になるかと思うんですが、各地域では町単独事業ではなくて県の補助事業等を地域の人と一緒に取り組んでおられるんではないかというように考えております。

各支所で地域の要望等で県の出先機関と協議をして事業化をされているというようなところがありましたらばお尋ねをしたいと思います。初めに舘岩総合支所管内でそういうことが、公共事業というようなことで進められているかどうか、お尋ねをしたいと思います。

○渡部康吉議長　総務課長。

○室井　裕総務課長　お答えいたします。

今ほどの舘岩支所管内でのというお話でございましたが、先ほども申しましたとおり、今現在、平成21年度の予算編成作業中でございまして、年明け、具体的に副町長、町長査定という日程になっておりますので、今の現状の中では数字的なお話はちょっとできませんが、全体的な観点でお話しさせていただきたいんですが、ことしの20年度の当初予算を見ますと、いわゆる公共事業と言われている普通建設事業費が、当初予算の場合一般会計で約15％ほどございます。その中で1,000万円以上の工事がどのぐらいあるかというような視点で申しますと、約16億円ほどございます。

それで、20年度事業につきましては防災行政無線、それから舘岩小学校の体育館の建設等、大きな事業がございますので、かなり予算的に膨らんでおりますが、来年度以降につきましてはそれらの事業が終了もしくは縮小するというようなこともあって、かわりに大型事業としましては、田島地域の統合保育所事業が入ってきますので、これらを踏まえても総額的な観点から言いますと、財政事情にもよりますが、ほぼ前年度と同じかそれ以下ぐらいの規模になるんではないかと、こんなふうに考えております。

そういうことで、それぞれ支所管内で抱えている事業等もございますが、今後の予算編成後に改めて皆さんにお示ししたいと、このように考えておりますので、ご理解いただきたいと思います。

○渡部康吉議長　５番、山内政君。

○５番　山内　政議員　ありがとうございました。

質問の論点を各支所間で県事業を取り込まれているというようなことで質問させていただきたいと思うんですが、そのことにも答えられないということであればよろしいんですが、多分各地区で要望事項が上がってきたところを、ただ支所間で協議をされながら、出先の県関係者と詰めて事業化をされているというようなことが私はあるんではないかというふうに考えておりますので、３つの支所にお尋ねをしたいと思うんですが、それについても答えられないということであれば、それはそれでそういうふうにお答えいただきたいと思います。

初めに、舘岩総合支所でそういう計画を進められているかどうか、まずお尋ねしたいと思い

ます。

○渡部康吉議長　舘岩総合支所長。

○星　廣政舘岩総合支所長　ただいま総務課長のほうからも申し上げましたように、まだうちのほうも査定は終わっておりません。いろいろ要望は要望としてございますが、全く県のほうの状況もまだわかりませんし、査定も終わっておりませんので、今総務課長が申し上げたような全く状況でございます。

○渡部康吉議長　５番、山内政君。

○５番　山内　政議員　わかりました。理解をいたします。２つの支所も多分同じような回答だと思いますので、論点を変えたいと思います。

極めて、新聞等で報道されておりますように、当町もそうですけれども、公共事業は本当に少なくなっておるわけです。新聞なんか見ると道路づくりでありますとか、ダムづくりでありますとか、いろいろ公共事業全般が非常に逆風の時代というふうにとらえてもいいんじゃないかというふうに思いますが、私たちが住むこの町にとって、公共事業を進めながら社会資本が整備されて、その恩恵にあずかりながら地域の雇用がしっかり図れて、しかも地域の経済をしっかり支えてきた、それは全く今まで事実ではなかろうかというふうに思うわけです。きょうも本庁に来る前にしっかり道路整備等されておりました。

そういう中で、工事現場に身を置きながら子育てをされ、子供たちを高校、大学と進学させるために懸命に働いてこられました。その意味では本当にこの地域のセーフティーネットの一つではなかったのかというふうに考えるわけであります。

そういった中で、公共事業の削減、脱公共事業と言われている中で、その方々をどんどん縮小されていくその事業の中で、それに従事されていく方をどういうふうにフォローしていくのか、まず初めに町長のお考えをお聞かせ願いたいと思います。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをさせていただきます。

議員がおただしのように、大変憂うべきことだと思います。公共事業に限って言いますと、公共事業が減ってきたと、これは減ってきたということも一つありますが、逆に言えば故意に減らしたと、こういう認識も持っております。そんな中で、いわゆる道路特定財源が一般財源化されていく、その中で中期道路整備計画ができました。ここがもう一度国会の中で審議をされて、十分喫緊の状態の数値を採用していないと、こういう中から見直しを今しているところでございます。

そんな中で、それぞれの首長が提言をしなさいと、言いたいことがあったら意見を言いなさいと、こういうことがありましたので、私からはこういう意見を申し上げました。

つまり、地方と都市の対立を軸にしてはならない。先ほども申し上げましたが、都市には都市が抱える問題があります。例えば先ほどいやしの問題、健康の問題がありました。あるいは化学物質で大変苦しんでいる方々がいます。

しかし、地方は今言ったように雇用を中心にした所得の減退が非常に大変な問題です。ここのところでお互いがお互いに足らないものを補い合う方法で道路の整備をできないだろうか。つまり、都市と地方が安全に安心に行き来できる道路整備は絶対に必要なんだ、こういうことから、私は私の町で引き受けられる問題として、化学物質過敏症の方々のお引き受けをする、そこで、ぜひ都市部の皆さんはこの道路、あるいは橋梁等の整備についてご理解をいただきたいという提案を申し上げました。

これについては、国のほうも、あるいは県の土木部長も大変新しい考え方として整理をしたい。そこで、お答えをしますが、道路を整備したその沿線には、必ず農地や山林があります。もちろん原野もあります。ここのところが放置されている。いわゆる遊休農地になっていたり、あるいは森林が健全な状態になっていない。ここの整備を道路を挟んで100メートルぐらいずつできないものだろうか。道路沿線型の公共事業を新たな提案として出しました。

それから、もう一つは冬です。冬の生活は非常に厳しい。そこで除雪体制は十分に確保すると言いながら、もう一方でみずからが雪の排雪ができるような流雪溝を特別に会津地方については新たな公共事業として位置づけしてほしいということで、国のほうにご依頼を申し上げて、今国の方では検討しております。

したがいまして、公共事業については、今後これ以上削減のなることのないように、精いっぱい要望等含めて活動してまいりたい、こう思っておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　５番、山内政君。

○５番　山内　政議員　本来国が示さなければならないはずの脱公共工事、その受け皿づくり、本来国が示さなければいけないと私は思うんですが、地方の自治体経営者としてプランがあればお聞かせをいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

先ほど提案型の話をしましたが、私はこの公共事業についても提案をどんどん出すべきだろ

うと。それは議員の皆さんがそれぞれ住民の方々からご要望をいただいたり課題をもらったりする、その課題を集めながらしっかりと煮詰め合わせていって提案をしていくべきだろうと、こう思っております。

そんな中で、私は工事現場で働く方々が子育てをしている、あるいは親の養護をしている、さまざまな状態に置かれていますので、まず一つとしては、県のほうの事情もありますが、これまで原油の高騰による差額、それから鉄骨等も今は下がっておりますが、これらが非常に高騰したときの設計額の差額、これを４月にさかのぼって手当てをしていきたいというのが一つございます。

そしてこの方々に、もう一つは、来年度以降やまなみ泊覧会等に向けたポジションを与えることができないか。今まで進めてきたやまなみ泊覧会の構想とあわせながら、新たな取り組みをしていくべきだろうと。

それからもう一つは、やはりこれだけ森林面積があるわけですから、森林は森林組合というふうに固定観念をつくり上げないで、いわゆる森林の中でもそれぞれポジションをつくって、それなりに能力が優先する場所を仕分けをしながら、その方々の雇用につなげていきたい、このように考えておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　５番、山内政君。

○５番　山内　政議員　森林型の雇用ということ、後ほどそれについても再質問させていただきます。

公共事業について、１点目の最後の質問になるんですけれども、失業対策、雇用対策ということで考えていただきたいんですが、春先になるかと思うんですけれども、小規模な公共工事を各地域ごとに、金額的には50万円以下とか、そういった工事を雇用対策として発注することができないか。これは本当に各地域で要望がある小さな仕事があるわけですけれども、それをやっぱり春先の一番仕事のないときに、大きく出すんではなくて、小口で出していただけるような、４月にはもう予算が決まりますので、そういったことを考えていただきたいなと、これから先、経済状況はちょっとわからないんですけれども、好転すればそういうことはなくてもいいんですが、このままの状況ですとやっぱり春先は非常に厳しいなというように考えておりますので、そういったことも考えられないか、町長の考えをお聞かせいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

これは、町単独事業については限りなくそうしたいと思っています。ただ、県の補助金等を

注入するものについては、いわゆる県の指令が出ないと動けないということがありますので、これは県に再々要望してきたんですが、なかなか事務的な手続もあって思うようにいかなかった。少なくとも連休前には発注できるようにという要望をまたことしも強く県のほうに訴えていきたいというふうに思っております。

そんな中で、私はこの前、建設業関係者が商工会長さんと一緒に県のほうの事務所のほうに要望に行きました。その中の一つにはいわゆる繰り越し事業をそう難しい手続をなくできないだろうか。つまりこういう要求が続いておりますので、いわゆる予算措置をされたものについての繰り越し事業をすることによって、来春雪が消えると同時に事業に着工できると、こういうことを非常に拡大できないだろうかと、こういうようなお願いをしてきたそうでありますので、この後１月６日に４つの町村の首長がそのことについて、県のほうにまた要望に出向きたいと、こう思っております。

それから、そういう中で、考えていかなければならないのは、もう一つ要望することだけではなくて、実態としてどうその形をつくり上げるかということが大事ですので、私は国には大変申しわけないが、会計年度の変更、これを息の長い形で持ち上げてまいりました。なかなか動いてくれません。しかし、雪の降る地方、降らない地方、会計年度が変わって利害が大きく変わるというのはありません。しかし、東北地方を中心とした積雪地帯は大いにこれは苦慮しています。このこともあわせて国のほうに要望しながら、抜本的な改善も図っていくべきだろうと、こんなふうに思っておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　５番、山内政君。

○５番　山内　政議員　その国に対しての要望は引き続き精力的にやっていただきたいというふうに思います。

それでは、次に緊急時の災害に関しての再質問をさせていただきます。

先ほどの答弁の中で、建設協会の山口支部と田島支部というふうに理解してよろしいですか。多分地域的には西部地区と東部地区というふうな理解かなと思うんですが、違ったら後で訂正をお願いしたいと思いますが、その中で、仮に災害が起きたときに出動した場合はボランティアなのか、あるいは最低の経費は保障されているのかということを含めて、例えば当然災害の一番大変なところへ行くわけですから、事故等も当然想定されるわけですね。そういった場合の保障等は、その協議会ではどういったことをされているのか、お聞きをしたいと思います。わかる方。

○渡部康吉議長　住民生活課長。

○長沼芳樹住民生活課長　お答えいたします。

まず初めに、その協定の相手先の関係でございますが、最初申し上げましたとおり、福島県の建設協会の山口支部、いわゆる舘岩ブロック、伊南ブロック、南郷ブロックの加盟社がおります。合計８社でございます。それから、もう一方につきましてはいわゆる田島支部でございますが、名称としては南会津町建設協議会という名称にしてございます。これにつきましても、荒海ブロック、田島ブロック、桧沢ブロックの３つのブロック、合計加盟29社ということでございます。

この災害協定につきましては、それぞれ結んでおるわけでございますが、町とこの団体のみでなくて、消防団長という三者の協定ということになっております。この経費の関係でございますが、費用の負担につきましては、応急活動に要した経費については、いわゆる甲乙協議の上決定するというふうにしてございます。

以上です。

○渡部康吉議長　５番、山内政君。

○５番　山内　政議員　甲乙協議ということは、協議するということなもんですから明言できないかもしれないですが、ボランティアでないという理解でよろしいですか。

○渡部康吉議長　住民生活課長。

○長沼芳樹住民生活課長　お答えいたします。

いわゆる災害の応急活動のみでなく、いわゆる予防活動についてもこの団体につきましては精力的に協力を申し上げるということで申し上げています。基本的には予防活動についてはボランティアというようなことを申しておりますが、そうではなくあくまでも有償という体制で相談はさせていただいております。

それから、応急活動につきましても当然経費が発生いたしますので、すべてがボランティアということでなくて、基本的には有償の場合もあり得るというふうに考えております。

○渡部康吉議長　５番、山内政君。

○５番　山内　政議員　有償ということであれば、非常に責任分担といいますか、わかると思うので、非常にいいなというように思います。

そうでないと、どうしても工事等を災害が起きた場合、そこの工事をぜひ受注したいという思いとが、業者が一生懸命頑張ってボランティアでやってしまうケースがなきにしもあらずでございますので、その辺はきちんと協議をされて進めていただきたいなというふうに思います。

それから、３点目の地域提案型ということで、私は町長が答弁されて、なるほどこれも地域

の提案型の公共事業だなというふうに理解をしたわけですが、私が申し上げたかったのは、いわゆる町長が立候補されたときに政策の中に地域提案型という公共事業というようなことをされておりましたので、ぜひ確認をしたいなという思いで質問したわけですが、これは各地域の公共事業を担っている業者の方が、そういう提案をされてきたかということもお話を聞きたいなということで質問したわけです。

先ほど匠の会、まさにこれは地域の事業者でありますので、全くそういうケースだと思うんです。そのほかに採択はされなかったけれども、ぜひこういうことでやってみたいというような事業者があったかどうかについて、確認をしたいと思います。答弁できる方、どなたでも結構です。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

提案型公共事業には２つございます。１つはいわゆるソフト、あるいは体制的なものの提案、もう一つはハード、つまり事業と直結する提案。このソフトに関するいわゆる体制とかというのは、いわゆる先ほど申し上げた、災害時における協定などは提案をしていただいたと、こういうふうに認識しておりますし、工事に関するものについては、建築のほうの業者には提案いただいておりますが、建設業については今のところ大きな提案はない、こういうことでご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　５番、山内政君。

○５番　山内　政議員　今後は、災害で協定を結ばれたぐらいに各西部地区、東部地区の建設事業者さんとも親密な関係で良好な関係といいますか、進めておられるようでございますので、ぜひ地域提案型の公共事業もされるように、事務方のＰＲをよろしく進めていただきたいというふうに思います。

次に、林業振興に係る方策についての再質問をさせていただきます。

ことしの試験的にやられたストックヤードは私は大きな一歩であるというふうに思っております。

次はいかに売るか、営業をどうするか。それから町有林の間伐材のほかに、私有林の間伐材をどうストックヤードに持ち出すか、そういうこともあるのではなかろうかというふうに思われます。

そこで、担当課長にお伺いをしたいと思うんですが、公務員はとかく営業が弱いというふうにされておりますが、間伐材をいかに売るか、今後について方策等を考えておられれば伺いた

いと思います。

それから、私有林の間伐材をどうストックヤードに持ち込むか、つまりこれもＰＲだと思うんですけれども、計画があればお伺をしたいというふうに思います。

○渡部康吉議長　農林課長。

○角田　厚農林課長　ただいまのご質問にお答えいたします。

まず初めにいかに売るか、営業をどうするかというようなご質問でございますが、１つは南会津産材というような位置づけ、ＰＲをしていくことがあろうかと思います。来年度やまなみ泊が開催をされます。そういう中で、いろいろ事業があろうかと思いますが、連携できる事業と連携をしながら、このストックヤードを中心とする南会津産材のＰＲ，こういった事業について検討を進めていきたいというふうに考えております。

もう一つは、ストックヤード事業を展開するに当たりまして、そのストックヤードを管理していただくことがございます。それにつきましては、今年度管理主体をそれぞれ伊南と舘岩の森林組合にお願いをしてきています。

それで、議員ご指摘のとおり、非常にその営業という部分は町が先頭に立ってすべてやっていくというようなことは難しゅうございますので、むしろその管理主体が中心となってそこに搬出をされました木材について、そこで販売あるいはそこでＰＲができるというような体制、仕組みづくりができればというような考え方でおります。これにつきましては、今年度の事業展開を検証しながら今後検討してまいりたいと思います。

もう一点、私有林の間伐材の搬出についてということでおただしがございました。今年度私有林の間伐あるいはそれを搬出する、そういう上でこれまで詰めてきた中では大きな課題といいますか問題点としまして、搬出に係る経費の問題がございました。それにつきましては、木材事業者あるいは関係事業者の方々のご意見をちょうだいをしながら、この搬出支援システムの事業の再検討といいますか、事業の仕組みについても検討してまいりました。そういった中で、私有林を搬出するに当たっての経費負担の軽減についても進めてきております。

そんな中で、一つ一つの課題を整理をしながら私有林の搬出をしやすいような一層の仕組みづくりをしてまいりたいと思います。

また、この後のことも含めまして、先ほど町長からございましたように、それぞれ森林組合あるいは造林組合がこれは搬出をする、あるいは山のプロでございますので、その先頭に立って対応される方々と、そこに新たに建設業の方、さっき町長からお話がありましたけれども、そういった方々とすみ分けをしながら連携をして、そのＰＲをしていく、搬出支援をなお一層

浸透させながら私有林の間伐材のストックヤードの持ち込みを進めるというようなことを考えているところであります。

以上です。

○渡部康吉議長　５番、山内政君。

○５番　山内　政議員　今ほど課長さんから答弁いただきました現在２カ所舘岩と伊南地区、場所は南郷地区ですか、ストックヤードがあるわけですけれども、今後ヤードの増設等については、事業展開についても含めてですが、町長はどういうふうに考えておられるのかお聞きしたいと思います。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

まず結果から申し上げますとストックヤードはふやしていきたい、限りなくふやしていきたい。これはいかに売るかという議員からおただしがありましたが、私はいかに売るかの前にいかに見せるか、つまり木材というのはこれまで建設用材としての売買が主な取引でした。これですると曲がった材料は役に立たないと、こう判断をして山に捨ててきたんですね。そうではなくて、使い方を考えれば、あるいは見ていただいた方がその材料を欲しければ売れる、こういうことでございますから、私はこれまで製材工場に持ち込んだような意識でストックヤードに材を持ち込むのではなくて、最初から用材として使用可能なものは市場に、あるいは製材工場に持ち込んでいただく。

しかしそうではないものについてストックヤードに持ち込んでいただくことができれば、そこで先ほど農林課長もお話ししましたが、やまなみ泊覧会等のイベントを通して、そこで新たな木材の活用の発見をしていきたい。

したがいまして、１カ所、２カ所あればいいということではありませんので、私はそういう適当な場所があれば、ストックヤードは増設していきたい。その一つとして管理の問題もありますから、でき得れば製材工場の近くに、あるいは敷地内にお貸しできるスペースがあれば、そういうところも有効に活用していきたい、このよう考えておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　５番、山内政君。

○５番　山内　政議員　先ほど公共事業の受け皿ということで、森林業ということを町長話をされましたけれども、実は伊南地区で土木業に従事した若者が、仕事がなくて森林組合に就職をしました。そういう事例があります。今後は多分どんどん高齢化してきた森林労働者をふや

すためには、そういった若い人たちの育成をしなければいけないなというふうに感じて、地域の人間としては思っているわけですが、先ほどヤードの話の続きにもう少し話をさせていただきたいと思うんですが、ヤードを地域の方に一部開放されて、例えばシイタケのほだ木とかナメコのほだ木なども実はきちっと整理して売っていただけないかとかいうような、これからちょっと先へ進んで、そういうことができると、身近な生産者と、なかなか山を持っていなくてもそういう栽培をしたい購買者ですか、そういった市場、市場というと変なんですけれども、市場的な役割も果たせるんじゃないかなという、求めやすいという意味ですね。山の市場ですか、つまりそういったことも将来的に考えられるのかなというふうに思うんですが、町長の考え方をお伺いしたいと思います。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

全くそのとおりです。そういう形をできるだけ早く築き上げたい、こう思っています。それで今伊南の久川城跡の下のところにスペースがあるというところで、そこの若者ともお会いしてきましたが、今まきに大変よく売れていると、したがいましてそのまきを、あれは木材を野ざらしにするのではなくて、それを屋根をかけて保管できるようなところがあればなおいいんだと、こういうことがありまして、これは建設課のほうから国土交通省のほうにつないでいただいて、そういう場合については２分の１の補助制度がありますと、こういうことも承っておりますので、積極的に進めていきたいと、こう思っております。

○渡部康吉議長　５番、山内政君。

○５番　山内　政議員　先ほども話をしましたけれども、後継者づくりについてもたった１人といいますが、本当にこの１人が就職してくれたということは非常に大きい意味を持っていると思います。そこで、今後の育成を図るというようなことで、町長の考え方をお聞きしたいと思います。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

この林業政策はいわゆる現在木材が売れるか売れないかという議論が非常に多いんですね。しかし、森林整備をしてCO_2の削減効果があります。しかし林内に放置してきた場合は、これは腐朽して腐って、またCO_2になるんです。

ところが、私たちの生活に使うために林産として引き出せば、よりCO_2の削減効果があるんです。ここのところを考えれば、これまでのような国や県の補助制度だけではなくて、民間

の支援、いわゆるＣＯ₂削減の排出権等々の結びつきにも関連させながら、いわゆる民間の資本を入れながらこの後継者対策はすべきだろう、こう思っています。

その中で、第１に大事なのは、非常にやはりその林業に携わる労働者は危険度が高いということですので、まず安全の講習会を図る。それから、やはりその機械の操作の技能の取得もしていただかなければなりません。こういう従事するための最低限の資格を取得するための講習会を図る。

それからもう一点は、これはぜひやりたいと思っておりますが、お金もかかることですが、やはり山に入った場合にはどういうような服装でもいいんではなくて、しっかりと安全に対応できるような服装をしながら、その服装が若者があこがれるようなそういう服装にも切りかえていくことができれば、私は森林整備を含めて、これから若者が従事してくれる。これは現実に森林組合の若手から要望が上がっています。

いわゆる、あなた方は汚いと、こういうふうに言われたと。子供からも一生懸命働いてくるんだけれども、真っ黒になって帰ってくる、それはそれでしようがないことなんですが、それでも、やはり誇りの持てるようなものにしていきたいと、ここまで考えておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　５番、山内政君。

○５番　山内　政議員　ぜひその方向で進めていただきたいと思います。

最後にＣＯ₂の関係で一つだけ質問させていただきます。

本当に時代の要請である割には、まだまだ具体性に非常に乏しいことでございますが、先ほどの答弁で内容は理解をさせていただきました。私はそれを提案しているというのは、一つは事業費を確保するためになかなか予算がとれないという状況があると思うんです、現実的には。その中で外からお金を入れるという意味で、そういう取引、いわゆる第三者、都会とか企業からの取引が有効だなというふうに思って質問をしたわけですが、まだまだ時間がかかるなというふうに私も感じております。双方にこれは利点があるんですが、なかなか政策的に進まないと。国策的にですか、まだまだ試験的というようなことでございますので、ただ私は都会という意味では、たまたま東京都墨田区が姉妹提携をされておりますので、何かの機会がありましたらば、墨田区がそういうことをやっているかどうかわからないんですけれども、ぜひそういう制度ができたらば、ぜひおらほうで全部いただくからひとつよろしくお願いしますというような話も、双方の担当者とか部長さんがお会いするときに、話にでも出していただければというふうに思っております。そのことについて、お答えをいただいて、質問を終わりたいと思い

ます。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

これは、いわゆる先ほども申し上げましたが、国が定まらないからできないということではなくて、今できることを現実的に形としてやる、それをもって国に示す、これがまさに私は提案型の公共事業だと思います。ただ、公共事業として認めるか認めないかというのはありますが、林野事業についても公共事業に変わりはありません。したがいまして、ここのところはいわゆる先ほど申し上げたように森林環境税を最大限に生かしながらも、やはりこういう形になりますよと、こういうことが効果として上がりますよということを出現させて、そのことを友好都市関係の人たちに見ていただく、その上でなるほどと理解をしていただきながら支援をしていただく、こういうシステムだろうと思います。

したがいまして、友好都市関係のみならず、南会津町と関係を持っていただいた方々、それのリストをつくりながら積極的にこの問題には取り組みをさせていただくと、こういうことでご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　以上で、５番、山内政君の一般質問を終わります。

―――――――――――――――――――――――― ◇ ――――――――――――――――――――――――

◇　星　　光　久　議員

○渡部康吉議長　次に７番、星光久君の登壇を許します。

７番、星光久君。

○７番　星　光久議員　どうも６人目で大体答えるほうも大変だと思うし、聞かされているほうも大変だと思います。そういうことで質問については簡単明瞭に質問して、簡単明瞭に答えをいただけば、短時間で終わっていきたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

そこで、きょうについては３つ、鳥獣などによる被害の防止対策について、それから食料品の安心・安全について、それから３つ目が職場の確保と雇用の安定についてであります。

今現在、猿などによる農作物、これは物すごく荒海地区は非常にこれは中荒井から滝原についてはすごい猿の出没という、頭数も多くなりました。それで町としても物すごい力を入れているんですが、何ともこれは繁殖と言ったらいいのか何て言っていいか、非常に多くなって、捕獲を含めて間に合わないというか、そういうことで、国など、県などの連携をさらに深めな

がら成果を優先する具体策、どういうようにしたらこれは一番有効な手段かというのも一緒に考えていかないと、行政にばかり押しつけてもだめですので、議員の方も含めて町内みんなでこれは対策しないとだめかななんて思っているわけなんですが、そういうことでよろしくお願いしたいと思います。

あわせて、どういうところに出ているかというと、猿は鉄道沿線、特に古今から滝原に向かってはずっと山際、これは線路が入っているもんで、そこを中心にして左と右に分かれて出没して、そして草なんか置いているとそこさ隠れたり何かして、非常にめっかさんねえように逃げて歩くという、そういうことで大変毎日追いかけたり何かしてやっているんだけれども、なかなか効果が上がらない。

そういうことで、効果を上げるにはそれではなじょするか、やっぱりこれは草刈りだの作物の選択、植えつける作物、これは猿の嫌いなのがないかなと思っているんだけれども、あと箱わなといって、みんなおりというんだけれども、おりでもかけたり、あとは銃殺しかないですが、そういうことで何かいい方法はないかなということで、一生懸命考えているんだが、これは難しいと、そういうことでいろいろな案がありましたら、よろしくお願いしたいと思います。

それから、食料品の安心・安全について。これは10月前までは中国のギョーザだのに端を発して国内でも騒がれ始めていたんですが、そればかりではない、やっぱり国内でもありとあらゆる、国内で輸入した品物を国内産だの、いやこれはほかから持ってきたから、県外でも我がほうのゴボウだなんて、これはおらほうでつくっただなんてうそこいたりして、そういう形が今どこでもこれはありとあらゆるところに、魚から肉まで、あと野菜、土の中から上の米までみんなこれ我がつくった品物でないと安心できないんでないかなと、今そういうことを思っているんですが、そういう形でその辺についても、町としてそういう意見というか相談があるのかないのか伺いたいと思います。

それから、職場の確保と雇用安定について。これは11月からはまたアメリカで風邪を引いちゃったから、これは日本でも風邪だか何だか、インフルエンザだかわからないような衝撃が、打撃があって、豊かで安心・安全な生活を送るにはほど遠い。

やっぱりそこにもってきて医療の充実は欠かせないものでありますので、今や世界が急落している。特に自動車関係が非常に悪いと思ったら自動車関連を含めてすべての今職場、職業とかにぶってきている。そういうことで当町でも非正規職員、正規職員を含めて解雇をされているのかいないのかも含めて求めるわけですが、把握しているかしていないか。

二、三年前にみんな記憶に新しいと思うんですが、栃木富士が自動車関係で引き揚げて、そ

れからまたソーイング社がことし引き揚げた。そういうことで本町においては自動車関連会社が非常に多いわけなんですが、そういうことで町にもさっき19番議員の中で答えがあったんですが、別な角度のほうからも含めて相談があったかないか含めて、よろしくお願いしたいと思います。

壇上からは以上でございます。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　７番、星光久議員のご質問にお答えをいたします。

初めに鳥獣被害の具体的な防止対策についてのおただしがございました。

町では昨年11月に策定をいたしました日本猿保護管理計画に基づき捕獲体制の強化に引き続き、本年度からは町独自の猿被害防止対策に係る補助制度を新たに創設したところでございます。国からの支援策といたしましては、鳥獣被害防止特別措置法が昨年の12月に制定されたことに伴いまして、地方交付税措置が拡充され、鳥獣被害対策に係る費用についても財政上の支援を受けることが可能となりました。

この支援策を含め、町といたしまして、被害防止指針を明確にするため、本年９月には南会津町鳥獣被害防止計画を策定し、県の承認をいただいているところであります。また、これにあわせ、本年10月29日に区長会の代表、捕獲隊の代表、ＪＡの役員からなる南会津町猿被害防止対策会議を設置いたしましたので、この対策会議を主体に国の補助制度の活用や、会津鉄道沿線を含めました森林整備とあわせての緩衝帯整備、冬場のえさとなるクワの木の伐採、捕獲おりの増設、さらに猿の行動域を把握し、広域的な対応を行うための発信機の取りつけなど、関係機関と連携をし、広域的かつ総合的な取り組みを進めていくことにしております。

また、猿被害対策は地域が一丸となって取り組むことが最も重要であるという認識から、説明会等を行いながら、啓発に力を入れていく考えでありますので、ご理解をいただきたいと思います。

次に、食料品の安心・安全について町内に問題はなかったか、このような問題にどのように取り組まれたかというおただしがございました。

現在町内で生産された食料品で偽装等の問題があったものは把握しておりません。過去に消費されたものとしましては、さきの第３回定例会で教育長より報告をいたしましたが、本年全国的に明らかになりました事故米を原料とするシラス入り厚焼き卵が平成19年２月に町立小学校１校で使用されていた事実が判明し、このことにつきましては、本年の９月に教育委員会から保護者に周知をしております。

町での取り組みといたしましては、南会津保健福祉事務所及び南会津農林事務所が開催しております食品表示にかかる学習会の広報活動への協力などを行い、食品表示の適正化を指導、推進しております。

また、食の安全・安心を確保する上で、生ごみなどの有機性資源を活用した良質な堆肥を農地に還元して土づくりを行うとともに、生産流通過程を明らかにするトレーサビリティーの取り組みや、食に対する正しい知識を得る食育と結びつけた地産地消を進めております。

今後とも、関係機関と連携を図り、食の安全・安心確保の取り組みを進めていく考えでございますので、ご理解をいただきたいと思います。

次に、職場の確保と雇用の安定についておただしがございましたが、自動車産業を初めとする世界的な景気悪化の中、多くの企業が大変厳しい経営環境にあり、当南会津町に立地をする企業においては完成品を出荷するものではなく、生産ラインの一部をこの地域で生産しているため、これらの影響を受けて臨時社員の削減など厳しい雇用情勢となってきております。

今後厳しい経済状況はしばらく続くことが予想されますので、まず企業への融資制度などの情報を提供し、雇用の安定を確保するとともに、離職者に対しましては先ほど19番議員にお答えいたしましたとおり、関係機関からなるハローワーク南会津雇用対策推進協議会を立ち上げ、雇用の確保に努めてまいりたい、このように考えております。

以上、お答えを申し上げましたが、具体的事項につきましては、担当課長等に答弁させますので、よろしくお願いをいたします。

○渡部康吉議長　７番、星光久君。

○７番　星　光久議員　今答弁いただきました。我々町としての努力は非常に認めるという形で、本当にやっぱり猿を含めてイノシシ、シカがやっぱり重点になると思うんだけれども、稲から大根から白菜からすべての野菜がやっぱり被害に遭っているということで、ことしは、町としても相当予算もつぎ込んで対策をしているわけなんだけれども、実質頭数、今まではそんなに頭数はいないのかななんて思っていたけれども、１集団やっぱり100匹ぐらいいるんでないかという形で、着信機というか受信機というかというのがあって、糸沢と滝原の部分が今まで分かれているなと思っていたのが、やっぱりこの食をみんなとってだんだん集まりかけたんじゃないかなと思っていたら、やっぱり大体同じ群れだと思うんだけれども、100匹ぐらいの集団でやっているわけ。そうすると区の人も滝原なんかみんなで花火か何かで追っかけてやるんだけれども、花火だけどういう猿の考えだかわからないけれども、普通花火ぐらいだとちょこっとしか逃げない。そしておれらが鉄砲を持って追っかけていくと、山のすってんぺんまで

行ってしまうもんだから、追っかけが間に合わないというか、花火だったら午前中ちょっと出て、またちょっと休んで、また出てくる。そういう中でどうしたらいいかなと、わからないもんだから、町として本当にもっといい方法がどこかでこういう体験があるんだ、こういうやつがあるんだという、一回農林課長が主催したかどうかわからないけれども、12月10日に猿対策セミナー、これは随分議員の人たちも行っていたみたいで、聞いてはいたけれども、それ以上にやっぱり難しいというか、そういうことで、もし何かいい方法が見聞きしたり何かしたら教えてもらいたいと思います。

○渡部康吉議長　農林課長。

○角田　厚農林課長　ただいまのご質問にお答えいたしますが、議員がこれまでご指摘のとおり、町としての対策を進めてきたところでありますけれども、一定の成果は南会津町の一つのスタイルとしまして、地域間の連携なりあるいは地域内での連携が図られる中で対策が取り組まれてきているということは一つの大きな特色ある取り組みであろうというふうには思います。

ただ、しかしなかなかこの猿等の被害対策については難しい問題でございます。それ以上の現在取り組みをするものについては、現在犬の活用であるとか、あるいはヤギの活用であるとかいうようなことはございますけれども、なかなか見つからないのが現状でございます。

この前の猿対策セミナーでご指導いただいた内容を含めまして、今後また情報収集をしながら、町としての対策を強化してまいりたい、こういうふうに思いますので、ご理解をいただきたいと思います。

以上です。

○渡部康吉議長　７番、星光久君。

○７番　星　光久議員　今課長のほうから話をされました。まさにそのとおりなんだけれども、実質今、荒海地区といって桧沢のてえは、おらほうさよこすなよなんて、桧沢の人言われちゃうけれども、よこすなって受信機で見ると滝原から中荒井まで受信しない部分は桧沢の奥あたりか栗生沢の奥あたりに行っているんでないかと思うわけ。そういう形で、みんなで対策なんてセミナーの中でも教えられたけれども、そのとおりにいけばそれにこしたことはないけれども、なかなかそういうわけにもいかないものですから、おれらもいろいろ考えたり何かして、ほかでもやっていること、今町長も国のほうの予算をもらってやると、そういう形でほかのほうでも青森県なんかでも予算を100万円もらって箱わな20個投入だのそういう形で、あと新人ハンターの研修会とか狩猟者の確保、非常にこれは猿をとったって何もならないものだから、非常に大変だというか、そういう形で追っかけが間に合わないのが現状であって、そういう形

で何とかそれ、やっぱり捕獲しないには、たまげさせてばかりいたら戻ってくるし、そういう形で、花火もかぎで棒の先にでもくっつけて鉄砲に見せかけるような形をとったらどうかなとこう思っているわけ。

そこで、わなについても、１匹か２匹入ると閉まってしまうのな。これを何とか10匹とか、100匹なんてなんていうわけにはいかないけれども、あとちょっとよけい入れる方法、おれもたるの底を抜いて考えたりいろいろしているんだけれども、なかなか難しいもんで、なかなかこの成果が上がらないと、それが現状なものだから、なかなかこれは行政のほうでいい方法があったら含めて講習会なり何かできたらしてもらいたなとは思っているわけでございます。

そういう中で、それも含めてまた別な角度でいい方法があったら、ひとつお願いしたいんですが。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをします。

まず、議員がみずから地域の中核になってこの猿対策に当たっておられますことに対して、心から敬意を表したいと思います。

実は、滝原地区においては、区長さん、役員さん含めまして第１段階から第３段階ぐらいまでの対策を打ち出して、実際に猿の行動も含めて観察をしております。このおかげで滝原の住民からは大変昨年度から比べますと効果が上がって安心できる状態ですと、こういうお言葉をいただいております。

しかし、絶対的な数が減ったわけではないので、その猿がどう行動をしているか、ここのところが非常に心配です。したがいまして、町としては新たな新しい対策と言えることはなかなか見つかりませんが、今議員がおただしのようなことをしっかりと後押しをすると。いわゆる時間も必要であれば人も必要です。あるいはお金も必要でしょう。ここのところを先ほど申し上げました検討委員会の中で議論をしていただいて、さらにここで手を緩めないで猿対策に支援をしていく体制、あるいは資金援助、これらについて積極的に取り組みをさせていただく、こういうことでご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　７番、星光久君。

○７番　星　光久議員　そういうことで一生懸命やっていることはわかっているんですが、なかなか大変だと。そういうことで、猟友会としても物資、物をつくることに対しては資金がないものだから何もできないけれども、人間の管理とかそれについてはこれからずっと土日、土日やっていくかと、そういうような話があるもんだから、かなりいろいろな管理を含めた捕獲

の仕方とかいろいろなことがあったもので、そういうことでよろしくお願いしたいと思います。

それから、２つ目の食品の安心・安全について。

何でこれを持ち出したかと言うと、実質もとから言われているように、ほかに販売するのは別口に農薬をかけるんだと。我が食うのは薬なんてかけないで、間に合うだから薬かけないと。そういうことでもとはあったんだけれども、今はそういうことは多分ないと思うんだけれども、おれら耳にしているのは、やっぱり消毒、実質消毒が一番何をやるのかというとトマトだと思うんだけれども、トマトの消毒が非常に気になるというか、実質どういう成分が含まれているんだか何だか、それはわからないんだけれども、やっぱりトマトの消毒についてかなり側から見た場合は、大変な消毒だなとこう思うんだけれども。

そういうことで、農協のほうに言ったりいろいろなことをしているんだけれども、あの農薬は薄いやつだとか何だとかって言っているんだけれども、実質そういう形でおれらはわからないものですから、見た目が大事なものですから、そういうことで、なかなかトマトばっかりそういう販売ルート、商品にするにはやっぱり難しいというか、ずっと無農薬でばっかりつくっていたら大して気にしないけれども、農薬をかけているとすれば、農薬をかけないとだめというような野菜がずっとあるものだから、かあちゃんたちに聞くとよくわかるんだけれども、やっぱり我がら食うには農薬をそんなにかけない、今農薬の銭も高いし肥料も高いから、なるべくなら粗ぬかを焼いて炭をまいて間に合わせるんだとか、いろいろなやつを研究しながらやっているんだけれども、やっぱり商品についてはそうばかりもいかないものだから、かなりの農薬がかかっているんじゃないかと。

今、これは求めていく減農薬、農薬を減らすだの化学肥料を減らすなんて一生懸命言っているんだけれども、やっぱり商品化についてはなかなか厳しいところがあるんでないかなということで、町としてもそういう対策とか、どうしたらいいとか何だろうかという相談が入っているのか、入っていないのか、よろしくお願いしたいと思います。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

まず相談が入っているかどうかということですが、安全・安心について非常に消費者が不安を抱えていると、こういう情報はたくさん入っております。しかしそれに対して、ではどういうふうな安全管理、あるいは原材料の入手経路をとるかと、こういうことについての情報等については、まだ十分に入ってはおりません。

そんな中で、議員おただしのように、これまで本来信用していた会社あるいは販売店等が信

用がなかなかできない状況になっている、そのくらい頻発をしている、偽装の問題を含めてですね。そうしてこの前社会福祉法人南会津会の中で田島ホームがこれまで直営で厨房を運営しておりました。これをずっと社会福祉法人の厨房の経営については外注をしようという動きの中で、外注者の方々を応募していただいて、そこで審査をさせていただきました。

そのときに安ければいいということになりますと、入手経路がとても不安になる。これも最初に審査するときに確認はできますが、その後の検査をしていない。ここはやはりこれからもしっかりと検査をして検証していかなければならないことだと思いますね。

その中で１つあったのが、では地元の安心できるものを食材として提供できる方法はないか、そうしたら今議員がおっしゃったようになかなかそれを買っていただかないと、いわゆる生産したものを収入につなげないと次の生産ができない。こういうことですから、どうしてもやはり売れる商品をつくろうということになると、若干の化学肥料を使ったりしなければならない。

そのときに、では保管庫、いわゆる地元のそういう無農薬あるいは非常に農薬の少ないものをつくったときに保管をしておかなければいわゆる業者は買うことができない。買いたいけれども買えない。そういうことで、では保管庫のあり方について今後十分町として検討していこう、保管する場合も生ものとして保管すべきものと、乾燥して、第１次加工して乾燥して保管する方法もあるわけですね。これらについて乾燥機がいわゆる低温乾燥で非常にコスト的にいいと、こう言われるものが岐阜県のほうに開発をした会社があると、こういうこともありましたので、今後それらの検討をしていかなければならないだろうと、こう思っています。

それから、先ほど申し上げましたが、青森で、これは現在実際に私が見たわけではありません。ただ情報としていただいておりますのは、青森では先ほど申し上げましたように土壌の加温をすることで、いわゆる土壌中の菌が繁殖をしない、活動をしない、あるいは死滅をする、ものによって。こういうこともあるそうなんです。それらについてもう少し研究をさせていただいて、それが例えば農家の生産者の方々に実証実験としてやっていただけるかどうか、その中で減農あるいは無農薬の対応に取り組んでいきたい、このように思っておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　７番、星光久君。

○７番　星　光久議員　実は、食の安全、一番問題にしたかったのは、やっぱり給食の問題で、新聞を見たりあれすると、伝票だけでそっちに送ったりこっちに送ったり、そしてやっぱりわからなくしてしまうというか、そういうことがあったもんで、あと、この前の議会の中でもこの地元の米を精米するのに向こうに送って一括してもらうとか、そういうこともあったり何か

すると、やっぱり動かせばこれは何か、何で動かすんだと。我ら、これみんなここのをそっちに何ですぐ持っていくかと食われるやつを何で向こうのほうまで動かすんだと。それから何でこっちのほうまで輸送費をかけて持ってくるようになるのやと、そこらやっぱりおれは悪いけれども疑うわけで、そんなことはやっていないから心配するなと言ったって疑わざるを得ないですよ。そういう形なものだから、おれらはこれはちょっとぐらい毒を食ったって、あれしたって死なないと思う。ちょっとぐらいの残留農薬があったって。

ただ、これからのこめらが20年後、30年後になった場合に、やっぱりそういう形で出てくるのが今食でも何でも残留が一番おっかないと言っているものだから、そういう形で非常に給食について子供ですので、そういう形で本当にこの安全性を信頼できる地産地消も含めてしていただきたいと思うので、この食の安全をとったわけなんですが、そういうことでもう一回これはあったらよろしくお願いします。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

議員が何度も念を押すぐらいに大変重要な問題だというふうに認識しております。議員がおっしゃったように、大人である私たちについては免疫力がある程度ついているのかもしれません。しかし子供たちについては大変そういう意味では免疫力もない。その子供の将来を今後決定づけてしまうようなそういう不安を与えてはならない。ここのところは、しかし一方で農家の方々の農業収入に打撃も与えてはいけない、こういうはざまの中でどのような取り組みができるのか。

ここはやはり将来ともに農家の方々が安定的に生産をできる、そういう体制をつくり上げることが私は望ましい。そのためには、やはり日本の社会の中で技術開発あるいは取り組みをしているさまざまな実例があれば、そこの実例をどこかで実証実験をして、そしてやはり基本的にはやはり土づくりから手を加えていく必要があるだろう。

ここについても、なかなか県あるいは国の補助助成の枠というのは限られています。しかしもし理解が得られれば、議会の理解が得られれば、一般財源もここは使って、そうして研究に取り組みたい。そのことが将来の雇用不安を解消する一つのきっかけにもなり得るんだろう、このような希望を持って本気で真剣に取り組みを進めたいと思っておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　７番、星光久君。

○７番　星　光久議員　そういう答弁があって、南会津で構想策定中、バイオマス全国農業新

聞に町長が会長になって、利用活用堆肥協議会の会長にと出ていたものですから、あらこれはまさに土づくりから始まるカヤだの落ち葉だの、いろいろな生野菜だのいろいろな形の堆肥づくりかなと思って、この前出たものだから。そういう形でこっちでは一生懸命やっているところはあるし、片一方はほかのほうから持ってきて、おれがつくっただなんてしゃあしゃあとして中国のゴボウをおれのだなんて売ったり何かしている。そういうやっぱり偽装が地元にもないように、これから疑ってはならないけれども、ないとも限らない、商売だから。そういうことでこれからもよろしくそっちのほうの取り組みもよろしく把握しながら、もう一度再点検を含めてお願いしたいと思います。そういうことで後からの答弁でいいですが。

それから、職場の安全。町でも相当な力を入れながら職場の安全は何年も前からやっているわけなんですが、特に11月にこんなに急激に職場の安全が脅かされているというか、安定も安全も含めてなんですが、そういう形で、相当やっぱり職探しがあるし、寮にも入れられない、生活もできない。ダブルパンチなものですから、そこも含めて当町にさっき19番議員の中に一応対策等も説明があったんですが、実質当町においてはそういう傾向、危ないなというところがあるのかないのかも含めてよろしくお願いします。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

まず食の安全・安心につきましては、再度力を込めて申し上げますが、一度点検したからそれで終わりではなくて、絶えず継続して点検をし、そういう不正な行為がないように監視をし、注意をし、指導をしていきたいというように思っております。

そこで、次に雇用の問題でございますが、これは若干数値に違いがあるかもしれません。それはあらかじめお断りをしておきますが、というのは、会社のほうにうちの職員がお願いをしても、会社の秘密事項としてなかなか担当のほうから話をしていただけないものがございます。そんな中で実は会社に勤めている社員のほうからこういう今話があるんだという内容でございますので、それだけはご理解をいただきたいと思いますが、まず徳力さんでは正社員が36名、臨時職員が29名いるんですけれども、どうも正社員の雇用削減に踏み切るような話があると。どのぐらいかというと、どうも半数ぐらいの数字が今上がっているようですと、こういうことです。

それから、セコニックについては12月過ぎでパート７名を削減する動きがあります。それから飯野製作所については来春、来春ですから何月と言っていないのでちょっとわかりませんが、パートを約20名程度になるかもしれない。今何名いるかもちょっとわかりませんが、20名程

度に削減されると。住田光学については、１月15日でパート17名を削減予定であると。それから田島精密においては人員削減は実施しないが、操業時間の短縮を図って、特に年末年始の休暇を長期にしていくという動きがございます。このような情報が届いておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　７番、星光久君。

○７番　星　光久議員　大変な状況、やっぱり当町にもいよいよ来たかと、そういうような中身で、いろいろな形で何と言っても企業も努力しているし、何て言っていいかわからないんだけれども、ほかから見ると、11月１日から期間がテレビ等で出たやつなんだけれども、11月１日から１月30日まで雇用期間があるんだけれども、これも年内に切らないといけないとか、それから12月18日まで雇用期間があるんだけれども、これも切らないといけないとか、いろいろな問題が当町ではないがほかから出ているもんで、ある隣の町のいすゞでは1,400人もいるやつを切らないといけないとか、そういうやつがいろいろ出ているもんだから、我が町でも安心はしていられないわけだ。

そういう形で非常に心配されるのは、徳力なんか、正社員を半分やるんだから、当然パート29人の雇用は大体無理でないかと。どういう企業の方針かわからないけれども、なかなかどこを見たって大変な中身で、国としても企業努力に今度は第２次補正予算だの、何十兆、23兆円とか何とかって総合で入れるとか何かして、こういうやつについては当町には当てはまらないのかはまるのか伺います。よろしく。

○渡部康吉議長　企画観光課長。

○星　光幸企画観光課長　お答えいたします。

現在国、県、並びに町といたしましては、ご承知のように緊急保証制度を適用させていただいております。国では10月31日から緊急保証制度といたしまして、６兆円を20兆円にふやし、それから別枠でセーフティネット保証貸付で３兆円を10兆円にふやしております。

また、県では通常の今までの保証制度の枠のほかに、12月８日から経営安定特別資金の創設をいたしまして運用してきたところでございます。

きょうの新聞にもありましたが、もう既に今週いっぱいで底をつくだろうというような新聞報道もございます。今現在町といたしましても、先般県と町とそれから金融機関の連携を図るための会議を行いまして、これら金融支援情報を提供して、積極的な制度資金の活用をしていこうということで話し合いを行いました。

ただ、これにつきましては、ご承知のように保証協会、金融機関の審査もございます。それ

で、この資金の条件といたしましては、町の町長のセーフティネット保証、業者から申請があるんですが、それに対する町長の認定が必要でございまして、これにつきましては当町は現在急増いたしまして29件ほど申請があります。

それで、年末、我々といたしましても行政は26日で終わりなんですが、金融機関も30日まで営業しているという関係上、我々といたしましては、この決裁認定につきましては担当課長の専決事項でございますので、30日までは私の課と私が責任を持ってその認定のための事務に当たって、対応していきたいというふうに考えております。

○渡部康吉議長　７番、星光久君。

○７番　星　光久議員　そういうことで、町でも頑張ると、そういう形で頑張ってもなかなか難しいんだよな。そういう形で制度としてどういう制度を持っていくか。例えば100万円まで無利子で１人保証人をつけて貸し付けするとか、あるいはそれに準じた灯油代でも何でもいいから、大変だろうからという何でもいいんだけれども、そういう形でもしそういう人が申し込みがあった場合、やっぱり最大限の町でできる部分、そこを利活用しながら頑張っていかないと、大変やっぱり今言ったように既に申し込みがあると、そういう形なものだから、どういう制度をつくるかわからないけれども、できる限りの制度を用いて救済に当たっていただきたい、そういうことですので、よろしくお願いしますが。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

私のところにもいわゆる仕事は順調に進んだ。しかし先ほど公共事業のおただしもありましたが、民間同士の契約金の決済ができない。ここで大変行き詰まっている状態だ、こういうことでした。そういうことを考えますと、健全なある意味では健全な経営をしているところにも大変ある意味では影響が出ている。こういうことですから、その制度設定につきましては、国や県の制度設定だけではなくて、町独自の制度設定も考えていかなければならない。

そのときに、いわゆる公平性というものも十分に判断しないといけない。ここのところのジレンマが多少出てきます。それでも、やはりこの緊急時に出動できる体制を我々は真剣に考えていかなければいけない。年末は大変重要です。しかしいろいろな意味でその月々の決済がありますから、年末にとどまらずに継続してこの問題には取り組んでいきたいと思っておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　７番、星光久君。

○７番　星　光久議員　100万円なんて金額を勝手に出してしまったけれども、そういうもの

を含めて最大限の救済資金というか、そういう形で町としてもやって、そしていい正月をとってもらいたいなというような格好でいるわけなんです。そういうことで相談の中身の問題はおれら我が銭でないから、何とも言えないけれども、できる限り救済の道を開きながら戸惑わぬように、あと特に金額のほうなんだけれども、ここらの人はある程度家から通っている人が多いもんだと思うんだけれども、アパートなりそれから寮なりそういう形で、あとアパートに会社から援助している部分があると、そこも打ち切られてしまうもんだから、そこらも含めて細かい、町が対策を相談に乗ってやって、何とか当町からはみんな明るい正月を迎えたと、そういうような答えが返ってくるようにしていただきたいと思います。よろしくお願いします。

そこでもう一回。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

全くそのとおりであります。ただいま私のところでは、灯油券、こういう小さなものではそういう対策にはならないというご指摘もあるかもしれませんが、今回補正で上げさせていただきましたが、いわゆる非課税世帯だけではなくて均等割課税世帯についてもその対応をしていこうと。そしてさらに先ほど申し上げたように、それぞれの会社で設計の差額が出た、そういうものについても４月にさかのぼって手当てをしていこうと、その準備をしています。

いずれにいたしましても、その精査にちょっと時間がかかっております。というのは、相手から申請を上げていただいて、それが時期的に正しいかどうかという精査がございます。そういうことも含めてありとあらゆる知恵を絞りながら、この問題に取り組みを進めていくということをお約束をさせていただきます。

○渡部康吉議長　７番、星光久君。

○７番　星　光久議員　これにて終わるわけなんですが、今度の猿問題、食の問題、職の問題、食う食と仕事の職のほうで、最大限に頑張ってもらいたいと思います。

そういうことで質問を終わります。ありがとうございました。

○渡部康吉議長　以上で、７番、星光久君の一般質問を終わります。

――――――――――――――――――――――――――― ◇ ―――――――――――――――――――――――――――

◎散会の宣告

○渡部康吉議長　本日の議事日程は終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。

明17日は午前10時より開議し、一般質問を行います。

本日はご苦労さまでした。

散会　午後　４時２６分

平成２０年第４回南会津町議会定例会　第３日

議　事　日　程　（第３号）

平成２０年１２月１７日（水曜日）午前１０時開議

日程第　１　一般質問

４番　馬　場　信　作　議員
１２番　星　　登志一　議員
９番　大　宅　宗　吉　議員
１１番　湯　田　秀　春　議員
１７番　芳賀沼　順　一　議員
６番　渡　部　　優　議員

本日の会議に付した事件

議事日程のとおり

出席議員（２１名）

１番	湯　田　　哲　議員	２番	渡　部　俊　夫　議員
３番	高　野　精　一　議員	４番	馬　場　信　作　議員
５番	山　内　　政　議員	６番	渡　部　　優　議員
７番	星　　光　久　議員	８番	楠　　正　次　議員
９番	大　宅　宗　吉　議員	１０番	渡　部　忠　雄　議員
１１番	湯　田　秀　春　議員	１２番	星　　登志一　議員
１３番	星　　和　男　議員	１４番	平　野　昌　盛　議員
１５番	阿久津　梅　夫　議員	１６番	渡　部　　東　議員
１７番	芳賀沼　順　一　議員	１８番	菅　家　幸　弘　議員
１９番	大　竹　幸　一　議員	２１番	五十嵐　　司　議員
２２番	渡　部　康　吉　議員		

欠席議員（１名）

２０番　児　山　寿　明　議員

説明のための出席者

湯田芳博	町長	渡辺　仁	副町長
横山恒廣	教育長	五十嵐竹則	会計室長
宍戸英樹	直轄政策室長	室井　裕	総務課長
星　光幸	企画観光課長	馬場増男	税務課長
長沼芳樹	住民生活課長	近藤甚悦	健康福祉課長
星　安晴	環境水道課長	角田　厚	農林課長
渡部文政	農業委員会事務局長	斎藤友一	学校教育課長
酒井直伸	生涯学習課長	星　廣政	舘岩総合支所長
横山孝夫	伊南総合支所長	児山忠男	南郷総合支所長

事務局職員出席者

渡部俊夫	事務局長	馬場秀成	事務局長補佐

開議　午前１０時００分

◎開議の宣告

○渡部康吉議長　おはようございます。

ただいまの出席議員は21名であります。都合により欠席届のあった議員は、20番、児山寿明君であります。

これより本日の会議を開きます。

――――――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――――――

◎議事日程の報告

○渡部康吉議長　本日の議事日程はお手元にご配付のとおりであります。

――――――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――――――

◎一般質問

○渡部康吉議長　日程第１、一般質問を行います。

順序に従いまして、順次発言を許します。

なお、質問に当たりましては、南会津町議会会議規則第55条ただし書きの規定により、質問の回数が３回を超えることを許可し、同規則第56条の規定により、その発言時間を60分に制限することにいたしますので、その趣旨は簡潔明確に質問されるようご協力方よろしくお願いいたします。

――――――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――――――

◎発言の申し出

○渡部康吉議長　ここで、７番、星光久君より発言したい旨の申し出がされておりますので、これを許可いたします。

７番、星光久君。

○７番　星　光久議員　きのうの一般質問の中で、再質問の中で「たるの　　」と言ったのを

「たるの底」に訂正をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

○渡部康吉議長　ただいまのとおり、訂正についてご了承願います。

――――――――――――――――――――――――――― ◇ ―――――――――――――――――――――――――――

◇　馬　場　信　作　議員

○渡部康吉議長　それでは、４番、馬場信作君の登壇を許します。

４番、馬場信作君。

○４番　馬場信作議員　おはようございます。

それでは、２日目の一般質問の１番として、４番、馬場信作が行います。

通告した内容にしたがって、一般質問を行います。

まず初めに、大きな項目が２点ほどありますが、１点目、子育てしやすいまちづくりのため少子化対策の充実について伺います。

人口が減少する社会となり、少子化対策は国挙げて取り組むべき課題ですが、最近の報道された救急病院における妊婦や未熟児のたらい回しによる痛ましい事件は、医療機関が整備されているという都市部においてさえも子育ての医療環境が十分でない状況と、国の重要政策にもかかわらずまだ現場まで政策が届いていないことであり、国の政策のおくれを感じました。

そこで、我が町の重要政策である少子化対策は、医療、福祉、保育、教育に至る各課横断の総合政策あるいは連携を必要とする政策であり、その連携により施策の充実を図り安心して産み、子育てしやすいまちづくりを実現するため、以下の項目について伺います。

１つ目、少子化対策の方針は。我が町の取り組み状況についてお伺いします。

２つ目、県立南会津病院の診療充実への対策は。総合病院としての機能を発揮するための町の取り組み状況についてお伺いします。

３つ目、具体的項目に関しまして、少子化対策の経済的支援の拡充のため、第３子以上の出産祝い金の増額について、不妊治療助成制度の創設について、保育料のさらなる減額改定について、児童の医療費無料化について年齢を拡大することについて考えをお伺いいたします。

２点目の集落活性化対策について伺います。

集落活性化対策、行政用語でいえばコミュニティー対策ということになりますが、コミュニティー対策事業についてお伺いいたします。

集落は空き家やひとり高齢者世帯の増加により、人口や世帯数はじわじわと減少し、過疎と

高齢化の波は弱まることなく押し寄せてきています。また集落の運営については、自治、協働の名のもとにボランティアの事業の増加やあるいは神社仏閣、共有地など、集落の財産の維持管理経費も大きな負担になっている状況でもあります。行政がしっかり機能するには、集落機能の維持が不可欠であり、集落の活性化、維持、強化対策について、以下の項目についてお伺いします。

まず町内の集落の現状認識と現在の支援策についてお伺いいたします。１点目ですね。

２点目、若者の長期体験・研修生受け入れ制度、例として緑のふるさと協力隊制度などがありますが、そういう制度の活用により集落の活性化対策を行う、そういう考えについてお伺いいたします。

３つ目、自治振興交付金制度は３年を目途に発展的解消するということで廃止されますが、その後の方針についてお伺いいたします。

４番目、集会所の火災保険料あるいは損害保険料といっていいかもしれませんが、火災保険料は今年度から集会所のある地区の負担になりますが、私は町が負担すべきと考えますが、お伺いいたします。

以上、演壇よりの一般質問を行いますので、よろしくお願いします。後は自席にて行います。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　４番、馬場信作議員のご質問にお答えをいたします。

初めに、子育てしやすいまちづくりのため少子化対策の充実についての１点目、少子化対策の方針に係るおただしがございましたが、本町では都市部と違いまだまだ顔の見える地方の特色を生かし、高齢者の方やさまざまな世代が参画をし、子育てを地域で支援していく体制を家庭、学校、地域がそれぞれ責任を担い構築してまいります。

特に本年度におきましては、西部地区に子育てプラザを開設し、子育てに対するプランや育児のストレスの相談窓口とし、田島地域では、つどいの広場に相談窓口を開設をいたしました。また各保育所では、保護者の多様なニーズに対応した各種特別保育事業や育児相談を実施し、さらには新たに田島第二小学校区に学童保育を開設したところでございます。今後も地域ごとの状況を踏まえ、地域住民の皆様とともに支援体制を整えてまいりたいと考えております。

次に２点目、県立南会津病院の診療充実への対策に係るおただしがございました。

地域医療を担う県立南会津病院の充実は、南会津町民のみならず南会津郡全住民の切実な願いであります。町といたしましては、南会津病院地域医療協議会や会津総合開発協議会等を通じて産婦人科医の配置、精神科医の配置、眼科医の常勤化、人工透析の充実等を要望し、地域

医療の中核としての充実、強化をお願いしているところであり、今後ともさらなる要望活動を強化してまいりたい、このように考えております。

次に３点目、経済的支援拡充策についてのおただしがございましたが、まず第３子以上の出産祝い金の増額については、第３子以降の児童につきましては、ほかにも保育料の減額や児童手当の増額など一定程度配慮されていることから、提案されました増額につきましては、現段階では考えておりません。

次に、不妊治療制度の創設でありますが、平成16年４月以降、全国的に特定不妊治療助成事業という県及び政令都市が窓口となっている助成制度がございます。町といたしましては、県の事業周知の徹底等を図りながら、保健師を中心とした相談体制の強化を図ってまいりたい、このように考えております。

次に、保育料の減額改定についてでありますが、平成19年４月１日から平均で25％の減額改定をしておりますので、提案をされました減額改定に関しては全く考えておりません。

次に、児童の医療費無料化の年齢拡大についてですが、提案されました年齢拡大に関しましても、現段階では考えておりませんので、ご理解をいただきたいと思います。

次に、集落の活性化対策に関する１点目、集落の現状認識と支援策についてのおただしがございましたが、過疎化や少子高齢化による人口の減少が全国的な問題となっている現在、本町における集落の現状は65歳以上の人口が50％を超えている集落が12カ所、55歳以上の人口が50％を超えている集落が47カ所となっております。今後高齢化率の高い集落がますますふえていくことが懸念され、集落における共助活動や地域コミュニティーの維持発展を考える上で、重要な課題であると認識をしているところであります。

町としましては、支援策につきましては、住民提案型のまちづくりの確立に向け、地域活性化発展支援事業や地域助け合いモデル事業、集落維持発展支援事業を実施しており、引き続きこれらの施策を通じ集落への支援をしていきたい、このように考えているところであります。

次に２点目、若者の長期体験・研修生受け入れ制度の活用についてのおただしがございました。

緑のふるさと協力隊については、本町においても平成18年度に伊南地域で２名、舘岩地域で１名を受け入れた経緯がございます。若者の長期体験・研修生受け入れの制度の活用につきましては、その事業の内容あるいは効果等を総合的に判断をし対応してまいりたい、このように考えておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

次に３点目、自治振興交付金の廃止後の方針についておただしがございました。

本件は旧伊南村で実施されていた伊南村各集落自治振興対策補助金交付条例に基づきまして、地域の環境整備と住民福祉向上のための自治活動への補助金として交付されていたものであり、合併後南会津町伊南地域自治振興対策交付金として、伊南地域にのみ交付されている制度でございます。本制度は、合併協議での調整方針に基づきまして、平成18年度から３年間の交付とされたところであり、本年度をもって廃止となります。町といたしましては、各集落が独自性を持って集落の維持や環境整備を図ることが必要であると考えており、今ほどお答えをいたしましたように、さまざまな集落維持発展のための支援を行っており、引き続きこれらの施策を通じ集落への支援をしてまいりたい、このように考えておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

次に４点目、集会所の火災保険料は町が負担すべきと考えるがとのおただしがございました。各地域の集会施設等は、地域住民の交流の促進、研修、その他集会等に使用するため建設されたものであります。本来であれば各地域が事業主体となり建設していただくところではありますが、町といたしましても、補助事業等を活用して建設をしてまいりました。各地区集会施設の火災保険料に係る取り扱いにつきましては、合併に伴う事務事業一元化の調整及び合併後の調整によりまして、火災保険は町で加入し各地区のご理解とご協力をいただくため、２年間の経過措置後の本年４月から、保険料をそれぞれの集落から徴収することとしたところでありますので、ご理解をいただきたいと思います。

以上、お答えを申し上げましたが、具体的事項につきましては担当課長等に答弁をさせますので、よろしくお願いをいたします。

○渡部康吉議長　４番、馬場信作君。

○４番　馬場信作議員　それでは、再質問いたします。

少子化対策については本当に国を挙げての課題なんですが、私はこれを取り上げたのは合併して２年間過ぎて、そして財政再建のために必死に努力されて少しずつは好転してきました。あるいは交付金関係の特別交付金とか含めて、いろいろまた交付されるようになりました。若干財政的にも余裕ができたんじゃないかと。あるいはまた、前回の臨時議会では人事院勧告にしたがい公務員給与の改定が行われました。改定の内容は特に若年層のアップということで改定が行われております。

その財政の状況あるいは給料改定の状況を見ますと、それではぜひ民間の若者にもその少子化対策に取り組み、その年齢層、ぜひその辺にも町としても何らかの手当てもほんの少しずついいんじゃないかと、そういうふうに考えたわけでございます。

そこで、先ほどは現在の取り組みの方針もお伺いしたんですが、基本的には国の制度、県の制度からの交付措置がある制度が十分町はもう対応していると思いますし、平均以上といいますか、平均というのはこの対策の度合い以上と考えます。先ほど答弁にありました政策の中で、特に国・県の制度、交付制度以外に町としては独自の支出でこれだけは特徴であるという制度がありましたら、それをお尋ねいたします。

○渡部康吉議長　健康福祉課長。

○近藤甚悦健康福祉課長　ただいまのご質問にお答えいたします。

町独自の事業というものでございますが、子育てプラザ、これは各地域の現在子育てをされている方の相談、もしくは情報の発信事業、そういったものに対応するように設立したものでございます。舘岩地区で行っております。ただし、西部全地域を窓口に行っております。

それから、つどいの広場でございますが、これも西部地区とそれから田島地区で新たに行っておるところでございます。

それから、独自の事業といたしましては、以上のとおりでございます。

あともう一点、第３子の出産祝い金ということで、健やか子育て応援事業ということでございます。これは第３子の出生に対しまして２万円の交付金、それ以外に入学時に小学校、それから中学校の入学時に１万円を交付してございます。

以上でございます。

○渡部康吉議長　４番、馬場信作君。

○４番　馬場信作議員　そうですね、ことしからそういうつどいの広場というものが西部地区でも開かれまして、就学する以前の子供に対する、あるいは保育所入所以前の子供に対する拡充はそのとおりでございます。この制度も広場を開くから集まれじゃなくて、今後はたしか来れない人もいるんで、そこを訪問してそれこそ新生児を含めた訪問、何ていいますか出かけるような制度になると聞いていますので、さらなる充実をよろしくお願いいたします。

要は、産み育てしやすいまちづくり、生みたくなる環境づくりというところで私は今独自の政策と聞いたわけですが、これはいろいろ考えがあります。ぜひとも国の制度にのっとった充実はもとより、そこにさらに町の政策を上乗せしまして、ぜひとも私はこの少子化対策の充実を期待するものであります。

そこで、以下それに関連しての質問になるわけですが、まず県立病院については先ほど産婦人科医あるいは精神科の増設とかあるいは透析関係の、それは協議会の中でこれからそういう方面でさらに充実対策をするという答弁がありましたけれども、今現在不足しているのは、あ

とは整形外科の休日診療がないわけですね。これからスキーシーズンを含めまして、あるいはそういういろいろな整形関係の救急対応を含めまして、その辺の充実と、あとは産婦人科も当局のご努力もありまして、現在は健診を中心に復活といいますかやっておりますが、まだまだ出産まで至っていないわけですが、その辺の２点についての考えと状況はどうですか、お伺いします。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

議員も既に熟知されているというふうに私は思っておりますけれども、県立南会津病院の充実については、異論のある人は一人もいない。ただどうやって医師を確保するか、ここに尽きます。

実は昨日議会が終了してから、今回当町に開業する耳鼻科の阿部先生が私のところに２月12日開業オープンするという報告に来ました。その先生からもありました。本当に懇願されて来るんだけれども、来た後の私たちの生活はめちゃめちゃになってしまう。これは住民の方々も十分、その医師の置かれている立場というものを理解をしながら協力体制をつくっていかなきゃならない。その協力体制の一つに、私は県立病院といえども、町がどう支援できるのかということを検討させていただきました。

しかし、地方財政法という法律があって支援ができない。これで私は要望活動を何度繰り返してもハードルにぶつかってしまうので、思い切って県立医大病院あるいは病院局関係等に地方財政法の改正はできないのか、どうすれば改正ができるのか、そこまで持ちかけました。そうしましたら、病院の院長先生初め関係者から、そこまで考えているんですか、考えざるを得ないでしょう、それを考えなければ次のステージが用意されないわけですからということで、今必死にその支援策を県と一緒になって検討しております。

こういう中で議員がおただしのように整形外科医や産婦人科医やこれらの方々のいわゆる２人体制、できたら３人体制にしたい。３人体制にすれば研修にも行けるんです。こういう体制をただただお願いするんではなくて、財政支援なり環境周辺、この辺の整備をしながら応援をしていく、こういう面で今取り組みを進めておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　４番、馬場信作君。

○４番　馬場信作議員　そういう取り組み、さらに今の答弁の中に改正も含めたという、さらにまた一歩踏み込んだ町の取り組みや姿勢がわかりました。議会も担当する常任委員会で陳情とかやっていますが、ぜひとも議会と行政の両輪でこれからもいろいろな、法律的な規制の中

でのできる範囲でのこれからの活動を期待するわけです。

子育て支援に関しては、医療機関というのは本当にこれはアンケート等見ましても、一番重要な施策であります。そこで、民間の医院が、今度一つは近くにありますし開院しておりますし、そういう話を聞いています、次々と開院すると。それと南会津病院と県立の病院としての充実との影響はこれから、診療科目を含めましてどういう影響を受けるかをちょっとお伺いいたします。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

議員が想像する影響というのはどの程度かわかりませんが、私も第三者として直接的に経営に関するわけではないので想像的な域から出ませんけれども、私が理解している部分としては、例えば耳鼻科の阿部先生が開業されても、南会津病院の診療も行うということを聞いておりますし、南会津病院の院長先生もそういう理解のもとで開業の動きを見守ってきたと、こういうことで理解しておりますので、私の段階では素人として判断するには、県立南会津病院の経営には若干影響するんではないかなと思いつつも、良好な関係も保ち得るものだと、こう認識しております。

○渡部康吉議長　４番、馬場信作君。

○４番　馬場信作議員　私も専門医が医院が開業しますと、この県立病院の診療科目減少とか、イコール総合病院としての充実の度合いは引けるのかなと、そういう心配を含めましてお聞きしたわけですが、その中で県立病院のことですから町長の立場ではどうこうと答弁しにくいという中で、今の話の中で開業する医院と、そのほかの町の医院も含めましてですが、総合病院としての県立病院の役割が対立ではなくて協調という、そういう意味でのこれからも結果的に町の診療体制の充実という方向に行くように、私もそのようにぜひこれからも取り組み、活動のほうをよろしくお願いしたいと思います。

次に、今度具体的項目についてまたあえて子育てするなら南会津町と言われるように、住みたくなる環境づくりのための具体的項目を上げたわけですが、当然財政負担もありますし、恐らくはやりたくてもできないといいますか、政策を実現したくてもいろいろな状況がありますから、経済的財政負担ですね、なかなかすぐにやりますということは大変かなと思いますが、ただ先ほども言いましたように、やはり町の子育て支援の方向といいますか独自性といいますか、ぜひそれは打ち出してＰＲして、それでもってそれで産みたくなる環境づくりだと、その共感を得るような私は政策が必要かなと思いまして各項目を上げたわけです。

その中での１点目、第３子以上の、これは出産祝い金の増額です。これについては現在も独自政策の中で出産祝い金３子以上２万円、あるいは小学校、中学の入学祝い金１万円ずつという児童福祉行政があります。これをもう少し私は出産のほうに厚くできないかなという提案なわけです。つまり、ここはいわゆるゼロが１になる、あるいは１が２になる、２が３になるという本当の少子化対策の出発といいますかベースといいますか、何といいますかね。その後の医療の関係、育児の関係、教育の関係も子育てには大事ですけれども、一番数字的にベースとなるところでもう少し手厚い考えが私は必要ではないか、そこに町の独自政策が必要ではないかと思うんですが、もう一度考えをお伺いします。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

議員が例えば出産の環境を整えるということで、経費的な負担を少なくしろという考え方はわかりますけれども、実際に子育てしている人のお母さん方に聞いたことはありますか。子育てというのは産んで終わりではないんですよ。そこから家庭、保育所、学校、一連して、またできれば願わくば就職まで見ていかなきゃならない。私はあるお母さん方と懇談をさせていただきました。そのときに一番の問題は保育所に上げるまでの間の各家庭の子供との関係だと言っているんです。ここが欠落しているんです。ゼロ歳から保育所に預ける人もいますけれども、私はそういう関係性の中で全体的な子育ての環境をつくり上げていきたい。それは昨日も若干申し上げましたけれども、そういう家庭とあるいは図書館事業とあるいはまた保育所と学校と、一連の中で子育てができるような、そういうコミュニティーも含めて安心できるような、不安が解消されるようなシステムを構築していきたいということを考えていますので、議員がお求めのようなことについては現在私の中の方策としてはございません。

以上です。

○渡部康吉議長　４番、馬場信作君。

○４番　馬場信作議員　私も冒頭で申し上げましたように、少子化対策は総合政策です。ある一点を豪華といいますか、一点だけあるいは一点だけを政策で少子化対策が解決するわけではありません。そういう意味でいろいろな提案を申し上げているわけでございますが、やはり３人目となると当然これは家族計画の中で大変です。出産以降の経費につきましても、１人よりは２人、２人よりは３人、ましてや４人目となればなおさらです。そういうときに、やはり私は何よりもやはり子供がふえるかどうかという、そのステージ、妊娠から出産、養育、ずっとありますが、そこでの私は手厚い政策が少子化対策のより効果的な政策かと思って提案したわ

けですが、その辺はいろいろな考えの中で理解します。

次に、具体策として不妊治療ですね、これは町としての取り組みはないんで、ぜひともこれはある意味では新規にという提案でございます。国・県のほうもこの制度は前からありまして、近年さらにそれを充実させて、当初福島県の場合は10万円の治療費の助成が20万円に拡大されました。そういうことでこの制度もぜひとも町独自にさらに県に上乗せする形とかを含めまして、方法論はいろいろこれはあると思いますが、こういうのを創設して少しでもこの当事者の経済的負担、これは実際大変というのは当然町長も理解していると思いますが、それこそ遠方に行ったり、あとは回数的にも大変です。それに含めまして精神的負担もあるわけです。そういう中でぜひとも経済的負担を助成する制度を私はやっぱり創設してほしいと思うわけですが、もう一度お伺いいたします。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

子供が欲しいと思いつつ子供が授からない、大変お気の毒に思いますし何とか支援はしていきたい、こういう気持ちはあります。しかし、議員がおただしのように経済的な部分での支援は考えておりませんので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　４番、馬場信作君。

○４番　馬場信作議員　私は、これが町の独自制度のさらなる充実のためにと思って期待するわけでございます。

次に保育料の減額改定、値下げということになりますが、19年度には本当に大幅な値下げということで少子化対策として、あるいは保育環境の充実のために私はすばらしいと思っております、19年度から実施したことに対してですね。これは国の徴収基準といいますか、そういう制度もありますし、それから比しても町の取り組みは私はいいと思うんですが、ただ出産以降の保育環境を私は充実することが、やはりこの町に移り住みたい、仕事は町外であっても、でも住まいは南会津町だと、そんな環境をつくるには私はこの保育料というのが私は重要視かなと思って提案しているわけでございます。ベッドタウンではありませんけれども、せめて近隣町村よりは安いぞと、安い保育料であると、そういう環境を私はつくることを期待しておるわけですが、住民以外にそういう仕事は町外でも住むのは南会津町という環境をつくるためには、私はこれは必要と思って提案したわけですが、もう一度考えを伺います。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

このいわゆる保育料を平成19年４月１日から減額をしました。そのときにもかなり資金的に調達しなければならないので慎重に検討をさせていただいたつもりでありますが、いわゆる国には一定基準の保育料に関する考え方があるんですね。そういう意味ではこれを減額したということは独自性がある意味ではあると私は認識しています。町の独自性でそういうものをしました。

しかし、実は保育料を滞納されている方がいる。これを何とか保育料を削減したときに一つご理解をいただいて、分納でいいからしっかりと保育料を納めてほしい、そのことも保育所を中心に行いました。これについてもかなり前進をしました。しかし今もって滞納されている方がおられると。そこで、北海道に恵庭市がございますが、そちらのほうで大変子育てに対して先進的な取り組みをされているということだったのでお聞きをしました。そうしたら保育料を安くしても、お酒を飲んだり携帯電話に使ったりして一向にいい結果に出ないと、こういう部分もあるんですね。ですから、安ければいいというものではない。ここのところの子育てに対する家庭、いわゆる家族、おじいちゃんやおばあちゃんも含めて、ここのところのやはり認識をみんなで共通させていくということが私は先決だと思っておりますので、改めて議員がご提案されている保育料は、ここで減額のことを考えるつもりはありませんので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　４番、馬場信作君。

○４番　馬場信作議員　この具体的提案をすべて実現してくださいとは言っておりません。いわゆるどれでもいいですから独自性ということで言っているわけです。あるいは安ければいいとは私は思っていません。財政的なそれでもって財政危機が起これば、それこそもとも子もありません。そういう意味で次の児童の医療費無料化の年齢拡大についても、近年この辺の無料化も少子化対策でどんどん取り入れる町村もあります。ぜひともその辺をやはり先ほど言いました育児の環境の整備という中で、一番私は医療費関係が大きいと思いますので、これは少しでも、例えば医療費の完全無料化ではなくても、それじゃせめて入院費だけでも何歳までとか、小学校までとか、そういういろいろな、また細部については方法論はあると思いますけれども、少しでも医療費の軽減のための年齢拡大について考えをお伺いいたします。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

私は今、予防医療に積極的に取り組んでおります。したがいまして、こういう考え方は先ほど申し上げたように、現段階では全くございません。

○渡部康吉議長　４番、馬場信作君。

○４番　馬場信作議員　今もいろいろ児童福祉予算の中で経済的支援を町としては独自性を含めましてやっております。子育て支援、健やか子育て支援に関しましても今の出産祝い金、入学祝い金等400何十万も使っておりますが、そういう制度をいいところは残し、改良すべきは改良しながらぜひとも充実した児童福祉あるいは子育て支援対策をすべきと考えます。

次に、集落活性化対策について、コミュニティー事業について再質問いたします。

集落の状況というものは恐らく認識の方向は一致していると思います。その中で、やはり提案型事業で活性化という方向も、これも必要と思いますが、その提案型事業を行う、そういう担い手、リーダーを含めまして、集落がその事業に取り組む体制もなかなかできない、それだけ疲弊している、人口的にも世帯的にも、そういうものに対しての現状というものはどうお考えか、お伺いします。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

議員はできない、いわゆる提案ができない理由を体制とか考えているようですが、私はまず志だと思います。志がなければ何も前には進みません。昨日、合併をしてばかを見たという話がありました。あるいは合併をしなければよかったという意見もございました。それは自由です、その人の発言ですから。しかし、合併してしまったんですよ。してしまったというより合併したんですよ。そこがスタートラインになりませんか。そんな中で同じように集落に一律に交付するということは本当に平等性が保たれますか。私は60歳以上の方々が50％を占めるような集落でも、今前からあった地域にある農産物の生産や、あるいは自分たちが営々と引き継いできた伝統工芸を生かしながら収入を得ようとして動いているんですよ。ところが一方で、ただただ行政の批判をし、そこに寄りかかろうとするところ、同じように税金をお金を支出することが適当と思いますか、私はそう思っておりませんので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　４番、馬場信作君。

○４番　馬場信作議員　交付金の話までいったわけですが、それも含めまして現状の方向、集落対策といいますかコミュニティー事業の対策の方向は発展事業あるいは集落維持事業あるいは福祉ネットワークとか、それぞれ提案型で、それでまずはみずから取り組んで自立自治、その方向は私はいいと思います。しかし、それで十分でない集落、地域に対してはまた別な方策がないかと。国だってもちろん提案型の交付制度もあります。しかし普通交付税、これはもう

自治体の希望によって標準財政規模によって来ます。あるいは各県の取り組みでもやはり集落といいますか、僻地なりそういう地域に別枠のいろいろな手当てがありました。

例えば自動車税なんかも軽減措置がありました。これは一つの例ですが、いわゆるその集落の状況あるいはいろいろな状況によって、それなりの私はそれをメーンとする集落対策は理解できます。それを補完する制度も必要じゃないかなと思いますが、その辺の考えを伺います。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

私の答えを正確に聞いてほしいと思うんですけれども、私はまず志が大事でしょうと、今置かれた現状を受けとめて、そこから自分たちができることをしっかりやろうと、こういう姿勢があって、そこには支援しますよと言っているわけです。ですから各集落が集落形成された歴史を振り返ったら共通事項があるんですよ。そしてそこではある意味では共同の生活が営まれてきたんです。そこのところをもう一回見直して検証してみてやれるところからやろうと、こういう意思が高まってきたら、それは南会津全体の集落の共通事項として認知されれば、以前にたしか12番議員からも関連した質問がありましたが、やっていきたいと言っているわけですよ。ぜひここのところをしっかりと記憶して議論に持ち込んでください。よろしくお願いします。

○渡部康吉議長　４番、馬場信作君。

○４番　馬場信作議員　検討したいという、私のいろいろ理解不足のところもあるかと思いますが、少なくともその志のある集落に対してのまたいろいろな支援をお願いしたいわけです。

そこで、集落問題をまたもう一点違う角度から見ますと、やはり人口減、世帯減少、そういう中で、そしてまたリーダーといいますかね、集落のリーダー、担い手、そういうのが不足という現状、端的にはただ老人クラブもなかなか連合会に加入できないというのもその一端かと思います。そういう現状の中で、私は若者を受け入れる制度というものを、先ほどの答弁の中でも、これは制度の趣旨なり制度をよく趣旨を検討して、また検討しますということですから、これはぜひいろいろな制度があると思いますから、それは検討して町に合った制度があればぜひともこれは本当に採用するなり、そして集落にやはり外部の人が入るというのは、これはまた単なる人口増のみのそれだけにかかわらず、やはり新しい見方、新しい目線というものが芽生えるということは、それはまた違った意味での活性化になります。そういう私は意味でのこの制度というものはいろいろな多機能といいますか、各分野に私は波及効果がすると思います。青年会の活性化を含めましていろいろ、そういう意味でぜひ制度を研究して何とかそれに合っ

た望む集落に対して採用してほしいんですが、そういうことを含めて考えをお伺いします。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

先ほどから集落におけるリーダーのお話が出てきていますが、実は私きのう議会終了後、舘岩のほうで用務があって、そこから戻ったら黒沢老人会から一通の資料が届いていました。これは功労賞受賞の祝賀会の内容でした。この方々は地域の集落と連携をしながら、しっかりと老人会として一つ一つ事業を組み立てながら、自分たちのできることを実績として残してリーダーをつくっているんです。最初に研修をするとか何かをしてリーダーをつくっているんじゃない。実務をやりながらリーダーをつくり上げている、こういう老人会が現実にあるんです。連合会がどうのこうの言いましたけれども、自分たちのところでしているんですかそれを。きちっとしていけばリーダーは育つんですよ。

そういう中でね、新しい人材が地域に入ることを私何回も言っているんですよ、今まで。必要ですよ、議員がおっしゃるように。ただ制度、制度と言いますけれども、私がもしそこに入るんであれば、いずれその人がどういう方なのか、どういう目的を持っておられるのか、これはやはり最低限検証していかないといけないですよ。そういうことをさせてくれる団体等ならば一緒にそれを進めることはできる、こういうふうに考えていますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　４番、馬場信作君。

○４番　馬場信作議員　ぜひいい制度を見つけまして期待するわけですが、やはりそうやって自立的に、今事例として出しました老人会のそういう自立的な活動をやっているところもあります。でも、なかなかそれに追いついていかないところにはまた外部の活力、町の行政もそうでしょう。やはり政策顧問室という制度も私はある意味ではそれに近いのかと。やはり内部の行政職員だけではどこかいろいろ政策、立案もあれでしょうから、やはり外部の目といいますか視線といいますか、そういうものは常にやはり必要だと思うんですよ。だからそういう意味合いを持ちまして集落にもそういういい制度をぜひ見つけまして、私はそういう若者の派遣事業が集落にいい結果を及ぼすように私は期待するわけでございます。

自治振興交付金は答弁にありましたような制度でございますが、今回町の施設がこれを２年を機会に使用料あるいは火災保険料がそれぞれの地域に負担となるということで合意されているわけですが、今回それにより町の施設の使用料ないしこういう保険料、地区に移管される施設あるいは地区の数、どうなっているか、それを教えてください。

○渡部康吉議長　伊南総合支所長。

○横山孝夫伊南総合支所長　お答えします。

伊南地区におきましては19年度８施設、金額は37万5,000円となります。

以上です。

○渡部康吉議長　４番、馬場信作君。

○４番　馬場信作議員　そうすると、ほかの町の施設、地区で使っている集会所あるいは町の施設の使用料、保険料はまだ現在すべて該当する地区が負担している状況ですか、お伺いします。

○渡部康吉議長　総務課長。

○室井　裕総務課長　お答えいたします。

各地区にあります集会所におきましては、地区の所有のもの、それから町の所有のものそれぞれございますけれども、基本的には集会目的として機能が同じでございますので、それぞれ地区のほうの負担をいただきながら保険に加入していると、こういうことでございます。

○渡部康吉議長　４番、馬場信作君。

○４番　馬場信作議員　地区の所有のものはともかく町の所有の財産の管理からしまして、保険料はやはり財産管理上、町が負担すべきと考えて私伺ったわけですが、実際加入しているのはたしか全国自治会の共済制度ですよね。だからこれは加入自体は加入の方法とあとそれに伴う負担の流れというのはどういうふうになっていますか。

○渡部康吉議長　総務課長。

○室井　裕総務課長　まずそれぞれに地区のほうから負担をいただく根拠でございますが、まず地区所有であれば当然所有者が保険を掛けます。ただ事業の関係で同じ集会施設であっても町所有の建物もございます。したがいまして、地区所有の方が地区の保険料を掛けて、町所有のものについてはじゃ町が掛けるのかということになりますと、それぞれやはり公平性の問題がございますので、基本的な集会所の機能を有しているものにつきましては、それぞれ地区の方々の負担をいただく、こういうことでございます。

それで、町所有の保険の関係でございますが、当然町所有でございますので今お話がありました全国自治協会のほうに一括加入をいたしまして、年度末もしくは12月の時期でございますが、それぞれ掛かっている保険料につきまして各地区に請求をしまして、その請求に基づきまして各地区からいただいていると、こういう流れになっております。

○渡部康吉議長　４番、馬場信作君。

○４番　馬場信作議員　受益者負担といいますか、そういう原則的なものは私は理解するんですが、ただ地区の集会所あるいは施設といいましても、地区のみならず、これは行政上も大いに利用しています、いろいろな保健福祉の講習会等。そういう機能を考えますと、私はここにはもう少し考慮すべき余地があるんじゃないかと思います。

今回は、いわゆる経費にかかわる具体的な質問をしたわけですが、私は少しでも財政が好転しつつある中、急激な今度財政負担を強いるような政策はもちろん慎重であるべきと思いますが、その好転しつつある効果をぜひとも施策の中に反映して、やはり集落といいますか住民といいますか、そういうところにやはり少しずつ効果的に、目に見える形で私は政策を期待する意味を込めまして具体的政策も上げたわけですが、その辺も含めまして考えを財政再建と経費を伴う政策、町民に示すべきではないかという考えについてお伺いいたします。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

先ほどから繰り返して申し上げていますように、まず集落というのは非常に大事な存在です。歴史的に見ても機能的に見ても合理性から考えても、ですからここをしっかりと強化していくということには全く異議はありません。しかし財政が好転したといいますけれども、今それぞれ働く職場においてどういう状況に置かれていますか。こういうことがアメリカの金融危機によってあっという間に我が町にも影響を及ぼすんです。こういうことに財政出動をしなければならないそういうための基金、蓄えというのも必要なんです。こういうことを認識した上でこれから継続的に集落の支援はしていきたい、こう思っておりますので、ご理解いただきたいと思います。

○渡部康吉議長　４番、馬場信作君。

○４番　馬場信作議員　現在の社会状況、不況の状況はもちろん町の財政もいずれ影響を受けるでしょう。同じように町民も集落も影響を受けます。そういう中でぜひともそういう認識の上に立った上でこれからの施策をご期待して、質問を終わります。

○渡部康吉議長　以上で、４番、馬場信作君の一般質問を終わります。

―――――――――――――――――――――――――― ◇ ――――――――――――――――――――――――――

◇　星　　登志一　議員

○渡部康吉議長　次に、12番、星登志一君の登壇を許します。

12番、星登志一君。

○１２番　星　登志一議員　議席番号12番、星登志一。

通告に従い、ただいまより一般質問を行います。

きょうは大勢の中学生の皆さんがいらしておりますので、議会を傍聴した後、これからは南会津町がいよいよ明るくなるなと、こんなふうになるような質問をしたいと思います。

先ほど町長のほうからも他の議員のほうに答弁がありました。何とか町長もいろいろな政策、歯どめがかかっているところはあるけれども、それをこじあけてでも何とか行政を推進していこうというような姿勢も見えましたので、私の質問に対してもそのような観点からぜひともご答弁いただければありがたいと思います。

それでは１つ目に、本腰を入れた雇用対策をということで、我が町の財政指数は19年度で0.263です。通常ですと0.4以上あれば多少町の財政が強いなということになるんですけれども、我が町では0.263であります。非常に財政力が弱い、あるいは財政力が弱いということは民間活力が弱い地域であると、こういうことになります。そういった町の場合には思い切った政策を行うときはやはり町が主導権を握って雇用対策等、重要な問題について討議をしていかなければいかんと、私はこんなふうに思います。

先ほど町長の言葉にあったように、今我々の地域はアメリカで端を発したサブプライムローンなどが直接町に影響を与える時代となっております。私は今こそ雇用対策を町の最重要戦略的課題として取り上げなければならないと、こんなふうに考えます。

そこで、我々は議会もそして町民も職員も町全体が一体となって力を合わせて取り組んでいかなければ、この手当てがもし運動がおくれればおくれるほど我が町の衰退が目に見えている、そういった観点から、以下３点についてお伺いをいたします。

１点目、来年度予算に雇用対策費をどのくらい予定しているのか。

２点目、活動していることが目に見えるような組織づくりが必要と思いますけれども、雇用対策に対する現在の組織の活動状況についてお伺いをいたします。

３つ目、雇用対策に関する町独自の政策が今後あるのかどうか。

この３点についてお伺いをいたします。

次に大きい課題として、２番目の指定管理者制度の精査状況についてお伺いをいたします。

これは平成17年度に議会で指定管理者制度が議論されました。この制度は当時町の財政が弱いということで、町が余りいろいろな施策にかかわると経費だけがかさんでいってしまうと、そこを何とか民間の方に委託をして、その経費がかさばらないようにという、こういった一つ

の目的があってスタートした制度であります。ところが最近、私がちまたで聞いていると、あそこの施設は悪いから指定管理者制度の料金を上げたら、そうすれば解決するよとか、そういった安易な考え方の町民がふえていることも事実です。これは当初の目的と大分方向性が狂っております。ここで本年度は３年経過しているわけでありますので、当然旧田島町においてもすべての指定管理者制度が絶対多数、あるいは全員賛成で通ったわけではございません。その当時の費用対効果等も議論され、賛成何名反対何名で通った議案もございます。ここで３年間たちましたので、当時争点となった委託料が適正か、あるいは見直しをどうするか、町としてこの更新を迎えた時期に当たってどういった尺度でこの指定管理者制度を見直すのかをお伺いいたします。

大きな３つ目、職員の健康管理についてお伺いいたします。

合併以前と比べると職員の方が体調を崩して休んでいるというような話をよく伺います。確かに我々議会は22人という小さな世帯ですけれども、職員の場合には合併して300人という大きな世帯になりました。当然合併以前の仕事と合併してからの仕事というのは各町村によってその手法が違いますから、一つになった町が同じ方向性で仕事をするということはなかなか容易なことではないと思います。ただ議会においては、22人という小世帯なので議会の報告会あるいは研修などで大分私は一体感が芽生えてきたなと、こんなふうに思います。反面職員においては300人の世帯で、まだまだ上に立つ人もあるいは指示される人も暗中模索の状態ではないかなと、こんなふうに推測をいたします。

そこで、前回もご提案申し上げましたけれども、やはりこれは２番目の大きな指定管理者との関連もございますけれども、まず私は職員の日報等を細かく記載させて、まず仕事を楽するために無駄、むら、無理が削減されるような方策をとるべきではないかと、こんなふうに思います。日報を出すということに対して当初は書かされているという意識が発生した場合には、なかなか書きにくいかもしれません。しかし、仕事の現状がわかるとかあるいは仕事の改善ができ、その結果仕事が楽しくなるといったような、そういった観点から見れば日報に関しても書くことが非常に楽しくなるんじゃないか、結果仕事が楽しくなるんじゃないかなと、こんなふうに考えますので、何とぞ町長のいい方向性のある答弁を求めて、壇上よりは以上にて一般質問を終わりますけれども、再質問については自席より再度ご質問をいたしますので、よろしくお願いいたします。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　12番、星登志一議員のご質問にお答えをいたします。

初めに、雇用対策に関する１点目、来年度予算に雇用対策費をどの程度計上するか、このようなおただしがございましたが、地域全体の活性化事業の一つ一つが雇用創出に結びつくものであるとまず考えております。このため平成21年度予算編成に当たりましては、その重点事業の柱の中に、やまなみ泊覧会の開催を初め頑張る人や地域を応援する施策、第三セクターの経営安定化のための施策等を掲げ、これらの事業実施により地域活性化に結びつけ雇用の確保につなげていきたい、このように考えております。

なお、予算額につきましては、現在予算編成中でございますので、ご理解をいただきたいと思います。

次に２点目、雇用対策の組織づくりと活動状況についておただしがございました。

組織につきましては、今月19日にハローワーク南会津雇用対策推進協議会を立ち上げることになりました。協議会のメンバーは県南会津振興局、郡内町村商工会産業別事業所代表、ハローワーク南会津で、企業情報の収集や再就職支援対策、融資支援制度の情報発信などを関係者と連携を図りながら進めていくこととしております。今後はこの協議会を活用し雇用対策に当たっていきたいと考えております。

次に３点目、雇用対策に関する町独自の政策はあるか、このようなおただしがございました。

１点目の雇用対策費に関する質問と関連をいたしますが、平成21年度に開催するやまなみ泊覧会は町独自の事業であり、この事業によって宿泊滞在型の観光誘客や特産品の開発などが図られ、地域全体の活性化、さらには地域内の雇用に結びつけていく、このように考えられると思います。また、地域や団体などが地域資源やわざを活用し、地域の活性化に結びつける発展支援事業も町独自の事業であり、雇用に結びつく事業の一つであると考えております。

これらの事業に加え新規就農者への支援、限りなく無農薬に近い農産物づくりや山野資源活用に対する支援を行うことで、農業生産の向上に結びつけるとともに、さらに農産物の加工体制を図ることや、来年度より３地区において沿線型の森林整備を実施し、ストックヤードと関連をさせすみ分けを図りながら建設業者の新規参入を促進させることにより、林業における新たな雇用に結びつけていける一つのケースづくりを行うなど、今後の地域経済及び雇用状況を敏感に察知しながら、適時適切に雇用対策に対する取り組みを進めてまいりたい、このように考えております。

次に、指定管理者制度の更新時期を迎え、町はどのような尺度で精査をするのかとのおただしがございましたが、旧田島町時代に議決いただきました指定管理者の指定期間が今年度をもって一斉に満了となることから、次年度以降の指定管理のあり方についても、現在関係する課

で庁内会議を持ちながら、この３年間の検証作業を進めているところであります。

その中で、指定管理者委託料につきましては、赤字黒字さまざまの状況があるほか、定められた介護報酬等に左右される福祉関係施設などは、本来一定の委託料に基づいた運営を求める指定管理者制度自体になじまないのではないかなど、さまざまな問題がございますが、今後これらを整理しながら、住民サービスの向上及び経費の節減等を図ることを目的とした指定管理者制度の趣旨を十分考慮しながら、指定のあり方と適正な委託料の決定に努めてまいりたい、このように考えております。

次に、職員の健康管理について、仕事の効率化を図るために職員に日報を記載させてはどうか、こういうおただしがございました。

議員おただしのとおり、１日を省みることはとても大切なことであると認識しております。私は職員に対し、その日の目標や出来事、あすへの約束などを記載できる日記を推奨してまいりました。これは仕事の効率化にとどまらず自己啓発の一環としてみずからを高い次元に導くための一つの手段ととらえておりまして、今後とも自己啓発を通した意識改革を強く促してまいりたいと存じますが、あくまで本人の自覚の問題でもあり、制度化する考えはございませんので、ご理解をいただきたいと思います。

なお、健康管理に関しましては近年職員の精神面の管理が大変重要なものとなっていると認識しております。いわゆるメンタルヘルスに関して衛生委員会を中心とした体制づくりに取り組んでまいりました。これを受け、今後は衛生管理者や保健師、各所属長が連携を図りながらきめ細やかなメンタルヘルス対策を講じてまいりたいと、このように考えておりますので、ご了承をいただきたいと思います。

以上、お答えを申し上げましたが、具体的事項につきましては担当課長等に答弁させますので、よろしくお願いをいたします。

○渡部康吉議長　12番、星登志一君。

○１２番　星　登志一議員　それでは、１番のほうから再質問をさせていただきます。

町長のほうから１番のパートの１についてはまだ予算が決まっていないということで、方針だけだということで、２番目について再質問させていただきます。

実はハローワーク、さまざまな機関との中で多分これは二、三十人の会になるんじゃないかなと思うんですけれども、私は今般これだけ職業につけないと困窮している人が多いときに、通常時であればこういった会も機能するのかなと思いますけれども、これはもう直接戦略的な政策をしなきゃいけない時期だというときには、六、七人くらいの小さな人数でもって少ない

人数でもって徹底的に政策、それから金額の手当てをするんだということをやらないと即効性がないと思うんですよね。

私が今のやり方ではなかなか難しいなと思って、私が考える提案というのは、例えば町でも新しく政策直轄室をつくったと、政策について徹底的にやろうという風潮になっているわけですから、議員もこれだけ22人います。特殊な才能を持っている人もいますし、そういった意味では、例えば議員から２人とか、町行政側から２人とか、商工関係あるいはでかくやっているような人２人とかね、六、七人くらいの徹底したチームをつくって半年なら半年くらいでその方針をまとめようと、それでお金もかけようというようなことが必要じゃないかなと思うんです。一応これから予算期に入りますから、どっちがいいのかな、一たん小さな組織でもって町独自でやっていく方向性を今後町長が考えていこうというような姿勢があるかどうか、それを１点聞いてから、またご質問申し上げたいと思います。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

このハローワークを中心としたいわゆる雇用に対する協議会については、議員と私も認識は同じくするところであります。昨日議会が終了した後、銀行の支店長に来ていただきました。それで実際やっぱり好況不況の実態をよく把握しているのは銀行関係なんですね。これらの情報を得ながら、きょう議会が終了した後、直ちに庁内で先ほど申し上げたように六、七人の関係者が集って今後のあり方について検討しようと。これはやっぱり即効性がないとタイミングが悪いと効果がありませんから、その辺を詰めていきたい。

ただ、今後の問題として、これがいわゆるこの年末を通した対策で終わらないためには、議員がおただしのように、今後継続的に地域の経済あるいは雇用の状況を将来予測しながら、対策を連続的に打っていくためのそういう関係者の集いといいますか、協議会みたいなものは必要だというふうには認識していいます。ただ、現在私の頭の中にはどういう構成にするかということまでは決めておりませんので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　12番、星登志一君。

○１２番　星　登志一議員　今後ろのほうに傍聴で中学生が来ているんで、中学生のほうがわかるかもしれないですけれども、たしかね、この恐慌というのは100年に１回くらい、私も年代とかそういうのは詳しくは覚えていないですけれども、当時そこでアメリカがやった大恐慌に対しての政策というのは、当時は公共事業だとかそういったものに対してやったかと思うんです。たしかニューディール政策とか何か、私もちょっと中途半端にしか覚えていないんで、

後からおしかりを受けるかもしれないですけれども、ところがあの恐慌よりも今回のサブプライムローンというのは金融関係から来たやつですから、急激に落っこちてきたわけです。ということは、今回の恐慌に対しては私は政策ではだめだと思うんですよ。直接人を動かすための雇用を生む直接的な政策をやらなきゃいかんと、私はこんなふうに思うんです。

だから、今政府がやっていることは２兆円というとんでもない数字ですよ、これは。私から言わせるとばらまきの政治だと思う。あるいは第２次補正を国で組むと、その中に緊急対策も入っているようですけれども、２兆円という金額はどういう金額だというと、ちょっとその前に総務課長、もしご存じであればいいですけれども、今後の話のために国で全国の地方交付税の金額、多分十五、六兆円じゃないかと思うんですけれども、その金額がちょっとわかったら教えていただけますか。私は十五、六兆だと思うんですけれども。

○渡部康吉議長　総務課長。

○室井　裕総務課長　お答えいたします。

今、さまざま景気対策に向けて１次補正、２次補正、さらには年末に向けまして財務と総務の中で来年度の地財計画をどうしようかというような議論をされておりまして、まだ最終的な数字というものはこちらのほうにはまだ届いておりませんが、先ほど申しました２兆円、これにつきましては人口１人当たりにすると幾らかというと２万円ですよね。ですから、これはかなり大きな金額だというふうに認識しておりますし、さらに聞くところによりますと、来年度かそれとも２次補正になるかわかりませんけれども、普通交付税に１兆円上積みしようというような話も来ておりますので、これらの普通交付税の措置をどのような形で雇用対策に結びつけていくのかというのが、まさしく地方に問われているのかなと、こんな認識を持っております。

○渡部康吉議長　12番、星登志一君。

○１２番　星　登志一議員　実は合併して、これは単純計算ですから、これは交付税の中身はあるんで目安として私も話すわけですけれども、もしも２兆円を合併してから市町村は約1,800くらいから2,000くらいになっているはずなんです。これを単純に割りますと交付を受けている市町村1,800を単純に割りますと多分８億6,000万円くらいになると思うんです、交付税のふえる額が。８億6,000万円というお金はどういうお金かといいますと、私はきのうのテレビを見ていてその前は町独自で１億円を直接一般財源、もう国とかそういったものは当てにならないと、話ばかりで一向に進まないと、であれば町独自でやるしかないだろうと、こんなことを考えてわけです。１億円でもし町独自で施策をした場合に、公債費比率がどのくらい

上がるのかとか、経常収支比率がどのくらい悪くなるのかと考えたときに、１兆円であればこれは本当に財務の型には申しわけないです。ここ二、三年、相当苦労して縮小してやってきていますから、その頑張っている姿も我々は予算書を見ると拝見できます。またそんなに頑張ってきたのに、ここで一般財源を１億円出すのかというと、本当に申しわけないけれども、こういった緊急事態には出さなきゃいけないと思うんです。

そうすると、この１億円で例えば今、県の最低賃金、時給どのくらいかと、多分650円くらいか、なっていなか、650円だとします。650円で１人１日８時間働いて大体今１カ月は20日でしょう。20日働いて１年間働いたとすると１人の人が149万円、約150万円ですよ。150万円だと１億円のお金を使えば150万円で１年間何人働けますかという勘定になるんです、１億円で。そうすると大体65人から70人くらいは雇えるはずなんです、１億円で。

そこで企画課長にお伺いしますけれども、今本当に１年以上南会津町で仕事がなくて困っているというような人はどのくらいいるか、把握していればちょっとお答えいただきたい。

○渡部康吉議長　企画観光課長。

○星　光幸企画観光課長　お答えいたします。

現段階では申しわけございません、把握しておりません。

○渡部康吉議長　12番、星登志一君。

○１２番　星　登志一議員　まず私はいつも言いますけれども、物事の問題を解決するのは現状の把握だと。この現状の把握をしないとすべての企画は絵そらごとに終わってしまうと。それでこれはいいです、急に聞いたことですから。今後はちょっと調べておいてください。

そうすると、１億円でお金があったとすると１年間に大体65人から70人くらいの人が雇えるとなると２兆円の交付税が平均に南会津町に８億6,000万円来たとする、まあ８億円、これは８倍ですね１年間。480人くらいの失業している人は１年間だけは職場を提供できるんですよ。これはどんな提供をするかといえば、忙しい工場に町でお金を持つからどうぞ派遣で仕事を手伝ってください。そのかわり、これはできるかできないかはわからないけれども、例えば町長の判断で、ただしその給料は町の商品券にしますよとか、これは緊急事態だから国で認めてくれとかね。そうすれば、その商品券は町内の商店街に回るわけですよ。これはできるかどうかわからないですよ。労働に対するものはすべて現金で払いなさいという１項目があるから、それはわからないですけれども、こういった緊急事態だから、我が町ではこういう施策をやりたいと。ついては商店街の活性化もしたいんで、緊急的に商品券で支給することはどうでしょうかという提案も私はしてもいいと思います。

だからそのくらい２兆円のお金というのは貴重なお金だと。それをただばらまいているような国の政策を我々は待っているわけにはいかないと、そのためにはぜひ町独自で、今後３月まで時間がありますので１億円がどのくらい大きな数字かと、それが町にどのくらいの影響を与えるか、希望を与えるかということで今後検討していただきたいと思いますけれども、町長のお考えをお伺いいたします。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

まず初めに、議員がおっしゃったように、大変不況が来るそういう時代にどういう対応をしたか、これまでの場合はやはり建設国債を発行して、そして公共事業を促進させて雇用を促し即効的な効果を期待してきたんですね。ところが今は赤字国債ということで、なかなか公共事業を減らしていくという中で、そういう政策が打ち出てこない。だから、ある意味ではばらまきと言われるような公金の支出になってきたのかなと、こういうふうに想定はできます。

基本的に議員がおただしの言うことは大賛成です。それで、町村会としては定額給付金については制限をしないという点で一応要望はしました。しかし、それは同時に定額給付金もやむなしという、裏を返せば。ですが、私個人としてはこれも実はきのうの議会終了後に福島民友新聞社のアンケート調査がありました。そこで町長の意見をと、こういうことがありましたので、先ほど申し上げたように、まず私は町の事情を一番知っているのはいわゆる執行部である町であり、あるいは議会だ、だからここで独自の政策を独自の雇用対策をしますから、その政策が特に国の政策に相反していなければ資金的な援助をしてほしい、こういうことを１項目書いて総務課長のほうに渡しました。

ですから、ここのところは私も精いっぱい働きかけをしますので、議会のほうもぜひその辺を力を入れていただいて、議会としても要望をしていただければありがたい。いつも議会は執行部を批判するだけで終わらないで、ぜひこのときには一緒にしていただきたいというふうに思います。

○渡部康吉議長　12番、星登志一君。

○１２番　星　登志一議員　昔々の議会はそうでしたけれどもね、でも最近の議会は大分変わってきたんで批判と提案と両方の明るい議会になったかなと、こんなふうには思っていますけれども。

それで、私が今提案したようなことを町長もご賛同いただけたということなんで、我々議会も本当に冗談抜きで一生懸命、これはやっぱり対応していかなきゃいかんと思います。そのと

きに、たまたま今町長から定額給付金の話が出ましたので、これも一つ提案ですけれども、実際この給付金に関しては私は年収500万円、私はそんなにいっていないですけれども、500万円くらいもらっている人は、これは私個人だからしゃべってもいいと思うんですけれども、余りもらうべきような制度じゃないんじゃないかなと。もし町でこの１億円のような制度があればね、給付するときの片側に、私の名前はどういうスタイルで給付するんだかわからないですけれども、私の名前、星登志一さん、はい給付金が来ましたよと来たとする。町のほうは独自でわきに領収書を書いておいて、星登志一は町の政策に対してこの金額を寄附しますというところに判こを押すような書類をつくっていただければね、私はその給付金もらわないで町のほうの一般財源に寄附します、その場でぱっとできれば。そうすればこれは全体で結構なお金が集まるんじゃないかなと、こんなふうに思うんです。これは現在実際に国でどんなふうに給付しようという方法論が来ていないんで何とも言えないんですけれども、そういった方法も一つあるんじゃないかなと。そうすれば窓口に行った人がもらったか寄附したかは、その人しかわからないですから、改めて寄附するだとか、改めてもらいにいくよという人はちょっと恥ずかしいなという人でも寄附したかもらっているかわからない状態でやれば寄附のほうに回っていくお金というのは結構あるんじゃないかと思うんですけれども、その辺ちょっと、町長、今後検討する余地があるかどうか、ちょっとご答弁いただけますか。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

先ほどの発言の中で批判ばかりというような話はちょっと訂正をさせていただきますが、限りなく批判に徹している人とそうでない人とがいると、こういうふうに訂正をさせていただきたいと思いますが、今話があったように、給付に対する事務的な量というのは大変な量になるんですね。したがいまして、もし議会のほうでそういう合意がとられるんであれば、議会全員が議会として趣旨を示していただければ１枚で済むわけですから、そういうことも当然検討材料には入るだろうと、こういうふうに思います。

ただ、そうした場合に、どうしても私たちは顔が見える関係がありますので、あの人はやった、あの人はやらないと、こういうことになってくるとせっかくの町の町民の融和が保てているものが、そこに亀裂が出てくると、こういう心配もありますので、そこのところは慎重に扱いたいと、こう思っておりますのでご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　12番、星登志一君。

○１２番　星　登志一議員　私が思うのは、ぜひとも国の政策を当てにしないで、町独自で１

億円くらいの財源で何とかやっていただきたいと。私想像するには今までここ二、三年、相当財務で苦労していますので、いい方向に行っているとは十分わかっていますけれどもね、ただ緊急時だと、ちょっとこの計画が二、三年おくれるかもしれないけれどもということであれば、私は議会の私以外の議員の方も賛同していただけるんじゃないかなと思うんです。もしこの政策を実行できるとなると、今問題になっているゴルフ場の問題だとか、そういったところにも町のほうの予算で派遣できるわけです。あのゴルフ場の中身もよく詳しい資料はわからないんですけれども、売り上げがあれで一般管理費が8,500万円で売り上げが7,000万円だというから、相当内容は悪いんでしょうけれども、その中身を精査すればどこに問題点があって、これは再建可能だなという答えは私は出てくると思います。

ですから、そういった事業あるいは今農家をやめている人はいっぱいいますから、そうするとあそこで農家をやめた人は機械をどうやっているんだろうと、農耕作の機械ね。それでは町のほうで年間３人くらい雇ってその要らない機械をちょうだいと、相当の機械が集まるんじゃないかと思うんです。その集まった機械でもって、じゃ１年間は町のほうで給料を上げるから、あんた思いどおりの農業をやってみなさいと言えば、今度は農業の担い手が生まれるかもしれない。そういったこれからのその１億円を出すという方向であれば、その中身についてはいろいろな知恵がこれから出てくるんじゃないかと思うんです。

ですから、町長もう一回だけ、前向きというと時間がないですから一生懸命検討してとか、早急に検討するとか、何かそういった意味合いの答弁をお願いしたいと思いますけれども。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

ただいま議員の話を聞いておりまして、限りなく縦割り行政の中に横糸を入れようと、こういう思いが強く感じられました。私も行政は行政の仕組みがあります。その行政の仕組みを批判するだけでは、やはり自治体の町政執行というのはできていかない。したがいまして、いかに町の独自性を入れながら、いわゆる横糸を通していかに布を織り上げて、その布が地域の町民の方々にそれぞれの違いを認めながらも、雇用や生活の安定につなげていくかと、ここだと思うんですね。そういう意味では可能性はないわけではない。

したがいまして、このやまなみ泊覧会で今まで検討してきました。これは今までの私たちのスタンスは有償ボランティアのスタイルをとってきました。しかし、ここに来てこれだけ雇用が不安になり、生活が不安になってきましたので、ここのやまなみ泊覧会の中身を少し変えて、やはり雇用の機会をどんどんつくっていく、そういうシステムに変えていきながら、議員が今

求めているものを、しっかりと本気で取り組みをさせていただきたいというふうに思っております。

○渡部康吉議長　12番、星登志一君。

○１２番　星　登志一議員　大きな１番については方向性というのは見えてきましたので、私もぜひともお声がかかればご協力申し上げたいと思います。

それでは、指定管理者と職員の健康管理についてはこれは関連がありますので、初めに３番のほうから再質問をさせていただきます。

実は指定管理者の問題になると、通常評価するに当たっては、今政策直轄室でもやっているようですけれども、町の大きな課題としてはこれから行政評価の分野が入ってくる。当然行政評価ですから、指定管理者にも関係してくると思います。この中で一番大事になってくるのは、行政評価に関してはまずどんな計画を立てたんだと、どんなふうに実行したんだと、その評価はどうしたんですかと、ここのＰＤＣＡでいえばＣのところを相当十分やりなさいよと言われるはずなんです。

評価をするためには、原価がどのくらいだということがわからないと、大もとの原価ですね。今まで町でやっていたときには職員が何時間かかって何人でやっていたんですよと、職員の１人当たりの単価は幾らですよと、その結果、今まで町でやっていたときは料金がこのくらいかかりました、人件費はこのくらいかかりましたよと、施策はこうですよといった結果、原価計算はこうです、これを指定管理者に任せた場合にはこのくらいになりますよという評価ですよね。このチェックのポイントが一番大事になる。

ただ悲しいかな我々が３年前に指定管理者をやったときには、町のほうでそのデータがなかった。国のほうは急いでやりなさいと言うから、ここは甘目に見ましょうということで議会を通った節があるわけです。何も議員全部がそれを知らなかったわけじゃなくて、緊急だから甘目に通したということがあるわけです。

ところが、あれから３年たっていますから、今まさに再評価をするときには、その原価がどのくらいになっていて指定管理者にどのくらい渡したかと、ここが重要になってくる。そうなると、やはり職員の今までやっていたところに料金がどのくらいかかったかということを見るためには、やっぱり日報が必要になってくるんですよね。そういった意味で、私は日報をつけたほうがいいんじゃないですかということなんです。

ですから、これは職員のそれこそ気の持ちようですけれどもね、やる気があるかどうか。本当に日報をつけると我々であっても、１日にどんな動きをしたんだと、後から考えるとちょっ

とこれはロスだなと、Ａ地点からＢ地点に行くのは何も毎日行く必要はないと、２日に１回でいいとなると、ＡからＢへ行くのを２日に１回にするとかね。そういった作業のやり方が見えてくるので、これは私は町長の強制的でもいいと思いますよ、日報書けと。そうすると中の原価計算の仕方の出発点になるかと思いますんですけれども、もう一度町長のほうから、その日報に関してご答弁をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

指定管理者制度の問題と職員の健康管理といいますか、言ってみれば現況把握をし分析をしチェックをしということになるんだろうと思いますが、指定管理者制度が導入されたときには、大方の自治体は指定管理者のほうに移行しました。選択肢として直営か指定管理者かという選択があったわけですね。そんな中で甘目に見て通したと、こういうことですから、これからは甘くないぞと、こういうことを言いたいんだろうと思いますが、実は一つ重要な問題があると思うんですね。例えば経費が安ければいいか、ここのところの試算をもう一回しなければならない。例えば指定管理を受けた団体が、団体で働く従業員が限りなく労働条件が悪くなってきた。これであってはやっぱり指定管理が必ずしも成功したとは言えない。

こういう中で、今回のアメリカの金融危機を受けて雇用不安になっている。これはやはり会社の経営を維持したいと思うから解雇をしたりするわけですね。そうすると、指定管理が目的とする施設を維持しようと思って、そういう行為を行うということには、私は原則的な問題としてもう一度精査しなければならない。その上で議員がおただしのように本当にこれまでやってきたやり方と今回３年間やったやり方がどう違うのか、そこの精査ももちろん必要だと思うんですね。

そういうことをするために日報を書けということですが、これが日報でいいのかどうなのかわかりませんが、以前から議員からおただしがありましたように、いわゆるマニュアルをつくれと、こういうことと関連してくると思うんですね。つまり人がかわったら変わってしまうということではなくて、最低限この部分については絶えず私たちは検証を図りながら前に進んでいく、こういうシステムは今後つくっていきたい、こう思っておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　12番、星登志一君。

○１２番　星　登志一議員　そこで私は２番の指定管理者についての再質問に移るわけなんですけれども、今町長が言われたように確かに日報を書くだけではなくて、やはりマニュアル化

に向かっての第一歩と、町長がおっしゃったとおりです。行き着く先はそこに行きたいなという感じはするわけなんです。

そこで、その先があるわけです。今度は改定マニュアルをつくったと、そうなると今は多分役場もそうでしょうけれども、一般町民からよく言われているのは、担当者が休んじゃうと全くわからないと。そこの一番の私は欠点はこれは指定管理者にも多分中身を検証しないと言えないことなんですけれども、果たしてそこでワークシェアリングの方法が生きているかどうかということなんです。それは１人の担当者だけしかないと、その人がわからないと仕事がたまっちゃうということがあるわけなんです。そこにワークシェアリングの方法を用いて何人かの人が一つの仕事をできるということになれば、仕事の穴埋めができてスムーズにいくわけなんですよね。

ですから、そういった方法を指定管理者自体が、ただあそこの部署が人が少ないから多くしてくれだとか、この部署がもうちょっと人がいたほうが楽ができるとかね、そういった要求じゃなくて、指定管理者の会社全体の中でその作業員がどういうふうな動きをした結果、それでもまだ人が足りないんだとか、給料が少ないんだということであれば、私は管理料は上げていかなきゃいかんと思うんです。ただ今のところは私は見ているとそういった詳細なところまで報告しているような管理者はいないんじゃないかと、こんなふうに感じるんです。ですから、私は今度の指定管理者の尺度は相当厳しくしなきゃ、そういった意味での手法に対しても厳しくしなきゃいかんと、こんなふうに思うんですけれども、再度町長の尺度に関するご答弁をお願いしたいと思います。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

実はこの原油の高騰に伴う、いわゆる対処の仕方について、特に第三セクターを含めまして指定管理者がどういう動きをしたかというのは、こちらでしっかりと精査をさせていただきました。つまり、原油が高騰したから指定管理料を上げてくれと、こういうふうに言ってきたところと、指定管理料を上げる前に私たちはこういう削減、原油は上がっていますから、原油以外のところでこれだけの削減を特に取り組みました、こういうところが出てきます。ですから、これははっきりとやはり評価しなきゃならないんですね。こういうことは実際にやっている指定管理者がおりますので、そういう事例をほかの管理者にもお示しをしながら、やはり事業計画も当然ビジョンも出てきますから、そういう中で精査をして、あるいは評価をして今後の指定管理の要件として満たすかどうかを考えていかないといけない。

ただ一つは、もし指定管理を議会に提出できないもの、あるいは提示したけれども、同意されないということになれば、これは直営でやるしかない。そうすると直営の体制をどうとっていくかということも当然出てくるわけですから、ここのところは議員がおただしのように、真剣に実際に運営をされる指定管理者の経営の責任者初め、関係者の資質を問う時期に来ていると、こういうふうに認識しておりますので、私は考え方は同じではないかなと思っております。

○渡部康吉議長　12番、星登志一君。

○１２番　星　登志一議員　今回の話はね、いろいろ細部にわたるとこれは３時間も４時間もの話になりますので、とりあえずきょうは私はこういった問題点があるんじゃないかと、あとは提言としてこんな方法もあるんじゃないかということを言ったつもりなんで、私の一般質問はこれで終了いたします。

○渡部康吉議長　以上で、12番、星登志一君の一般質問を終わります。

暫時休憩いたします。昼食休憩にします。

休憩　午前１１時５０分

再開　午後　１時００分

○渡部康吉議長　休憩前に引き続き会議を開きます。

――――――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――――――

◇　大　宅　宗　吉　議員

○渡部康吉議長　次に、９番、大宅宗吉君の登壇を許します。

９番、大宅宗吉君。

○９番　大宅宗吉議員　それでは、午後の１番ということで、これより大きく４項目について質問させていただきます。

私の質問の内容は、今までいろいろな方が質問された部分と重なっている部分があるかもしれませんけれども、私なりに質問させていただきます。

まず１点目、平成21年度予算編成とその運営方針はということで、世界の経済はアメリカのサブプライムローンから端を発し、行き場を失った投機マネーは原油や貴重な食料などに向き、

世界の経済や生活に多大な悪影響を及ぼしていると私は考えます。そしてその結果、100年に１度といわれるほどの大変な不況、大変な危機に陥っております。このことに対して国もいろいろ議論はされているようですが、迷走もありなかなか決まらないのが現状であり、国の早急な対策が求められると思います。この年の瀬を迎え臨時雇用者や正職者までも解雇されたり、内定も取り消され、これから一生懸命仕事をしようと社会に出て一生懸命やろうという人まで影響を受けております。生活を根底から奪われてしまい、今後の見通しも全く立たないような状態が、多くの人々がその影響を受けております。

当町においても建設業の倒産や工場の閉鎖、撤退、そして農産物などの価格の低迷やまた追い打ちのように生産資材の高騰など、就労の場の減少や所得の低下などが深刻な状況になり、全く憂うべき状態となっております。

平成19年度の決算で、当町の財政は実質公債費比率18.7％、前年より1.3％改善され、また経常収支比率も改善はされていますが、依然として94.5％と大変窮屈な状況となっております。町の財政運営も借金を返済しながら財政再建計画を執行していかなければならない、大変窮屈な中にも一筋の明かりが見えてきたようには感じますけれども、このような経済の状況から来年の町民の雇用の悪化や所得の減少など想定されます。そうすれば、今年度も３億1,000万円近い未納金があるとの様子ですが、まだふえると、そういう心配もあるのではないかと思います。

したがって、これら町民生活や町の財政運営に大きな支障を来すことを懸念いたすわけでございます。予算の編成や執行についてはより一層の行政評価を実施し、無駄をなくし有効な財務執行が大切であると思います。このような中だからこそ、将来へ向けた希望の持てる振興策やめり張りのある政策運営が必要ではないかと。そして町の活性化を促すべきと思いますが、来年度の予算をどのように編成、運営されるか、その重点施策を伺います。

２つ目に、総合支援センターの役割と課題についてであります。

総合支援センターは今年度より運営が始まり、舘岩、伊南、南郷地区で運営されております。各地区の支援センターではその地区の要望や事情などによりそれぞれの運営をされているようであります。以前町長は総合支援センターはアウトソーシングの一つであり、町の必要な監督権は残しながらも、包括的に委託するもので、一定の権限を含めて業務の委託をしたいとおっしゃっておりました。

したがいまして、現在の総合支援センターの運営は目標の途中であると思いますが、現在のところ町の職員と臨時職員とで運営されているのが現状でございます。実施業務も各支援セン

ターそれぞれのようでありますが、職員もどのような役割の中でどのように対応したらよいのか暗中模索の状態ではないかと推察しているわけであります。町民への周知やかかわりなど、不足している部分もあるのではないかと、そういう懸念も抱いております。今後の運営の役割と課題をどのように考えておられるのか、伺います。

その２番目として、各地区のいろいろな要望とか施策、特性とかあるわけでございますけれども、各地区の地域協議会、いろいろ地区の考えもあるかと思います。そういう諮問機関がありますけれども、その連携はどのようになっているのか、伺います。

３番目に、まだ田島地区では支援センターが立ち上がっておりません。この計画と実施はどのようになっているのか、伺います。

３つ目、これは先ほど馬場議員のほうから質問がありましたから、町としての回答も一応伺っておりますが、私も同じ質問をさせていただきます。地区集会所の現状についてであります。

地区集会所は指定管理者のもと管理運営されていますが、ことしよりその保険料が地区負担となり大きな負担となっています。これは町の施設であり町の負担が妥当だと考えていますが、町の考えをまたお伺いいたします。

４つ目です。敬老の心交付金についてであります。

敬老の日の祝福は、内容を変えてお祝いや表彰などの敬老会を４地区で実施されておりますが、これらの参加者は以前より減っているように思われます。また敬老の心交付金として町より１人当たり600円を交付していますが、敬老会のあり方や交付金の金額など見直す考えはないか、お伺いいたします。

以上、大きく４点質問いたしましたが、いずれも町長に答弁を求めるものでございますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　９番、大宅宗吉議員のご質問にお答えをいたします。

初めに、平成21年度予算編成に関して、重点事業と運営方針についておただしがございました。

平成21年度の予算編成に当たっては、これまでの統合、存在感、響き合いをテーマとした施策の集大成として将来に向け、持続可能な地域創造型のまちづくりのため、次の政策に重点的に取り組んでまいります。

まず第１に、地域資源を生かした活力のあるまちづくりのため、南会津やまなみ泊覧会を開催し、地元特産品やほかでは味わえない体験メニューの開発等を通じた地域力の向上、さらに

は地域資源の発掘と活用を図りながら、町民の雇用、所得の向上を図ります。

次に、子育てをするなら南会津町の環境を整え、年少人口の増加を目指します。特に多様化する保育ニーズに対応するため、田島地域の統合保育所の建設と地域子育て支援センターを核とした保育サービスの展開を図ります。さらに子供たちが健やかに育つ環境づくりのため、母子保健、食育、放課後子ども教室を充実し、安心して子供を産み育てることができるまちづくりを目指します。

３点目には、医療費削減に関する施策の展開を図ります。医療費を削減するには、健康を維持することが、その最大の対策であることから、住民が主体的に健康づくりを進められるよう、正しい知識の普及、指導と生活習慣病やメタボリックシンドローム対策を総合的に実施し、削減された医療費分を将来のまちづくり施策の財源に充てていきたいと考えております。

４点目には、やる気のある人や地域がみずから考え、みずから取り組む事業に対して支援を行い、魅力ある人と地域に生まれ変わるための施策を展開します。これらを町民の所得向上と税収の増加に結びつけながら、ありがとうの広がるまちづくりを着実に推進してまいります。

このほか、行政改革大綱、財政健全化計画などの各計画を基本として、地方交付税の合併算定がえ期間の終了後を見越した施策を積極的に実施いたします。アウトソーシングを取り入れた新たな事業展開や、限られた資源の有効活用により、財政の硬直化の解消と新たな財源捻出に向けて抜本的な改革に取り組んでまいりたい、このように考えているところであります。

最後に、第三セクターの経営の安定化のための施策として、第三セクター方式のメリットが十分に発揮されるよう運営改善等に積極的に取り組むとともに、確かな観光戦略を持って地域経済を活性化させるため、株式会社南会津観光公社の体制づくりを強化し、業務の拡大と連携力を高める方策を進めます。

以上の施策を中心に、町が直面する課題を継続的に改善し、持続可能な地域創造型のまちづくりを目指していくことを平成21年度の重点政策目標といたします。

次に、総合支援センターの役割と課題に関する１点目、町民への周知と今後の運営に関するおただしがございましたが、各地域の総合支援センターでは、総合支援センターだよりを発行し、地域の実情に応じた広報活動を行っております。総合支援センターに登録された個人や団体は３地区合計で148に上っており、その活動内容を把握しながら地域の課題解決に向けた活動を行っているところであります。また、登録団体の活動を支援するため設置をいたしました共同スペースにつきましても、パソコンによる各種団体の資料作成の支援や活動に関する協議、さらには登録団体が行うイベントの準備などの場所として活用の幅も広がりを見せてきており

ます。共同スペースの利用頻度が高い登録団体においては、開所時間の延長を希望されるなど、団体活動の支援に役立っているものと考えているところであります。

今後も地域や住民の課題を解決するため、困ったことがあれば総合支援センターに連絡してみようという活動を行ってまいりますので、ご理解をいただきたいと思います。

次に２点目、地域協議会との連携に関するおただしがございましたが、地域協議会に対して総合支援センターの活動内容や、設置の意義についての説明を行い、委員各位の理解を得ているところであります。地域協議会については地域住民の意見を行政運営に反映させるとともに、行政と住民との連携のよる協働のまちづくりを推進することが大きな役割となっており、地域の課題を解決するという大きな目的においては、互いに共通しておりますので、それぞれが連携を図りながら地域課題の解決に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

次に３点目、田島地域における総合支援センターの設置に関するおただしがございました。

田島地域につきましては、平成21年度当初からスタートできるよう現在準備を進めているところであります。まずは町と各種団体等の協働を図るため、町の直営でスタートをしたいと考えております。開設場所につきましては利用される方の利便性等を考慮しながら選定作業に当たっているところであります。

次に、地区集会所の保険料掛金が地区負担となったのはなぜかとのおただしでございましたが、さきの４番議員にお答えしたとおりであります。

次に、敬老の心交付金の額を１人当たり1,000円とする考えはないか、このようなおただしがございましたが、この交付金は多年にわたり地域社会に尽くされた高齢者を敬愛し、地域ぐるみで長寿を祝い、地域の中で支え合う安心のまちづくりを促進することを目的としております。また創設した際の交付基準は、例年の敬老会の飲食に係る経費を対象人数に割り戻した金額で、１人当たり600円としたところでありますので、これらの経緯を踏まえて現状の基準額でご理解をいただきたいと思います。

以上、お答えを申し上げましたが、具体的事項については担当課長等に答弁させますので、よろしくお願いをいたします。

○渡部康吉議長　９番、大宅宗吉君。

○９番　大宅宗吉議員　それでは、再質問させていただきます。

ちょっと順序は逆になりますけれども、敬老の心交付金について再質問させていただきます。

町長からただいま答弁いただきましたけれども、きのうのどなたかの質問の中でこれに触れられて、これというか、その中で敬老の交付金の考え方というか町民の意見ということで、ち

ょっとコメントされましたけれども、ある町民はこの交付金に対しては将来の子供たちに負担を残すのはいかがなものかと、ですから辞退してもいいんだというようなお話もされました。

今、国でいろいろ話題になっております定額給付金の話もありますが、それと一緒にするつもりはございませんけれども、やはりそのような考え方もあるのかなと、それも私も考えます。一方いろいろ地区の声を聞きますと、実際地区に入ってみますと、その600円を確かにいただくんだけれども、どういうふうに配布しようかと、現金をそのままやっているところもあるようでございますけれども、弁当を配ったり手をかえ品をかえやられているところもあるようでございます。これは人それぞれといろいろなその地区でのいたし方もあるというような行政報告の中にもありますけれども、改めてその地域の人たちの声をどのようにとらえられておるのか、町長にお伺いしたいと思います。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

地域の声をどうとらえているのかと、大変重要にとらえております。ただし、一人一人の声はとらえ切れません。したがいまして、この敬老の心交付金については、先ほど申し上げましたようにそれぞれの地域でそれをもとに創意工夫をして、それが老人会活動につながって、しかもその老人会活動を支えようとして婦人会が動き、地域の区長たちが動いて表彰された例があるんです。なぜできないんですか。そういう工夫をされて、それでもこれはまだ十分とはいかない、こういうことであればそれぞれの地域の声をもう一回聞いて、対処の仕方は考えていきたいということになるだろうと思います。

○渡部康吉議長　９番、大宅宗吉君。

○９番　大宅宗吉議員　この600円のどうして600円に決めたかということも、以前の一般質問の中でその経緯は伺っていますから承知しておりますし、いろいろな考え方があると、確かに一人一人の声を全部聞くわけにはいかない、それは私も思い、だれもがみんな重々承知しているところだと思います。

今現状がそういうことであるということは認識されているようですし、いろいろな声が出ればまた検討したいという町長の話がありましたものですから、その考えを承っておきます。

また逆からになりますけれども、次の質問に移らせていただきます。

３つ目の地区集会所の保険料の件なんですけれども、これも先ほどの馬場議員の質問に対しての回答で町の考え方は大方わかりました。確かに受益者負担、そのくらい地区で負担してもいいだろうと、そういう部分も理解できます。この集会所は確かにあるところないところあり

ますから、ないところはその利用さえできないから、そのくらい負担してもいいんじゃないかという考え方も成り立つかとは思いますけれども、一方受益者負担ということで地区に負担を求めて合併協議の中で合意していますと、こう回答されましたけれども、一方指定管理者が今管理している町の施設、これは町の所有物になっていると思うんですが、指定管理のときの契約とか条件もあろうかと思いますけれども、これは町でどのように保険料とか、そういうのは対応されているんですか、伺います。

○渡部康吉議長　総務課長。

○室井　裕総務課長　お答えいたします。

各地区の集会施設の地区との指定管理の契約の中では、指定管理料を無料とすると、こういうことで協定を結んでおりまして、その中には当然のことながら、この火災保険料、それから日々発生します光熱水費等につきましては地区のほうの負担であると、こういうことの認識のもとに、そういう協定を結んでいるということでございますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　９番、大宅宗吉君。

○９番　大宅宗吉議員　ちょっと質問の仕方が悪かったのかな。

各地区の集会所はそういうことで、確かに各地区の団体といいますか、地区の組織に管理委託されている。第三セクターの指定管理をやっていますよね。団体というか会社がありますよね。その指定管理されている施設のそれに対しての保険料というものはどういうふうになっているんですか、それは町が払っているんですか、その指定管理者が払っているんですか。

○渡部康吉議長　総務課長。

○室井　裕総務課長　お答えいたします。

まず第三セクターに係る指定管理の関係でございますが、町の所有している建物についての火災保険料につきましては所有者ということで町が負担をしております。したがいまして、今おただしのありました地区の集会施設と第三セクターの関係の問題とは、やはり基本的に考え方を分けて考えていただかなければならないと、そんなふうな考えを持っております。

○渡部康吉議長　９番、大宅宗吉君。

○９番　大宅宗吉議員　その所有物は町の所有なんだけれども、片や第三セクターは利益を追求しますよね。公共もしますよ、人を雇用したりそういう意味で公共もありますけれども、地区の集会所にしてもそういう公共性というものからすれば、地区の集会所のほうがそういう意味では公共性があって、やはりその負担というものは町で、町所有物だし町が所有するのが妥

当じゃないかなと私はこう考えるんですが、その整合性というか、私にはちょっと理解できないというか、そういうあれなんですが、もう一度説明をお願いします、そこの整合性の部分。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えいたします。

整合性という言葉が妥当か、それともそういう仕切りをしているというふうに言ったほうが正当かわかりませんが、いわゆる集会所というのは地域の人たちにもっぱら集会、コミュニティーを図るための施設、ほかの施設については不特定多数の方々が出入りする施設、こういう区別の仕方ですね。その上で、集落の中にはこれほどまでに町の財源を投入して道路整備をしたり、消火栓をつくっていただいたり、水道事業をやっていただいたりしているので、このくらいのことは当然ではないかという認識を持っておられる集落もたくさんある。ただ単に、権利とか義務の主張ではない。そこを合併協議のときにしっかりと仕分けをしようということで現在に至っているということをご理解いただきたいと思います。

○渡部康吉議長　９番、大宅宗吉君。

○９番　大宅宗吉議員　これも先ほどの人と同じようにいろいろな考えがあるということで、その中で合併協議の中ではそう協議をしたということですから、そのように私も理解いたします。

それでは、第１番目の平成21年度の予算編成とその運営方針についてですが、今町長から先ほど答弁いただきましたけれども、いろいろな施策を申されました。

ちょっと私が質問いたしましたことと話がずれるかもしれませんけれども、今これほど世界が不況になってきているわけです。それで、21年度の予算の編成の前に本当にあと残された４カ月の間にも喫緊の課題としていろいろ、当町でも今までの質問の中で、雇用もそうですけれども、もちろん失業されている方、いろいろいっぱい出そうだと。これからもどこまで行くかわからないというような状況の中で、そういうのを視野に入れながら多分これから21年度で解決できない。もう22年、23年とずっと続くかもしれないと、そういうおそれの中での予算編成になろうかと考えます。

そういう中で、いろいろ施策も言われましたけれども、来年度はやまなみ泊覧会という事業は当町にとっても将来につながる大切な事業であり、またそれに対応する一つの大きな事業になるだろうと、私もそうは思います。でもその前に、３月までの、申しわけないんですけれども、これはちょっと言ってなかったんですけれども、今までもいろいろその人たちに対する対応ということで質問されて答弁もいただきましたが、私はいろいろな考え方があると思うんで

すけれども、なかなか町としての施策そのものを直接的にやるということは、なかなか厳しい面もあるかと思います。

今、今度急に失業されたり何なり、そうして職を失われたときに、その保育料とかそういうものに関して急遽、来年度の保険料に対しては今年度の所得に応じた保険料が設定できるんでしょうけれども、今までそれだけ収入があろうとして保険料を払わなきゃならない部分、今度何カ月かあるわけですよね。そういうものに対しての町として減免とか減額とか、そういう措置、対応をされることが可能なのかどうかを伺いたいと思います。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

私の個人的な気持ちとしてはすぐにでもしてあげたい。さまざまな手当てをしたい。しかしこれをやろうとしたら、また議会軽視になるでしょう。議会の同意を得なければできない、議会の同意を得るためにはさまざまな面から分析をし、精査をし、皆さんからのご意見にきちっと答えていけるような内容でないと提案できないんですよ。これが町の仕組みです。そして、仮にやろうとした場合に、これまで建設業者が倒産をしました、誘致企業が撤退をしました。そのときはやらずに今回はある、その公平性をどうとるんですかと、こういう問題もある。したがいまして、私はでき得る限り今後将来の体制づくりとして、総合支援センターを限りなくアウトソーシングをしながら、それは権利と義務と権限とが伴うと思いますけれども、できないだろうか、これは一足飛びにはできません。

しかし、じゃ今現在私の頭の中にすっかりビジョンが明確に示されているかというと、そうではありません。やりながら検証をし改善を加え、さまざまなご意見をいただきながらそこを充足していくというやり方しかないだろうと、こう思っておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　９番、大宅宗吉君。

○９番　大宅宗吉議員　実はもう少しつけ加えようと思ったんですが、町の奨学金を借りている人たちの利子の軽減というんですかね。それとか、あとは農林業振興基金のそういう借りている人の利子の軽減とか、そういうものまで聞こうと思ったんですが、町長は議会に諮らなければできないというようなおっしゃり方をしましたけれども、じゃ議会に諮っていただければ可能であるということもわかりましたので、なるべくそのような公平性を保ちながらの対応を望むものでございます。

それからもう一つ、これは先ほど緊急の雇用対策の中で、窓口をして本当に独自の雇用対策

をしたいと、町長も答弁されておりますものですから、本当に年の瀬を迎えて生活をどうしたらいいかと、もう来年度の話じゃないよというような状況があるものですからね、これは本当に今申し上げたことも含めて検討されて、私たちにいろいろお話をいただきたい、そうお願いしたいと思います。

実はいろいろ厳しい財政の中、来年度の予算編成をされていると思うんですが、いろいろ改善されてもきています。大変だと思いますけれども、そういう中で行政評価、いろいろな事業をやってこられた中、合併してから２年ですから、２年も途中ですからなかなか資料とかそういうものがそろわない部分もあろうかと思いますが、どのようにして現在財政評価を行われ、そしてそれを予算編成の中で生かされているのか、お伺いいたします。

○渡部康吉議長　総務課長。

○室井　裕総務課長　お答えいたします。

今お話がありました行政評価の関係でございますが、町の中には振興計画ということで一番大きな計画がございます。したがいまして、この振興計画の進行管理を図りながら、なおかつ財政状況もにらみながら、日々行政評価に努めながら予算編成をしているということでございます。

行政評価の関係でいいますと、確かに振興計画というものはありますが、ただ一方では財政状況というものが反対側にありまして、すべて振興計画どおりのきちんとした進行管理というのはなかなか現状難しい部分はありますが、その中でも財政の状況を踏まえながら、より重点、それから緊急性のあるものについて毎年の予算編成の中で行政評価をしていると、こういうふうな認識でおりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　９番、大宅宗吉君。

○９番　大宅宗吉議員　本当に経常収支比率も94.5％ですね、なかなか町でいろいろやろうと思っても大変だと、実際できないというような状況、それは本当にわかりますけれども、100年に１度ということであるならば、町もそのような状況にもっともっとひどい時期があったよと言われるかもしれませんけれども、やはりそのくらい近年にない状況に陥っていると思います。当然緊急財政出動みたいな、大げさに言えばそのようなことも必要になってくるかと思いますけれども、やはり町の基幹となるもの、農業、観光、これらに対しての今町長から来年度の重点施策の中にやまなみ泊覧会というようなものもありましたが、これを絡めていろいろやりたいと、こうありましたけれども、今まで頑張っている人たち、もう頑張り切れなくなっていると思うんですが、そういう人たちに対しての特別な考慮というものはあるのかどうな

のか、伺いたいと思います。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

頑張り切れなくなっているという、その基準をどこに置くのかよくわかりませんけれども、特別な支援をする気はありません。ただ私は、これまでも幾度となく農業政策について答弁をしてきましたように、やっぱり農業政策を国や県の政策に頼っていては、一向に農業者が体力がつかない。ここで町独自の政策として、昨日も質問がありましたけれども、土づくり、ここに本気で積極的に投資をしながら、いわゆる社会が求める食の安全・安心、これらがしっかりと体系的に生産できる仕組みをつくっていくと同時に、生ものを販売するだけではやはり所得の向上にはつながらない。つながらないという言い方はちょっと簡便過ぎますが、向上に非常に弱い。そこで加工のシステムをつくりたい。加工することによって保存も可能になる。保存が可能になれば学校給食や施設の入所者の食の安全に確実な地元の農産物が提供できる。このシステムを何とかつくっていきたい。このために万全を期して農業政策に取り組みたい。その中で一気にそこまで持っていくのには時間がかかりますから、やまなみ泊覧会を通して消費者のニーズを聞きながら、そしてまたそこで現在農業の生産をしながらも不安を抱えている方々に少しでもやまなみ泊覧会とかかわりを持っていただいて、現金収入を得ていただいて、次に頑張りエネルギーにしていただきたい、こういうことを考えておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　９番、大宅宗吉君。

○９番　大宅宗吉議員　今町長から農業で土づくりの話が出ましたものですから、それについてちょっと考え方を述べさせてもらいたいと思いますが、というか質問いたしたいと思いますが、何をもって頑張っているかわからない、その基準がわからないとおっしゃいますけれども、確かにこれは何といいますかね、感覚的な問題がウエートが大きいですけれども、やはりこれだけ世界の情勢もありますけれども、農産物の価格が低迷して、米もそうですけれども、おまけに今度は原油の高騰から、今は下がっていますけれども、肥料の高騰はもう異常です。

そういう中で、来年再生産しようとするにはとてもこの価格で、農産物の価格でもアップすれば別ですけれども、ことしの販売価格ではなかなか厳しい、本当に厳しい。もう一戸の大きな農家ほど打撃が大きいと、そういうような実情にあります。一方、よくよく検討してみますと、化学肥料の値上がりがすごいということはわかってきています。有機のほうはそんなに値上がりしておりません。

ですから、有機のほうに肥料そのものを、土づくりですけれども、切りかえてやったらどうかということになるわけですけれども、現実問題、有機にも問題があります。何か、価格です、やっぱり価格になるんですよ。実際の成分そのものも安定していないですから、作物をつくった場合には、ちょっと突っ込んだ話になりますけれども、いつの時期に肥料が効いて、その効果があらわれるのか、一般的には遅くなって地域によってはそろわないという部分もあります。そして、施すのに価格は今のところ化学肥料と比べて安いんだけれども、作業が大変だとか、どうしてもそういうふうなほうに入ってくるというわけです。ですから、そこのジレンマが実際の農家にもあるわけで、これをやっぱり国なりあるいは、先ほど町長がおっしゃられた町の独自の事業の中に取り入れてもらえないかなと。まだこれからいろいろ検討されるでしょうから、その点の考えはおありかどうか、有機栽培のグループもあったり、そういうところにも目を向けられているようですけれども、一般の農家でもそういうことを可能な部分があるのかどうか、そういうふうにされるのかどうか、伺いたいと思います。お願いします。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

結論から申し上げますと、大変難しいと言わざるを得ません。それはこれまで各議員からご質問があったことを考えれば容易に理解できると思いますが、商店街が中小企業がそれぞれ今あえいでいます。そういう総合性あるいは平等性、公平性の観点から町はその助成の仕組みを考えていかなければなりませんので、これについてもここが不足しているから、この部分に当てがえと、こういう簡単なわけにはいかないと私は思っています。

そういう中で、なぜ農業がこれだけ営々と先代からやってきて、国の補助事業を受けてやってきて、なぜ体力がつかないんでしょうか。ここが私は不思議でならない。つまり、その場その場を何とかしのいできた。しかしこれは、直接的な効果として必ずしも悪いことではない、しかしそこのところを根本的にどうするかという問題を同時に検証しなかったのではないだろうか、私はそういう認識を持っています。

そこで、外的要因を限りなく少なくする農業を確立していかなければならないということになれば、やはり国民的なニーズの高い食の安全を確保するための農法に切りかえていく必要がある。そのときに、切りかえ時期にどうするか、切りかえと言ってもその段階での農業者が残っていなかったらどうにもならないわけです。だからここをどうほかの産業と仕分けをして支援をしていくか、ここのところがこれからの課題だと思っていますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　９番、大宅宗吉君。

○９番　大宅宗吉議員　この議論はどんどん突っ込めば突っ込むほどいろいろな問題があることは重々私も承知ですので、これはこのくらいにしておきたいと思います。でもやはり国の施策というもの、食料に対する施策というものが、今後の農業をまた左右する一つの最大の要因であることは私は間違いない、そう思っております。

それで、来年度の編成の中で、これだけ職場が厳しくなったりあるいは実際に町民の所得が恐らく200万円取れない人たちというのが物すごくふえていると思うんです。そうしたときに、来年の町税といいますか、あと使用料とかそういうものをどのように町の収入としてとらえられておるのか、お伺いしたいと思います。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

どのようにとらえるかということですから、これは大変憂うべき問題というふうにとらえております。

以上です。

○渡部康吉議長　９番、大宅宗吉君。

○９番　大宅宗吉議員　結局これは、こういう状況が続く限りそういう状況がなかなかぬぐい去れない状況になると思います。そういうわけですので、来年度の予算編成に当たりましては、十分それは注視していますということでしょうけれども、やはり地域の活性化とか振興に関しては、そんな一朝一夕に行くとも私も思っておりません。ですから、計画をしっかり、そして現状を把握して将来の町の活性化に頑張っていただきたいと、それには私どもも一生懸命努力したいと、そう申し上げておきます。

それから、支援センターの件ですが、地域協議会との連携というのは当初何となく合併した当時の感じですけれども、何か地域協議会の委員の人たちに町の状況を説明して、地区の意見というよりも町の状況の説明で始まったような感がいたしました。それはそれで、町の状況を知ってもらうということは大事な要素なんですが、やはりいろいろその地域の要望というものも実際には合併当時みんなあったものですから、それがだんだん冷めてきて、今はもっと冷静になって皆さん地域のことを見詰めている状況にあろうかと思いますけれども、そういう中でやはり何となく、今の支援センターそのものが、私ども、たまにと言ったらあれですけれども、行くと何か職員だけいろいろ仕事をされているような感覚を受けるんですよ。そのＰＲ不足と言っているのも、そういう意味というとちょっとあれなんですけれども、一生懸命支援センタ

ーだよりとかも出されてやられているようなんですけれども、いまいち支援センターの職員そのものも途中の段階、先ほど申しましたように途中の段階と、自主的な活動ができない、そういうような状況にあるようですけれども、支援センターの人たちが活動しやすいようなものにするには、もう少し地域に出られるような、民間の人たちとの触れ合いの場も必要だと思うんですが、そういう地域センター独自のそういう、地域協議会もそうですけれども、そういう何ていうのかな、機会を持つとか、そういう考えはあるのかどうなのか、ちょっと伺いたいと思います。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

まず初めに、予算編成に当たっての話の中で私は昨日も申し上げましたように、かなり厳しい、そして不透明な状況が続こうとも、ぎりぎりまで私はあきらめない、そう昨日ゴルフ場問題のときに申し上げました。この気持ちはゴルフ場問題だけではありません。すべての町政に当たってどんなに追い込まれてようとも、最後の最後までぎりぎりあきらめないで町政の執行に当たっていきたい、ここだけは申し上げておきますので、ぜひ議員の持っている力を私たちに、ある意味ではアドバイスも含めておかしいただければありがたい。

その上で支援センターですが、議員がおただしのように当面、今ここから始まっているんです。しかし、今後は議員お考えのように民間の力を思い切って導入をして、いわゆる行動部隊になれるような仕組みをつくっていきたいと思います。

いずれにいたしましても人材が必要です。この人材の活用とあわせて、ただ絵にかいたものではなくて、絵にかいたものが確実に実行隊として姿をあらわし、そこで町民の方がなるほどと、一つ理解をしながらまた前に進む、こういう形態をとっていかないと、どうしても机上論になってしまって行動部隊がその力を発揮できないという懸念もありますので、ここのところはそういうことでご了解をいただければありがたいと思います。

○渡部康吉議長　９番、大宅宗吉君。

○９番　大宅宗吉議員　そこで、来年の４月には商工会が合併すると、そうしますと多分それぞれの今西部地区のほうの支所というか、なると思うんです。そうすると、また人事とかそういう関係で向こうの人が減るのかなと、そういうふうに考えられますけれども、この町村の合併のときにもそうだったんですけれども、かなり今の支所の役場の職員は減っていますね。１年くらいたったときも、今もなおさらそういう傾向は強いんですが、特に支所のあった地区、その周辺の商売をやっていたりかかわりを持っていた人たち、やはり何か人が少なくて寂しく

なった、そして商売をやっている人は売り上げも減ったと、そういう実感されているようです。これは町のやっぱり商工会もそういうふうにいうと、町の力になってきた部分がその地域からちょっと抜けるという部分があるわけですから、その辺もカバーできるような実は支援センターに期待しているわけですよ、そういう部分も、観光協会のそういう関連も含めてですけれども、そういうことで、来年また支援センターのそういう意味では事業が逆にふえるのかなと、そう考えるんですが、その点での人材の状況といいますかね、そういうことを考えておられるのか、伺います。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

結論から申し上げます。考えています。十分に考えます。ただこれにつきましては、議会の皆さんにご提案をいたしますが、当然アウトソーシングを含めて投資経費がかかります。ここのところでまたお金をかけるんならやめろと、こういうことになればできません。でも、議員がおただしのように、330数名の職員を段階的に減らして、最終目標は172人です。どこを減らせますか。本庁機能はなかなか減らせないとすれば、支所にならざるを得ない。そうすると、総合支所というのは名目だけになってしまう。だから、私は総合支所の機能を十分に兼ね備えた地域の暮らしの総合的な支援体制をつくっていかなければならないということで、この総合支援センター構想をご理解をいただきました。ここからがある意味では正念場です。私はぜひ議員の皆さんにここのところはご同意いただきながら、民間人材を登用しながらしっかりとその総合支援センターがさまざまな支所の課題にこたえられるような仕組みをつくっていきたい。当然その中には商工会も観光協会もあるいは漁協も関連してくる、こういうふうにご理解をいただければよろしいかと思います。

○渡部康吉議長　９番、大宅宗吉君。

○９番　大宅宗吉議員　それでは最後に、町の町政の運営ですか、事業の実施に当たりまして、今までの中でやはりいろいろな事業を町でされているわけですけれども、こうして議会にもかけられるわけですけれども、私が感じたことは、いろいろな事業をやる場合に、継続の場合はいいですよ。例を挙げますと、前回の公共交通の事業がありましたよね。それでその前、結局やめるときも何かいつの間にかやめちゃったと、そして今度、それを対策として地域で協議していますと、それでこれこれやりますと言われたときに、補正の金額だけ上げられて事業内容が全然私たちに説明されない、そういうようなケースがままある。

ですから、来年度のそういう事業や、その運営に当たってはそういうことをきちんとされま

すように要望というか、そういうふうにしてほしいと思うんですが、これは総務課長のほうがいいのかな、総務課長に伺いたいと思いますが、そういうきちんと説明をしてほしいということです。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えします。

　これは実は総務課長として事務レベルでやる部分と、それから町長として指示を出す部分とございますので、まず私のほうからお答えをさせていただきますが、過去に議会運営委員会の議員の方々と町長の懇談会を持たせていただきました。その中でいろいろと議論がありましたが、いわゆるそういう重要な骨格を擁するものについての説明会をやろうじゃないかと、こういう話になりました。ですから、できるだけに前向きにやりたいと思いますが、ただし、一般質問で本当に執行部のほんの小さなこと、聞けばすぐにわかることをやられるようではなかなか職員だって心を開きませんよ。ここのところはやっぱりね、議会側もお考えいただいて、ぜひ前向きに考えていきたい、こう思っております。

○渡部康吉議長　総務課長。

○室井　裕総務課長　お答えいたします。

　今ほど町長が答弁したとおりでございますが、私の担当の総務課としての考え方を申し上げさせていただきますと、今お話がありましたとおり、議会に補正予算という形で提案される前の事前の説明がないということだとは思いますが、基本的にはこの議会がその審議をするための場だと、私はこのように考えております。

　したがいまして、その会期中におきまして重要案件につきましては、各委員会を通じて説明をさせていただきますので、それ以前のまた説明ということになりますと、これはなかなかそういう場が持てない状況もございますので、その辺は十分にご理解をいただきたいと、このように考えております。

○渡部康吉議長　９番、大宅宗吉君。

○９番　大宅宗吉議員　質問しないかと思ったんですが、今総務課長が話されましたけれども、別にその部分だけとらえて言うわけじゃないんですが、補正予算の中でね、事業計画を委員会の中でしたと言いますけれども、委員会のほかの人はわからないわけですよ。この間もそうですけれども、議案を提案されて、その提案理由は説明されるわけですけれども、補正予算の公共交通のことですけれども、そこに限って言いますけれども、そうしますと、240万円ぐらいでしたか、質疑を許しますと議長が言われるんだけれども、我々何をどうしていいかわからな

いわけですよ。ですから前もって、じゃ委員会で説明したんなら委員会で説明したような資料を私たちにも関係ない人たちにもくれるとか、そういうふうにしてもらわないと、いきなりこの議場で本会議の中で言われても、正直言ってできないわけですよ。

ですから、そういう部分はなくしてくださいという意味ですので、そういう意味ですから私が言っているのは。ですから、ある程度質疑できるような材料はください、そういうことですから、その対応をお願いしたいんですが、どうですか。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

先ほど私が言った例えば予算編成に関する骨格の部分の例えば説明会をやろうと、そういう中で委員会制をとっていますから、それらも含めて今後検討させていただくということでご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　９番、大宅宗吉君。

○９番　大宅宗吉議員　いろいろ質問してまいりましたが、以上で私の一般質問を終わります。

○渡部康吉議長　以上で、９番、大宅宗吉君の一般質問を終わります。

――――――――――――――――――――――――――― ◇ ―――――――――――――――――――――――――――

◇　湯　田　秀　春　議員

○渡部康吉議長　次に、11番、湯田秀春君の登壇を許します。

11番、湯田秀春君。

○１１番　湯田秀春議員　11番、湯田秀春。

ただいまから一般質問を行います。

私は今回４点ほどでございます。主にいつも当町が抱える今の課題は何かというようなことで、今回も４点ほど質問してみるわけでございます。

一番最初、大不況の対策についてということで、これに関してももう何人もの人がもう耳にたこができるほどになっているんじゃないかなと思いますが、いずれにしても、100年に１度と言われる規模の非常に大きな大不況であります。したがって私も大不況と書きました。皆さんも勉強してわかるかと思いますが、私は大変な今までにないような世の中の変換点だろうというふうに理解しています。つまり、アメリカが今までマネーの論理で市場原理主義でばっと突っ走ってきた、そこが一気にストンと落ちた、この金融危機。

したがって、皆さんが今までも議論があったとおり、まず金融機関がとんでもないほどすごい状況になっていると。今ずっと皆さんが盛んに言われてきているのは、実体経済といわれる、いわゆる経済のこの辺に進出企業があるから、そちらのほうに影響があると言っているけれども、実際は金融機関、金融機関というのは人間でいうと心臓ですよ。心臓がどかんとやられた。ここでもってこの穴、これが大変な状況にもなっている。そこにもってきて、今まで一生懸命日本を引っ張っていた自動車産業、それから家電産業という非常に引っ張ってきたところが世界の優良企業といわれるトヨタとかホンダ、日産、家電でいうとパナソニックとかそういうところ、こういったところがやはり実体経済にまで品物が売れない。

昨日町長のほうから進出企業でどこどこの企業はもうこのくらいパートの人がやめざるを得ないんだよと、こう言いました。町長が言わなかったのは減産は言わなかったんです。減産が起きているから人が余剰が出てきていると、こういうことなんですけれども、過般この中でも何人かで、先ほど町長が言った企業の中の何社かとでお話を聞くことができました。そのときにやはり30％だとか、来年は仕事が大分なくなって、ひょっとしたら50くらい行きそうだというような、物すごい状況も聞いているんですね。

したがって、皆さん本当にこの議会でも大騒ぎになっているかもしれないけれども、私はこれは序曲だと思っています。来年はもっとひどいんじゃないかなというふうに思っています。それは私のいつもの悪いくせで、心配くせがあるから、こんなことで言うわけですけれども、そういった状況の中で、今回質問したいというふうに思います。

こういった大不況の中で、まず中小企業、これももう何回も出ているかと思いますが、19番とか７番の人にも出ているわけですけれども、支援策はどのようになっているか。これは通告ですからね、今さら変えるわけにもいきませんから、このとおり読み上げて質問にしたいと思います。

２点目、町独自の中小企業経営支援策の考えはあるか。

それから３番目、これは国でも今回やはり緊急雇用創出事業というものを設けました。設けたばかりですから町の考えはと聞くのもちょっとあれなんですけれども、これも雇用の面でこれも何回も言っているんですけれども、町の独自の考えがあるかというようなことで聞くわけでございます。

それから２点目、これはゴルフ場の対応についてということでございます。

これは昨年、やっぱりこの12月の議会だと思いますが、このままで行ったら来年、来年ということはことしですよ、ことし債務超過にひょっとしたら落ちるかもしれない、そういったこ

とを述べた経過があるわけですけれども、それが、当たっちゃったというか、そうなってもらいたくなかったんですけれども、やはりその辺から来て、今の経営人、会社、会津高原フレンドカントリークラブでは過般、文書を出して、もう私らは経営からやめるよと、そして今はまだ会社にはお金が少しばかりあるから、皆さんの買ったものを20％で何とか譲渡してくれないかと、それを町にやって、もう町へ100％で何とか継続してもらいたいんだと、その説明会が６カ所でやったわけです。桧枝岐ではやらなかったんですけれども、桧枝岐はありそうで、１人くらいしかいなかったそうなんですけれども、そういった説明会があった。そして、去る12月11日に臨時株主総会、最高の意思決定機関だろうと思いますがあったと、それはどういう結果だったのかということでございます。

それから２番目、今後のゴルフ場経営に対する町の対応策、１番も２番も似たような形になるかもしれませんが、町の対応策は今後どうするんだと、こういうことでございます。

それから３点目、学校の統合計画についてでございます。

これは針生小学校と檜沢小の統合計画の説明会はどうなっているのかということで、これは私も６月に質問いたしました。針生には２月に懇談会ということで、そういう説明があったと。余りずっと説明がいかないと、でもうわさはばっと広がるわけです。なぜかというと、中学校というところは学区は同じ、小学校だけが針生と檜沢になっている、そういうことで両方父兄が行っている人もいるし、一体どうなっているんだと、どうなっていると言ったって、私もわからないので、その辺を余り遅いから聞いたわけです。そうしたらいかにもすぐに行って説明会なり第２回の懇談会をやるのかなと言ったら、ずっとやらないで10月の何日でしたかね、父兄に対してやったというんですけれども、余りにも遅いんじゃないか、そんなふうな気持ちを持っているわけですが、どうなっているのかと。それから、檜沢小学校のほうにはどうなっているのかと、こういうことです。

それから２番目、ほかにも学校の統合計画があるのかと、これを聞きたい。これは過般、私学校の雨漏りで質問したことがあるわけですけれども、ある人から学校の統合計画があって、将来廃止されるような建物はそんなところはやる必要もないんじゃないのというような話も聞きましたので、やはり統合計画があるなら教えていただきたいなと、こんなふうに思って質問するわけでございます。

４点目、これは地産民芸市の開催。

これは役場の職員から電話が来まして、これはどういうことですかなんて言っていたんですけれども、これは私が勝手につくった言葉で、インターネットで調べても何してもないです。

これは私の造語です。これは来年やまなみ泊覧会をやると、こういうふうに町長も言っている。私もよく考えているんですけれども、この町を元気にするにはどうすればいいかと。そうすると、ずっと見ますと、この南会津はちゃんと不景気だとか何とかというけれども、ちゃっかりもうけているところがあるんですね。皆さんもよくわかるように、下郷の大内、あの甲子峠を通らなくたってもうずっと右肩上がりね。甲子峠を通ったらとんでもないほど来て、100万人は超えていると、こういうことなんですが。それからやっぱりお客が来るとあの辺の大内ばかりじゃなくて、あっちこっちの直売所、下郷にも農協の直売所もあるんですけれども、それから恐らく道の駅だって、あるいは道の駅の手前の左側だって結構売り上げはあるじゃないかなと、こんなふうに思います。

それから、塩原のおおるりグループってあるんですけれども、かなりちょっと青っぽいバスで行ったり来たりしています。ちょっと傾いたホテルとか何かを全部買収して非常に安い。しかも送り迎えで大宮でもどこでも行っちゃう、東京でも。それで、芝居を見せてちょっとくらいだったら行って、だからこっちまで来るんですよ、こっちまで来ている、大内あたりまで、そして連れて行く。

それから、はとバスまで来る。東京にはとバスというのがあるんですけれども、はとバスの観光まで、皆さんも何回か会ったことあると思うんですが、いずれにしても、そこでこの南会津町でもだんとそこにおろしている人がいるでしょう、ちゃっかりと。そんなこと言葉が悪いかもしれないけれども、ちゃんと大内ばかりではとても下郷ばかりでは売れない、そこにちゃんとアスパラも相当流れています。ですから、山菜とかキノコとか、そのほかにいっぱい流れているんですよ。

そこで、何が言いたいかというと、やはりここを通り行くばかりでなくて、まずは駅前でもいい、駅前に町がここにつくった人、店舗、店を出してもいいよと、こういうふうにしてもらえばひょっとしたら、今の農協の直売所も相当もうかっているんですよね。なぜかと言ったら、安全・安心なんですよ。町の人も大分買い物に行っているんです。それはなぜかと言ったら、やっぱり偽装なんかばっかりあるから、もう信じられなくなっているんです。ですから、わざわざ今度農協の直売所が売れなくなると、またこれも困るんですけれども、こちらのほうにもいわゆる野菜、それから私がここに出た民芸とかいろいろなのと言ったのは、例えばわら細工、つる細工、それからひょっとしたらパッチワークみたいなのも売れるかもしれない。とにかくいろいろ並べてみて、にぎわいをとりあえずつくってみたらどうかと、こういう仕掛けをつくってはどうかなと。そしてさっきのおおるりグループではひょっと来たら、そこに寄ってもら

えばいいですよ。あれを大内でも何でもいい、帰りにここを通るところがいっぱいあるから、ちょっと寄ってもらうように、そういう仕掛けをつくっていただけないかというような政策の提言でございます。

したがいまして、この４点につきまして質問しますので、あとは自席のほうから質問したいと思います。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　11番、湯田秀春議員のご質問にお答えをいたします。

初めに、不況対策に関する１点目、中小企業経営支援策についてのおただしがございました。

町の制度として信用保証振興資金融資制度や、この融資に伴う保証料の補給、公庫・協同組合資金融資利子補給を行っているところでありますが、そのほかにも国・県の緊急経済対策資金を活用したセーフティネット保証制度の窓口として金融機関や商工会と情報交換を行い、中小企業が低利で融資を受けられるような支援をしております。

次に２点目、町独自の中小企業経営支援策についておただしがございました。

町独自の支援策として、原油価格の高騰に絡み公庫・協同組合資金融資利子補給金の助成率を今年に限り２分の１から３分の２に引き上げたところであります。今後は中小企業者等の要望や金融機関との協議を経て、信用保証振興資金融資制度の限度額や返済期間の延長などの制度見直しを検討し、中小企業のさらなる支援を推進したい、このように考えております。

次に３点目、緊急雇用創出事業についてのおただしがございましたが、国において一時的に雇用機会をつくる緊急雇用創出事業を初め、さまざまな雇用対策支援制度が示されておりますが、具体的な財源確保など２次的補正に絡むものもございます。今後の動向を見きわめながら情報の収集に当たり対応してまいりたい、このように考えておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

次に、ゴルフ場の対応についておただしがございました。

まず、１点目の臨時株主総会の結果でありますが、株券の町買い上げ要請の中で会津高原フレンドカントリークラブ株式会社の取締役等役員の刷新を図り、新たな経営ビジョン等体制づくり案への期待が大きいことを確認されたので、現在の調整課題と連動連結した活用の可能性を探り出しながら、継続運営へ向けた発言をさせていただきました。取締役選任案件の中で南会津町長が候補者として推挙をされましたのでお引き受けをいたし、その後の取締役会において満場の声をもって代表取締役会長への推薦があり、これを受諾したものでございます。

なお、代表取締役社長には会津高原リゾート株式会社代表取締役であります石山隆氏が就任

をし、南会津町のそれぞれの地域の特性と観光事業の一体的取り組みをこれまで以上に進め、経営の安定と地域振興への貢献をしたい旨の発言がございました。

なお、ほかに就任されました取締役及び監査役は次のとおりであります。取締役、山田仁氏、これは舘岩地域です。酒井秀明氏、南郷地域、芳賀博之氏、舘岩地域、松本勝利氏、田島地域、二瓶浩明氏、田島地域、佐野和弘氏、伊南地域、そして監査役として南郷地域からですが、目黒仁助氏がそれぞれ就任することとなりましたので、ご理解をいただきたいと思います。

次に、２点目のゴルフ場経営に対する今後の町の対応でありますが、19番議員の答弁でも申し上げましたが、さまざまな創意工夫を凝らしながら、現在町が抱える政策課題と連動連結させた活用などを取り入れて、継続運営の方向で経営ビジョンや体制づくりをお示ししたいというふうに考えておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

次に、地産民芸市を開催してはどうかとのおただしがございました。

来年度のやまなみ泊覧会開催に向け、地域に埋もれている知恵やわざ、人材の活用に向けた動きが各種団体や集落単位で出てまいっております。町といたしましても、地域が潤う仕組みや町民の生きがいにつながる、そのような仕組みを新たな補助制度により支援し、やまなみ泊覧会の開催を通じて地域力を高めていきたい、このように考えているところであります。

議員からご提案のありました地産民芸市については、文化祭や団体等が個別に開催している企画展、イベントなどの連携による開催も考えられますので、事業運営に携わる関係者やそれぞれの分野で活動している町民の方々の意向等を十分に把握しながら、さらに検討を加えてまいりたい、このように考えておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

以上、町長に求められました答弁とさせていただきましたが、具体的事項につきましては担当課長等に答弁させますので、よろしくお願いをいたします。

○渡部康吉議長　教育長。

○横山恒廣教育長　私からは、学校統合計画についてに関してお答えいたします。

初めに、学校統合計画に関する１点目、針生小学校と檜沢小学校の統合計画の説明はどうなっているのかのおただしでありますが、１番議員、２番議員のご質問にお答えしたとおりでございますので、ご理解をお願いいたします。

次に２点目、他の学校の統合計画はあるのかとのおただしでありますが、他の学校につきましても、児童生徒数が年々減少しており、教育委員会におきまして統合計画について協議中でありますので、ご理解をお願いいたします。

なお、具体的事項については担当課長のほうから説明させます。

○渡部康吉議長　11番、湯田秀春君。

○１１番　湯田秀春議員　何点か再質問したいというふうに思います。

まず、大不況ということで何回も皆さんから聞いているわけですけれども、今ほどのお答えですといまいちだなというような感じがするわけです。国では昨日でしたか企画の課長さんかな、30兆円ほどセーフティーネットの保証をやったというようなことで、そして県ではそれにのっとって経営安定特別資金、これはたしか30億円だったと思うんですよね。あっという間にいっぱいになっちゃって、きょうの新聞かな、100億円くらいふやすといったか、何かそんな感じでふやすんだと。これを見ると国は保証を大きくしたり県ではこういう特別資金をやっていると、そこで私は町でこの経営安定特別資金という県のやつは利率２％、保証料が0.7％で、ここに町でこの経営安定特別資金の中に町で、例えば利子補給とか、保証料0.7かかるというんだけれども、保証料に対する助成というものをできないか、これは今ここでぱっとじゃなくて、検討してください。

そうすると、この県でやった経営安定特別資金というのは極端なことをいうと、一番申し込みが多い、まさしく今のこの状況に合っているんじゃないかなと、私はそう思っているんですよ、想像で。そうすうと、そこにこれをやるときには、きのうもちらっと言ったと思うんですけれども、町長の認定が必要なんですね。だから恐らく書類が、ちょっとわからないよ。それがどういう流れだかわからないけれども、いずれにしても、町の認定を受けないとだめだということがわかるわけですから、そのときに少し、それが一番にしろとか何かとは言わないけれども、今こういう時期だから町の困っている中小企業を助けましょうと、町でもこうやって応援しているよとやったほうが仕事はやりやすいのかなと、こういうことで、どうですか、私のこれは提案なんだけれども、当然検討するとかしないとかあるかと思うんですが、ちょっとこれに対してお答えお願いします。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

先ほど冒頭でお答えをいたしましたけれども、まず資金融資の利息補給金の助成率を８月の段階で２分の１から３分の２にしました。これは私はかなり利用者にとっては大きな成果だと思っています。これが財源をどうするかという問題ですね。つまり保証料を町が肩がわりをしたりする場合に、その財源をどうするかということですから、その財源が既に既往の予算の中でやりくりできるものについては、後から議会報告するなりしながら対応できる。しかし、その財源が用意されていないものについては、なかなか町独自でやれといってもできない。ここ

は議会を開けばいいだろうと、こう言われますが、臨時議会を開くためには先ほど言ったように、情報を集め、今情報を集めたところですから、分析をし、じゃどういう制度をつくり、あるいはどういう基準を置いていくかということがかかるんですね。ここのところが町でやれと言っても、民間がすっといけるものとは違う。ちょっとこれはご理解いただきたい。

その中で、例えば経営安定特別資金に関して考えた場合に、信用保証協会への町長の意見書も必要なんですが、信用保証協会の審査が入る。この審査をパスしないといけない。そのパスした人はいい、でもパスできなかった方をどうするかという問題が一つ残るんですね。ここにやっぱり町はある意味ではいろいろな制約というか条件をつけながらもやっぱり独自の手入れをしていかなければならないんだろうと。これをこの議会終了後に、先ほど12番議員にお答えしたように六、七名の関係者をもって直ちに対応に値する検討会を始めようと、こういうことでございますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　11番、湯田秀春君。

○１１番　湯田秀春議員　財源もあるけれども、こういう時世だからぜひ検討していただきたいなと。そして企画の課長も30日まで待機して頑張ると、こういうことを言っているわけですから、そういう我々も行って、町だって待機しながらこの年末を何とか乗り切るよう頑張っていると、そういうふうな姿勢というかな、それは大事だろうと思うんですよ。

きのう課長が本当はあれは26日までかな、何かあるんだけれども、そそういう姿勢が大変重要だなと思っていますし、ぜひそれを検討していただきたいなと。

それから雇用もありますよね、先ほど緊急雇用、これはいきなりまだ国で出たばかりだからどうだと考えたって、ぴたっと出てこないとは思いますけれども、私きのうの町長の進出企業のどこどこの企業はこうなっていますよと言ったように、あれだけ見てもかなりいる。それで、私らが今度聞きますと、実は進出企業ばかりではなくて、もともとここにあって下請とか何かでやっている企業もいっぱいあるわけですよ。そこはもっとひどいんですよね、もっとひどい。そうすると、何とか非正規というんですかね、派遣とかパートとか臨時とかといったそういった人たちが非常に困っている。これはもう何人も出たんですけれども、そこで私は一時的な仕事、きょうも、きのうだったかな、大分県のキヤノンのところで町がこうやるということで、そこで一つ提案なんですけれども、来年伊南と南郷で固定資産の全棟調査ってやるんですよね。そうしたら税務課長、申しわけないけれども、臨時の人をとると言っているわけですよ。そういうのをもう少し前倒しでできないかと、これも一つ提案ですよ。

だから、何かそういういろいろな調査とかそういったものがあるんだけれども、前倒しでも

してでも、これは来年の計画もあるとは思うんですけれども、しかもその大分県に聞いたら、とりあえず困っている人に例えば普通の臨時で３カ月ってあるところを、いや１カ月、１カ月と幅広く助けてやるんだと、こういうようなことですから、そういったこと、これは一つの税務課だけ言ったんですけれども、わからないですよ、ほかの課はわかりませんけれども、そういうものがあればできるだけそういったことに結びつけて、この南会津町の緊急雇用創出事業の中に町としてもそういうことをやっていると、こういうふうにやればなおいいのかなと。

県では、これは少し前なんですけれども、県もこういった名前の創出事業をやって、これは高校生かな、なかなか就職がうまくいかなかったという人に、臨時雇用をしたというようなことがございました。したがって、当町も今まではどういうふうな形で臨時を職員をとったかどうかわかりませんけれども、困っている人を優先してやっていただけるようにしていただければありがたいと思いますが、その辺の考えはどうでしょうか。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

過去に滞納整理というんですか、滞納者に対する対応の仕方のときに、これまでは滞納者に督促状を送ったわけです。これでは事の解決にはならない。現場に入って滞納者にいろいろとご意見をいただいたら、実はリストラに遭った、失業保険も実は先月で切れた、こういうことですから、仕事さえあれば納税できるんです。こういう方がたくさんいたんですね。そのときに急遽県のほうに出向いて、約500万円でしたか、仕事をいただいてきて、そこに従事をしていただきました。もちろん能力的に技術的にできるできないというのがありましたので、それは仕分けをしました。そうしましたら納税もでき、生活もできたと、こういうケースがありますから、ぜひここは臨機応変にやりたいというふうに思っています。

ただ、先ほども申し上げましたように、今現在除雪に対する予備費を用意しておりますが、その予備費をもう一回既往の予算を整理しながら予備費を使わせていただくのか、その辺はちょっと検討させていただかなければなりませんが、私は除雪をしてもらっている人たちに待機料を払ってくださいと、こういう意見がありますね。仕事をしないで待機料を払うというのは、こういう状況に置かれた場合、なかなか厳しいんですね。ですから、この除雪待機、この除雪とあわせて、今雪降っておりませんが、それらのひとり暮らしのお年寄りの友愛訪問をして安全を確認するとか、そういうことにそういう方々を雇用することができないのか、これは前向きに今検討しているところでありますので、ご理解をいただきたいと思います。

臨時職員についても、これは限りなく前倒しをできるものとそうでないものとがあると思う

んですね。例えば制度の問題、例えばの話ですよ。定額給付金がどうなるかわかりません。わかりませんが、準備をしておくという意味で臨時的に雇用をして、さまざまな作業のお手伝いをしていただくということも前倒しで可能性はあるんだろうと、こう思っておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　11番、湯田秀春君。

○１１番　湯田秀春議員　そういうことでできるだけ町もこういったことの対応策、雇用の対応策をしているんだというようなことが大事だろうなと、こんなふうに思いますので、ぜひ検討していただきたいなと、こんなふうに思います。

２点目のゴルフ場の対応についてということで質問したいと思います。

先ほど私も執行体制はどうなっているかというようなことを聞こうかなと思ったんですが、町長のほうからそういうふうな答弁がございました。そこで、今までとどう違うのかと、こういうことですね。町長の中にも恐らく改善点というのかこうすべきだとか何かとあったと思うんですけれども、それと例えば町民の福利厚生に使いたいとか、だからその改善点と町長が思っているゴルフ場に対する見方というのか、それをどういうふうに見ているのかなと、そこをお聞きしたいなと思います。よろしくお願いします。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

議員が先ほどおただしがありましたが、昨年の議会の段階で創意工夫に対する質問がございました。それに対して私は、今鋭意取り組んでいるところですと、こういうふうに申し上げました。しかしながら、出てきた書面は非常に抽象的で具体性がないということで、現在こういう結果になったんだろうと思うんですね。それは確かに取り組みが本気さが足りなかったという部分もあるかもしれませんが、必要最小限度の人員配置の中で営業をやり、それから接遇をしながらその計画を遂行していたという部分は否めないと思うんです。でも、そういう中でもやっぱり危機感と同時に、前向きに発展をさせようと、展開をさせていこうという、そういう意味での意識は必ずしも高かったとは言えない。

そんな中で、今回新しい執行体制の中で確認をとれたものは、とにかく一つは徹底してこれまでの営業の内容を見直そうと、つまりコンペ等々、大会をするときには非常に入り込みが多い、しかしそれ以外の時期で10人以下という、これは私も調査をさせていただきましたが、入り込みのところも同じ体制で同じ状態で待つ、ここはやっぱりきちっと整理をしていこう。その上で、ゴルファーに活用していただく時期と、それから地元の人たちがさまざまな分野でス

テージとして活用していただく時期とを、もうカレンダーをつくってしっかり仕分けをしていく、これが一つ確認されました。

その中で、実は先ほどから子育てに対するご質問がたくさんございましたが、本当に保育所に預けるまでの間の保育というのは、なかなか負担になっていわゆるストレスがたまるというんですか、こういうお母さん方がふえている。この方々にいやしの場として、例えばカートに乗ってもらおう、そういうところでコミュニケーションとってもらおう、そういう場所に子供を連れて行けるようにできないだろうかと、こういうご意見もありました。

それからもう一点は介護です。老老介護をしている人たちがたくさんいます。つまり施設に入所できない待機者がおります。この方々が実は介護しているほうが疲れている。ここのところを順番待ちで待っていなさいというだけで本当にいいのか、ここのところのあり方を社会福祉法人南会津会を通してみんなで考えてみようということは、もう数カ月前からやってきましたが、その一つの提案として、そういう方々や施設に入っている方々の中でも、そこのいやしの場所にならないだろうか。

つまり、なぜそういう案が出てきたかと言いますと、実はグラウンドゴルフをあそこでやって、シルバーの方々がこんな場所にこんなところがあるとは知らなかったということが一つありました。そこで仁嘉会の老健センターに入所されている方々を仁嘉会の会合、指導員がバスで送迎をしてカートに乗せました。すばらしい輝きといいますか、元気が取り戻されたと、これは先生から聞いています。そういうことを考えれば、そういうステージにゴルファーの利用が少ない時期を選んで利用できるんじゃないだろうか。

それからもう一点は、近隣の町村、特に金山町とか柳津町のほうからもぜひなくさないでほしい、これはもしそういうステージになり得るんであれば、私のところの関係者もぜひ参加をできないだろうかと、もちろん利用料金をどうするかという問題は残ってきますが、そういうご意見もありますので、町内外のさまざまな町政の課題と連動連結をしながら、ここの活用をとにかくつくり上げたい、そして議会のほうにお示しをさせていただいて、議員の皆さんからまたご意見をいただいて次の段階に入りたい、こういうことで考えておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　11番、湯田秀春君。

○１１番　湯田秀春議員　わかりました。

私はいやしとか何かはそこのところは専門家でないから、そんなものかなとしか聞くしかないんですけれども、ちょっとお聞きしたいんですけれども、確認です。会津高原フレンドカン

トリークラブという会社はそのままなんですね。それから20％で町で買う予定というか、それもあるということですよね。それから会津リゾートだか、会津高原リゾートかな、そこで300万円かな出してあれはそのまま、その辺のところを確認の意味でちょっとお聞きしたいと思うんですけれども。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

先ほど申し上げたのは、株券を町で買ってほしいと、こういう意向は確認できましたと、こう申し上げました。20％というふうに恐らく皆さんの耳に入っているのは資産残高を考えれば20％に相当するでしょうと、こういう話だと思いますね。でも正式にそういうビジョンをつくりながら、今言ったように、じゃどのくらいで買い上げるのか、あるいは会津高原リゾートの持ち株はどうするのか、これはこれからの議論、検討になってくるんだと、こう思っています。

○渡部康吉議長　11番、湯田秀春君。

○１１番　湯田秀春議員　わかりました。

実は町長も十分わかると思うんですけれども、やはりゴルフ場そのものの町民の見方っていろいろあるんですね。ですから、かなり厳しい見方もしているということは町長も重々わかると思うんです。そうするとそれで経過を見ると、東武さんでやっていたのを、当時舘岩村で引き受けて今みたいな形にして、そしてまた今度、第３弾になってくる。町民から見る目というやつはかなり厳しい目になっているかと思うんですけれども、そういったものに対する町長の考えというか説明というか、それはどういうふうにとらえますか。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

何回も申し上げますが、言葉というのは本当に巧みなんですね。かなり厳しいよと言われると、例えば8,000人の有権者、8,000数人いるかもしれませんが、すべてが厳しいという見方にとられがちですね。しかし、私が会った段階ではこれは冷静に考えて発言をしている人は、これは放置したらこれまでの投資が無になりますね。と同時にこのままでは済まない。撤去費というのがかかってくるわけですね。あるいは原型復旧をしなければ。カート道とか何かがありますから、それは当然復旧費がかかってくるわけですね。いわゆるここでやめれば一銭もかかりませんよというものではない。その人たちは大変だと言いますが、さっき言ったようにこの間話が出たように木を見て森を見ない人はそう言いますよ。でもこれまで投資をしてきたもの、それから私が先ほど申し上げたようにぎりぎり追い込まれても私が決めるんではなくて、

さまざまな情報分析、それを議会に提出しながら、議会の議員の皆さんは町民の信託を受けて選ばれた立場です。一緒に考えましょう。そういうことですからね、ご理解いただきたいと思います。

○渡部康吉議長　11番、湯田秀春君。

○１１番　湯田秀春議員　当然私もゴルフをやる人間の一人として、残してもらいたい、何とか残してもらいたいという気持ちは今までも変わらずに、去年もそう言っているわけです。それでもあの調子でいくと債務超過になると。だから債務超過になる前に何とかしなさいよと、今それでこういう経過が来ていると思うんです、経過的には。そのときにも譲渡という手もあるというようなこともおれは言ったつもりなんですね。譲渡というのは譲り渡すわけですから、譲渡ですから、そういう考えは今回のこれで多分消えてなくなったんだろうとは思います。

ですから、いずれにしても、私はそのときは残すんだったらどうやって残すのかなと、そういうふうな形も考えていましたし、あのときはゴルフ場として残すにはもう一つの選択肢として譲渡もあったんだぞと、こんなふうに思っていたからそれで質問したわけでございます。それで具体的にはアコーディア、それからこういうふうに円高になるとちょっとまずいんですけれども、何とかタイガってあります。福島県でも多いです。そういったところも交渉してみてはどうかという意味で言ったつもりです。そういった譲渡の考えがまるでないとなれば別ですけれども、その辺として再度お伺いしたいと思います。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

勘違いをされては困ると思いますが、私が提案したのはとりあえずここで一たん私が代表取締役として入って、そのゴルフ場の運営についての道筋を探ろうということですね。このいわゆる役員を一新して探ろうと、その中の一つとしてそういう改善点を見つけながらどうだろうと検証しますよと。しかしそれでも可能性がない場合は、当然選択肢としてそういう方法もあるということですね。ただそのときにこれは、今新しく刷新される前の取締役会でも議論はされているんです。ところが現実的にない、いろいろなところに話しかけてはいるんですよ。全然していないわけではない。だから要するに譲渡を引き受けるところも当然引き受ける魅力がなければ引き受けないわけですから、ここのところはご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　11番、湯田秀春君。

○１１番　湯田秀春議員　よくわかりました。

そういうことで今そういう経過があるということで、再度新しい体制でやろうというわけで

すから、ぜひともそういった方向でやっていただきたいなと、こんなふうに思います。

３番目、学校の統合計画についてです。

教育長さんが何番議員にお答えしたとおりと、こうなったわけですけれども、私はお聞きしたいのは、これは確認の意味で、２月21日に針生小学校の懇談会をやっている。そして、その後に針生小と檜沢小へ行ったのかな。これが正式な名称はどういう名称だと言って、対象者はどういう人だったのか、再度お願いしたいと思います。

○渡部康吉議長　学校教育課長。

○斎藤友一学校教育課長　お答えいたします。

２月の懇談会以降のいわゆる各地区での懇談会の正式な名称ということでございますが、名称とどういう方にお集まりをいただいたのかということでございますけれども、10月28日に針生小学校・檜沢保育所保護者懇談会というようなことで開催をしております。保育所保護者を対象としましたことについては、来年度新たに小学校に入学する保護者を対象としております。それから11月４日に檜沢小学校・檜沢保育所保護者懇談会ということで開催をしております。ここでいう檜沢保育所保護者につきましても、来年度４月に檜沢小学校に入学する保護者を対象として開催をしております。

以上でございます。

○渡部康吉議長　11番、湯田秀春君。

○１１番　湯田秀春議員　それね、何か後ろのほうに何とか懇談会とあるでしょう。その懇談会というのは、その計画書の中には、合併するときにはそれぞれの学校の区域、学区内で懇談会の委員をつくりなさいといって、そして懇談会というんでしょう。今言ったのはあくまでも頭に保護者をつけて懇談会と言うでしょう。いわゆる針生の懇談会は１回しかやっていないでしょう。そして私は６月の議会で質問して、そのときだって半分怒っていたんですよ私は。余りにも行かないから。そしてその後ずっと行かない。10月になってもちゃんとした懇談会はやっていないんですよ。１番の議員も多分、文教にいて怒って多分質問したと思います。何でこんなにするかということですね。余りブランクが長いんですよ。みんなよく話せばわかる人が多いんですよ。みんな余りこうブランクが長いと、どういうふうな人間になりますか、立場を逆に考えてくださいよ。全然そういう話が来ないと全く説明がない。その後もばかにしていると、針生をばかにしていると何人にも言われる。だから10月20日に私たちに全く説明ない針生小は統合計画ではノーですと言って守る会なんてできちゃうんですよ。

私は教育長さんに悪いけれども、余りにも怠慢過ぎるんだなというような感じがします。ど

う思いますか。

○渡部康吉議長　教育長。

○横山恒廣教育長　お答えいたします。

まず１点は、懇談会の件でございますが、懇談会という先ほどおっしゃいましたのは、針生小学校学区の地区の懇談会を第１回目やりましたけれども、それが２月21日にやったと思いますが、そのときには区長さんに人選をしていただきまして、そして決めていただきました。そして、そのときにまず保護者のほうも聞いたほうがいいじゃないかというご意見があったものですから、その後で保護者のほうの会を開きました。それでその次に檜沢小学校のほうについては、それでは保護者のほうを先にやったほうがいいじゃないかということで、逆にして今現在桧沢地区の区長さんのほうにその名簿といいますか、懇談会の人を人選してもらって、こちらから原案を提案して人選してもらっている最中でございます。そんな状況でございます。

それからもう一点、非常に長くなったということ、これは本当に今怠慢じゃないかと言われましたけれども、私はそれもそのとおり言われればそれでしようがないと思いますが、私の考え方としましては、事務局の考え方としましては余りにも早くせっついたら、またこれは大変じゃないかなという形でしておったことも事実でございます。それを怠慢と言われれば怠慢だと、これは仕方ありません。確かに相手方にとってはそういうふうに映ったんだろうと思いますが、私のほうとしては余りにも早くせっついてどんどんやっていくようだと、かなり逆に急いでいるのかなというような印象を与えるのかなというようなことで、そのような形でおきまして、それでそのような状況になったことで、大変その点は申しわけなかったなというふうに思っています。

以上でございます。

○渡部康吉議長　11番、湯田秀春君。

○１１番　湯田秀春議員　いやそうでなくてね、隣の下郷でもあれだけの統合、私も行って聞いたんですよ。足しげく通ったというんですよ。こんなに時間を置かないですよ。だったら２月21日にやったら、やっぱりもう少しね、余りにも置き過ぎますよこれは。私は思います。

それでその人たちが出したやつを私見ていたら、私の質問のことも書いてありました。そうしたら２月には地元と十分協議しながら進めていくと、そういうふうに言っている。ところが私とのやりとりが議会広報に載って、協力をお願いしたというようなことをそっくり載せたわけですけれども、食い違っていると。そうすると私も何か悪いような感じになっちゃうわけですけれども、実際私はその２月にはその場にはいません。地元と十分協議しながら進めていく

と言ったのか言わないのか、ちょっとそこだけ確認したいなと思います。

○渡部康吉議長　教育長。

○横山恒廣教育長　それは間違いなく言いました。

○渡部康吉議長　11番、湯田秀春君。

○１１番　湯田秀春議員　やっぱりそういう点も怒っているわけですから、先ほどこの前の１番議員かな、早速今月やると、そして１カ月に１回くらいのペースでやると言ったんですけれども、できるだけ足しげく通って、みんなプライドがあるわけですよ、地区の自分の学校がなくなるとなおさらですよ。ですから、私らもちゃんとその計画というのは、きちんとした計画、私もよくわからないけれども、でたらめにやってはいないと思うんですよね、それから子供から見た場合、何が一番幸せかと、そういったものを見て十分検討してやったでしょうから、やっぱり本当にそれを遂行するんだったら足しげく通って説明して、スムーズにいくようにしていただきたいというふうに思います。

それから、時間も余りないということなんですが、どうですか先ほど４番目、地産民芸市、この開催ということで、町長は検討するというようなことですけれども、ぜひとも、これがうまくいくかどうかはわからないけれども、ぜひともそういう場を設けてやっていただきたいなと。そうしたらそこにいろいろな人たちが出して、そしてとりあえず人が集まってにぎわいを感じていろいろ来れば、ひょっとしたらこのやまなみ泊覧会の大したことはないかもしれんけれども、一つのにぎわいをつくる、しかもこの町を元気にする一つのきっかけになるかもしれませんので、よろしく検討して、もう一度町長の考えをお聞きして、私も残り３分ですからやめたいと思います。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

先ほど答弁しましたように、やまなみ泊覧会、計画を立て議会に提示をします。ご同意いただければという前提でお話をしますが、このことはぜひやりたいと思っています。それで一つの方法としては国道289号バイパス、あそこの土地を活用していきたい。そこには県の交付金事業を取り入れながら今進めたいと、こう思っておりますので、議員のアイデア等もぜひ事務局のほうに執行部のほうにお寄せいただければありがたいと、こう思っております。

○渡部康吉議長　11番、湯田秀春君、残り１分になりました。

○１１番　湯田秀春議員　これをもって、私の質問を終わりたいと思います。

○渡部康吉議長　以上で、11番、湯田秀春君の一般質問を終わります。

暫時休憩いたします。３時15分まで休憩いたします。

休憩　午後　３時００分

再開　午後　３時１５分

○渡部康吉議長　休憩前に引き続き会議を開きます。

――――――――――――――――――――――――――― ◇ ―――――――――――――――――――――――――――

◇　芳賀沼　順　一　議員

○渡部康吉議長　次に、17番、芳賀沼順一君の登壇を許します。

17番、芳賀沼順一君。

○１７番　芳賀沼順一議員　こんにちわ。

いよいよ一般質問も最後２人となってきましたが、あきないでお聞きいただきたいことをお願いいたしまして、ただいまから一般質問をいたします。

まず初めに、携帯電話の不通話地域の解消ということで、いよいよ私たちの合併した町もいろいろな電話については問題も出てきておりますが、先日総務委員会で先ほどから話が出ている化学物質過敏症の方々の施設も見てまいりました。非常にあの場所は携帯の電波も届かない、いろいろな面で北海道にもどこにもないすばらしい地域だということで、責任者の池谷さんが説明をしてくれました。非常に場所としては日本一ということでうれしいような悲しいようなという面もありましたが、ただこの携帯電話も利用されて10年以上になりますけれども、我々一人一人にとっては必要で、なくてはならないアイテムになりました。この私たち地方のような山間部でも、徐々にではありますが利用地域が非常に拡大をされております。

しかし、この住宅地域、山間部は別としても住宅地域でも今まだ利用のできていない不通話の地域が何カ所かございます。また山間部でも国道といわれる400号あるいは289あるいは401と、こういうところでの峠部分ではほとんど利用が不可能です。特に１年を通して通行量の多い駒止峠あるいは中山峠あるいは昭和にも今度はトンネルができますが、そういうところも利用ができなくて、町民からもあるいは町外の人からも不便だと、こういう声が届きます。

ことしも幾つかの事故が駒止峠あるいは中山峠でありました。その際に非常に連絡がとれな

くて救急車あるいは車を引っ張る車が来るのがおくれたと、非常に困ったという話がございます。

特に南会津地方には、地方というより町には４つのスキー場を抱えております。このスキー場を持っているために冬の交通量が特に多くなります。また南会津町は来年からは町長の重点事業であるやまなみ泊覧会、これも１年を通して200万人の観光客を目標にしています。もし一朝有事の際には１分間でも人の命にかかわってきます。５分だか10分を脳死でいると、たとえ心臓が動いてももう植物人間になってしまうということで、今ＡＥＤ、昨日もありましたが全学校に配置をしようというような話も出ておりますが、こういう来年度からのやまなみ泊覧会のような大勢の人、観光客を呼ぶという企画があるのであれば、もしものときの有事の際の対応も、これはしておかなくてはならないと思うのが当たり前だと思います。この不通話地域についての解消については以前にも要望があったと思いますが、町の対応はどうなっているのか、伺います。

次に、地上デジタル放送についてですが、地上デジタル放送については試験電波もいよいよ出てまいりました。町内ではもう自宅の屋根につけたアンテナで見ている家庭もあるそうでございます。アンテナ代金も以前には１個で３万円ぐらいかかると、こういう話を聞きましたが、先日電気屋さんに聞きましたら、半額の１万5,000円でつくよという話も聞きました。現在のアナログ放送を共同アンテナで見ている地域、こういうところではどうなるのか、今でも心配をしております。まして映る範囲というのも地図で前に出ましたので、各町内の各地域、この試験電波による映像テストはどんな方法で行っているのか。まさか個人個人で映像テストしてくださいと、こういうのではないと思いますが、町でするとかＮＨＫでするとかあると思います。またその結果、どことどこは映りますよ、どことどこは映りませんよという結果はいつごろまでにわかって、またいつごろまで住民に周知するのか伺います。私たちの集落でも個人でテストしましたら、２局だけ映ったというところもございますので、その点を住民のために周知をしてください。

３つ目に、きのうから何人もの方が出ています。町内企業の現況調査について、非常によく何人も、先ほどの11番議員の説明もありましたので99.9％私もわかりました本当に。ですから、ただあと0.1％ぐらい、それでこの点については再質問か何かでしたいと思いますが、この我々の当初国でも予想していたよりも、この不況の波が来たのは本当に早い。地震の直下型と同じでドンと来た感じがします。もちろん国の対応が一番大事ですけれども、我々町での対応も非常に町長も苦慮していると思いますが、何点かこれは再質問でしたいと思います。

それから次に、細井家資料館について。皆さんもご存じのように、民族資料館の古民家群については、県内外の見学者からは非常に好評です。南会津町の、この間もありましたが前沢集落、あれも非常に好評です。人によっては大内宿よりも見ごたえがある、非常に中にも入れる、体験もできる、こういうことで非常にうれしい声が聞こえます。ことしは宮様も見学されました。こういうものを非常に宣伝に利用するべきだと私は思っています。特に昔の生活が懐かしく思い出されて、本当に懐かしいというお年寄りもいらっしゃるそうです。歴史はつくるものであると、こうも言われます。どこへ行っても町並みとかいろいろなことをつくったところでは、やっぱり20年、30年をかけています。今後20年、30年をかけてあそこを一大古民家群に広げていく考えはあるかどうか、ひとつ伺いたいと思います。

そして、歴史ある古民家の一つとして黒沢地区にある細井家の資料館、この資料館を今持ち主が非常に維持をするのが困難になったと、こう言っています。入り口の門構えから中の資料、建物、あの国登録有形文化財になっておりますが、民間の業者が譲ってほしいという人も何度か来ていると、こう言っています。町としては、もしなくなれば二度と求められないすばらしい歴史の私は宝だと、私も２度ほど見ていますが思います。あの施設と資料を町で引き受けて管理をするか、あるいは古内の古民家群に移築する、そうする考えはないか、伺います。

最後に、これと関連してでございますが、金井沢の南泉寺の門も町の文化財になっていますが、あそこに写真を撮りにくる方がたくさんおりますけれども、あのすぐ近くに、皆さんもご存じの方がいらっしゃると思いますが古いばったり小屋があります。あそこに絵をかく人とか、やっぱり写真を撮る人がいるんですね。非常に歴史を感じます。この間も見てきましたが、中はいろいろながらくたが入っていますが、これも持ち主がだんなさんも亡くなって維持するのにどうするか、非常に悩んでいらっしゃいます。民族資料館にある新しくつくったものとは違ってこれは本物です。これも失ってしまえばほかに見つけることは困難だと思います。もちろんお金もかかりますが、一つの歴史として、やまなみ泊覧会の桧沢街道の見る一つの歴史の建造物、あるいは絵をかく場所としてこの一つの歴史物件として、町としては相談に乗ることはできないか、伺います。

以上、４つの点を伺って、ここからの質問は終わります。

なお、思うようなすばらしい答弁がいただければ再質問はなしで終わりたいな、こう思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　17番、芳賀沼順一議員のご質問にお答えをいたします。

初めに、携帯電話の不通話地域の解消に関するおただしがございましたが、17番議員おただしのとおり、駒止峠と中山峠につきましては携帯電話の利用ができない状態にございます。町といたしましては、主要国道通行車の非常事態の対応を踏まえ、携帯電話会社への不通話地域解消等の要望をこれまでしてきております。駒止峠の不通話地域につきましては、携帯電話使用エリアの拡大に向けて現在協議を進めております。また中山峠におきましては、あらかい健康キャンプ村の施設において化学物質過敏症等の方々が療養をしておりますので、電波等の影響が出ない一般の電話回線等を用いた緊急連絡システムの整備など、本町の地形的特性や現状を踏まえた検討もあわせて必要かということで考えております。

このように不通話地域での非常事態における対応を含め、不通話地域解消に向けた整備につきましては、関係機関と連携をし対策等の協議や要望を今後もしてまいりたいと、こう考えておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

次に、地上デジタル放送に関するおただしがございました。

11月過ぎから、下郷町落合にあります田島中継局及び只見町にある東只見中継局より地上デジタル放送の試験電波が発射されております。12月中には開局になる予定となっていると聞いております。この２つの中継局の開局により田島地区と桧沢地区の一部、南郷地域の一部で地上デジタル放送の受信が可能となるようであります。

おただしのありました受信調査につきましては、現在各テレビ局において正式開局へ向けたデータ収集等をしておりますが、難視聴地域の受信調査につきましては、日本放送協会の協力により無料で受信点調査をすることができるため、地上デジタル放送の正式開局後に各共聴組合とともに、この制度を活用した受信点調査を行いたい、このように考えております。また住民への周知につきましては、受信点調査の結果や今後開局する中継局の予定時期等について広報紙を通じて周知を図るとともに、各種相談等の支援を行い、アナログ放送が終了する2011年７月までにスムーズな移行ができるように積極的に進めてまいりますので、ご理解をいただきたいと思います。

次に、世界不況の波が全国に広がっているが、我が町の企業の現況調査はしているか、このようなおただしがございました。

19番議員にお答えいたしましたし、12番議員にもお答えをいたしましたが、聞き取り調査や企業訪問を行ってまいりました。最近の急激な経営環境の変化もありまして、臨時社員の削減などの新しい情報も入ってきております。改めて情報収集に努めているところでありますので、ご理解をいただきたいと思います。

なお、12月末日を基準日として製造業種ごとに実施される調査データも活用し、企業の状況や要望を十分な把握として今後取り組みを進めていきたい、こう考えておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

以上、町長に求められました答弁とさせていただきましたが、具体的事項につきましては担当課長等に答弁させますので、よろしくお願いをいたしたいと思います。

○渡部康吉議長　教育長。

○横山恒廣教育長　私からは、細井家資料館に関してお答えいたします。

初めに、奥会津地方歴史民俗資料館と細井家資料館の運営についてのおただしでありますが、議員ご承知のとおり、奥会津地方歴史民俗資料館につきましては、平成16年より社会教育施設から博物館法による運営となっておりますが、現在のところ民俗資料の展示が中心であり、今後は博物館としての機能の充実が求められているところから、平成21年度のやまなみ泊覧会に向けて、資料館を中心に周辺地域を含めた南会津町総合歴史民俗文化財保護保存施設活用計画をまとめたところであります。

具体的な内容としましては、博物館としての機能充実を図ることとしており、展示テーマを自然の中に人の生活があり、そして文化が生まれたとし、それぞれの地域と連携した博物館構想を中心に掲げて展示内容の充実に努めてまいりますので、ご理解をお願いいたします。

次に、黒沢地区にある細井家資料館についてのおただしでありますが、国の登録文化財として登録された建物を初め、町指定の文化財となっている郵便資料や漆器類など、町の歴史を語る貴重の資料が残っております。これまで民間の資料館としてこれらの資料を公開し運営を行っていただいたことは、本町の歴史資源として大きな価値があるものととらえております。町といたしましては、博物館構想の中で細井家資料館の運営についても、具体的な検討を進めているところでありますので、ご理解をお願いいたします。

次に、金井沢地区にある水車小屋についてのおただしでありますが、この水車小屋は奥会津地方歴史民俗資料館にある水車小屋のモデルとなった建物であります。当時移築を検討したところでありますが、ご理解が得られず新築した経緯がございます。教育委員会といたしましては、文化財としての価値の判断等も必要であり、その上で観光的な活用も含めて検討してまいりたいと考えておりますので、ご理解をお願いいたします。

以上でございますが、具体的事項については担当課長のほうからお答えさせます。

○渡部康吉議長　17番、芳賀沼順一君。

○１７番　芳賀沼順一議員　では何点か再質問をいたします。

まず、４番の細井家資料館のほうからしたいと思いますが、具体的な検討という話だったんですが、その具体的な内容をもし話せればお聞きします。

○渡部康吉議長　生涯学習課長。

○酒井直伸生涯学習課長　お答えいたします。

細井家資料館の保存活用方法についてでございますが、町として可能な案をお示しし、そして相手方にもご同意いただけるような案でただいまお話を進めさせていただいていたところであります。

なお、いずれ議会にもお示しすることになると考えておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　17番、芳賀沼順一君。

○１７番　芳賀沼順一議員　今ここでは言えない部分であるということでしょうから、それは聞きません。私がちょっと話したところによりますと、あそこのもとの細井敬介さんという持ち主は私のおふくろと同級生なんです。だものですから時々行ってはいたんですけれども、奥さんはちょっと若いですが、非常にいろいろなことがありますので、息子さんもちょっと弱いですので、できれば土地はあるので、あの近くに小さな住むところをもしつくってもらえれば、自分と孫たちと、そうすればそっくりもう無償でやってもいいというような、それは私との話ですから、非常にありがたい話だけれども、その辺のことまでやっぱりもし考えていただけるんであれば、今できるできないはお答えは要りませんので、何でも針生の学校の統合と同じで、長い時間をかければいい案が出るわけではございませんので、やっぱり納得のできてその人たちが安心して住めるようにしていただければ、私は時間がたつほどあそこは傷んでしまうというところなんですね。

あそこは教育長は何度ぐらい見てきましたか、ちょっと。

○渡部康吉議長　教育長。

○横山恒廣教育長　あそこには何度も、３回以上は行っております。それで、今みたいなお話もいろいろなことは私は直接は聞いておりませんけれども、うわさとかそういったことでいろいろなことは聞いておりますので、いろいろなことを総合的に考えながら、今そのお話を先ほど申し上げましたように進めているところでございます。ご理解をお願いいたします。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

実はこれは無料とかということがあっても、予算措置が若干伴うものですから、私のほうか

らも今いただいている情報、あるいはその情報に基づいた基本的な考え方を一つ述べさせていただきます。

実は私の中で一番心配しているのは、先ほどの質問にありましたが、民間の手に渡ってしまう、ここのところが一番心配なんですね。ですから、議員がおただしのようにタイミングがとても大事です。そのかわり私は何と言っても、私の所有物ですのでそこのところにきちっと気遣いをしながら、あるいはご本人さんいますが、ご本人さんにも親戚とかこれまで維持をしてきた関係者なんかもおられますので、それらの思いをやっぱりきちっと合意をとるといいますか、整理をするといいますか、そこのところをまずしていくべきだろうと、これは急ぎ確認をとっていく。その上で今後の細井家の皆さんの生活の計画と合わせながら対応していくと、こういうことになるだろうと思っておりますので、ご理解いただきたいと思います。

○渡部康吉議長　17番、芳賀沼順一君。

○１７番　芳賀沼順一議員　町長にまでお答えいただきまして、あとは質問がありません。このようにしっかりと進めていただきたい。ただこの１点について私副町長にもちょっと話したことがあったんですが、副町長は一度ぜひ見てくださいと、あそこを通ったときにごらんになりましたでしょうか。

○渡部康吉議長　副町長。

○渡辺　仁副町長　お答えします。

以前ご一緒したときにご紹介いただきまして、私も一度足を運ばせていただきました。その際、先ほど答弁の中にもありましたように、貴重な資料がたくさん展示してあるということで私も大変感心して帰ってまいりました。ぜひとも先ほどの答弁にもありましたように、有効な活用が図られるような方策を考えてまいりたいと思いますので、ご理解願いたいと思います。

○渡部康吉議長　17番、芳賀沼順一君。

○１７番　芳賀沼順一議員　早速見ていただいてありがとうございます。

続いて、もう一つのほうの金井沢のほうの古い水車小屋について、例えば移築はそのときだんなさんも生きていたでしょうからだめだということですが、例えば移築じゃなくてあの辺の一連の文化財、隣のお寺の門あるいは細井家の資料館、そういうものの一連のものをあれとして、例えばあの場所で見せるとか、あるいは場合によってはその後つぶれるのであれば移築してもいいよと、こう言っている可能性も、言う可能性もありますので、その後は一度も話していないんですか。

○渡部康吉議長　生涯学習課長。

○酒井直伸生涯学習課長　お答えいたします。

金井沢地区にございます水車、ばったり小屋の件についてでございますが、直接所有者からはお話はまだ伺っておりません。お話を伺った上で、文化財としての価値の判断をさせていただきますとともに、観光的な活用面からも活用できないかということで、総合的な活用の面で関係課ともこれからお話を伺った上で検討させていただきますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　17番、芳賀沼順一君。

○１７番　芳賀沼順一議員　よろしくお願いします。

あそこの今の奥さんは私も子供が小学生のときにＰＴＡ会長、副会長というのを一緒にした人だものですから、時々話す機会もあるんですけれども、あの場所でというのは非常に難しいかなと思うんですが、あの金井沢地域のあの水車小屋の横の山から流れる川はまだコンクリートになっていないんですね。あそこはまだ石でできていまして、トンボのヤゴであるとか、あるいはたんけであるとか、あそこにはオニヤンマが今でも飛ぶんです。そういうことを含めると、あの場所で子供の遊べる自然のあのまま、昔のままの状態で保存していくのもいいんではないかなという思いもありますので、これは一つの提言としてお話をしておきます。

それから次に、地上デジタル放送については町長より今後日本放送協会でやってくれるということで安心をいたしました。

あと、携帯電話の不通話ということで非常に困っている部分、私も総務委員会で化学物質過敏症の場所、キャンプ村を見てきたために、何かこれを言うのが悪いかなと思うぐらいの今気持ちになっているんですよ。ただ非常に心配することは総務委員会でも直轄室長とは話したんですけれども、例えば南会津町であそこにアンテナを立てなくとも、栃木側とかほかのほうから将来電波が飛んでくる場合もあるんではないかと、そうなったときにはあの村はどうなるんだろうという心配も実はあるんです。そういうことで、町長としてはこの不通話地域に関してあの中山峠の部分に関しては、やっぱりかなりの頭の痛い部分があると思うんですが、その辺のことはどうなんでしょう。やっぱりその辺も含めて特に番屋川、あの辺は人が住んでいます。それから滝原の袋口側も住んでいます。うまく住んでいる部分だけちょうど電波が来るなんていうことは、これは難しいので、住んでいる人にとってはぜひという声もある。その辺のことはどう考えるか、ちょっと。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

駒止峠のほうを先にちょっと説明をさせていただきますが、あそこにはいわゆる高野地区があってスリップ事故等も頻繁に起こると、こういうことで再三再四、ＮＴＴあるいはＮＴＴ関連の携帯電話の会社のほうに要望に赴きました。そこでの答えは結局企業経営なものですから、鉄塔を建てる経費と携帯電話の加入利用料のその基準があってなかなか前に進めない、これが実態です。今回私のところに入った情報によりますと、それでは集落だけは何とかカバーしましょうと、こういう話が出てきました。そのときに町の土地に鉄塔を設置したい、こういう話でしたので、私は一たん保留をさせていただきました。それはなぜかと言いますと、先ほど議員からもありましたように、確かに企業経営は携帯電話の購入あるいは利用料の、収入が見込まれるかどうかというのは非常に大事です。しかし私から提言したのは、議員と同様に通過する人の安全あるいは利便性、これらについての配慮をぜひもう一度再考を願いたい、こういうことでお願いをしましたら、ようやく重い腰を上げていただいて、トンネルの手前のほう、南郷側のそこのところの受信が可能な位置を積極的に探すと、こういうことで今調査を進めてもらっています。ただ峠の頂上のところはなかなか難しい、こういうことですので、これは一定の成果を今見つつあるかなと、こう思っています。

それで、実はやまなみ泊覧会のお話もありましたが、これは企業を説得するためにはやはりやまなみ泊覧会をやった後だなと、あるいはやって実態をきちっと通行人の台数とかあるいはそこに来た方々のアンケートといいますか感想を聞いて、それを届けたらより企業の理解度が高まるだろうと、こういうふうに考えております。中山峠も同じように進んでいました。ところが先ほど申し上げたように、町が受け入れた化学物質過敏症の人たちがいますが、これらに配慮するいわゆる領域の設定というのはまたできないことではない。しかし、それにかわるものも一つ検討課題にしようと、こういうことで今取り組みをしております。

しかしながら、先ほど言ったように、じゃどこから電波が飛んでくるかわからないということですが、実はジェット機が飛ぶとあの人たちはいられないんですよ。ジェット機が飛んだときにはもう施設から飛び出して右往左往している状態があるんですね。ですから、すべてが完璧にというわけにはいきません。ただあの化学物質過敏症の人たちもここが最終居住地ではない。つまり改善すればそういう電波のところでも可能なんですね。ところがその程度がかなり下がるんです。それで、今彼らの関係者といいますか、患者さんといいますか、方々と見て歩いているのが、また別のところで暮らせないかと、こういう動きもあります。つまり全くひどい人たちが過ごすところと、それから少し改善した方々が過ごされるとか、こういう区分けもこれからしていかなければならないだろうと思っております。

いずれにいたしましても、やはり私たち人間は行動する動物ですので、これらの交流とあるいは地域住民の行動の安全と考えれば、最低限の対応はしていきたい、こう思っておりますので、ご理解いただきたいと思います。

○渡部康吉議長　17番、芳賀沼順一君。

○１７番　芳賀沼順一議員　大体わかりました。

ただ町としてもせっかく永住者を募りながら、あれだけの施設をつくって電波が来て１年、２年で居住地をかえていったんではもちろんもったいない話ですし、そうかといって事故があったときに電話が届かないんでもというジレンマがございますが、やっぱり私たち議員も町民から負託を受けて出ているものですから、やっぱり町民の不便あるいは不便性はどうしてもある面では解消していかなければならない。特にああいう峠の場合なんかは私の知っている人の娘さんもことしあそこで峠で事故をして連絡をとるのに非常に困ったという話もございます。事故の際の電話というのはずっとしているわけではないのでね、だからその短時間の間の障害ぐらいはどうにかなる場合もあるのかなと。やっぱりその辺も池谷さんたちと聞いていただいて、検討しながらなるべく頂上付近でのあそこに影響ない範囲での電話の通話というのは可能にしていただきたいと、この点を話して次に移ります。

町内の企業の現況調査についてですけれども、いろいろな面で調査をいただいて、また不況がなってきたここにもう一度またやるという話もありましたので、その点は本当にご苦労さまですが、よろしくやっていただきたいと思います。

先ほども不況についてのいろいろな話もありました。ただ再就職という面で只見のほうでは、只見の場合は人口が少ないということもあるんでしょうけれども、現在失業している人の名簿をずっとつくって、どこに勤めていた、何歳でどういう特技があるというような一覧表をつくって、町内の工場とかそういうところにずっと配って、それで使う場合は使ってくださいという、こういう方法をしていると。なるほどまねすることはないけれども、なるほどいい方法だなと。ただ南会津町の場合は非常に多いので、それができるできないは別としても、やっぱりいろいろな方法で考えて町として努力をしていただきたいと思いますがどうでしょうか。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

実はこれは滞納者の方に何とか職業紹介をできないかと、こういうことで過去に旧田島町時代からやった例がございます。当然個人情報ですからその方の了解をとりながらということでありますので、これはできないことはありません。ただ、先ほど議員がおただしのように、非

常に南会津町というのは、広範な地域にわたっていると同時に人口も多いということですので、これらについては逐次できない理由にしないでできるところから始める。この作業が先ほど申し上げたように新たな臨時の雇用として可能性が出てくるんではないか、こういうことも含めて前向きに取り組みをしていきたいと、こう思っております。

○渡部康吉議長　17番、芳賀沼順一君。

○１７番　芳賀沼順一議員　では最後に、この町内の企業の現況調査ということで、今、町は非常に町だけでなくて全国的に労働者の収入も減っている、それから中小企業の売り上げも減っているということで、今、国では定額給付金というのを一つの政策として、これが１月の国会で通るか通らないかであれなんですが、先ほどもばらまきという話もございましたが、私はばらまきだとは思っておりません。町内のいろいろな人に聞きますと早くいつもらえるんだと、こういう声のほうが非常に大きいわけです。役に立たないものであれば特定の人だけに配るんであれば、もちろんばらまきとも言いますが、全国民に配ると、ましてや南会津町で税引き後1,800万円も取っている人は町長はそうはならないんですから、これはならないと思いますので、私たちがやっぱり現在の不況対策と国民一人一人の現収入の両面を見ての対策ということで、やっぱり個人の一つ一つの立場とすれば、批判する人は町長もそうだと思いますが、責任ある立場と責任のない立場では同じことをしてもこれは違うわけです。責任のない人は幾らでも批判ができる。もう日本一億総評論家時代ですのでできますが、一つの国のことを私が国会議員ではないので、これは言うことはありませんが、後期高齢者医療制度と同じでやっぱり町としてもこれを一つの大きなこの不況の起爆剤とするためにも、私はもし国会で決まれば大いにやっていただきたい、私も宣伝をしたいと、こう思っておりますけれども、特にこの定額給付というのは２兆円といいますが１回きりです。これは時限です、時限立法。福祉や年金などでは時限、１年だけじゃなくてずっと資金が要るわけです。じゃなくて１回きりですので、一つ一つの例えば３割の人が喜んでいようが５割が喜んでいようが、これをしっかりとやっていくというのが私は大事だと、こう思うんですが、町長も先ほど言葉の中にばらまきという言葉が出たような、そうは思っていないと言ったのかどうか、私もちょっと聞き漏らしましたので、町長の考えを聞いて終わりたいと思います。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

　まず、ばらまきについて先にお答えしますが、ばらまきという意見もありますがと、こういうことを申したかというふうに思っております。

それで、実はこれは先ほど申し上げましたように、12番議員と同様の考え方を持って、町としての町長としての姿勢はしっかりと届けます、届けていきます。しかし、国が決めたものをそれを受ける受けない、あるいは丸投げ、あるいはばらまきと言っても結果は出ないんですね。ですから、11月の末の全国町村長大会で麻生総理がこの定額給付に対しての発言があったときに、会場のあちこちから丸投げするなと、こう手厳しい意見がありました。でも私は個人的にそこでは発言する機会がありませんでしたのであえて発言をしませんでしたが、地方分権、地方分権と言いながら、丸投げされて困るようでは地方分権の受け皿としての自治体の能力はない、こう発言をさせていただきました。したがって、いい悪いは当然意見が分かれます。しかし、あることがあったらそれに備えるのが私は自治体の使命だと、こう思いますので、直ちに国が決まらない状態でありますが、町としてもしそれが執行されるということであれば、どういう体制でどういう方法がいいのか、既に検討に入っています。ですから、この問題についてはもう一つ今回補正でもご提案をさせてもらっていますが、いわゆる灯油の高騰、これに伴う灯油券というよりは生活支援費として１戸１万円が配布されるような予算を組んでご提示をしております。これとそれが連動していけば非常に効果は高くなるだろうと、こんな期待を持っているところでありますので、ご理解をいただきたいと思います。

○１７番　芳賀沼順一議員　以上で質問を終わります。ありがとうございました。

○渡部康吉議長　以上で、17番、芳賀沼順一君の一般質問を終わります。

――――――――――――――――――――――――――― ◇ ―――――――――――――――――――――――――――

◇　渡　部　　優　議員

○渡部康吉議長　次に、６番、渡部優君の登壇を許します。

６番、渡部優君。

○６番　渡部　優議員　前回に引き続き最後の登壇となりました議席番号６番、渡部優でございます。通告順序にしたがいまして、一般質問を開始いたします。

今回の質問は大きく３点でございます。

１点目、国道289号田島バイパスを含めた田島地区商店街の町のビジョンはということで、かなりしつこく私ずっとやってきているんですけれども、前回に引き続き田島地区商店街について質問をします。

旧４町村にあった商工会もいよいよ合併統合されます。町としては商店街の今後の振興など

のビジョンをきちっと示すタイミングではなかろうかというふうに思います。さらに、田島地区では国道289号田島バイパスの沿道を含めた商店街のあり方も課題であったはずで、そのエリアも含めた町なかのビジョンも示す時期にきているものと考えます。

以下の質問を申し上げます。

これまでの前回の質問でも、町長の田島地区商店街の重要性というものは認識をしているということは確認はされております。また前回の私の質問に対しましても、行政主導するものではなく、商店街の方々が主体的に積極的に取り組むことが肝要だというお答えもいただいているわけでございますが、そのことを踏まえて再度質問を申し上げたいというふうに思います。

１番目、旧田島ですけれども、旧田島中心市街地活性化基本計画が旧田島町において策定をされ、その内容は国道289号田島バイパス通りを含めた策定となっております。この基本計画の今後の本町における位置づけをどう考えているのか伺いたいというふうに思います。

それから２つ目、この計画は合併直前、たしか旧田島町の平成17年度、18年度の２カ年計画で策定されたというふうに思いますけれども、その策定計画も１年短縮されまして18年３月に策定の報告があったというふうに記憶しておりますが、その後すぐに合併されまして、この旧田島市街地の中心市街地活性化基本計画というのは、一般町民に触れなかったというふうに私は思っているわけであります。本町に南会津町になってもこの旧田島市街地の活性化の基本計画というのは非常に大事な政策であるというふうに思いまして、引き続き引き続き質問しているわけですけれども、この南会津町になっても旧田島商店街のその振興策というか、その青写真を一般町民に示していくべきではないか、そしてこの計画を一般町民に公開していく、そして意見をいただくというふうな姿勢も必要ではないかなというふうに思いまして、２番目の質問といたしました。

前回の質問への答弁に、駅前の再整備はきちんとやるというふうなお答えをいただいたわけですけれども、ちょっと３カ月しかたっていませんので拙速な質問かなとは思いましたけれども、いつから始めるのか、来年度の予算には上がってくるのか、これも確定していないと言われればそれまでなんですけれども、そういった意思表明が出たものですから、わかる範囲で答弁を願いたいというふうに思います。

それから４番、５番という質問がありますけれども、スタンプ券、それから商品券等の質問は実は何度かほかの議員から出ております。一番近いところで調べましたところ、平成18年12月議会に18番、19番から同じような質問が出ておりまして、その答えとして、その当時の答えですけれども、来年度からその中に出てくるキーワードというのは町なか再生事業協議会

を通して、もしくは町なか再生事業と相談をして協議をしてという表現が両方とも上がってきて、そこの意気込みというのは非常に強かったというふうに覚えております。それで４番、５番の質問に入りたいと思います。

商店街において、今本町、南会津になってもスタンプ会があるわけでございますが、旧田島町だけだと私今思いますけれども、今後合併、来年４月から合併統合されるわけですけれども、された後、旧３村地域でもこのスタンプ券を発行したいという場合に、町としての商店街、商工会への補助等お考えがあればお聞かせ願いたいというふうに思います。

それから５番目、本町全域でスタンプを発行する前提だということで５番、６番の質問になるわけですけれども、このスタンプ券のもしくは商品券等の町税使用、それから使用料の使用に関しての可能性は検討の対象になり得るのか伺いたいというふうに思います。これは18年度の12月議会においては前向きな答弁だったかなというふうに思っていまして、どのように検討されて、あれから３年目になりますので、だんだん答えが出てくる時期かなというふうに、しかも合併される時期でありますのでタイミングもいいのかなというふうに思います。

それから６番目、前の⑤番の質問と同じ条件の上なんですけれども、現在文化ホール等でさまざまな公演がされている。こういったチケットが結構売れているというふうに私も思っています。このチケットを販売したときに、そのスタンプ会にまじっていればスタンプを発行できるというふうにも思いますので、これも地元商店街を応援する一つのプログラムになるのかなというふうに思いますので、そういったことも町としてでき得る内容のものなのか、お聞かせください。

それから大きく２番目の質問に入ります。

これはもう今回の議会の質問のメーンイベント的なもので、多くの議員の方々が質問されていますが、一応事前通告してありますので読み上げます。

２番、町内企業の現況と対策は。

世界的経済不況の中、自動車関係業界など大手企業がその収益の下方修正だけでなくリストラ計画を発表しております。本町でも輸出関連や自動車部品工場などが本町における中心企業であります。年末から来年３月期までに、非正規労働者や派遣労働者の大幅なリストラが計画されているようであります。まずもって就労の場が少ない上、現在働いている仕事場がなくなるということがあれば、本町のさまざまな施策への影響は大きいものになるものと考えます。本町にある企業、その企業の下請などまで広げた現状はどうなのか、その調査をされていると思いますので伺います。

さらに、その対処対策はどう考えているのか、伺います。

私は、今回のこの２番の質問に当たりましては、ほとんど余り取り上げられていない部署があるんですね、やっぱり。家内工業で下請をされている、それで家業というか、それで生活している、100％それで生活している方々がいらっしゃるということへの目がなかなか向けられないというふうに思いまして、そこを重点的にお聞かせいただければなというふうに思います。

実は昨年度末に縫製業が倒産されまして、その後何カ月かいった後にハローワークでもなかなかわからなかったのは、この下請業者なんですね。それで生活をしてきた方々の把握がなかなかできなかったというふうに、先日ハローワークに聞きましたらお話がございました。その辺がハローワークでわかるというのは、仕事を求めて来たときにこういったことを今やっているんだということで初めてわかったということで、これからそっちのほうまで目を配り、気配りをしたいというふうにハローワークではおしゃっていました。

それから３番目、職員の再任用制度の活用はということで、再任用制度は議員の皆さんはご存じだというふうに思いますけれども、高齢化社会を迎える中、平成13年度だったと思うんですけれども、13年から公的年金の満額支給開始年齢が段階的に60歳から65歳に引き上げられることになり、雇用と年金との連携を図る仕組みが必要だったということで、各行政自治体の中でこの条例化を図り、本町にもあります。旧田島町にもございました。それで伺います。

合併後、再任用制度での任用はあったのか、伺います。

２つ目、時代背景がご存じのように今非常に不景気だということで、制度ができたころの時代とは大分経済状況が違うということがありますが、時代背景が任用制度ができたころと大分変わってきています。特にその経験が生きる現業と書いてしまったんですけれども、現業及びその技術職、いわゆる保健師とか保育士とか、そういったもの、そういった方々に当たる職員の再任用があってもよいのではないかというふうに考えていまして、その経験とかは非常に大事だというふうにも思いまして、２番目にあってもよいと考えるがということで町長の考えを伺いたいというふうに思います。

それから、③再任用での雇用が人件費抑制とかいう、今そういうような時代でありますので、問題であるならば、例えばということで申し上げますけれども、退職した時点で総合支援センターに登録し、そこからの派遣労働者としての身分にすることもできるというふうに考えるわけです。なかなか特に現業関係は勤務年数が意外と短いんですよね。30年とか40年というのはなかなかいらっしゃらないと、なかなか短いということで、はっきり言えば退職金等はもう少ないということで、なかなか60歳で定年して65歳まで年金をいただける間というのは大変

厳しいというふうに聞いていましたので、なるほどなというふうに私思いまして、３番目の質問にしているわけです。その再任用に当たっての考えとしては例えば管理職は除くとか、そういったこともちろん考えられると思いますけれども、とりあえず大きく３つの質問させていただきます。

壇上からの質問は以上でございます。ありがとうございました。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　６番、渡部優議員のご質問にお答えをいたします。

初めに、田島地区商店街の振興に関する１点目、中心市街地活性化基本計画の今後の位置づけをどう考えるか、こういうおただしがございました。

中心市街地活性化基本計画では、祇園会館周辺を町の玄関として、国道289号田島バイパスを通過する観光バスや観光客を中心市街地へ誘導するための計画が盛り込まれております。今後ともまちづくりにつきましては、この基本計画に基づき進めていく考えであり、株式会社観光公社をまちづくり会社と位置づけられないかなど、商工会、商店街とさらなる話し合いを持った中で、中心市街地の活性化に結びつけたい、こう考えているところであります。

次に２点目、計画を一般町民へ示していくべきではないかとおただしがございました。

議員おただしのとおり、田島地区商店街の振興を図る上でも、町民へ示し、商店街、地域住民と一緒にまちづくりを考えていくべきものと考えておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

次に３点目、駅前の再整備の実施時期及び予算についておただしがございましたが、国道289号田島バイパスの整備とあわせまして、バイパスから中心市街地への人の流れを誘導し、町なか回遊による観光誘客を推進する観点から、駅北口と駅舎をつなぐ袴線橋の整備、さらには駅前広場の再整備などを計画しております。現在は庁舎内の関係各課の担当職員による全体構想についての議論を行っている段階でありますが、今年度中には具体的な整備計画の素案をお示しできるよう作業を進めているところであります。この整備計画につきましては、関係機関及び地域住民からも広く意見を聞きながら、駅前整備の実現に向けた調整がまとまり次第、事業実施のための予算措置を講じてまいりたい、このように考えております。

次に４点目、スタンプ会に町として補助する考えはあるかとのおただしがございましたが、スタンプ会は商工会とは別組織でありまして、商工会合併後も田島、舘岩、伊南地域でそれぞれスタンプ会が運営されると聞いております。現段階では合併の協議まで進んでいない状況でありますので、今後具体的な動きを見ながら検討を加えていく、このように考えております。

次に５点目、スタンプの町税使用の可能性は検討の対象になり得るものか、このようなおただしがございました。

地方自治法の規定により、納税は現金または有価証券に限られております。ただし県内の一部町村の商店街活性化事業の一環として、行政と商工会とスタンプ会が連携し、町村職員が商品券やスタンプ券台紙を一時預かりまして現金とかえる手続を代行したり、商工会が振り出した小切手を金融機関で現金化して納税に充てている例を受けて、税務課内で検討をいたしました。しかしながら、スタンプ会のほうの意向のまとまりが出てこなかったことから、現在その協議はそこで今中断をしていると、こういう状況でございますので、ご理解をいただきたいと思います。

次に６点目、文化ホールでのさまざまな公演に伴うチケット販売にスタンプをつけることで、地元商店街の振興に役立つのではないかとのおただしがございましたが、商店街振興に寄与する一つの方策であると考えられますが、チケット販売が町以外の主催事業もあり、主催者との協議も必要と考えますので、当分の間は関係者の意向確認をさせていただきたいと、このように考えております。

次に、本町にある企業の現状と対処策についておただしがございました。

世界的経済不況の中で、本町に立地する企業及びその下請に至るまで大変厳しい状況にございます。その状況につきましては、これまで何人かの議員のほうにお答えをしてまいりましたが、今後とも継続して現状把握に努めてまいります。また対応策につきましても、今月19日に立ち上げるハローワーク南会津雇用対策推進協議会を初め、先ほど答弁申しました庁内の会議を含めまして、その各種助成金の制度の案内や町内企業が低利で融資を受けられるような金融機関等々の連携を図っていくほか、離職者に対しましても庁舎内の関係各課が連携を図りまして、相談態勢に当たり考えられる範囲内で臨時の雇用を進めていきたい、このように考えているところであります。

次に、職員の再任用制度の活用に関する１点目、合併後の再任用制度での任用はあったかとのおただしがございましたが、合併後は定員管理計画により職員数の削減を図っているところであり、基本的に退職者の補充を35％に抑えるよう取り組んでおり、また若年層の就職機会の確保のため、現在再任用職員の採用はしておりません。

次に２点目、経験が生きる現業にある職員の再任用があってもよいのではないかと、このようなおただしがございましたが、定員管理を進め適正な職員数を確保する上で、現在ある定員管理計画の見直しが必要となってきます。

なお、職員が削減される中で、技能、資格等を持った職員が必要となり、新たな職員の採用が困難な場合には再任用職員の雇用も視野に入れて対処していかなければならない、このように考えております。

また、再任用職員を雇用するためには、職員構成や業務の運営、職務厳正の状況を踏まえて、再任用を希望する者の勤務実績や健康状態、業務に対する意欲や適正、必要な資格等に基づいた選考が必要であり、その再任用基準についても今後検討してまいることになるかと思いますので、ご理解をいただきたいと思います。

次に３点目、人件費負担が問題であるならば、総合支援センターに登録をして派遣労働者としての身分ではとのおただしもございました。再任用職員の給与につきましては条例等で定められており、再任用した場合、人件費は定年退職時の年間給与総額の約60％程度になると思われます。議員おただしの派遣労働者としての採用も一つの考えではありますので、さまざまな視点と出現する状況において、弾力的に検討を進めてまいりたい、このように考えておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

以上、お答えを申し上げましたが、具体的事項につきましては担当課長等に答弁させますので、よろしくお願いをいたします。

○渡部康吉議長　６番、渡部優君。

○６番　渡部　優議員　若干再質問をさせていただきます。

前回からの引き続きの１番の課題では、前回からの引き続きでありますので中身も大体わかっていますので、簡単にお聞きしたいというふうに思います。

まず、これも再度言うような話で申しわけないんですけれども、まず田島地区の商店街の振興というのは、本町南会津町になっても、前回も同じようなことを言っているんですけれども、その振興が全体の振興に大きく寄与をするんですよね、数字的に見てもどうしても。前回詳しく言わなかったんですけれども、南会津町第１次振興計画の商業の部分に載っていますけれども、売り上げですか、福島県の企画調整部情報統計領域編ということで、地域別商店街従業者数・年間販売額の推移ということで、合併された４地域の合計が載っています。そうすると大体商店街の売り上げというのは312億円ぐらい平成９年はあったんですね。それが平成16年になると232億円まで落ちている。現在は多分もっと極端に落ちているんじゃないかなというふうに推定されます。これだけの売り上げが本町にあると、しかもこれは合計で232億円と、平成16年で申し上げますとそのくらいあるわけですけれども、その中で田島地域の占める割合というのは184億7,000万円もあるんですよ。ですから、この４地域の中では本当に232億円のう

ちの184億円の売り上げが田島地域の卸売業、小売業を合わせた売り上げになっているわけです。

ですから、その田島地域の商店街の振興というのは、そこが振興されればまさに今本町南会津町の経済の底上げに非常に寄与するということで、何度もしつこく申し上げているんですね。ですからそこを、もちろん町長は前回重要な課題だということで認識しているというようにおっしゃっていますので、それは非常にいいことだというふうに思いますけれども、先ほど出ました田島町中心市街地活性化基本計画策定業務の報告書がここにあるんですけれども、この中で非常に策定委員会の生々しい記録があるんですよ。物すごく何ていうのかな、一生懸命だったというかな、そういうのがすごく見えるんですね、この中身を見ますと。特にバイパス沿道における開発の知恵というところでは、副委員長のおっしゃっていることがあるんですけれども、副委員長というのは前助役さんです。

町長との事業の審議の経過として、まちづくり計画については過去に商工会で商店街活性化基本計画を策定したり行動計画が策定されたりした経緯がある。しかし、策定された計画をなかなか実行に移すことができなかった。町長からも今回は机上の計画ではなく、実行可能性がある計画としてほしいというふうに言われている。ここでも町長の物すごく強い気持ちがあらわれているんじゃないかなと私は思っているんですね。ですから、こういうふうに何回も取り上げたというのは、そういうような理由で、ぜひ今前回の質問、平成18年12月の質問時にいろいろな質問をされているわけですけれども、田島地区内の商店街の振興については。議員が50名近くいるころだったというふうに思うんです。その当時からも何かだんだん見ていますと、その当時から比べてみても今現在の商店街を見ますと、売り家とか売地とか非常にふえているんだよね。だから、これは困ったなというのはもちろん皆さん同じ認識だというふうに思いますけれども、確かに商店街の人たちが当事者意識としてやらなくちゃだめだよというのは、それはこの報告書にも委員長の言葉として載っています。そのとおりだと思いますけれども、それを待っていてはなかなかこういう状態になってしまっては、やっぱり町の政策としても大事だということがあるわけですから、ぜひ進めてほしいという、進めてほしいんじゃなくて、一歩ずつでもいいから前に進んでほしいなという気持ちがあって質問しているわけなんですけれども、それは多分一歩ずつ進んでいると言われればそのとおりだというふうに思います。

それで、すみません、長くお話をして申しわけないんですけれども、その意気込みというのは町長は変わっていないと思うんですけれども、確認させてください。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

意気込みについてはますます強くなっています。ただ強くしているんですが、南郷の地区の巡回バスと同様に何とか商店街の人たちを引き出したい。いろいろな手を使って、手を使うというとこれは失礼になるかもしれませんが、いろいろな提案をしながら一緒にテーブルで議論しましょうと。この前も商工会の合併の協定の締結がございましたので、その後、懇親会等で事務局長もおられましたが、事務局の職員もおられましたので、その中でも話しました。あなた方からとにかく動いてくれと、南郷の話もしました。巡回バス、しっかりつくれとは言いません、こういうことをしてほしい、ここを何とかしてほしいんだと、ここをこういうふうに活用できないかと、この提案だけでいいからぜひやってほしい。

それで、やまなみ泊覧会のそれぞれの地域の検討もしておりますが、実は中央商店街が一番冷ややかです。これは先ほどから申し上げているように、頑張るところに一生懸命のところにしっかりやっていこうという精神を考えれば、ぜひこれは商工会だけに任せずに、商工会を巻き込んで地域の商店街の人たちが何らかの形でアクションを起こしていただければ、もう今にでも全部待っていますので、ぜひその辺をこれから職員を通してそういうアクションをまだ私たちが今までやってきたことを継続してやりますが、ぜひ議員のほうからもそういう指導なり、アクション、サポートをいただければありがたいと思っております。

○渡部康吉議長　６番、渡部優君。

○６番　渡部　優議員　なかなか今前回の答弁と少し同じ内容だというふうに思いますけれども、町の当事者意識として地元の人たちが提案をしろ、提案をしてこいというのは物すごくわかるんだけれどもわかります、わかりますけれども、わかっていないと言われるかもしれないけれども、わかります。でもやっぱり何ていうかな、呼び水とか、やっておられるとは思いますけれども、ステージを用意したり呼び水をしたり、働きかけも必要かなというふうに思うんです。なぜ必要かというと、町のいろいろな政策の一つのうちの大事な政策だというのを認識されているわけですから、やはり立ち上がるのを待っているのもいいですけれども、やらせるということも必要じゃないかなというふうに思うんだよね、町の全体から考えると。それはやりたくないかもわかりませんけれども、そういうこともやっぱり必要な場面というのはあるというふうに私は思います、必ず引っ張ってこなくちゃならないというのは。そうじゃないと、本当にこの３年後、５年後、悲惨な状態になるんじゃないかなというのを私実は心配しています。

それから、先ほど最初の答弁の中で289のバイパス通りを含めたということで、この中身、

策定の中身を若干おっしゃいましたけれども、中心になるのはまずもって北側というか、向こう側じゃなくて、やっぱりこっち側じゃないかなというふうに私は思うんです、正直に。

それで、まずもって北側はまず向こうのバイパスができ上がって時点で、通りが向こうを通るから、こっちに引き出すために駅が必要だと、北側の駅も必要だというのはわかりますけれども、まずはこっち側の駅前をしっかりやっぱり整備、今何人かの人が言っていますけれども、バスがどんどん来ているんだよね、はっきり言って。置く場所がないというような状況なんで、ぜひあの辺をしっかり整備して受け皿をつくっておかないと、あの辺はとまれないんですよね、はっきり言って。これはもう何度も、私じゃなくてほかの議員もおっしゃっていると思いますけれども、まずはそこから取りかかってほしいというふうに思います。今計画している最中だからということで、実現間近というふうには思いますけれども、それとあわせて、その商店街を売り込む、旧田島町を売り込むのであれば、あそこに何ていうのかな、ここにも載っていたような気がするけれども、やっぱりプレゼンテーションのストリートをつくってほしいんだな。ほしいというのはお願いになっちゃうんですけれども、やっぱり祇園の町とかじゃなくて、格子戸のずっと並んだストリートを１カ所だけでもつくるとか、そういう場所がやっぱり売る場所、あそこを駅前におりたときに、もしくはバスで来たときにぱっとそこを見たときに、ああこの町の特色はこうだなと、また来るべなと。第一印象というのは大事だというふうに思うんです。そういう意味で、まず駅前をやる。そこにプレゼンテーションのストリートを短くてもいいですからつくるというような考えは、もし計画として将来的でもいいですからあれば伺いたいというふうに思います。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

私もぜひそう願っていますし、そういう実施に向けた取り組みをしたいと思っております。何回も言うようですけれども、商店街の人たちが冷ややかだというのは、いわゆる権利の問題があるんですね。ここの権利の問題がなかなか前に進まない。うちの職員も当たるんです、当たるんですが、どちらかというと各地域にいろいろな集落があるんですが、商店街の人たちの対応は冷ややかなんです。ですから、ここのところは私は冷ややかだからほうっておくということではなくて、先ほど申し上げたように南会津観光公社をもう少し充実させて、まちづくり会社の方向性を持たせながら、ここがいわゆる権利の問題も含めてそういうストリートをつくるためのビジョンづくりの企画部門を担当すると、こういうことになれば、もっともっと具体的に課題が見えてくるので対処の仕方は出てくるだろうと、一生懸命これはやらせていただき

たいと思います。

○渡部康吉議長　６番、渡部優君。

○６番　渡部　優議員　了解しました。

それから、スタンプもしくは商品券等の町税使用もしくは使用料の使用についてですけれども、前回の18年度の12月に質問された方は矢祭町の例を挙げて質問なさったんですけれども、やっているところもあるということであれば、ぜひ今後とも検討していただきたいというふうに思います。

先ほど文化ホール等のチケットは、主催者事業だけでないというふうにおっしゃいましたけれども、まずもって主催者の主催できる事業に対してはやってみますということも呼び水になるのかなというふうに思いますので、検討の中に入れていただきたいというふうに思います。

田島地区の商店街の町のビジョンはということでお伺いしましたけれども、これは２回にわたって質問しました。非常に旧田島商店街の逼迫した状況を見ますと、やっぱり避けて通れないような中身だと私は思っていますので、２回も３カ月しかたっていない状態で質問しましたけれども、ぜひ今回は一生懸命やるということで言っていただきましたので、お願いしたいというふうに思います。

それから、２番の町内企業の現況と対策はということで、今回のメーンイベントというかメーンの質問の中身でありまして、今回というのは皆さん、今議会のメーンの質問だということで何人かの方が質問されていますけれども、答えも大体出ております。南会津の雇用対策推進協議会と、もしくは12番議員が提案しました五、六人、６人か７人、町長もおっしゃいましたけれども、６人の緊急対策の検討会をつくるんだということで対策をするということで伺いましたのでよろしいかというふうに思います。

これもお願いしたいというふうに思いますが、ただ１点、先ほど若干は申し上げたんですけれども、下請ですね。家内工業で下請されている、今何軒かいらっしゃるんですようですけれども、家内工業の人はお父さんもお母さんもそれに従事している、そしてその下請を受けるためにその企業の工作する機械も全部投資して買っている。そうするとほかの仕事はできないんですよね。今100％近くカットされている状態で生活できないというふうな中身もあります。ですから、その辺のところまで調べていただいて、それを検討委員会で緊急に対策を練っていただきたいというふうに思います。これはお伝えします。そういったお願いをしたいんですけれども、お考えを聞かせてください。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えいたします。

まず、その前に中央商店街のことで一言だけつけ加えさせていただきますが、今バイパスが通った後、中央商店街の駐車あるいは歩道の拡幅、これについては警察のほうと協議を進めていますので、そのくらい本気で取り組んでおりますので、ご了解いただきたいと思います。

それから、これは２つ目は税務課でこれまでいろいろな滞納の対策をやったんですが、そこのところで対応をしてきています。ですから、私は税務課はね、ただ収税をしたりするだけじゃなく、課税すればいいだけじゃなくて、その実態を各課に上げなさいと、こう言って税務課のほうに宿題を出して、今ようやく税務課のほうからその下請とか、いわゆる余り一般に意識されないところの情報も上がってきていますので、ここのところも先ほど申し上げたようにしっかりと対応して、対応の漏れる人たちが出てこないようにしていきたいというふうに思っております。

○渡部康吉議長　６番、渡部優君。

○６番　渡部　優議員　３点目に入ります。

職員の再任用制度の活用はということで、本町、南会津町になっては１件もないということです。旧田島町でも最終何年ごろかな、大分前になりますね、再任用された方というのは。それで、先ほど町長もおっしゃいましたけれども、そういう保健師とか保育士とか、そういう資格を持った方々の活用ということで、そういった方々を再任用した場合には定員管理に影響しちゃうから計画が狂っちゃうんだということの答弁だったというふうに思います。

それで、３番目でそういったことがあれば総合支援センターのほうに登録をして何とか活用できないか、それは定員外の人数になるというふうに思いますので、総合センターを経由する形とすればね。もったいない人材が結構いらっしゃると思うんですよね。どんどん35％の補充率で最終的に172名とおっしゃいましたよね。そこまでもっていくとなると、やはりこの４町村の広さから見ると、ちょっと考えられない人数ではあるわけで、実際としては。二百四、五十名ぐらいかななんて個人的には思ったりもしたんですけれども、そこまでもっていくという決意があるわけですから、そうするとそういった人材活用の中でせっかく再任用制度というのがあるわけですから、十分に利用できる体制というのも必要かなというふうに私は思うんです。余りがむしゃらに、定員管理等もあるだろうけれども、やっぱりそういう、もう少しこういう時代ですから、やっぱり公務員の長く勤めている、管理職は私は対象外にしてというお話ししているんですけれども、実は、60歳で定年されて５年間はどうするんだろうなということは、非常にそれは民間でも同じことなんだよね、それは。民間でも公務員でも同じだというふうに

私は思います、実は。

それで、実態としてはそういった資格等を持っている方というのはどこに行っても１人で活動できますので、特にこんなことを言ってはあれなんですけれども、この間の先生の管理職の会津高校の問題になったのも、そういうやつは集団でやるものではないからそういう問題も出てこないのかなというふうに思いまして、その活用をどんどんしていくべきだという、こういう35％の補充率でサービスを落としてはならないというような使命があるわけですから、そういった中の位置づけもあるというふうに思いますので、お考えをもう一度。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

まず初めに、定員の削減については私の決意ではない、これは誤解をしないで。合併協議のときの言ってみれば約束事であります。私はできるだけやっぱり国の定員管理があっても、やはり行政サービス、それから職員の健康管理、こういう意味ではやはり限界があるので、今後それらを見きわめながら削減の幅を調整していかなければならないと、こう考えておりますので、こういう点についてはご理解いただきたいと思います。

その上で、私は今議員がおただしのことと基本的には全く一緒です。ただ総合支援センターが派遣事業をやる場合に、派遣事業法という法律がありまして、ここを一つクリアしなければなりません。したがいまして、派遣がいいのか、それとも派遣業にかかわるんじゃなくて、総合支援センターとして、言ってみればまだまだ行政サービスが行き届かないところがある、ここの業務についてもらうということも可能だろうと、これは考えています。その一方で派遣業法のクリアも今後できたらいいなと、そして例えば学校教育、もう本当に学校教育も定員管理されています。先生方が大変なんですよ。そこに例えば教諭じゃなくて講師として、あるいは図書の司書として、こういうことも考えられるんではないかと、こんなことで思っておりますので、一生懸命取り組みをさせていただきたいと、こう思います。

○渡部康吉議長　６番、渡部優君。

○６番　渡部　優議員　１番から３番まで質問をしましたけれども、要はこの世の中が経済が悪くなったときに、どこが一生懸命担うかというと、やっぱり公の立場、自治体とかだというふうに思うんです。企業とかそういったことは目が向けられない場所がいっぱい出てくるので、そういうときこそ行政、いわゆる公務に当たる人たちの出番が発揮できるステージができるのかなというふうに思いますので、１番から３番を申し上げたのは、そういった意味で、夢の、頑張っている人たちもいるだろうし、苦しんでいる人たちもいるだろうけれども、こういう経

済状況が悪い中でせつない思いをしている人たちに、どういった光を与えるかというのは、やっぱり税金を預かっているここだというふうに思うんです、役場、役所だというふうに思います。なぜかというと、やはり経済に余り左右されない身分保障等もありますから、そういったことを考えれば、今こそ出番を一生懸命やっていただきたいという思いで質問しました。１回だけ。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えします。

　全くそのとおりです。ただこれまで行政はいわゆる企業とか経済支援の中では、どちらかというと消極的でした。ここを切りかえていかなければならないです。したがいまして、ここにいる職員の言ってみれば幹部たちが、まずそこのところを切りかえて、そうして全職員にそういう意識づけをして対応すると、こういうことで、このことについても真摯に受けとめさせていただきたいと思います。

○渡部康吉議長　６番、渡部優君。

○６番　渡部　優議員　ご期待を申し上げて、終わります。

○渡部康吉議長　以上で、６番、渡部優君の一般質問を終わります。

――――――――――――――――――――――――――― ◇ ―――――――――――――――――――――――――――

◎散会の宣告

○渡部康吉議長　本日の議事日程は終了いたしました。

　本日はこれにて散会いたします。

　明18日は午前10時より開議し、議案審議を行います。

　本日は大変ご苦労さまでした。

散会　午後　４時４５分

平成２０年第４回南会津町議会定例会　第４日

議　事　日　程　（第４号）

平成２０年１２月１８日（木曜）午前１０時開議

日程第　１　議案第７９号　南会津町あらかい健康キャンプ村条例
日程第　２　議案第８０号　南会津町国民健康保険条例の一部を改正する条例
日程第　３　議案第８１号　南会津町町営住宅管理条例の一部を改正する条例
日程第　４　議案第８２号　字の区域の変更について
日程第　５　議案第８３号　平成２０年度南会津町一般会計補正予算（第４号）
日程第　６　議案第８４号　平成２０年度南会津町国民健康保険特別会計補正予算（第３号
日程第　７　議案第８５号　平成２０年度南会津町後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）
日程第　８　議案第８６号　平成２０年度南会津町介護保険特別会計補正予算（第２号）
日程第　９　議案第８７号　平成２０年度南会津町農林業集落排水事業特別会計補正予算（第１号）
日程第１０　議案第８８号　平成２０年度南会津町公共下水道事業特別会計補正予算（第１号）
日程第１１　議案第８９号　平成２０年度南会津町簡易水道事業特別会計補正予算（第１号）
日程第１２　議案第９０号　平成２０年度南会津町水道事業会計補正予算（第１号）
日程第１３　委員会提出議案第８号　南会津町議会会議規則の一部を改正する規則
日程第１４　議会基本条例策定特別委員会の設置に関する決議
日程第１５　平成２０年陳情第１号　田島橋改修工事に関する陳情書（産業建設委員会）
追加日程第１　委員会提出議案第　９号　田島橋改修工事に関する意見書の提出について
追加日程第２　委員会提出議案第１０号　介護労働者の待遇改善の完全実施を求める意見書の提出について
追加日程第３　議員派遣の件について
追加日程第４　閉会中の継続審査について

追加日程第５　閉会中の継続調査について

本日の会議に付した事件

議事日程のとおり

出席議員（２１名）

１番	湯田　哲　議員	２番	渡部俊夫　議員
３番	高野精一　議員	４番	馬場信作　議員
５番	山内　政　議員	６番	渡部　優　議員
７番	星　光久　議員	８番	楠　正次　議員
９番	大宅宗吉　議員	１０番	渡部忠雄　議員
１１番	湯田秀春　議員	１２番	星　登志一　議員
１３番	星　和男　議員	１４番	平野昌盛　議員
１５番	阿久津梅夫　議員	１６番	渡部　東　議員
１７番	芳賀沼順一　議員	１８番	菅家幸弘　議員
１９番	大竹幸一　議員	２１番	五十嵐　司　議員
２２番	渡部康吉　議員		

欠席議員（１名）

２０番　児山寿明　議員

説明のための出席者

湯田芳博	町長	渡辺　仁	副町長
横山恒廣	教育長	五十嵐竹則	会計室長
宍戸英樹	直轄政策室長	室井　裕	総務課長
星　光幸	企画観光課長	馬場増男	税務課長
長沼芳樹	住民生活課長	近藤甚悦	健康福祉課長
星　安晴	環境水道課長	角田　厚	農林課長
渡部文政	農業委員会事務局長	斎藤友一	学校教育課長

酒井直伸	生涯学習課長	星　廣政	舘岩総合支所長
横山孝夫	伊南総合支所長	児山忠男	南郷総合支所長

事務局職員出席者

渡部俊夫	事務局長	馬場秀成	事務局長補佐

開議　午前１０時００分

◎開議の宣告

○渡部康吉議長　おはようございます。

ただいまの出席議員は21名であります。都合により欠席届のあった議員は、20番、児山寿明君であります。

これより本日の会議を開きます。

――――――――――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――――――――――

◎議事日程の報告

○渡部康吉議長　本日の議事日程は、お手元にご配付のとおりであります。

――――――――――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――――――――――

◎発言の申し出

○渡部康吉議長　ここで、総務課長より発言したい旨の申し出がされておりますので、これを許可します。

総務課長。

○室井　裕総務課長　本日予定されております議案の議案第83号、一般会計の補正予算、さらには議案86号の介護保険特別会計の補正予算につきまして、給与費明細書の一部が誤りがありましたので、訂正をさせていただきたいと思います。

訂正の方法につきましては、議長さんの許可をいただいた後、それぞれ正誤表を配付いたしまして、そこで訂正をさせていただきたいと、こんなふうに思っております。

それで、訂正箇所でございますが、一般会計補正予算の37ページをごらんいただきたいと思います。ここに下段の表でございますが、初任給の基準の表が載っております。その中で、国の制度、右側でございますが、そこの金額に誤りがありました。それで、一般行政職の高校卒14万2,500円という記載になっておりますが、正しくは14万100円の誤りでございます。

さらに、右側の技能職でございますが、同じく13万9,500円の表示がされておりますが、正しくは13万7,200円でございます。同じく労務職でございますが、13万5,300円でございます

が、正しくは13万3,100円の誤りでございます。

さらに、一般行政職の大学卒の国の制度でございますが、17万5,100円の表示がされておりますが、正しくは17万2,200円の誤りでございますので、訂正をさせていただきます。

さらに、介護保険の特別会計に係る給与費明細書でございますが、介護保険の補正の13ページをごらんいただきたいんですが、ここに給与及び職員手当の増減額の明細がございますが、その中の下段の職員手当の備考の欄でございますが、期末手当0.02月分引き上げという表示になっておりますが、引き上げではございませんで引き下げでございますので、加えまして訂正をさせていただきます。大変申しわけありませんが、よろしくお願いいたします。

○渡部康吉議長　ただいま説明のとおり、正誤表での訂正についてご了承願います。

暫時休憩します。

執行部は正誤表の配付を願います。

休憩　午前１０時０３分

再開　午前１０時０５分

○渡部康吉議長　休憩前に引き続き会議を開きます。

――――――――――――――――――――――――――― ◇ ―――――――――――――――――――――――――――

◎議案第７９号の質疑、討論、採決

○渡部康吉議長　日程第１、議案第79号　南会津町あらかい健康キャンプ村条例を議題といたします。

直ちに質疑に入ります。

質疑ありませんか。

３番、高野精一君。

○３番　高野精一議員　この議案第79号の南会津町あらかい健康キャンプ村条例に対しては、私としてはまだ精査する部分もかなりあるような気がいたしますので、これに対しては、私は反対いたします。

○渡部康吉議長　討論は後からやりますので。

○３番　高野精一議員　はい、了解。

○渡部康吉議長　19番、大竹幸一君。

○１９番　大竹幸一議員　この議案につきましては、私らのほうの産建委員会の所管ではありませんでしたが、私のほうに直轄政策室のほうから説明に来てもらいまして、詳しく説明を受けたところであります。非常にこの化学物質過敏症になられた方にとりましては、この南会津町の八総鉱山のところが大変環境がよいというところで、日本で一番だと、こういうような話でありますので、やはりそういう人たちのために、これは必要な施設かなというふうに思っているわけであります。

しかしながら、ちょっと住民の方の山林の利用について若干の制限があるんだという話を聞きましたので、それについても担当課長のほうから制限について住民の方と話し合いをしてルールをつくっているんだという話を聞きました。そこで、大変安心しておりますが、その席には町長もおりませんので、今回、町長もいる中で、町長に答えてもらってもいいんですが、担当課長でもいいんですけれども、今後の方向性をちょっと伺いたいと思っているわけなんです。

それで、その滝原区民の方に配った書類ですね、ビラといいますか、それを委員会のときでなかったもんですから、後から私ら委員全員がもらったんですけれども、それを見てみますと、一番最後のほうに「このような理由から大変ご迷惑をおかけしますが、施設内の通行を制限いただいております」と。その後に「なお、山林の管理などのために通行する場合まで制限するものではありません。通行される場合は、ご面倒でも左記までご連絡くださいませ。お願いいたします」と、こういう表現がありますが、ちょっとこの辺が制限があると言ったり、今度は山林の管理には制限がないと言ったり、また電話くださいと言ったり、こうしていますから、ちょっとこうわかりにくいなと思うんですね。

それで、この山林の管理ということなんですが、これは例えば、間伐とかそういうことを言うんでしょうけれども、そういう場合には、当然車が中に入らないとなかなか木材を持ってくるのに大変でしょうから、やっぱり車が入るしかないと思うんですけれども、いわゆる山菜とかキノコとかそういうような場合にはどうなるのかも含めて、そういう場合でもできればやっぱり、車社会になっていますので中に入っていきたいという気持ちもありますよね。しかし、重症の方がいるそうで、重症の方がいる場合はだめですよというような話もありましたが、その辺、そういう柔軟なルールづくりをしてほしいと思いますが、その辺、確認の意味で質問いたします。

それから、いま一つは、きのうも一般質問で芳賀沼議員のほうから質問がありましたが、携

帯電話の関係で、私どもこの４町村合併してから峠ですね、２つの峠がやっぱり非常に通行する場合に、事故があった場合にやっぱり携帯電話を通じるようにしたいという要望があるわけですね。それで、その場合に、特に、この中山峠に限っての話なんですが、やはり、いわゆる田島側については、ちょっとこのキャンプ村の関係で難しいのかなと、こう思うんですね。舘岩側のほうはその可能性もあるんでしょうけれども、その辺、もちろん配慮を払うことは私は必要だと思います。

そこで、今度の道路の改良工事も今、進行を準備しておりますけれども、それとあわせて、電話ですね、非常用電話でも公衆電話でもいいんですけれども、今、公衆電話というのは余りはやらないと思いますが、非常用電話などを工事とともに、工事が終わるのは10年後ですね。10年後じゃなくて、やはり、もう携帯電話はだめだということになれば、もうすぐにでもその必要常用電話をつけてもらうような、そういう運動といいますか、そういうものをやってもらえるかどうか、その２点を伺います。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

質問は２点ございました。これはちょっと私の答弁の関係で、逆に、携帯電話のほうを先にお答えをさせていただきますが、まず、きのう申し上げたように、実は、携帯電話の設置はその携帯電話の運営会社が設置を決めると、こういうことですね。それで、その基準は、いわゆる携帯電話の購入、あるいは携帯電話の使用料金がどのくらい上がるかというのが、その会社の設置基準になっています。

したがいまして、これは全国どこでもそうだそうですが、峠とか、いわゆる人家のないところは設置をしない。設置をしても採算が合わない、こういうことで、実は駒止峠も中山峠も延び延びになってきたんですね。私は、そんな中で、しかし、そこに居住者はいなくても、そこを通行する人が、いわゆる観光やさまざまなビジネスやそういう交流の中で必要とするのではないでしょうか。つまり、そこからの直接的な営業収入は上がらなくても、総体的に会社の利益につながるんではないかということで、ある意味で促進をしてきました。

その中で、いわゆる中山峠に民間の携帯電話会社が設置をするという状況は、今全くない状況です。駒止峠のほうはあそこに集落がありますから、そこの部分についてカバーについては何とか設置を促していきたいと。それでは交通事故等で困るのでエリアを広げてくださいということで、今、設置箇所を変更して協議をしているという実態であります。

したがいまして、今後、携帯電話のａｕとかドコモとかございますが、それが中山峠に設置

するという考え方は一切聞いてないですね。そこで、私は、今後のトンネルの改良工事、それから、無散水の融雪道路整備、こういうことで交通事故の安全を図りながら、その中で必要であれば、今、議員がおただしのように緊急連絡の電話の設置、こういうことも考えなければならないと、こういうふうに思っています。

それから、最初の林道の使用についてですが、これは基本的には林道の維持管理については町の責任でありますから、こういうものについては町と十分協議をして、そして、それぞれ不特定多数の利用者の弊害にならないような形でしなければならない、私はそういうふうに考えておりますので、ここのところは再度精査をさせていただいて支障のない範囲で使用可能にしていきたいと、こう思っております。

○渡部康吉議長　直轄政策室長。

○宍戸英樹直轄政策室長　お答えいたします。

１点目のおただしにございました滝原の区民の皆様へあてたお願い文書の件でございますが、これはあくまでも町から滝原区民の方にこういう事情ですので、通行の際はご配慮をお願いしますというお願い文書なんですが、この下段にあります「山林管理などのために通行する場合はご連絡を事前にお願いします」という件につきましては、周辺に共有林の山がございます。そういった共有林で伐採をしたり、そういうケースを考えて、そういった際は車も入りますので、事前にご連絡をいただければ入れるような準備をいたしますというお願いなんですが、そのほかの山菜とりやいわゆる共有林に関係のない方の出入りにつきましては、滝原区長、それから、共有林管理者組合の代表の方と今後話し合いを持って、どういう管理体制がいいのか、それについてお話し合いをして決めていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

○渡部康吉議長　19番、大竹幸一君。

○１９番　大竹幸一議員　最初、町長の話で、中山峠について携帯電話を設置する環境にないというのは、もちろんそれは十分わかりました。だから、そこで、早目に道路の改良工事終わるのを待たず、今からでも非常用電話の設置するような運動をやってほしいと思うということなんですね。あそこはやっぱり旧舘岩地区の人はもちろんのこと、私も年に四、五回は行く機会ありますけれども、やはりこっちから行ったら銀龍橋というんですか、あの横になる橋ね。あの橋の手前に広場がありますね。あの辺にやっぱり欲しいですよね。あそことあのトンネルの間ですね。あの辺が急ですから、やはり、事故もそういうふうに多いと聞いていますので、やはりあそことか今言った広場とかトンネルの入り口ですか、その辺あたりにはこっちから最低２カ所ぐらい欲しいと思いますよね、できればね。向こう側はそりゃ携帯でもいいんでしょ

うけれども、そういう運動をすぐにやってほしいなということでありますから。

それから、キャンプ村のルールづくりといいますか、それについて事前というような、事前の連絡っていうような話ありましたけれども、その辺、細かな質問で悪いですけれども、やはり前の日あたりを言うのか、あるいは１時間前あたりでも言うのかも含めて、やっぱり山に行く場合には「きょう、天気いいから行くか」とかもあると思いますので、その辺そういった細かなことも含めたひとつルールをつくってほしいと思っていますが、いかがでしょうか。

○渡部康吉議長　直轄政策室長。

○宍戸英樹直轄政策室長　お答えいたします。

そういった細かい点についても関係者の皆様と話し合いを持って、より具体的なルールづくりをしていきたいと思います。よろしくお願いします。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

これは、化学物質過敏症の方々と関連したものですから、当然、そういう関連性の中で考えるということになると思いますが、私としてはでき得れば、舘岩側には今後も携帯のほうの要望を続けたい。どうしてもその人家のないところが会社の経営上、問題があるとすれば、建設事務所のほうに今、合併事業として、推進事業としてやっている工事の中で考えられるかどうか、あわせてこれも要望をしてまいりたいと、こう思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

○渡部康吉議長　ほかにございませんか。

７番、星光久君。

○７番　星　光久議員　今、19番のほうからその説明を求めらっちゃ中身なんだけれども、産建だけにそういう、今、直轄室から説明あったように、おらおっさは何のやつ、中身だかわかんねえんだよな。文教のほうさそういうあれが入ってないもんだから、あれ、滝原の区民のみなさまになっても入ってねえし、何も入ってねえもんだから、何を議論してんだか、おらほうでもわかんねえわけ。

そういう形で、そういう文書がもしあるんだったら、丁寧にこういうやつもあると、そういう形で、その求めらっちゃ文書、これ議会で質問するのは全部これわかるわけだから、親切丁寧にわかるんだったらこういうのもありますよと、産建さだけでなくておらほうもこれ、説明に来ているわけだから、そういう形で配付してもらいたいと思います。そうしないと、次、討議資料が、何、何のことやってんだべなあと思うわけ。

○渡部康吉議長　直轄政策室長。

○宍戸英樹直轄政策室長　お答えいたします。

委員会、各３委員会にご説明いたしましたが、その際に配付いたしました説明資料につきましては、すべて当初、最初の段階では同じものを使ってご説明をしております。ただ、質疑応答の中で、そういった文書を求められまして、産業建設委員会の説明の後で多分、担当のほうからお示しをしたということでございまして、時間的に言えば文教厚生委員会がその後ございましたから、その場に当初から出せばよかったのかとも思いますが、所管の総務委員会においても滝原区民にあてた通知の文書の写しは出しておりませんでしたので、そういった差が生じてしまいました。今後、気をつけてまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。

○渡部康吉議長　７番、星光久君。

○７番　星　光久議員　これ、私だってこれ今、見せられたけれども、大した時間かかるもんでもあんめえと思うから、みんなさ、これ配って、こういうやつですよと、討議の一つのこれ中身だから、そうしたほうがいいと思うんですが、議長、お計らいお願いします。

○渡部康吉議長　ただいま７番、星光久君より資料の請求がありましたが、政策室のほうで配付できますか。

直轄政策室長。

○宍戸英樹直轄政策室長　お答えいたします。

少しお時間をいただければ、すぐにコピーをして配付をいたします。

○渡部康吉議長　暫時休憩します。

休憩　午前１０時２３分

再開　午前１０時２６分

○渡部康吉議長　休憩前に引き続き会議を開きます。

ただいまの文書の配付は、文教厚生委員と執行部だけに配付いたしましたので、ご了承願います。

質疑を継続いたします。

質疑ありませんか。

９番、大宅宗吉君。

○９番　大宅宗吉議員　私も産建委員会でしたので、先ほどの大竹議員同様に説明を受けました。その中で、ちょっと気になったことがありますので、おただししたいんですが、直轄室長の説明ですと、池谷さんが来られてからの説明は地域で理解を得ていると。しかし、条例化の説明はしていないので反省している、そういう話がありました。

それから、滝原区長、共有林の組合長さんには協議を始めていて、十分話し合いを持って理解を得ていきたい、こういうような話でした。そして、後ほどこういうパンフレット、今皆さんに配られたと思いますが、このパンフレットを区民に多分配られたのかなと思うんですが、やはり、行政としてこういう条例化するときに町全体もそうですけれども、その地区の人たちは直接関係しますから、やはりいろいろ疑心暗鬼になったりすると思うんですよ。ですから、今後、きちんと説明していきたいというような、先ほどの室長の答弁がありましたけれども、やはり事前に、全員なかなか納得とはいかないまでも何回かの説明は必要じゃないかな、私はそう思います。その辺どうされるんですか、お尋ねいたします。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

実態の説明については、町長、執行部のほうで説明するのは当たり前なんですが、条例の説明はこれはやっぱり議会優先だと思いますよ。町民の信託を受けて信任をする議会が、私は最も優先される説明機関だと思います。

それで、この問題に対していろんなお考えあるでしょう。それは新しいことを取り入れる場合はあるんですよ。例えば、きのう議論になりました雇用の問題一つとっても賛否両論はあるんです。なぜだと思いますか。立場が違うからなんです。

それで、ひとつわかってほしいのは、私はこの前も話ししましたが、道路特定財源を一般財源化するときに、なぜ地方にこれ以上、道路財源をやらなければならないんですかと、都市部の議員の先生方から質問を受けました。それを私は受けて、道路関係の機関紙、それから、地方の新聞、それから東北等の協議会の席上で申し上げました。道路はつながっているものだ。つまり、地方でお金をかけるから地方だけが潤うんではなくて、都市部の問題を地方がきちっと引き受けましょう。そしてまた、地方が抱える問題を……

〔「私はこの説明をする必要があるんじゃないですかと聞いてますから、道路財源のことで聞いてるわけではないです」と言う者あり〕

○湯田芳博町長　関係があるんです。それで、そういうことを説明してきたんですよ。滝原区には。そして、滝原区の、それは全員ではないですよ。区長さんや委員もみずから新聞をつく

って、そして、池谷さんを求めて、ビデオまで見てやってきたんです。そのときに、やはり知らない人を受けるわけには抵抗がありますねと、こういう話だったから今の話をしたんですよ。関係ないわけじゃないんです。

ですから、どういうお考えだか、いろんなお考えあっていいんですよ。いいんですが、私はもし、こういうことで引き受けてくれるんであれば、道路関係の予算もなるほどそうなのかと、一般財源になっても本当に必要な道路として使えるんだなと、こういうことを申し上げてきたからあえて言っているわけですよ。

ですから、新しいものを受け入れるときにそれを私たちも十分説明しますよ。だけれども、調査権持っていますよ、議会だって、議員だって。調査してくださいよ。そういうことをうちのほうではちゃんと受け入れをしていますから、そういう中で議論してだめならだめ、いいならいい、そう判断をしていただきたいと思います。

○渡部康吉議長　９番、大宅宗吉君。

○９番　大宅宗吉議員　条例案まで説明する必要はないと、議会で判断すればいいということでしょうけれども……

〔「優先が」と言う者あり〕

○９番　大宅宗吉議員　優先ね、わかりました。ですけれども、実際に今度、条例を制定されちゃったときに、今度実際に施行して、トラブルが起こって困るのは地元だと思うんですよ。ですから、条例案までの説明までも、仮に優先順位で後でやりますと、こう言っても、されるでしょう。ですけれども、そういうことが予測される場合は少なからず回避する努力も私は必要だと思います。決してこれは化学物質過敏症の人たちのことを私が理解しないと言っているわけじゃないです。本当に大変だと思います。それは私も理解しているつもりです。

ですけれども、今後、地区に起こり得ること、このことによって地区が二分するようなことがあったら、またこれも不幸なことだなと、私はそれを危惧しているわけです。ですから、十分にその対応をされてから、やっぱりこれを施行したほうが私はいいと、そういうことで優先順位ということを言われればそれはそうかもしれませんけれども、私はそのことについて伺いたいと思います。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えいたします。

言葉を、私は慎重に選んでほしいと思いますよ。地区を二分するということはそういう状態にあるんですか、今。私は聞いていません。二分するということは、反対運動と賛成運動がが

っちんこしているということじゃないですか。

私は、先ほど申し上げたように、地区の役員の人たちは受け入れてきて１年間いろんなことをやりながら、精査をしながら、課題があれば課題解決をしようという取り組みをしてきているというふうに私は報告を受けています。そして、地域の二分という話をすれば、猿対策をもってそういうことも含めて、今一丸となってやっています。ただ、一部にそういうお考えの人がいるでしょう。ですから、二分というのは私は納得できない。

○渡部康吉議長　９番、大宅宗吉君。

○９番　大宅宗吉議員　確かに、二分という言葉は不適切だったかもしれませんが、確かにそういう問題が出てくる可能性があることは回避することはやっぱり行政の務めでも、私たちの務めでもあると思いますので、その辺の対応をどういうふうにされるのか伺いたかったわけであります。

○渡部康吉議長　直轄政策室長。

○宍戸英樹直轄政策室長　お答えいたします。

あらかい健康キャンプ村の運営そのものにつきましては、今ほど町長から答弁がございましたように、地元の方たちとの話し合い、それから説明会、そういったものを通じて、この２年余りずっと継続されてきております。ですから、あらかい健康キャンプ村の活動内容、その他については滝原の区民の方は十分ご承知というふうに認識しております。

今回の条例制定につきまして、条例が制定されたからといってその健康キャンプ村の運営方法、実態が変わるわけではございません。町の公の施設として、今回は条例をつくって設置して、町がこれまでより積極的に、さらに明確にこの化学物質過敏症の方の支援をしていくということでございますので、キャンプ村の運営そのもの、実態についてはこれまでどおりでございます。ですから、条例の制定が区民の方たちに改めて新たな影響を与えるというようなことはないと思います。

ですが、先ほど19番議員のご質問にありましたような問題につきましては、改めて区の代表の方、それから、周辺の権利者の方と話し合いを持ちながら、細かなルールづくりをしていきたいというふうに考えておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　ほかにございませんか。

11番、湯田秀春君。

○１１番　湯田秀春議員　今ほどの町長の思い入れ、大分強いということがわかりました。それで、また、私もこれ聞いたときに、今でもそうなんですけれども、合意形成というのは、確

かに直轄室長は大丈夫だと、２年間やってきたと。そうは言うんですけれども、委員会の中でも実は３回ほどトラブルあったって言うんですね。そのトラブルを少し聞いたんですけれども、ですから、私たちはこの条例ができて、これを運用して余りトラブルなく進めば、これは何ら、それほど問題視はしないわけです。

ただ、普通一般に生活している、例えば、一般に生活しているというといろいろあるかもしれませんけれども、例えば、整髪料を使ったり、あと普通のその辺の市販のシャンプーを使ったり普通にしている人がここへ行くとなると、ちょっと抵抗を感じるということはやっぱりあるわけです。そうすると、どうしてもトラブルが起きそうだなというのが普通一般の考えになるんじゃないかなと。そこを非常に私は心配しているわけですよ。と、これがこうできて、こういった場合にそういったことが起きたときに、今度は町長ばかりでなくて、私ら議会もその辺をちゃんと慎重に審議したのかと、こういうふうに言われるわけです。この辺のちょっと心配がいまいちあるわけです、正直言って。その辺のことがすっきりいけば、私らは別に何の問題ないわけです。これが町長の考え聞きたいんですよ、それでひとつ。

それから、やっぱり健康被害を受けた者の療養の場と、こうあるわけですよ。そうすると、普通これは病院とかそういうことをすぐ感じるわけですけれども、本来はこれは国でやるべきもんだなと私は思います。町長はその辺はどういうふうに思っていられるか、そして、もし、町長も私と同じように国でやるべきもんだと言えば、国でやらないからやるんだというのがあるんだと思うんですけれども、一方ではやはり国でもやるべきだと、こういうような、そういう運動というかね、そういう要請というのかな、そういうことも必要じゃないのかなと思うんです。

私は、この２点、町長の考えを聞いて、そして判断したいと思いますので、よろしくお願いします。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えいたします。

まず最初のトラブルの問題でありますが、全く議員が想定するようなことを私も実は危惧をしております。それは、昨日、医者の配置の問題もありましたが、これ逆に見ますと、何とか助けを求めて南会津の地に入ってきます。そのときは非常に謙虚です。もう自分がいたたまれない状態で来ますから謙虚に来ます。しかし、そこに住んで数カ月、あるいは少し改善がされると人間というのはわがままになってきます。ここのところはやはりトラブルを生む原因に私はなってくるんだろうと思いますので、そこの管理、お世話をしている方々にこれから十分注

意してほしい、こういうことを申し上げておりますし、体制です。ただ、気持ちだけでそれが解消するわけにいかないので、しっかりとした体制をつくっていただかないと、１人や２人では十分な対応ができませんから体制をつくっていただいて、そういうわがままな行為をしないように、つまり、私たちは地域の人たちに守られて、地域の自然の恵みを得てここに住んでいるんだということを理解するように、これはやはり相手に厳しく、ここは意見を申し上げると。そして、トラブルを限りなく少なくしていくということになるんだろうと思うんですね。

それから、いわゆる国の仕事だろうと、こういうことで、私も当然そう思いまして厚生労働省に行ってまいりました。厚生労働省では、医療としての認定を今のところできない。それで、この方々の窓口になっているのが北里大学病院、それから、あと千葉大のほうでも研究を進めています。これを国が病気として認めてないからということで放置しておくわけにはいけないという思いが国はあるんですが、では何を基準にやろうかということで迷っているというのが実態です。これは、厚生労働省だけでは十分ではないということで、総理官邸のほうにも行って、実はお願いをしてきました。これは、気の長い仕事なのでしっかり取り組みをしますと、こういうふうには今言っていただいております。

しかしながら、現実に、この前ふるさと会の総会がありました。そこで懇親会のときにもある一部の人からこの話を聞きました。私たちは大丈夫ですと。私の子供も今は何とか大丈夫のようです。しかし、孫がどうなるかわからない。そういう意味では、地域にこういうところもあってくれることはとてもありがたい。こういう意見もあるんですね。ただ、ありがたいといって遠くから、住んでいる声と実際ここにかかわりを持っている人ではまた違いますから、ここのところは国のほうとまた調整をしながら、しっかりとその対応をしていかなければならない、これが課題です。

そんな中で、国土交通省は、厚労省は具体的な動きはないんですが、ぜひそういうことであれば国土交通省の予算を使って補助をしますから、学校の改築をしてくださいと、こういうことを向こうのほうから申し出ていただきました。これは総理官邸のほうに相談した成果ではないかと、こんなふうには思っております。

以上です。

○渡部康吉議長　６番、渡部優君。

○６番　渡部　優議員　私どもの委員会でも説明がありました。それで何点か質問した経過もあったんですけれども、基本的にはそこでも若干申し上げたんですけれども、マイノリティーの政策というのはきのうほどの雇用問題でも出たように、こういう一番弱いところの政策とい

うのは、まずもって私は歓迎する内容ではあるわけですけれども、ただ、そのマイノリティー政策をする場合にはよりマジョリティーに対する理解を得ながらやっていく、共生していく。ここで言えば、マイノリティーの方々というのは健康被害を受けたような方々、それから、マジョリティーといえば今まで住んでいる住民だろうというふうに思います。

ですから、マジョリティーの方々の理解を得る努力を今もされているということで、そして、私の調査権はありませんけれども、個人の調査でお話を聞いてきた、現場に行ってお話を聞いたり、地区の区長様のお話も聞いてきたりして、自分なりにいろいろ調査をしまして、なかなか大変だなというのが一つありました。

それから、区長様は地区のほうはなじょなんだということも先般、２時間ほどお話をさせていただいて、おおむね了解を得ているというようなお話も聞いています。ですから、そういったコンセンサスというのはある程度できているのかなというふうに思います。そういったことを前段に、ちょっと質問をしたいというふうに思います。

直接的に、あらかい健康キャンプ村の設置についての今回、行政財産ということで整備したということなんですけれども、これまで１年間、去年からかな、委託されているというふうに思うんですけれども、これまでの扱いはどうだったのかということを、結局、公の用に供する普通財産に対しての使用許可を与えるということで行政財産にするということだろうというふうに思うんですけれども、これまでの扱いはどうだったのかということをまず１点。

それから、今回の条例の目的にある第１条、ここに供する対象者は健康被害を受けた者、化学物質等による健康被害を受けた者だけというふうに理解してよろしいのか、それとも、ほかの方々も可能なのかということ、それも確認したいと思います。それ、２点目。

それから、もう一点ありますね。先ほど、こういった化学物質による被害の研究機関は北里大学並びに千葉大学等で進んでいるというお話があったんですが、そういった機関との連携とかそういったものが大事だというふうに思うんです。もし、こういったものを設置する場合は。そういったことを話し合いになっているのかということ。

それから、その中で、やはりこの中のお話で山田先生ご存じだと思うんですけれども、ちょっとお話しした経過があったんですけれども、やはりこういった施設を受け入れる場合の受け入れ態勢というのは大事だろうというお話が実はあったんですね。それはどういうことかというと、やっぱり医療機関の受け入れ態勢なんです。何かあったときに我々と同じような対応、今の病院で同じようにできるのかということを考えたときに、多分できないだろうという、想定なんですけれども、これは。そういうときに、受け入れるにはやっぱりそれなりの責任があ

るだろうということで、やはりそういう医療機関との連携も必要だろうということで、そういう場合の緊急態勢もある程度、想定していかないとなかなか受け入れるのも責任はないだろうという話、若干出ました。これは間違いなく出ています。お話しさせていただいた中にあったんですけれども、そういったその中身を少し、そういったことをやっているかやってないか、お聞かせください。

それから、もう一点あったんですけれども、とりあえず３点ですか。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えいたします。

私から医療機関との連携に関してお答えをさせていただきますが、これは前の副町長、杉浦時代に、当然こういうことになりましたので、関係者から聞きまして北里大学の病院のほうに行ってまいりました。そこで、当初、この病気といいますか症状は完治しないと、こういう認識を実は持っていたと。ところが、環境といわゆる食物と変えれば限りなく改善できるということが私たちのこれまでの研究、あるいは患者との応対の中でわかってきたと。

したがいまして、とにかく医療機関ももちろん大事なんですが、施すすべが具体的にない。それが、実は北里大学の先生がお二人いましたけれども、私、報告受けましたが、それが実態ですね。要するに、食の改善と環境の改善なのだということがあったので、それではお受けしてもそれほどトラブルにはならないんですねということでしたら、恐らく医者に駆け込むような重症な方はそこまで行けないでしょうと。ある意味、新幹線は乗れないそうですね。つまり、自分たちが本当に使いこなした、いわゆる化学物質を限りなく少なくした古く使いこなした自動車でないと移動できない。その移動期間中にも、例えば問題が起きる人は恐らくそれだけの距離を移動して、そちらのほうに行くということはないでしょうと、こういうことがありましたので、受け入れました。

ただ、あとは、一般的に胃腸炎になったり、そういう場合に病院で受け入れられるのかということを恐らくご心配されていると思うんですが、それについては限りなく世話人の方が介添えをしてお願いをすると。ただ、そのときに医者が出てくると、いわゆる病院の中に入れるかどうかはその症状によって一つ一つ違いますので、これは今後、地域医療の中で考えていかなければならないだろうと、こんなふうには思っております。

○渡部康吉議長　直轄政策室長。

○宍戸英樹直轄政策室長　お答えいたします。

私のほうからは１点目の財産の関係と、それから２点目の施設の利用の関係についてお答え

をいたします。

まず、これまでの財産の扱いでございますが、おただしにありましたとおり、町の現在、普通財産として保有している施設ですので、その普通財産の賃貸契約を結んで、お貸しをしております。

それから、施設の利用に関してでございますが、条例の設置目的に「健康被害を受けた者の療養の場に供し」というふうにございますが、それの後に「町民及び町を訪れる者の健康意識の高揚、それから、定住等に結びつけていきたい」という目的もございまして、健康被害を受けている方のみの利用に限定しているわけではございません。実際、本年度も一般の健常者の方が子供さんを連れてそういう活動をぜひお手伝いをしたい、ボランティアをしたいということで夏休み期間中入られまして、実際に療養されている方と一緒に過ごされたということも聞いておりますので、ある一定のルールを守っていただいて、それにしたがってこの施設を利用することができるということでございますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　６番、渡部優君。

○６番　渡部　優議員　町長の答弁の中で、やはり受け入れの一番、実際、政策として私は歓迎するんですけれども、受け入れ側の責任ということで、ちょっとしつこいですけれども、やっぱり先ほど胃腸炎とかそういうふうになったとか、手術が必要だとかいうときに果たして緊急事態に、例えば、救急車で運ぶとかそういったときに対応できるのかなというのが非常に私は心配なんです。現場を見てきて、彼ら、彼女らとお話をさせていただいた中身からすると、なかなか対応できないなというのが実感としてありましたね。

ですから、その辺のところもう少しこれから詰めていくということが大事だというふうに思いますので、努力しなくちゃいけないと思うんですけれども、そのつもりだとは思いますけれども、その辺の状況もう一回だけお答えしていただきたいということと、これ、大事なことだろうというふうに思うんですね、やっぱり生命を守るという意味から言えば。

それから、第１条の目的に関してですけれども、ここも私、こだわるんですけれども、一般の人も一定のルールを守っていただければ入れると、利用しても構わないよということではありますけれども、もちろん担当者もご存じだろうけれども、今来られている方なんか非常に重症な方で、とても一般の人なんかは一緒の場所にいられんというような方もいらっしゃるわけですから、そうすると、使用目的の中で、やはりある程度明確にしておいたほうがいいのかなというふうに、逆に私はこの条例の中でね、そういうふうにしないと施設内だけでもトラブルが起きるのかなというふうに想定されちゃうんですよね。なかなかルールを守れとか、一々あ

の場でいろいろ面接をして受け入れるわけにはいかないと思うんですよね。あなたはどういう嗜好品がありますか、どういう化粧品を使っていますかなんて、こういうことを一々聞いてから利用してもらうというわけにはいかないと思う、一般の人にはね。

だから、ある程度、逆にこの条例の中で最初の「化学物質等により健康被害を受けた者の療養の場に供し」、そういう対象者をある程度固めちゃったほうが利用しやすいのかなと。逆に、このマイノリティーに対する施策に対してもいいのかなというふうに私は思うんですけれども、この条例の中身に関して、確かになかなか公がやるわけですから少し範囲を広げて書くというのはわかるんですけれども、逆にトラブルの原因になるんじゃないかなと、この条例に関しては思うんですけれども、その辺の見解をお聞かせください。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

答弁、質問に対して逆になるかもしれませんが、まず、いわゆる条例の中身の話ですけれども、つまり、この化学物質過敏症の人たちは家族がいますと、家族の中で全員が発症するわけではない。そして、それがお医者さんにかかってもなかなか投薬があったり、適当なその治療がないので家族間でも誤解があって、なかなか家族のコミュニケーションもうまくいかないという状況がある。

そういうときに、例えば、家族が連れてくるというケースがあるんですが、あるいは遠くのおじいちゃん、おばあちゃんがその孫のためにぜひにという問い合わせもあって来るんですね。そうすると、やっているうちにだんだん理解をするんですよ、家族の人たちが。

したがいまして、いわゆるサポートする人の中にはそういう、最初は気づかなかった家族が加わったり、あるいは今、実は全く一緒に生活していないおじさんが滝原に泊まって、その子供の様子を観察していると、こういうこともありますので、それが例えば過敏症の人たちといろんな形で改善されていく中で近づける状態が出たときのことを想定すれば、そういうことも可能性として道を開いておかなければならないだろう、こういうふうな考えを持っています。

そして、今、その中で２人だか３人だかちょっと確認できませんが、そのくらいの数が改善されたために、そこでお世話役として残りたいという方もおりますので、だから、化学物質過敏症という診断書が出るわけでも何でもないので、そこのところは内部のトラブルを議員が心配されるように限りなくないような体制をとって、認識を持ってやっていくということでご理解をいただきたいと思います。

それから、医療の関係でありますが、これはやっぱり電磁波のほうの方についても、それか

ら、化学物質のほうにしても病院にはさまざまな化学物質がありますので、病院の中に入るというのは本当にこれ厳しいんですよ、実は。だから、北里大学がどういう形で受け入れをやっているのか、どういう、例えば、環境をつくれば診察ができるのか、ここのところもこれから研究していかなきゃならないことだと思います。

ただ、一つ考えられることは、今、仁嘉会の山田先生がやっている、いわゆる昔で言えば往診ですね、往診。これが例えば、地域医療の中で先生方の医師会の理解が得られて、どこかそういう、この方々のところに行って、あるいはその先生の状態もわかりませんから、そういうことを理解できるのかどうなのかを含めて、これからやっぱり検討することになると思います。これについては議員と同じような認識を持っております。

でも、そこであきらめるんではなくて、やはり、受け入れるからにはそういう体制も少しずつ改善をしていかなければならんと、こう思っております。

○７番　星　光久議員　議長、７番。

○渡部康吉議長　７番、星光久君は先ほど２回発言していますので、１回だけ許します。

○７番　星　光久議員　ちょっとそれじゃ待ってください。

これ、文書提出してって発言でもなんでもねえだけれども、これもやっぱり一応、発言なんですか。

○渡部康吉議長　ええ。

○７番　星　光久議員　そういう、なかなか厳しい、これ。答えも受けらんねえような中身だから、これまとめて、余計な心配だな、おまえはと言われるかもわかんねえけれども、町長興奮しないでちょっと聞いてくださいよ。

おれも一応、議員の立場でも何でもねえだけれども、そういう声が来たということで、その場所さ、本当の場所さ行って、今いる北海道から来て、町長言ったおじさんと結構長くしゃべってきた。そして、おれ、これ心配してるのは、あの場所、あればっかのちっちゃい場所で大丈夫かというのが第一心配なんだ。というのは、今、このさっき町長言ったように、ジェット機飛んだり、いろんなヘリコプター飛んだりなにかしている範囲の中で、あそこさ、これあれぐらいの場所、何しろ敷地だって、これすぐ見落とすようなちっちゃい本当の学校敷地ぐらいの場所しかねえもんだから、それが心配な１つ。本当にやるんだったら、あそこの下、地域全体、ここはそういう区域ですよと、国に届けるぐらいのやっぱり規模の大きさがないと、せっかくこれ条例化しても、何だ、あれっぱっかではなと、こうなんでねえかと思う。

そういうことで、定住含めてそういう形にこれから条例化すると思うんだけれども、それの

心配というのはどういう認定とかなんだか、これ、生活するには一応収入も必要だし、それから、生活の生活基盤きちんとしていないと、そういう人ばっかりいるもんだから、町のこれ生活保護の対象におれなんでねえかと思うの。

そういう形で、あとこれ、さっき優議員が言った医療だの何だのというのもあると思うんだけれども、そういうことであと食の提供。無農薬、どこまでのやつ食うか食わねえかはわかんないんだけれども、本人さ聞かないとせ、これ無農薬ですけれどもって与えらっちゃ場合に、本人が食うか食わねえかわかんねえだっちゃ。その体の状況もよるんけれども、これ無農薬ですからって与えても、食うときと食わねえときがある。やっぱりそういう厳しいような、そしてふろも普通の電気これついたり、自動車のライトついたり何かした状況の中には、相当ひどい人なんだと思うんだけれども、そういう中には入れないと。で、ふろに入るのもやっぱり豆電球とか、普通生活するにもそういう状況だと。そして、じゃ生活なじょしているんだよって聞いたの。そしたら、限界あっと思うんだけれども親類だの何だののほうから銭のほうは援助してもらってるんだと。そういう形で、これ、おじさんという人だからまるっきり全部わかるわけでもねえべし、ある程度はわかるんだけれども、この工事終われば、おれは帰っちまうだと。あと、どういう人が来っかおれはわかんねえだけれども、なかなか大変な未来だと。

そういう形で、ラジオでちょっとニュース聞いたんで、北海道の人、これ生活保護、暴力団が入り込まれちゃって、生活保護を受けて、町長らも知っているけれども、何億のこれタクシー代のいろいろの形でやらっち、町長含めてこれ職員まで月給減額して、今それの補てんに充ててるんだとか、こういうことまでこれ聞いたもんだから、あらあら、これ定住するにはなかなかこれ、そういう人が潜り込まれたらこれは大変だと。というのは、みんなこれ、体のちょっとどこか異常がある人なもんだから、抵抗もできないし、それから電話かけたって連絡もとり合わないし、なかなかそういう環境の中に、もしかして悪の者が入り込まれたらこれは大変だなと思うわけ。

余計な心配だなんて思うかわかんねえけれども、おれらはそこまでこれ、あそこさ行ってしゃべって、おれは鉄砲たがって猿撃へ行ったんだけれども、たまたまあそこいたから、おい、鉄砲たがってきてんだけれども大丈夫かよって言ったら、いや、おれは大丈夫だからしゃべっていってくださいって言って、いろんなことしゃべったり何かしていたもんで、では、その人今どうされているんだって言ったら、いや、朝に自動車さ乗せていって山奥さ置いてきて、帰る晩方になって仕事終わるとせ、今こう電気工事だのいろいろやっているから、終わったせ、一人で歩いてくるんだなんて、こうそういうの言われたんだけれども、そういう中で、その辺

も含めて、やっぱりこれ町のこれからのそっちのほうまで考えなければ、なかなか大変でねえかなっておれは思うんだけれども、町長なじょだけれども、これしか答え、質問できねえもんだから言うたけれども、あと食料品の提供も本当にこれ定住された場合に、これから規模も大きくなっぺし、定住の人数がどのくらいになるんだかわかんないんだけれども、本当に南会津の地域にしたって伊南から野菜持ってきたないかなっていうのは結構難しいと思うし、滝原の地元で本当にこういう無農薬だのこういう食品は提供できるのか、できないのか含めて、またしゃべっちゃいるども、これでしょうがねえけれども、そういう形で町長の思い。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

私は決して興奮はしておりませんで、ただ、決めつけた言い方をしたり、そういう言い方をした人には気づいてほしいということで、ちょっと口調が強くなると、こういうことでございますので、ご理解をいただきたいと思います。

そんな中で、最後の質問ということですので少し丁寧にお答えをさせていただきますが、まず住所は移転しません。定住もありません。とりあえず、将来はわかりませんよ。いわゆる知事が言っている二地域居住と、そういうことでもないんですね。二地域居住になってくる可能性はあるだろうというふうにはありますが、要は体質改善のための一時的な滞在場所と、こういうふうに理解をまずしていただければありがたいというふうに思います。

そして、あの場所が狭い場所で心配だと、こういうお話もありましたが、実はとりあえず今、やはり、先ほど言ったトラブルのない、やっぱりトラブルの起こらない状況をまず確保しなければならない。それは余り大きく受け入れてやるんではなくて、小さなところから丁寧に一つ一つ検証しながらやろうということで、あの区域に限ってやれば地元の人たちにも大きく迷惑をかけることもないだろう、こういうことでスタートがあの区域、あの領域ということでご理解をいただきたいというふうに思うんですね。

その中で、食の提供を含めていろいろ心配があります。特に、受け入れる場合においては身元がわからない。これがやっぱり一番私たちにとっては心配をしなければならないんですね。ただ、これまで針生地区とか、あるいは高杖とか地区にはログハウスを建てている方々もいます。この方々も実はどういう方々なのかわからないわけですね。でも、いろいろ長いおつき合いの中でとても地域になじんで、あるいは地域の方々にいろいろと貢献をしておられる方というのもおるわけです。ですから、ここはセーフティネットじゃないけれども、しっかりと議員が心配されるような、そういう暴力団絡みの関係のある方とか、あるいは非常にわがままで地

域の慣習とか慣例とかを守っていただけないとか、こういう方々についてのやはり線引きはしっかりとしていかなければならないだろうというふうに思っています。

それから、それぞれおじさんがおっしゃっておりましたように症状が違う、食べ物ですね。これは、私たちのそういう症状を持たない人たちもそうでしょうけれども、きのうの体調ときょうの体調が違って、やっぱり食が変わるというのもあります。それが顕著に、恐らくあらわれるんだろうと思いますが、そこの方で来た人で全く無農薬で生産者も自信を持ってダンボールに詰めて送ったそうです。そしたら、そのダンボールに化学物質が入っているのでそれでだめだと、こういうことになったケースもあると思いますので、そういう生産から届くまでのそのすべての工程の中で気遣いをしながらやっていかなければならないという苦労は当然出てくると思います。

そこで、今、化学物質過敏症の方々をお世話をする会というのができています。これ、確か人数で５人くらいいるかと思います。この方々がそこのところをきちっと見分けをしながら、食べ物の供用をしていると、こういうふうに聞いております。この後、人数が多くなったときにそれが満遍なく提供できるのかということになりますが、特に、ここは肉、魚というのはここ地元で生産できませんので、肉は全くできないわけではないんですが、それらについてはそういう方々のネットワークがありますので、こちらのほうからきちんと手配をして届くということになります。したがいまして、ここでとれるものについての提供を安定的にやっていくようなことは今後、農協やあるいは無農薬に取り組む方々やそういう方々とさらに協議をしていくと、こういうことになると思います。

そして、最後になりますが、国への働きかけですが、今、先ほど６番議員のほうにも申し上げましたが、とりあえず総理官邸のほうからそれぞれ担当の秘書官に問題を上げてもらっています。しかし今、別な問題でいろいろと忙しいようですが、これらについては積極的にまた働きかけていきたい。

そして、国もこれが一つのモデルになれば、これは大きなやはり社会問題の解決の糸口になる、実はこういう認識を持ってもらっています。ただ、しかし、さまざまなハードルがありますから、今後、もし差し支えなければ南会津町以外の町でもこういう動きがあれば、政府としては、あるいは国会のほうとしては大変動きやすいと、こういう話も承っておりますので、今後さらに詰めていきたいと、こう思っておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　ほかにございませんか。

12番、星登志一君。

○１２番　星　登志一議員　２点ほどお伺いをいたします。

これ、新しい試みなんで、やっぱり賛成、反対、いろんな議論があろうかなと思って私が心配していたのは、まず１点は今回指定管理者ということでやると。これ、指定管理料が出たらばちょっと町民の間からも幾らいい仕事でも賛成、反対が出るんじゃないかなということだったんですけれども、今回は指定管理料が出ないということなもんですから、町長のお考えとして、今後とも指定管理料ゼロの方針でやっていくのかどうかということがまず１点。

それから２点目は、先ほど６番議員からもありましたけれども、やはり少数派というのは非常にこれ、特に、今回の事象を持っている方は自分で好きでなったわけじゃないわけですよ。それで少数派なわけですよ。力がないということですね。すると、こういう方たちは、やはりどこかで今、日本人というのはなるべくかかわらないように生きようというような考えの人が多くなったんで、私はこんな社会ができたんじゃないかなと思っているんです。こういう方には、やはりある地域でかかわってあげて助けてあげないといかんと思うんですよ。ましてや、初めての事象ですから。私も実際、少数派です。血が出るととまんないということで注射１本やると10万円です。ところが、これが社会制度のおかげで私はただで注射できます。ですから、そういった制度がある前は私は40歳で多分死ぬんだろうと思ってやってきましたけれども、やはりどこかで少数派は助けてやんなきゃいけないと私は思うんです。

ですから、もっとおおらかな気持ちで、もし今後いろんなことがトラブル等あったらば、では町全体で助けてあげようというような気持ちでやっぱり推進すべき私は事業だと思うんです。そういった意味で、今後、町長先ほどちらっと言っていましたけれども、町全体でこういった病気を何とか国に認定させると。認定させるといろんな制度ができてきますから、その辺の今後の意気込みをちょっと、その２点お伺いいたします。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

まず、第１点目の指定管理料の件ですが、実はこれ、北海道の旭川、それから本県で言えば猪苗代、ここにもあるんです。これは民間の言ってみれば経営なんですね。民間の経営ですから、当然、先ほど光久議員のほうからもありましたが、お金が、大変なお金が負担としてかかるので家族の支援もなかなかままならない。この中で、ずっとこの化学物質過敏症の方々は過ごしてきたんですね。

したがいまして、行政に例えば、指定管理料までいただいてやろうという考え方は今のところ、私のほうで応援しましょうと言っても、いや、みずからやりたいんだと、こういう考え方

が非常に強いので、ずっと将来どういう状況変わるかわかりませんから言い切れることはないんですが、今当分の間はそういうことはないだろうと。この方々が運営するということになれば、これはないだろうと。こんなふうには理解しております。

それから、少数派のお話がございました。私も議員と同感で、日本の文化というのは本来は共助の文化だと思います。それが社会保障制度の充実であり、例えば、国民年金の皆保険にもつながっているわけですね。これがいつか、こんなこと言うとよその国にしかられますが、合理主義、機能的だ、こういうことがあって、なぜかこう競争が激化していって、どこかで日本の共助という文化が薄れてきたような気がします。

したがいまして、議員からおただしがあったようにさまざまな問題を抱えます。しかし、それは私たちがある意味では解決できる問題だというふうに理解をします。それは、私いつも言うんですが、拉致問題、大変、私心配していますが、あなたどうしてくださいって、いつになっても来ません。でも、こういう問題が私たちの目の前にあらわれたということは、この地域が、あるいはこの地域に暮らす人々がそれを受けとめる能力や条件が整っているんだと、こう思っておりますので、議員ともども精いっぱいトラブルのない、そしてまた、住民に迷惑かけることのない方策を探っていきながら受け入れを進めていきたい、こう思っておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　14番、平野昌盛君。

○１４番　平野昌盛議員　きょう配付いただいた滝原区民の皆様へというチラシなんですが、これ、出した日付が入っていない。これればかりでなくて、チラシをよく見てみるとほかのチラシも出した日付が入っていないというものが散見されるわけですが、とにかくこれは日付というものはいろいろな事象を判断する場合に非常に重要だと思います。それで、きょうはこのチラシはいつ出されたのか、それをお伺いします。

以上です。

○渡部康吉議長　直轄政策室長。

○宍戸英樹直轄政策室長　お答えいたします。

この「滝原区民の皆様にお願い」として出しました文書は、本年の10月８日に発行したものでございます。ご指摘のように、こういった文書の日付の記載につきましては今後注意してまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○渡部康吉議長　ほかにございませんか。

〔「ありません」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　質疑を終わります。

これより討論に入ります。

討論はありませんか。

〔「議長、３番」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　討論があるそうでございますので、まず反対者の発言を許します。

３番、高野精一君。

○３番　高野精一議員　私は先ほどちょっと踏み外したような感じで発言いたしましたが、こういう弱い人というのは、私は受け入れること自体は決して私もそういう意味合いを持っては、人よりは多くそういう情けというのは持っているほうなんです。

ただ、今回、地区の人がね、これ物すごく一つ危惧しているのは、皆さんの記憶にもちょっと新しいと思うんで、まだあると思うんですが、栃木県で宗教関係の問題が１つありまして、あれを排除をするのには大変な労力を一つしたと。それから、今この説明の中において、るるこういう症状の人ですよという説明は今聞きましたが、本当のことを言って、私自身もその実態はわかりません。それと、ひとつ閉鎖された状態の中でそれが見えないということがやっぱり地区民においては不安を感じると。それから、八総鉱山という特異な場所だけにおいて、まだ鉱毒の問題が、これは地球がある限りそこの調査は常にしなくちゃいけないんだという形で、今も現在調査はしています。

そういう人たちが果たしてその八総鉱山のそのため池の場所、沈殿鉱の池の場所へ行ったときに香りは多少違うんです。やっぱり行ってみればわかると思うんですが、そこの地区は果たして本当に大丈夫なのかと。そこへ行って大丈夫なのかなと。後から、これ許可はしたけれども、その後今度は向こうさ行ったらばこういう病気に、また発症が強くなりました。町に対してそれに対する迷惑はかからないのかなということが１つと、それから、やっぱり皆さんがなれ親しんできたその地区が自由に出入りできないと。山菜とりに行ったらば追いかけられて出て行ってくださいよと言われるような、そういうトラブルもあるし、これをやっぱり、自然を今まで愛してあそこの鉱毒の関係をなくそうという関係で、魚をとって一生懸命放してきた人たちもいるし、まだそういう人たちの理解が得られてないということで、私はこの条例に対しては反対いたします。

○渡部康吉議長　次に、賛成者の発言を許します。

２番、渡部俊夫君。

○２番　渡部俊夫議員　実は、以前どれほどの症状だったかはわかりませんけれども、改善さ

れてきた方とたまたまですけれども、ことしの９月、私もコンサートが好きであちこち出かけけるわけですが、コンサートの席で一緒になりまして、私の家族ともども一緒にお茶を飲んだりしてこのお話も聞いて、ああ、本当にこのあらかいキャンプ村というものは役に立ったんだなということを私、そのとき強く実感してうれしく思いました。今まで19年度当初からここに対してはいろいろな施策を打ってきて、それに対して議会としても予算も含めて同意をしてきたいという経過の延長線にあるんじゃないかというふうに私思っています。この間の質疑の中で、各議員から出されたいろいろな心配事あるわけですが、その辺のことを十分に今後の運営に当たっては留意をしていただいて運営していくということを前提に、私はこの条例案に賛成をいたします。

○渡部康吉議長　次に、反対者の発言を許します。

ありませんか。

〔「ありません」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　ないようですので、討論を終わります。

これより採決を行います。

この採決は起立によって行います。

議案第79号　南会津町あらかい健康キャンプ村条例について原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○渡部康吉議長　ありがとうございました。

起立多数です。

よって、議案第79号　南会津町あらかい健康キャンプ村条例は原案のとおり可決されました。

――――――――――――――――――――――――――― ◇ ―――――――――――――――――――――――――――

◎議案第８０号の質疑、討論、採決

○渡部康吉議長　次に、日程第２、議案第80号　南会津町国民健康保険条例の一部を改正する条例を議題といたします。

直ちに質疑に入ります。

質疑ありませんか。

19番、大竹幸一君。

○１９番　大竹幸一議員　この条例は来年の１月から産科医療補償制度というものができるということに関連する条例というふうに思います。それで、その産科医療補償制度というものについてちょっと調べてみると、通常出産にかかわらず子供が脳性麻痺になった場合に限られるというふうになっておりますが、この通常、そういう脳性麻痺ですね、これが南会津でもいいですが、県内でも構わないですけれども、統計的にどのくらい発生しているのか、何人中何ぼでもいいですけれども、そういった統計があれば伺いたいと思っております。

２つ目は、さらにこの通常出産でそういう場合が生まれるというふうになっていますので、先天性かどうかというようなことが、普通の分娩であればそういう子が生まれないんだけれども生まれるということで、先天性かもしれないという疑いもあると思うんですね。そういう場合なんかの認定ですね、そういうのは一体どこでやるのか、その辺わかれば伺いたいと思います。

それから、あと３つ目は、この３万円ふえる分が民間の保険会社に行くというんですね。その民間の保険会社というのはどこなのか、もしわかれば伺います。

○渡部康吉議長　住民生活課長。

○長沼芳樹住民生活課長　お答えいたします。

まず、脳性麻痺の頻度の関係でございますが、通常1,000人に１人か２人ということで、厚生労働省の報告書の発表によりますと、年間おおむね500から800人というような数字で伺っております。

それから、先天性の異常の認定の関係でございますが、これにつきましては基本的には分娩機関がまず第一に行うものというふうには考えております。それから、当然、その後の保険会社においてもその認定にも入ってくるということでございます。

それから、民間の保険会社につきましては６社ございます。申し上げます。東京海上日動、損保ジャパン、日本興亜損保、あいおい損保、それから同和保険、三井住友海上、以上の６社でございます。

○渡部康吉議長　19番、大竹幸一君。

○１９番　大竹幸一議員　大体わかりましたが、ただ、この脳性麻痺しかこの仕組みでは当てはまらないということなんですが、この前問題になった大野病院ですね、出産のときに胎盤剥離で、あのときは母親が亡くなったのかな。子供はどうだったっけ、ちょっと忘れましたけれども、そういう違う、もっと補償範囲を広げていくことが必要かと思うんですが、これなんか法律でないと聞いているもんですから、今後、補償範囲を広げるような運動をする場合には一

体どこに言えばいいのか、国に言えばいいのか、それともこの民間保険会社に言えばいいのか、その辺、この制度の主体といいますか、それは一体どこになるのか、その辺、わかれば伺いたいと思うんです。

先ほど脳性麻痺の認定の話、ちょっと私、質問しましたが、これ脳性麻痺というと、いわゆる知恵おくれというのか、それちょっと私もはっきり症状わかりませんけれども、例えば、生まれて何カ月ごろですかね。寝返りなんかこう打ったり、普通は。それが打たないとか、それでわかるそうなんですね、寝返り打たないとか、言葉を覚えないとかそういうのでわかるというもんですから、その辺、先ほど分娩機関でそういう認定をするということを言いましたけれども、その辺、分娩機関だけでは何かこう主観的なふうになっちゃって、それを客観的に言ってくれるところが必要でないかなと思うんですけれども、その辺どういうようなふうになっているか、わかれば伺います。

○渡部康吉議長　住民生活課長。

○長沼芳樹住民生活課長　お答えいたします。

まず最初の質問でございますが、基本的にいわゆる分娩に際して医療補償とか裁判まで発展するケースとして一番多いのが脳性麻痺ということがありますので、まず脳性麻痺についてこの保険ができたということでご理解していただければと思います。

その他の症状について、どちらのほうにということでございますが、それについてはどこということでなく基本的には国のほうにとかに申し上げていくような形になろうかと思います。ただ、今回の産科医療補償制度につきましては運営組織というのがまず設けられておりまして、これが財団法人で日本医療機能評価機構というものができておりますので、こちらのほうで取り扱っておりまして、この制度の後に、いわゆる体制、再発防止等の計画についてもこちらで対応していくというふうになっております。

それから、脳性麻痺自体の対応ですが、基本的には胎児のときから１カ月までに起きた脳障害の後遺症ということになっております。運動発達や知性に異常を起こす病気でございますが、基本的にお母さんとか家族の方が発見する症状としては、新生児期の無呼吸発作とか、それからけいれんの発作、それから、母乳やミルクの飲みが極端に悪いとか、首がしっかりしないとか体が固いとかというような症状が見られますので、これらをもって判断はある程度できるということでございます。

○渡部康吉議長　ほかにございませんか。

８番、楠正次君。

○８番　楠　正次議員　所管のことではありますけれども、説明を受けた中で、今細かい点、いろいろ問題点とかお聞きしたんですけれども、今まで35万、この３分の２が交付税措置されてきたと思うんですけれども、38万となった場合の交付税措置も色づけはなく３分の２というふうな考え方でよろしいのか。あとは、町の国保の負担が増減的に重くなるとかそういうことは考えられるのか、以上、お聞きします。

○渡部康吉議長　住民生活課長。

○長沼芳樹住民生活課長　お答えいたします。

いわゆる国の措置の関係だと思いますが、今まで同様交付税で措置がされるというふうになっています。ただ、一般財源ですので、はっきり明記はされてはいないというふうには聞いています。

それから、町の持ち出しがふえるかというような形だと思いますが、ある程度、３分の２以外にも決まっている分がありますので、若干は少しはふえるというふうには考えております。

○渡部康吉議長　ほかにございませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　質疑を終わります。

これより討論に入ります。

討論はありませんか。

〔「ありません」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　討論なしと認めます。

これより採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」「異議あり」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　では、異議ありだそうでございますので、討論まで戻りたいと思います。いいですか。

まず、反対者の発言を許します。

２番、渡部俊夫君。

○２番　渡部俊夫議員　私はこの条例案に反対をいたします。

ということは、この保険制度が実質先ほど答弁があったように、民間損害保険社６社共同の運営になるということでありますので、民間保険の加入を公的医療保険の支払いの要件にすることに対して、いささか私自身は疑念があるということでございます。

それから、この制度が実際に全国年間3,400名近く出てくる症例のうち、わずか、先ほど回答にありましたように、統計上該当になるのが500から800くらいだろうというふうになっています。それはなぜかといえば、出生体重が2,200グラム以上で、それから、胎児期間が33週以上という非常に限られた範囲でしかこの条件が満たされていないということから、結果として脳性麻痺で誕生された子供のわずか25％ぐらいしか該当しないと。先天性、あるいは異常分娩で生まれた方についてはこの保険が適用されないという問題とかありまして、あるいは補償額についてもトータル3,000万円と。１年目は600万円と、そのまま120万円ずつ20年間、トータル3,000万円と言いつつも、実際に今までの判例を見ましても約１億5,000万円という判例まで出ている状況の中で、これで十分なのかなというふうにも思います。

その他、実際に、これ保険に加入するのはあくまでも医療機関なわけですが、実質、病院にかかれば産科医療補償制度登録証というものが本人に渡されまして、これの中身を見ればまさに保険証と、その定款ということで、まさに本人の同意なくしてこの制度が運用されるという、その他もろもろ問題ありだなというふうに思いまして、私は反対をいたします。

○渡部康吉議長　次に、賛成者の発言を許します。

５番、山内政君。

○５番　山内　政議員　１月１日の実施を想定されて法整備されているわけでありますので、南会津町民の子供が仮にこれに該当することになりますと受けられないということも考えられますので、私は負担補償という意味がありますので、この条例案には賛成をするものであります。

○渡部康吉議長　次に、反対者の発言を許します。

ありませんか。

〔発言する者なし〕

○渡部康吉議長　ないようですので、討論を終わります。

これより採決を行います。

この採決は起立によって行います。

議案第80号　南会津町国民健康保険条例の一部を改正する条例について、原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○渡部康吉議長　起立多数です。

よって、議案第80号　国民健康保険条例の一部を改正する条例は、原案のとおり可決されま

した。

――――――――――――――――――――――――――― ◇ ―――――――――――――――――――――――――――

◎議案第８１号の質疑、討論、採決

○渡部康吉議長　次に、日程第３、議案第81号　南会津町町営住宅管理条例の一部を改正する条例を議題といたします。

直ちに質疑に入ります。

質疑ありませんか。

17番、芳賀沼順一君。

○１７番　芳賀沼順一議員　１点だけ、これは条例に関してではないんですが、関連いたしまして、この住宅を管理する中には貸し付けもあると思います。貸し付けで今回も住宅の未納がかなり出ているということなんですが、去年だかから保証人は１人にいたしました。前は２人だったんですが。その保証人に住宅の未納者が３カ月を超えた場合には一応、退去もそうですが、保証人にも言うことになっているんですけれども、いろんなところで私も聞くんですが、まず、ほとんど３カ月できていない、保証人から。かなりたまってからくるもんですから、そんなには立てかえようねえという話もあるんですが、全部ではないんでしょうけれども、大体、町としてはどのぐらいの期間を置いて保証人に代理払いの請求をしているのか、１点だけ。

○渡部康吉議長　副町長。

○渡辺　仁副町長　お答えいたします。

明確な基準といいますか、決めごとは特に設けておりませんが、基本的にはご本人にまずは納めていただくということを基本としまして、なお事情があっていわゆる分納、あるいは今後の支払いのそういった計画が出される場合があります。そうした場合につきましては、そういった事情を勘案しまして、３カ月を超えたからといって一律に保証人の方に連絡するのではなく、その状況を見ながら判断をさせていただいておりますので、ご理解願います。

○渡部康吉議長　17番、芳賀沼順一君。

○１７番　芳賀沼順一議員　私もこの住宅の条例を引っ張って見たんですけれども、保証人というのは代理にお金を払うばかりではなくて、ある程度すべてに責任を持つということで保証人をとっているはずなんですね。そうしますと、３カ月を過ぎて本人に出ろというのは、住宅を出るのは非常に大変ですので、やっぱり保証人に言うことによって保証人さんは、おおい、

払えよと、一言早目に声をかけられる。だめならば立てかえられるということもあるでしょうけれども、それ以前に保証人を頼むぐらいだから、早目に払えよと声をかけられるので、いよいよになってきてからではなく、もっと早く教えてもらいたいという声があるわけです。だから、やっぱりそういう規約は一通り、一応は決めて、そういう規約があるんであればそうすべきだと思うんですが、どうでしょうか。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをさせていただきます。

　ただいま議員からおただしがございましたので、私もそういう仕方をしていたのかなという認識を持っておりました。議員がおっしゃるのは全くそのとおりだと思います。相手方の立場になれば状況をお知らせすると、こういうことはとても大事だと思いますので、これは今後改めていきますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　７番、星光久君。

○７番　星　光久議員　反対とか何だとかでなくて、中身ちょっと精査したいということでしたんですが、これ、２の資料のやつで町営住宅の使用料の未納の分で大体1,500万、こういう形で出てきているもんで、先ほどの芳賀沼議員の中身とかみ合うんだけれども、そういう中で、前は住宅審議委員会があって、そこで入れられないか選考したりなんかしていたんだけれども、今はこれ、申し込みずばりそのまますぱっと行くみたいで、やっぱり一番危惧するのはこれ、暴力団関係ということで、これも友達、いろいろな知っている人が町営住宅の中に、町営住宅ということは関係ねえんだけれども、住宅内に暴力団が入られちゃったと言っておりました。何ともしようがないというのは、側はそれみんな逃げ出しちまうし、運営そのものがいけなくなっちまうということで、これそのためにうたっていると思うんだけれども、そういうことで、やっぱりきちんと未納も含めて、保証人も含めて、それとやっぱりきちんとしてもらわないと困るなと再確認の意味であれしたんですが、それと、町営住宅に入る場合、ペット類ってたしか入ってたもんな、条例の中で。これの中にはこれなかなか入っていないから、でも、もとはペット類って入って、側が非常に犬がいたり、猫はそんなに騒がねえだけれども、猫のにおいっていうのは物すごくとれないというか、そういうことでだめだと、そういうことをあれしても、今までの部分では排除できなかったというか、注意はしたかしないか、これ、そこまではわかんなかったんですが、そういうことで、おれらも電話きたりいろいろしていたんだけれども、わざわざ町営住宅のところに、犬飼ってますよと、レッテルまで張っている部分があったわけで、町営住宅はペットなんか飼えねえだけれどもと側から言われても、行ってみたら、な

るほど認可まで受けてるんだからというような状況もあるもんですから、この分についてはきちんとしないと、あとからこれ町のほうで困っちまうと思うの。そういうことで、きちんとしてもらいたいというような形で、意見というか述べたわけです。そういうことで、よろしくお願いします。

○渡部康吉議長　副町長。

○渡辺　仁副町長　お答えいたします。

その住宅に住まわれている方皆さんの住宅環境の問題かと考えますので、適切な管理指導を行ってまいりたいというふうに考えますので、よろしくお願いいたします。

○渡部康吉議長　19番、大竹幸一君。

○１９番　大竹幸一議員　これ所管で説明は受けたんですが、その後にちょっと思ったことで確認の意味も含めまして質問しますが、暴力団を町営住宅に入居させないと。そして、あるいは、入居した後でも暴力団だったことがわかれば出てもらうということで当然でありますが、ただ、暴力団というふうに認定するにはだれがどのように認定するのかなと思ったもんですから、そこを確認する意味で質問に上げてみました。

それから、あともう一つは、この配偶者からの暴力防止で保護がありますね、それで一時保護と保護があって、相談支援センターとか、あと婦人保護施設ということがこの前説明あったんですが、ただ、これはこの辺ではこの施設はどこにあるのかなと思ったもんですから、私らもそういう相談があった場合にね、例えば、若松にこういうのがあるよとかと説明したいもんですから、そこがどこにあるか知っていれば伺いたいと思っております。その２点、質問します。

○渡部康吉議長　副町長。

○渡辺　仁副町長　お答えいたします。

まず、第１点目の暴力団員の認定の方法についてでございますが、これは警察署のほうに御協力をいただきまして、警察のほうからのご回答をいただくと、そういったもので認定をしていくということになっておりますので、お願いいたします。

それから、２点目の配偶者からの暴力を受けた方の保護する施設でございますが、南会津町には特にございませんので、まず第１には県の南会津保健福祉事務所、ここが窓口となりまして、地元で保護できるような場合には、例えば、一時的にホテルを用意したりとかそういったことはございます。あと、その後につきましては、県の施設としましては福島市にその施設が１つございます。

以上でございます。

○渡部康吉議長　19番、大竹幸一君。

○１９番　大竹幸一議員　そうすると、あとのほうのあれはわかりましたが、最初の暴力団の認定では、結局、やっぱりふだんの行動が粗暴であるとかいろいろな情報をキャッチして、警察に「この人ちょっとおかしいんじゃないですか、調べてください」と、こうなるわけですね。そうすると、その辺、まさか組員証なんていうのあるんだか何だかわかんないですがね、そんなのをすぐに出す人もいないでしょうから、そういう、難しいような感じもするんですけれども、そういう今までの何か例で、どこかではそういう例というのはありますかね。あったら伺いますが、なかったらいいですけれども。

○渡部康吉議長　副町長。

○渡辺　仁副町長　お答えいたします。

当町におきましては、そういった事例はちょっと聞き及んではございませんが、これにつきましてはいわゆる県内、こういった条例を定めた場合に県内各市町村でそういった協力体制を警察署のほうに求めているということで、県警のほうにもご理解をいただいているということで、その中での情報を共有しながら行っていくというようなシステムになっているというふうに聞いております。

○渡部康吉議長　３番、高野精一君。

○３番　高野精一議員　これ、先ほど芳賀沼議員から出てきた、いいものが出てきたなあと思ったんですが、この保証人なんですが、この保証人というのは入ったときに結構、高齢者の人が保証人になっていて、その保証人が亡くなっちゃったとかということもあると思うんですが、この保証人の見直しというのは今後考えることはあるのかどうか、１点お伺いしたいなと思いますが、例えば、10年くらいたったらば、この人健在なのか、この能力あるのかねえのかというようなことも、時期が来たら、これ見直しが必要ではないのかなと。それで、例えば、その保証人をやった場合の当時の状態とその後のその人の保証人の関係が崩れている場合も多々あるのではないのかなと、こう思うんですが、そういう場合、私の例を１つとって言いますと、この間ＤＶ関係で私、保証人で１人入居したんですが、何年かたって、私ちょっと都合によって保証できませんよとか言った場合には、それをこの住宅のほうの関係でこれを認めることができるのかどうか、そういう保証人の見直しというのはあるのかどうかを１点お伺いしたい。

○渡部康吉議長　副町長。

○渡辺　仁副町長　お答えいたします。

確かに、議員おただしのとおり、亡くなられた場合保証人がいなくなるわけですから、そういった場合の見直し、それから、いわゆる保証能力があるかどうかということですので、そういったその方の能力、そういったものについては……。

〔発言する者あり〕

○渡辺　仁副町長　大変失礼しました。保証人につきましては、町営住宅の管理条例の中で死亡したとき、または後見開始等々によりましてその保証能力を有しなくなったとき、または所在が不明になったとき、こういった場合につきまして、その保証人を速やかに変更しなければいけないというような規程がございました。このことでご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　11番、湯田秀春君。

○１１番　湯田秀春議員　ちょっとお聞きしたいと思いますが、この一部改正する条例を見ますと、28条、29条、30条と、この辺を見ますと、今まで町が直接やっていたのが、今度はアウトソーシングかな、民間、あるいはそういった団体に任せるのかなと、こんなふうに読み取れるわけですが、その場合、どういう団体というか、その辺のことをもう少しお聞きしたいなと。例えば、民間の不動産屋さんに任せるとか、そういった、あるいはそうでないと、公社とかそういったのに任せるとかと、そういうお考えがあるのかどうか、その辺をお聞きしたいと、これが１点。

それから、最後の30条は個人情報等の取り扱いと書いてあって、その個人情報を適切に取り扱わなければ、適切にとしか書いていないんですけれども、我々、守秘義務というのがこうあるわけですけれども、その辺の守秘義務ですね。この辺がもう少し強くきちんと書いていないと、例えば、これ、アウトソーシングに任せた場合ですね、先ほどいろいろ言ったようにどこどこのが滞納しているとか、いろいろというやつがやはり漏れたりなんだりする可能性もあるんじゃないかなと、こう思うんですけれども、この辺の考えというかな、その辺をお聞かせいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　副町長。

○渡辺　仁副町長　お答えいたします。

まず、第１点目の指定管理先、どういったところを想定されているのかというようなおただしかと思いますが、先日の産建委員会の中でも申し上げましたが、ただいまの想定としましては、通常、こういった不動産管理を業としています不動産業を営んでいらっしゃる方、もしくは議員のお話にもありました振興公社、こういったところを町といたしましても念頭に置いておりますが、なお、実際の指定に当たりましては公募をかけてみたいというふうに思っており

ます。

それから、２点目の守秘義務の部分でございますが、非常に個人情報を取り扱うということで、おただしのように重要な部分であるというふうに考えます。ですので、それにつきましては、施行規則等で、例えば、指定管理を受ける際に誓約書を提出させる、そういったもので対応してまいりたいと思いますので、ご理解いただきたいと思います。

○渡部康吉議長　11番、湯田秀春君。

○１１番　湯田秀春議員　私も一応、宅建の免許を持っているわけですけれども、こういうような業務をやる場合、不動産業を取り扱っている人はこれは当然、免許を受けてやっているわけですから、何ら問題ない。ただ、振興公社でやるといった場合に、振興公社では多分そういう免許を必要じゃないかなと、こう思うんですけれども、その辺のお考えをお聞かせ願いたいと思います。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えいたします。

議員おただしのように、アウトソーシング、あるいは指定管理制度の中で限りなく民間に業務を移していくということの中には、やはり一方で非常に不安な要素がありますね。ここのところは、じゃ不安の解消を何で図るかというと、本来は人材、やはりその資格、一定程度やっぱり社会的に認知された資格、これを持ってやっぱり第１ハードルの条件と、そういうことになるんだろうと思いますね。

したがいまして、現在のところ具体的にどこどこに指定管理をしていくという状態は今のところありません。ただ、道を開いておくということを今回条例で提案をさせていただきましたので、今後、今ご指摘の部分についてもきちっと検証してまいりたいと、こう思っておりますので、ご理解いただきたいと思います。

○渡部康吉議長　11番、湯田秀春君。

○１１番　湯田秀春議員　ということは、道は開いたけれども、すぐどこどこに指定管理して任せることではないというふうに理解していいですか。

○渡部康吉議長　答弁。

副町長。

○渡辺　仁副町長　お答えいたします。

今回、条例の整備をしてこれから準備に当たるということで、今後ということでご理解いただいて結構でございます。

○渡部康吉議長　ほかにございませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　質疑を終わります。

これより討論に入ります。

討論はありませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　討論なしと認めます。

これより採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

暫時休憩いたします。昼食休憩といたします。

再開　午後　零時０１分

再開　午後　１時００分

○渡部康吉議長　休憩前に引き続き会議を開きます。

――――――――――――――――――――――――――― ◇ ―――――――――――――――――――――――――――

◎議案第８２号の質疑、討論、採決

○渡部康吉議長　次に、日程第４、議案第82号　字の区域の変更についてを議題といたします。

直ちに質疑に入ります。

質疑ありませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　質疑を終わります。

これより討論に入ります。

討論はありませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　討論なしと認めます。

これより採決いたします。

本案は、原案のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――――――――――――― ◇ ――――――――――――――――――――――――

◎議案第８３号の質疑、討論、採決

○渡部康吉議長　日程第５、議案第83号　平成20年度南会津町一般会計補正予算（第４号）を議題といたします。

直ちに質疑に入ります。

質疑ございませんか。

19番、大竹幸一君。

○１９番　大竹幸一議員　２点ほど質問いたします。

最初は、一般補正の19ページでありますが、社会保障費の20番、扶助費で2,200万円ほど生活支援ぬくもり対策交付金に上がっております。これは、いわゆる昨年度も行った福祉灯油のことだと思いますが、これについて新聞にも載っておりまして、住民税の非課税世帯と均等割課税世帯に１万円ずつ支給するというようなことで、私もこの前９月の議会で要求したもんですから大変いいと思うんですが、そして、内容的にも昨年は647万円でありましたが本年は３倍以上というようなことで大変いいと思います。

しかし、その中身ですね。世帯数などは何軒くらいあるのか、あるいはこの前も一般質問でも私、９月のときも言いましたが、昨年は含まなかった生活保護世帯ですね。その辺はどうなっているのかというようなことを伺いたいと思います。

それから、今１点は、一般補正の37ページなんですけれども、これは政策的な質問よりも事務的な質問になりますが、これなんですよね。これ、訂正もありましたけれども、11月28日でしたか、臨時議会がありましたよね、人勧に基づいた給料関係の補正がね。あのときに、やはりこれが欲しいということなんですよね。これをそのときにやっぱりこの表を出してほしい

と。この36ページのほうはまだいろいろ計算があるので、本当は36ページも欲しいんですけれども、せめてこの37ページの表をもらわないと、しかも、この中で初任給のところで国の制度とありますね。これは国というよりも人事院勧告に基づいてあれやる場合には、県の人事委員会の調査でやるもんですから、これ、県のこの制度と県の初任給ですね。これを本当はわからないと困るんですが、今後、来年の話になりますけれども、いわゆるこの変を、一番いいのは町と県と国とこうあれば一番いいんですがね。とにかく、県の人事委員会に基づいたあれでいつもやるもんですから、県のがないと困ったもんですね。その辺、今後改善ができるかどうかちょっと伺います。

○渡部康吉議長　健康福祉課長。

○近藤甚悦健康福祉課長　ただいまのおただしについてお答え申し上げます。

南会津町生活支援ぬくもり対策事業でございますが、事業目的が原油価格の高騰やアメリカ経済を発端とした金融不況が諸物価の高騰、それから経済不況についての経営環境、それから、就労環境の悪化を招いております。本町でも物価高の高騰、それから、就労先の確保などに影響が出ており、特に、低所得世帯に影響が大きいものでございます。

このため、日常生活に対して大きな不安を感じておりますので、積雪降雪期を迎えるに当たり諸般の出費がかさむ時期でありますので、低所得者に対して冬期間の必需品となる暖房用灯油の一部を助成するという目的で設立したものでございます。

ご質問にございました対象世帯でございますが、非課税の世帯、または均等割のみが課税されている世帯ということで算定してございます。この総数が概数でございますが2,213世帯ということで見ております。ただし、生活実態のない世帯は除くということになります。例えば、都会の娘さん、息子さんのところに冬期間行っておられる方については、その対象にならないということでございます。もう一点は長期入院者、それから、特老などの施設入所者については対象にしないというものでございます。

それから、生活保護世帯の対象はどうするんだというお話でございますが、今回は生活不安に対する安心・安全のための支給ということでございますので、生活保護世帯についても支給をするという考え方でございます。

以上、おただしの２点についてご説明を申し上げました。

○渡部康吉議長　総務課長。

○室井　裕総務課長　お答えいたします。

一般補正37ページに関連しまして、給与費明細の関係でのおただしでございましたが、先月、

臨時議会で給与関係の条例の改正をさせていただきましたが、通常ですと12月の段階で補正予算と給与の条例の一部改正がセットで出てくるわけでございますが、今回は期末手当の引き下げというような特殊な事情がございまして、先行して給与関係の条例の改正だけをさせていただいたところでありますが、おただしの関係で理解いたしますので、今後、国・県を比較したような記載の仕方、それから説明に努めていきたいというふうに思いますが、ただし、給与費の明細書のこの様式につきましては自治令の規則で定まっておりますので、ここに県の部分を入れるということは困難でございますので、説明資料として何らかの形でお示しをしたいと、このように考慮したいと考えておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　19番、大竹幸一君。

○１９番　大竹幸一議員　ぬくもり交付金のことでもうちょっと伺いますが、昨年度はたしか寒い中、職員の方が手配りをしたということで大変でありましたが、本年はその辺、いつごろまでにどんなふうな方法でやる予定をしているのか。そのうち、その例の２兆円の定額給付金などもそのうち来る可能性もありますので、事務がごちゃごちゃにならないように、ひとつその辺お願いしたいと思いますけれども、それが１つ。

それから、2,213世帯ほどということで、内訳がわからなくてちょっと残念だったんですが、その中で、私ら、一般の住民の方に説明する場合に住民税非課税世帯というのはどういう所得とか、そういうあんばいの人だよという説明をしなくちゃいけない場合もあるし、また、住民税の均等割の課税世帯というのはこういう、大体みたいだよということを説明する機会があるわけですよね。今後、議会報告会もあるし。そういう場合に、条例、ちょっと私見てみたんですが、条例ではなかなかこれ大変なんですね、長くて。

そこで、町のホームページを見てみると、ちょっとこれホームページの資料、私と担当課長と町長にもやったかと思うんですが、３人しかなくて申しわけないんですが、３つの区分に分けているんですね。１つは、均等割も所得割もかからない人と、そして、２つ目は均等割がかからない人、３つ目は所得割がかからない人、この３つになっていますね。この中で、今回の当町のように均等割がかかる人という記載がないんですよ。ないでしょう。だから、わからないですね。この３つの区分のうちどれかなとわからないんですよ。

それで、ちょっときのう、うちでいろいろパソコンをいじっておりましたら、東京の文京区の画面がぱっと出てきたんですが、そこでは大変わかりやすく区分してあるんですよね。均等割と所得割のどちらも課税されない方。今の資料の後ろにありますから見てください。それから、２つ目は、均等割が課税され、所得割が課税されない方、こういうふうにですね。こうい

うふうにホームページを直してもらうと、これでぱっと全部できるわけですね。そういうふうにしてほしいと思うんですね。本当は、条例もそういうふうにしてもらっていいんですが、条例はなかなか難しいんでしょうけれども、条例も一度見てください。条例もかなり難しいもんですから、そんなことで、やはりわかりやすい町政ということを私も目指していますので、そういうふうに今後、変更をできないかなというふうに思うんですね。その辺を含めて質問をいたします。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

２点ございました。最初に、この生活支援の交付金をどういうふうにいつまで配るのかと、こういうおただしがございましたが、私のほうからはできるだけ早いほうがいいと、こういうふうに申し上げておりましたので、事務的にいろいろ精査をして関係課との打ち合わせの結果、１月末ごろには配りたいと。そして、さらにその配る方法は昨年と同様に出向いて配ることを基本と考えながら、その他の方法もちょっと検討してみると、こういうことですが、基本的に生活している町民の方々、いわゆる対象者の方々がそこでどういう現場の声を持っているのか、これを聞けるような、そんな機会の中で交付をしていきたい、このように考えております。

それから、２点目でございますが、まさしく議員がおただしのとおりであります。ふだんの文書の取り扱いについても、内部では専門用語としてわかるんですが、外部に出すもの、あるいは外部に出すものの中にも余りそういう文書になじみのない団体といいますか、方々、それは高齢者であったりする場合が多いかと思いますけれども、そういう場合の文書の書き方については易しく、わかりやすい言葉を限りなく使うように、こういうふうに指示をしておりますので、今後の文書の取り扱いについては、ご指摘いただいたような形でわかりやすく明示できるように努力をしてまいりたい、こう思っておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　ほかにございませんか。

４番、馬場信作君。

○４番　馬場信作議員　それでは、若干わからないところを伺います。

一般補正の31ページの小学校、中学校の耐震診断に関する質問でございます。これは、さきにも説明があったんですが、国から交付金として地域活性化緊急安心実現総合対策交付金としてきましたので、それの使い道として、今回は前倒しでこの耐震関係、小学校、中学校関係をやるということなんですが、その中身を伺います。

そうすると、31ページによりますと、診断料、つまり耐震診断をするものと、もう一つは耐

震の改修計画と実施とあります。実施設計ですね。その辺のまず数を、対象の学校の棟数ですね。前の資料を見ますと、恐らく診断まだしていないものが９棟、学校15校の中に。それから、診断済み、６棟かと思いますが、その辺もしも間違っていましたら訂正方、正しい数字をまず教えてください。その中で、今回のこの事業の中で、残りの９棟、あるいはその診断を終わった６棟がいずれもこの中に含まれるのかどうか、数の確認とそれをお伺いします。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

まず、細かい数字の問題は担当のほうからお答えをさせていただきますが、この耐震診断の考え方であります。いわゆる耐震診断はしたけれども耐震工事が必要なのに耐震工事に入らないという事例が旧町村でございます。これでは耐震診断をした意味がない。こういうことを考えまして、起債の現在高、これをしっかりと承知をした上で耐震工事をいつ行うべきなのか、財政上問題ないのかということで、仮に耐震診断の結果、耐震補強工事、もしくは改築等が必要であれば、これはできるだけ２年、もしくは３年以内に工事ができるような計画にできないか、こういうことで検討をしました。その結果は、これから担当課長が申し上げると思いますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　学校教育課長。

○斎藤友一学校教育課長　お答えいたします。

耐震診断の状況の部分でございますが、小・中学校棟数でございますけれども22棟ございます。そのうち実施をしているのが６棟ということで、議員おただしのとおりでございます。

以上でございます。

〔発言する者あり〕

○斎藤友一学校教育課長　お答えいたします。

二、三年のうちでの工事の実施の計画でございますが、耐震診断につきましては20年度、今回前倒ししました荒海小学校、それから、田島中学校、南郷中学校でございます。

21年度の計画につきましては、荒海中学校、檜沢中学校、南郷第二小学校、南郷第一小学校でございます。

〔「ゆっくりやれよ」と言う者あり〕

○斎藤友一学校教育課長　先ほど南郷第二小学校と申し上げましたが、田島第二小学校の間違いですので、訂正いたします。

それから、改修の部分でございますが、22年度におきましては田島小学校の改修というよう

なことで考えております。計画になっております。それから、荒海小学校につきましても22年度の計画ということでございます。それから、南郷中学校でございますが、これも22年度の耐震改修ということで計画をしているところでございます。

以上でございます。

○渡部康吉議長　４番、馬場信作君。

○４番　馬場信作議員　ちょっと先のほうまで答弁いただいたんですが、私は未診断の、まだ手をつけていないのが９棟でいいですかと尋ねて、あとは診断済みは６棟でいいですかと聞いたんですが、それでよければ22棟中、９と６、すると残りの７棟はもう診断済みといいますか、新しい校舎ということになります。これで、わかったんですが、それで、私は町長に先に言われたんですが、その診断済み６棟を、ちょっとこの辺を私は数字を確認して、それを今回の事業の中でどういう扱いになっているのかと。あるいは、その後、今回は補正ですからね、次はまた当初予算案が３月に出てきて、４月以降の今度は耐震化もいずれ出てくるかと思いますが、それも含めまして、この６棟は診断済みなんですよね。これをやはり危険で、ある意味じゃ診断済みイコール危険であるという状況なので、これは早急に対処しないともしものことなんていうことは考えたくないんですが、少なくとも第１ステップは終わっているわけですよね。次、今度はいよいよ設計して、あとは耐震化の工事という段階で、１ステップ診断は終わっているし、ましてや危険である状態を認知といいますか認識しながら、旧町村と言いますけれども、長年ほうっておかれている児童の立場、校舎の管理の立場からいいますと、やはり、これの６棟の扱いを私はどうなるのかなということで数字を確認して、なおかつ今回の補正の中ではどこまで、それじゃこの、診断のほうはいいです。

次、改修の基本設計、実施設計の中でどうなっているのかということを次に聞きたかったんですが、今の答え、私もすべて記録できなかったんですが、再度その辺を６棟の扱いがどうなっているんですかということと、補正でできない分、今回の三千二百何十万のできない分は次の予算で早急にといいますか、早く安全を確保すべき、特に、診断終わったやつは、と思うので、その２点をお伺いします。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えいたします。

診断の終わったのをなぜ放置していたかというのは、むしろ私のほうが聞きたい。旧町村で、伊南もそうですよね。何でこれやらなかったのと聞いたら、だれも答えてくれない。議員さんはどういうふうに認識しているのかわかりませんけれども、つまり、診断しなければいけない

から診断した。診断して危険度が高かったら、おっしゃるように、子供たちの命にかかわるわけでしょう。いつ地震が来るかわからない。それでも、事務的なものとか財源の問題とかがあるわけですね。それで、古町地区で合併してばか見たということですけれども、本当にばか見たのか。こういうところを優先してやれるようになったんですよ。もちろん、補助制度もできましたでしょう。ですが、起債を起こせる限度というのはありますよね。こういうことを考えていったら、総合的に判断をして、ぜひ議員の皆さん、言った人からも合併してこれを説得するくらいの器量を持って当たってほしい。それが責任を持つということなんですよ、子供たちに。これは保育所にも言えるんですよ。ぜひそういうふうにして、改修工事を起債とのバランスを考えながら、財政のバランスを考えながら進めていくことをお約束したいと思います。

○渡部康吉議長　学校教育課長。

○斎藤友一学校教育課長　診断済みの６棟のうち、今回の補正予算の中で基本設計、あるいは実施設計に予算措置したのは田島小学校の部分でございます。これ以外の伊南小学校、南郷第二小学校については今回の補正には含まれていないということでございます。

それから、今回の補正に含まれているのは今申し上げましたように田島小学校ということでございます。

以上でございます。

○渡部康吉議長　４番、馬場信作君。

○４番　馬場信作議員　言われていることは理解できます。診断だけして次に進まなかったのはどうしてかという、旧町村といいますか、長い間ほうっていたわけですね。本当にそれが早く解消されるべきだと思います。

今回、ようやくそういう意味で、この交付金をもとにして、さっき3,000万円といいましたが中学校を入れますと、いずれにしろ、この4,000万円以上の金を使って始まったのですから、ぜひとも今回ようやく始まるその財源も、今回ついた部分で始まったわけですから、そういう場合、今回、では補正で１棟目、残り５棟の診断済みも私はバランスをと今答弁ありましたが、もちろん財政状況を考えながら急ぐべきと思いますので、その辺は順次といいますか、バランス、財政状況を見ながらやられるのかなと考えますので、それをお伺いいたします。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えいたします。

何度も言っていますけれども、計画的にやると言っています。伊南みたいにほうっておきません。

以上です。

○渡部康吉議長　ほかにございませんか。

14番、平野昌盛君。

○１４番　平野昌盛議員　全く事務的なことでございますが、基本的なことでもあるので質問させていただきます。

補正予算のやっぱり、大竹議員と同じように37ページ、初任給はけさほど総務課長が訂正されましたように、国の制度より少し町のほうが多い。そこで、お伺いしますが、ラスパイレス指数はどういうふうになっておりますか。それ１点ですね。

あと、人件費ですが、たしか臨時議会でも申し上げましたと思うんですが、この前の、これは旅費とか超過勤務手当以外は、例えば、決算においては1,000円以上の不用額は出てこないというふうに私は考えておるんですが、まして、そういうふうにすべきであると思うんです。

しかし、今回の補正を見てみますと、大分大きな数字が動いている。これは合併して間もない地域でありますので、過渡期ということでいろいろな事情があろうかと思いますが、これは特殊事情を除いてはどうなるのかということも疑問ですが、当初において留保財源を見ておられたかと思うんですが、留保財源というのは、今ご存じのように世界的に大変景況が厳しいときでございます。この当初予算を編成されるときも、どの程度留保財源を見ておいたらよいか、恐らく考えられると思います。そして、今回の人勧でも給料を上げて手当を下げるというようなことがありましたが、やはり、これからの予算編成時分、あるいは補正時分においては、決算においては先ほど申し上げましたように、特殊事情の分を除いて一般的には1,000円以上の不用額が出ないようにすべきであると思います。

それで、そうした考えでやってほしいと思いますが、それについてのお考えを伺います。

以上です。第１問。

○渡部康吉議長　総務課長。

○室井　裕総務課長　お答えいたします。

大きく分けて３点ほどあったのかなというふうに感じておりまして、それで答えさせていただきますが、まず、ラスパイレス指数でございますが、平成20年度の数値につきましては、ことし指定統計というような年になっておりまして作業が進んでおりませんので、今の段階で出ておりませんが、昨年度の平成19年度の数値でお話をさせていただきますと、南会津町におきましては95.9というラスパイレス指数の状況になっております。

それから、２点目でございますが、予算に当たって1,000円以上の不用額が出るのがちょっ

とどうなのかというようなおただしがありましたけれども、これにつきましては、当初の予算の中で見た人件費と年の中でかなりの移動が生じます。例えば、人事異動、それから、年の中途でやめられる方等を含めまして、かなり流動的に動くものですから、最終的な決算の段階では今お話があったような形での決算になろうかと思いますが、予算上はこのような形で大きく動くということをご理解いただきたいと、こんなふうに思っております。

それから、３点目でございますが、留保財源を見ているのかというようなお話がありましたが、当初予算なかなか厳しい状況で留保財源を見るような、実は余裕はございません。ただし、普通交付税ですね。交付税の関係につきましては、これが１％、２％狂っただけでもかなりの財源の増減が伴いますので、当初予算の編成に当たっては普通交付税についてはかために見るというような対応の仕方をしているところでございますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　14番、平野昌盛君。

○１４番　平野昌盛議員　今、ご答弁いただいたわけですが留保なしと。これはそういう状況になったということは本当に努力されたというふうにとります。承知します。

それで、ラスパイレス指数も19年度で95.9％ということでございますので、この37ページの初任給の表においては、これはそれ以上細かく質問しません。そういうことですので、どうもありがとうございました。終わります。

○渡部康吉議長　ほかにございませんか。

12番、星登志一君。

○１２番　星　登志一議員　一般補正の31ページ、耐震の問題が出ましたので、お伺いいたします。産業建設委員会では説明を受けました。当然、教育委員会のほうで計画をつくって、つくるときは建設課のほうに来るんだろうということで。それで、これは教育委員会のほうにお願いしたいんですけれども、実際の計画ですね。例えば、何年度に何校建って、ゆっくり言いますかね。例えば、22校なら22校のうち何年度に建ったと。大体どのくらいもちそうだと、普通の状態で。普通の状態で言えば、50年とか60年もつわけですから、何年くらいもちそうだと。それで、55年度以前に建てたやつが何棟建てたんで、耐震をやりましたということになると思うんです。あと55年度以降のはやりませんでしたとかね。そういうふうになると思うんですけれども、一番の問題点は大体年数がたって、もうこれは耐震やっても10年くらいで建てかえなきゃいかんよとか、そういったことが出てきたときが問題だと思うんです。あとは統合するために、ここは本当に耐震をやったほうがいいのかどうかとか、それともう一つは、この

学校はまだまだ30年くらい使わなきゃいけないから、本格的な耐震をやんなきゃいけないと。あるいは、この学校はあと20年ぐらいだから、窓をちょっと小さくした補強程度でも耐震の基準には満たすのでそれでもいいんじゃないかとか、そういったやはり詳しい、校舎に対して適切な耐震制度をやっていかないとお金が幾らあっても足りないということになると思うんです。その辺の計画がどうなっているかですね、ちょっとお伺いいたします。

○渡部康吉議長　学校教育課長。

○斎藤友一学校教育課長　お答えいたします。

耐震診断については、まず、56年以前の建物については耐震診断が必要であるということで、以前にもお答えをしております。

それで、耐震化を図る上での事業費の関係でございますけれども、いわゆる耐震診断を終えないと結局、どういった耐震補強をするのかということが決まってきませんので、あくまでも耐震診断をやって、その結果によって耐震化の方法をとるというふうに考えております。

以上でございます。

○渡部康吉議長　12番、星登志一君。

○１２番　星　登志一議員　そのときに、ぜひともやってもらいたいのは、これは産建の委員会では言いましたけれども、副町長もお聞きしていると思うんですけれども、従来ですとどうしても、我々、耐震というと振興局みたく鉄骨でがちゃっとこうやってのが耐震だと思っちゃうわけ。ところが、実際は55年以前ですから、55年というのは８年足す30、50年もつと平成42年ぐらいか、大体50年くらいだろうと考えると。それに対してあと30年はもつだ、20年は、その学校の建った時期によって違うと思うんですよ。そのときに全部鉄骨でやったんでは私はお金がかかり過ぎるというわけ。要するに、基準に満たせばいいわけですから、あと10年しか使えない建物に５億使うのも、40年使う建物に５億使うのも同じような計算でやられると町の財政は破綻の一途をたどると。そういうところは、少し見かけは悪いけれども、あと10年だから窓を小さくして壁の面積を多くして耐震化を図るとか、そういった方法でやっていくべきだと私は思っているんです。

ですから、そういった配慮をどんなふうに、今までやってなかったといえば、これからやってほしいということですので、その辺１点お伺いいたします。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　私のほうからちょっとお答えをさせていただきますが、まず、耐震診断という場合、私も広域市町村圏のほうの耐震が一番先に勉強する機会がありまして、その１次診断、

２次診断、あるいは３次診断とこういうカリキュラムがあったんですね。これはどうも私たちには理解できない。そのたびに何百万円とかかるんですね。これで、第１次診断と２次診断の違いは何だと、こういうことを聞いたら、１次診断の診断内容が違うんだと。それで、例えば、１次診断終了した後に、おおむねの概算の工事費みたいなものは出てくんのかと、こう言ったら出てこないと言うんですね。それでは耐震診断をする私たち側とすれば非常に疑問が残るということで、そこの部分についてはちょっと業者さんといいますか、関係技術のほうでもう少し内容を濃くしてといいますか、それで概要の工事費が見積もりが出てくるものにしようと。

そこで、議員がおっしゃったように、このくらいのお金が耐震工事にかかりますので来年度やりますとか、２年に分けますとかいろんなことが出てくるわけですね。それをこれから耐震診断した結果、コンピューターの新しい導入と一緒に、業者に言われるままにやるんではなくて、ただいまご指導いただいた件を検証しながらやると。

それから、もう一つは、鉄骨だけじゃなくて別な今、技術が出ています。いわゆる柔軟に振動に対応する技法というんですかね、これも今、事例が紹介されています。しかし、これも実は事例と言いながらも、現在、実際に地震が起きた事例はない。その振動だけですね。こういうこともかみ合わせながら、その程度に応じて技術の導入を図ってまいりたい、こう考えておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　12番、星登志一君。

○１２番　星　登志一議員　そういうことで、非常に金額が大きくなるもんですから、常時やはり情報をとって、なるべく安くて見ばえのいいやつができるようにひとつご検討願いたいと思います。

非常に苦しいですけれども、これに絡んで針生小学校の統合問題で１点だけご質問いたします。

今まで話を聞いていますと、どうも大人の視点からすべきだ、すべきでないとか、そういったやりとりが多かったように思うんです。私は、長野の集落で今では学年ごと長野出身というのは２人か３人くらいしかいませんけれども、我々のときは55人いたんですよ。55人いて非常に楽しい小学校生活を送ったもんですから、もし、１学級１人だ、２人だとなったら、現実的に子供さんはどう思うのかなというのが私の一番の心配なんです。ですから、年度ごとの、例えば、ことしゼロ歳児何人くらいいますよとか、そういったものでいうと、今後の年度別のお子さんの数はこのくらいですよと。あるいは、現在通っている人が実際にそんな人数で満足しているのか、集団生活をやりたくないのかというような子供がどう思っているのかと、そう

いう調査もやっぱりすべきじゃないかと私は思うんですけれども、その辺現実にやっているのか、あるいはこれからやる計画があるのか、あと年度別の人数をちょっと教えていただけますか。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えします。

　これも実はこれまで教育委員会、教育長のほうがこの事案についてお答えをしてきました。それをずっと総合的に聞かせていただきました。その中で、私なりに考えた所見がございますので、ちょっとそのことをお話をさせてください。

　これは、あくまでも主体は教育委員会でありますので、いわゆる町長が積極的にこの問題に介入するということは避けたいと思います。ただ、子供の言葉、あるいは子供の思いがなぜ出てこない。それは大人が主導権を握っているからですね。大人はやっぱり言葉にできますし、行動もできます。そのときに、大人、地域の人たちがなぜ不安を抱えるのか。これは廃止になった場合にその地域のコミュニティーがなくなるんではないかと、ここがあるんだろうと思うんですね。そうしますと、教育委員会だけの説明会でいいのか、こう考えました。これは教育委員会のほうの意向を確認した上でないとできませんが、例えば、企画が一緒に行って、跡地の、例えば、仮に統合した場合の跡地の校舎の利用についてのいろんな意見交換ができるのかとか、こういうことを含めて当たりたいと、こう思っておりますので、その中にやはり本当の子供たちのことを考えた意見も出てくる、聞き出せる、こういうことも期待をして、これから進めたいというのがこれまで議員の皆さんからいただいた意見の中で、私が今感じていることですので、ご発言をさせていただきました。

○渡部康吉議長　教育長。

○横山恒廣教育長　お答えいたします。

　ただいま町長が申し上げたとおり、全くそのとおりだと思います。私もその形で町部局のほうともいろいろご相談しながら、そして進めてまいりたいということを今後は考えています。

　それから、あと子供の意見ですが、今後やっぱり聞こうと。今、保護者の、今現在ＰＴＡの人とそれから来年度ＰＴＡになる方の意見は一応簡単でございますが聞いています。また、あしたも聞こうと思っているんですけれども、そういったようなことでやっていますが、子供の実際のものはございませんので、子供が実際どう思っているかということを聞くということで、今後進めてまいることを計画はしております。

　あと人数については担当課長のほうから申します。お願いします。

○渡部康吉議長　学校教育課長。

○斎藤友一学校教育課長　児童数の推移でございますが、正確な数字、今、持ち合わせておりませんので、後ほど時間をいただいて答弁したいと思います。よろしくお願いします。

○渡部康吉議長　１番、湯田哲君。

○１番　湯田　哲議員　一般補正の17ページ、以前も似たような質問をしたことがあるんですが、10番の自治振興費ということで、地域新エネルギー推進事業、これも現在どんなふうな状況になっているのかということと、この委託という部分がいつも気になることなんですが、この分の内訳の１億3,200万円の部分の事業の全体的な説明をちょっとしていただきたいことがあります。よろしくお願いします。

○渡部康吉議長　環境水道課長。

○星　安晴環境水道課長　お答えいたします。

まず、委託料440万1,000円の減額でございます。当初予算で木質バイオマスエネルギー、それから、廃食油のＢＤＦの燃料化、それから、省水力発電のエネルギーの事業化に向けた予算を提案いたしました。ここの中で、独立法人新エネルギー産業技術総合開発機構、要するにＮＥＤＯでございますが、そこの中で協議をしていきまして、とりあえず南会津町は木質バイオマスエネルギー一本でやってくださいという話を受けまして、今回その１つでいくということで、これは減額になっております。

あともう一点、現状でございますが、庁内委員会、それから、一般の方々の木質にかかわります方々に委員会を設置いたしまして、その中で今３回ほど検討委員会を開催している状況でございます。これは事業化に向けた検討会でございます。

以上です。

○渡部康吉議長　１番、湯田哲君。

○１番　湯田　哲議員　その使われたお金がありますね。それは何に使われたんでしょうか。何を、その内訳は何ですか。

○渡部康吉議長　環境水道課長。

○星　安晴環境水道課長　これは業者さんに対しての事業調査書の策定委託料でございます。

○渡部康吉議長　１番、湯田哲君。

○１番　湯田　哲議員　ぜひこの部分、思ったとおりの答えでしたけれども、この１億というお金、減額じゃなくて、減額が400ですから、実際は１億円使っています。ごめんなさい。

○渡部康吉議長　総務課長。

○室井　裕総務課長　お答えいたしますが、多分、誤解なさっているかと思うんですが、この自治振興費１億二、三千万円の数値が補正前上がっていますが、これは地域新エネルギー推進事業ばかりではなくて、いろんな自治振興費、例えば、都市交流事業ですとか、地域活性発展支援事業ですとか、そういうものが入っておりますので、純然たる地域新エネルギー推進事業につきましては約1,000万円から1,100万円ほどの予算と、こういうことでご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　ほかにございませんか。

21番、五十嵐司君。

○２１番　五十嵐　司議員　耐震委託料のことについて何人か説明で大体わかっているんですけれども、私のほうから１点お聞きしたいと思います。

南郷二小が耐震のあれには、きょうの報告にはなかったんですけれども、耐震済んでいるんでしょうか。まず、それをお聞きしたいと思います。

○渡部康吉議長　学校教育課長。

○斎藤友一学校教育課長　お答えいたします。

南郷第二小学校については、平成９年に耐震診断は終えております。

以上でございます。

○渡部康吉議長　21番、五十嵐司君。

○２１番　五十嵐　司議員　南郷地区の学校、第一小学校、第二小学校、中学校と３校あるわけでございますが、一番古いのは南郷二小なんですよね。これ、昭和47年、それから、南郷中が52年、一小が54年に建っております。それで、この二小については、耐震については以前から何回か地区にもいろいろ話はあったんですけれども、いろいろ予算とかなんかもそういうものを検討して耐震の工事診断まではまだいかなかったんですけれども、二小、南郷地区では一番古くて危険度が多いといいますか、そんな学校になっています。ということは、あそこは田んぼに埋め立てして建てた学校でございますし、中学校の場合は山を削って建てたから、そして比較的後で建てたということで建物の技術的にも進んだ建物になっているんじゃないかなと思うわけでございます。

それで、今度の設計か何かにもなるたけ早い時期にこの二小も取り組んでいただきたいなと、こう思っております。将来、統合とかそういう考えも教育委員会のほうであったのかもしれませんけれども、まだまだ南郷一小と二小が合併とかなんかする問題はまだ全然出てきていませんし、人数的にも、生徒の数ですけれども、まだそんなに差のある人数じゃないですし、５年

後には、今、若干一小のほうが多いですけれども、５年後ぐらいは大体人数が同じになるんですよ。だから、必ずしも南郷一小、二小が統合とかそういうことはまだまだ先の話でございますので、なるたけ早目に南郷の二小のほうの補強のほうもお願いしたいなと。もう中学校より早くやっていただきたいなと、そんな気持ちで私おります。

以上です。

○渡部康吉議長　答弁要らないですか。

教育長。

○横山恒廣教育長　先ほど来、町長が申し上げましたように、やはり総合的に考えまして今後進めてまいりますので、ご理解をお願いいたします。

〔「わかりました」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　ほかにございませんか。

〔発言する者なし〕

○渡部康吉議長　質疑を終わります。

これより討論に入ります。

討論はありませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　討論なしと認めます。

これより採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――――――――――――― ◇ ――――――――――――――――――――――――

◎議案第８４号の質疑、討論、採決

○渡部康吉議長　次に、日程第６、議案第84号　平成20年度南会津町国民健康保険特別会計補正予算（第３号）を議題といたします。

直ちに質疑に入ります。

質疑ございませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　質疑を終わります。

これより討論に入ります。

討論はありませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　討論なしと認めます。

これより採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

――――――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――――――

◎議案第８５号の質疑、討論、採決

○渡部康吉議長　次に、日程第７、議案第85号　平成20年度南会津町後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）を議題といたします。

直ちに質疑に入ります。

質疑ございませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　質疑を終わります。

これより討論に入ります。

討論はありませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　討論なしと認めます。

これより採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

◇

◎議案第８６号の質疑、討論、採決

○渡部康吉議長　次に、日程第８、議案第86号　平成20年度南会津町介護保険特別会計補正予算（第２号）を議題といたします。

直ちに質疑に入ります。

質疑ございませんか。

６番、渡部優君。

○６番　渡部　優議員　所管で今になって申しわけないんですけれども、１点だけお聞かせください。

所管の説明の中で介護保険の来年度は上がるかなというような雰囲気のお話があったわけですけれども、ちょっと資料をずっと集めてみましたら、私、ニュース遅くて申しわけないんですけれども、全国で約3,800億円の黒字が、全国の市町村が運営する介護保険で08年度までに見込まれるということが９日明らかになったということでニュースをいただいたんですけれども、本町はどういうふうな状態か、まずこの辺の説明をお願いしたいんですけれども、本町でももし黒字分があれば財源に繰り入れて来年の引き上げを抑えられるかなという、あるのかないのかという、そこだけお聞かせください。所管で申しわけないですけれども。

○渡部康吉議長　健康福祉課長。

○近藤甚悦健康福祉課長　お答えいたします。

南会津町の介護保険の給付の状況でございますが、第３期に計画いたしました給付額を上回って給付状態がございます。したがいまして、今お話しいただきました全国の状況とは反対の状況でございますので、ご理解をいただきたいというふうに思います。

〔「わかりました」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　ほかにございませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　質疑を終わります。

これより討論に入ります。

討論はありませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　討論なしと認めます。

これより採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

――――――――――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――――――――――

◎議案第８７号の質疑、討論、採決

○渡部康吉議長　次に、日程第９、議案第87号　平成20年度南会津町農林業集落排水事業特別会計補正予算（第１号）を議題といたします。

直ちに質疑に入ります。

質疑ございませんか。

〔「ありません」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　質疑を終わります。

これより討論に入ります。

討論はありませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　討論なしと認めます。

これより採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

――――――――――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――――――――――

◎議案第８８号の質疑、討論、採決

○渡部康吉議長　次に、日程第10、議案第88号　平成20年度南会津町公共下水道事業特別会

計補正予算（第１号）を議題といたします。

直ちに質疑に入ります。

質疑ございませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　質疑を終わります。

これより討論に入ります。

討論はありませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　討論なしと認めます。

これより採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

――――――――――――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――――――――――――

◎議案第８９号の質疑、討論、採決

○渡部康吉議長　次に、日程第11、議案第89号　平成20年度南会津町簡易水道事業特別会計補正予算（第１号）を議題といたします。

直ちに質疑に入ります。

質疑ございませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　質疑を終わります。

これより討論に入ります。

討論はありませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　討論なしと認めます。

これより採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

――――――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――――――

◎議案第９０号の質疑、討論、採決

○渡部康吉議長　次に、日程第12、議案第90号　平成20年度南会津町水道事業会計補正予算（第１号）を議題といたします。

直ちに質疑に入ります。

質疑ございませんか。

14番、平野昌盛君。

○１４番　平野昌盛議員　これも事務的なことで申しわけないと思うんですが、給与費明細書の補正の７ページですか、ここに給与及び職員手当の状況ということで(3)があります。その下にアと職員１人当たりの給与ということであるんですが、これは企業会計ですが、やはり特別会計ではいつも考えていることなんですが、この１人当たりの給与のところの年齢を見てみますと、4月１日は41歳９月、12月１日は52歳７月とございます。やはり年齢に正比例して給料月額も上がっています。これは特別会計は水道料金として課税される部分がございます。これはもう少し若い人を充てたら、この水道料金も多少安くなるんじゃないかと思うんですが、まずそれ１点。

あとそして、イの初任給の欄ですが、これ、ほかの会計は国の制度との比較されています。この水道会計においては一般会計の制度と比較しております。これは地方自治法ですか、規則か何かだと思うんですが、こういう一般会計との比較ということで様式が決まっているんでしょうか。

その２点お伺いします。

○渡部康吉議長　町長。

○湯田芳博町長　お答えをいたします。

私からは最初の１点目についてお答えをさせていただきますが、これは水道料金の審議会等に諮問する立場なんですけれども、そこでご審議をいただく、その前に担当課との打ち合わせを当然行いますが、そこでも私から年齢についての問題までは話は出なかったんですが、いわ

ゆる職員の体制ですね、これらについてはもう一回見直さなければならない。つまり、先ほど平野議員がおっしゃったように、それが経費として見込まれますと料金のほうにはね返ってくる、こういう可能性が出てきますから、ここのところをもう一回見直しましたら、料金の改定に一気にいかなくてもいいんじゃないか、こういう今議論をしておるところですので、この人事配置も含めまして、これからさらに精査をさせていただきたいと思います。

ただ、この部分というのは若い人だけでもいけない。やはり、熟練をした人が指導していくと、こういう過程、プロセスも大事ですので、そこはこれから十分ご意見としていただいたので、精査をして考えていきたいと、こう思っておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○渡部康吉議長　総務課長。

○室井　裕総務課長　２点目のおただしにお答えいたします。

こちらの一般会計との制度の比較ということでございますが、これは公営企業法を適用いたします上水道の会計におきましては、一般会計との比較をするということで法定で決まっておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

加えまして、１点目のお話がありましたが、実は上水補正の５ページをちょっとごらんいただければおわかりのとおり、職員数がここで１名減という形で、ある面で経営努力ということにもつながるのかなと、こんなふうに思っておりますので、ご理解いただきたいと思います。

○渡部康吉議長　14番、平野昌盛君。

○１４番　平野昌盛議員　今、答弁いただきましたが、とにかくいろいろな事情があろうかと思います。答弁の関係、よくわかりました。そのようにしていただきたいと思います。要望になりましたが、これで終わります。

○渡部康吉議長　ほかにございませんか。

〔「ありません」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　質疑を終わります。

これより討論に入ります。

討論はありませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　討論なしと認めます。

これより採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

――――――――――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――――――――――

◎委員会提出議案第８号の上程、説明、質疑、討論、採決

○渡部康吉議長　次に、日程第13、委員会提出議案第８号　南会津町議会会議規則の一部を改正する規則を議題といたします。

提出者より趣旨説明を求めます。

17番、芳賀沼順一君。

○１７番　芳賀沼順一議員　ただいま議題となりました委員会提出議案第８号　南会津町議会会議規則の一部改正について趣旨説明を申し上げます。皆様のお手元にございますか。大丈夫ですか。

本案は、地方自治法の一部改正に伴って規則の一部を改正するものであります。今回の改正内容は、地方自治法第100条において、議会は会議規則の定めるところにより議案の審査または議会の運営に関し、協議または調整を行うための場を設けることができるとの項が追加されました。法改正前の地方議会においては、本会議や委員会などの法律上の議会活動のほかに議会における議案の審査や議会運営の充実を図るための全員協議会、また委員長会議などが開催されておりますが、これらの活動は法律に基づくものではないため、正規の議会活動とはされていませんでした。

今回の会議規則の一部改正によって、法律上の議会活動として明確にすることができるようにされたため、会議規則第119条に法改正条文を加えるものであります。なお、規則の一部改正は、平成21年１月１日から施行するものであります。

以上、ご理解をいただきましてご決定くださいますようお願いを申し上げまして、趣旨説明といたします。

○渡部康吉議長　直ちに質疑に入ります。

質疑ございませんか。

〔「ありません」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　質疑を終わります。

これより討論に入ります。

討論はありませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　討論なしと認めます。

これより採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

――――――――――――――――――――――――――― ◇ ―――――――――――――――――――――――――――

◎議会基本条例策定特別委員会の設置に関する決議の上程、説明、質疑、討論、採決

○渡部康吉議長　次に、日程第14、議会基本条例策定特別委員会の設置に関する決議を議題といたします。

本件は、お手元にご配付のとおり、芳賀沼順一議員外５名から提出されたものであります。ここで、提出者より趣旨説明を求めます。

17番、芳賀沼順一君。

○１７番　芳賀沼順一議員　さきの特別委員会におきまして皆様にお示しいたしました議会基本条例の件をご提案申し上げましたので、議会運営委員会において提出者の提案理由の説明を申し上げます。

ただいま議題となりました議会基本条例策定特別委員会設置に関する決議について、提案理由の趣旨説明をさせていただきます。

地方分権の推進に伴って地方公共団体が担う役割はますます増大し、住民の代表機関として自治体の最終意思決定機関である議会の役割と責任は格段に重くなりました。平成19年第４回議会定例会において議会活性化対策特別委員会設置に関する決議をいただきまして、１年間に渡り、議会活性化にかかわる調査、対策などについて協議を重ね、去る12月３日に議長へ答申申し上げました。

その答申の中で、別紙議会基本条例前文（案）の提案のとおり、２つの代表機関である議会

と町長はともに町民の負託を受けて活動し、それぞれの異なる特性を生かして町民の意思を町政に的確に反映させるために競い合い、協力し合いながら最良の意思決定を導く共通の使命が課せられています。この理念を尊重しながら、町民と町執行部とのコンセンサスを得ることが最も重要であることから、専門的にかつ集中して調査研究をするため、議員定数６名による南会津町議会基本条例策定特別委員会の設置を提案するものであります。

なお、設置期間については１年以内に結論を出すことを目途として、最長でも私たちの現在任期間とすべきと考えております。

以上、審議の上、ご決定くださいますようお願いいたしまして、提案理由の趣旨説明といたします。ありがとうございました。

○渡部康吉議長　これより質疑に入ります。

質疑ございませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　質疑を終わります。

これより討論に入ります。

討論はありませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　討論なしと認めます。

これより採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

お諮りいたします。

ただいま設置されました議会基本条例策定特別委員会の委員６名の選任については議長より指名したいと思いますが、これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　異議なしと認めます。

それでは、指名いたします。

総務委員会より渡部俊夫君、芳賀沼順一君、産業建設委員会より星登志一君、阿久津梅夫君、文教厚生委員会より渡部優君、星光久君、以上６名を議会基本条例策定特別委員会の委員に指

名いたします。

ただいま選任しました特別委員会の委員は、休憩中に委員会を開催し、正副委員長の互選を行い、速やかに委員会の構成を終わるよう、委員会条例第９条の規定によりここに招集します。

会議室は第２会議室でお願いいたします。なお、正副委員長が決まり次第、議長あて報告願います。

暫時休憩します。

休憩　午後　２時１３分

再開　午後　２時２２分

○渡部康吉議長　休憩前に引き続き会議を開きます。

休憩中、特別委員会において互選された結果は、委員長に星登志一君、副委員長に渡部俊夫君がそれぞれ互選されましたので、報告します。

以上で、議案審議は終了いたしました。

――――――――――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――――――――――

◎平成２０年陳情第１号の委員会報告、質疑、討論、採決

○渡部康吉議長　次に、常任委員会に付託してあります請願・陳情について、本定例会の会期中に結論の出ました請願・陳情の審査経過と結果について、委員長の報告を求めます。

日程第15、平成20年陳情第１号　田島橋改修工事に関する陳情書についてを議題といたします。

産業建設委員会に付託してありますので、産業建設委員長の報告を求めます。

13番、星和男君。

○１３番　星　和男議員　ただいま議題となりました平成20年陳情第１号、12月12日に産業建設委員会に付託されました長野地区長野区長、渡部紀展氏より提出の田島橋改修工事に関する陳情書でございますが、審査の結果について報告申し上げます。

この陳情書は12月８日に受理されておりますが、その後、12月10日に区長外２名の役員と町長が南会津町建設事務所に行き、話し合いをなされておりました。その内容を私たち委員会

として建設課に問い合わせ、審議いたしました。

長野区よりの要望の一つであります田島橋の全面交通止めを開始することに対し、21年５月よりの工事は橋の上部を一度撤去し、橋げた取りつけ部の補強や橋に入る急カーブの緩和、橋の拡幅等の工事のため全面通行止めはやむを得ないということです。

２つ目の要望事項であります田島橋に仮橋を設置することにおいても、大型車の通行や今の交通量を考え、安全通行のできる仮橋をつくるには膨大な費用がかかり、困難であるということであります。この２つの要望事項が不可となれば、高陟田島線の迂回路以外はないと私どもは思っております。

そこで、陳情書にありますとおり、懸念される事項が５つほど載っております。その内容でありますが、南会津建設事務所では、狭隘区間については地権者の同意を受けて拡幅工事をしたい。また、安全面においてもできる限りのことをしていきたいと言っておりました。

委員会といたしましては、この陳情書を採択することとし、地区住民の安全を考慮し、南会津町議会として何らかの行動をとるべきものと全員の意見の一致したところであります。

以上、報告とさせていただきます。

○渡部康吉議長　これより委員長報告に対する質疑を行います。

質疑ございませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　質疑を終わります。

これより討論に入ります。

討論はありませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　討論なしと認めます。

これより採決いたします。

この陳情に対する委員長報告は採択であります。

委員長報告のとおり決することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　異議なしと認めます。

よって、平成20年陳情第１号は委員長報告のとおり決しました。

暫時休憩します。

以下、追加議案が提出となりますので、ご了承願います。

休憩　午後　２時２８分

再開　午後　２時５０分

○渡部康吉議長　休憩前に引き続き会議を開きます。

――――――――――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――――――――――

◎日程の追加

○渡部康吉議長　先ほど委員会提出議案２件、議員派遣の件、各常任委員長及び特別委員長から閉会中の継続調査申し出書並びに議会運営委員長から所掌事務に係る継続調査の申し出書が提出されております。

お諮りいたします。

この際、これらの案件については、お手元にご配付の追加議事日程のとおり日程に追加し、順次議題にいたしたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　異議なしと認めます。

よって、提出されております案件については、お手元の追加議事日程のとおり日程に追加し、順次議題とすることに決しました。

――――――――――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――――――――――

◎委員会提出議案第９号の上程、説明、質疑、討論、採決

○渡部康吉議長　追加日程第１、委員会提出議案第９号　田島橋改修工事に関する意見書の提出についてを議題といたします。

局長をして朗読いたさせます。

〔局長議案朗読〕

○渡部康吉議長　お諮りいたします。

ただいま議題となりました委員会提出議案第９号は、今期定例会の本会議における陳情の採

択による意見書の提出であります。この際、提出者の趣旨説明、質疑、討論を省略し、直ちに採決したいと思いますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　異議なしと認めます。

よって、委員会提出議案第９号は、提出者の趣旨説明、質疑、討論を省略し、採決することに決しました。

採決いたします。

委員会提出議案第９号　田島橋改修工事に関する意見書の提出について、本案は原案のとおり決することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり決しました。

―――――――――――――――――――――――― ◇ ――――――――――――――――――――――――

◎委員会提出議案第１０号の上程、説明、質疑、討論、採決

○渡部康吉議長　次に、追加日程第２、委員会提出議案第10号　介護労働者の待遇改善の完全実施を求める意見書の提出についてを議題といたします。

局長をして朗読いたさせます。

〔局長議案朗読〕

○渡部康吉議長　提出者に趣旨、説明を求めます。

５番、山内政君。

○５番　山内　政議員　意見書の提案理由の趣旨説明を申し上げます。

当委員会は、所管事務調査で特別養護老人ホーム、伊南ホーム、南郷ホーム、田島ホーム、介護老人保健施設湯花里苑を訪問し、それぞれ園長より施設の内容、入居者の現況、職員の現状について調査いたしました。

その中で、介護職員の待遇が平成18年から改善されず、各種手当も廃止となった。しかし、勤務の現実は入居者の高齢化が進み、確実に大変になったということの実態の報告を受けました。施設で働く職員の待遇を改善するには、３年ごとの介護報酬改定を待つしかないということでありました。介護労働者は、全国的に低水準にあり、離職や停職がふえています。幸いな

ことに、本町内での離職や停職はまだ少ないそうでありますが、このままの給与水準が続けば本町の介護職員が減少する可能性もあり、そうなれば本町の高齢者福祉にも影響を与え、町民が安心できる老後を迎えることができなくなるおそれもあります。

本委員会では、介護職員の生活安定を図ることにより、介護職員の安定した確保を図り、町民が安心できる老後を迎えるために、国全体の待遇改善に向け、国の関係機関に対し意見書を提出しようということになりました。

ぜひ、ご理解いただき、ご決定くださいますようにお願いいたします。

○渡部康吉議長　直ちに質疑に入ります。

質疑ございませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　質疑を終わります。

これより討論に入ります。

討論はありませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　討論なしと認めます。

これより採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

――――――――――――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――――――――――――

◎議員派遣の件について

○渡部康吉議長　次に、追加日程第３、議員派遣の件についてを議題といたします。

会議規則第119条の規程により、お手元に配付のとおり、閉会中の派遣活動があります。

お諮りいたします。

お手元に配付のとおり、閉会中の派遣活動とすることにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　異議なしと認めます。

よって、お手元に配付のとおり、閉会中の派遣活動とすることに決しました。

――――――――――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――――――――――

◎閉会中の継続審査について

○渡部康吉議長　次に、追加日程第４、委員会の閉会中の継続審査についてを議題といたします。

文教厚生委員長から、目下委員会において審査中の事件について、会議規則第75条の規定によりお手元にお配りいたしました申し出書のとおり、閉会中の継続審査の申し出があります。

お諮りいたします。

委員長から申し出のとおり、閉会中の継続審査とすることにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　異議なしと認めます。

よって、委員長から申し出のとおり、閉会中の継続審査とすることに決しました。

――――――――――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――――――――――

◎閉会中の継続調査について

○渡部康吉議長　次に、追加日程第５、委員会の閉会中の継続調査についてを議題といたします。

各常任委員長、特別委員長及び議会運営委員長から、所管事務及び所掌事務のうち、会議規則第75条の規定により、お手元にお配りいたしました申し出書のとおり、閉会中の継続調査の申し出があります。

お諮りいたします。

各委員長から申し出のとおり、閉会中の継続調査とすることにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

○渡部康吉議長　異議なしと認めます。

よって、各委員長から申し出のとおり、閉会中の継続審査とすることに決しました。

――――――――――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――――――――――

◎閉会の宣告

○渡部康吉議長　これで本日の議事日程は終了いたしました。

以上で、今期定例会に付議されました案件の審議はすべて終了いたしました。

以上をもちまして、平成20年第４回南会津町議会定例会を閉会いたします。

長期間にわたり慎重審議、まことにありがとうございました。

閉会　午後　３時０１分

地方自治法第１２３条第２項の規定により署名する。

平成　　年　　月　　日

議　　長

署　名　議　員

署　名　議　員